

## 目 次

### 学事関連スケジュール

一般注意事項 .....	4
--------------	---

(法律・政治学科共通)学事 Web システムの利用方法 .....	11
-----------------------------------	----

### 法律学科学習指導要項

学習指導要項 .....	21
--------------	----

履修申告のしかた .....	28
----------------	----

### 政治学科学習指導要項

学習指導要項 .....	33
--------------	----

履修申告のしかた .....	44
----------------	----

### 講義要綱・シラバス

法律学科 .....	49
------------	----

政治学科 .....	101
------------	-----

両学科設置共通科目 .....	157
-----------------	-----

慶應義塾外国語学校 .....	181
-----------------	-----

教職課程 .....	182
------------	-----

言語文化研究所特殊講座 .....	183
-------------------	-----

メディア・コミュニケーション研究所 .....	189
-------------------------	-----

大学体育研究所設置講座 .....	206
-------------------	-----

福澤研究センター設置講座 .....	214
--------------------	-----

外国語教育研究センター設置講座 .....	217
-----------------------	-----

国際センター在外研修プログラム .....	220
-----------------------	-----

国際センター設置講座 .....	222
------------------	-----

情報処理教育室設置講座 .....	260
-------------------	-----

知的資産センター設置講座 .....	262
--------------------	-----

# 学事関連スケジュール

履修案内等書類配布	3月31日(金) 第3学年 A~J組 11時~12時30分 K~T組 12時30分~14時 第4学年 A~J組 14時~15時30分 K~T組 15時30分~17時	123 番教室
成績証明書発行	4月3日(月) 12時30分以降	
情報処理教育室ガイダンス	4月3日(月) 10時45分~12時15分	516 番教室
国際センター在外研修プログラムガイダンス	4月5日(水) 13時~14時30分	519 番教室
教職課程ガイダンス(既登録者対象)	4月5日(水) 13時~14時	526 番教室
教職課程ガイダンス(新規登録者対象)	4月5日(水) 13時~14時30分	533 番教室
教職課程ガイダンス(2007年度実習予定者対象)	4月5日(水) 14時45分~15時45分	528 番教室
教育実習事前指導(今年度実習予定者対象)	4月5日(水) 14時45分~15時45分	517 番教室
教職課程ガイダンス(学校教育学コース)	4月5日(水) 16時30分~18時00分	513 番教室
言語文化研究所ガイダンス	4月6日(木) 12時20分~12時50分	523-A 番教室
外国語教育研究センターガイダンス	4月6日(木) 12時30分~16時30分	531 番教室
体育研究所ガイダンス	4月7日(金) 9時~10時30分, 10時45分~12時15分	522 番教室
学事 Web システムパスワード変更締切	4月7日(金)	学事センター
春学期授業開始	4月8日(土)	
履修申告用紙配布	4月10日(月)・11日(火) 8時45分~16時45分	学事センター
Web による履修申告期間	4月14日(金) 8時30分~4月15日(土)15時, 17日(月)8時30分~15時	
履修申告用紙による履修申告日	4月14日(金) 8時45分~16時45分	学事センター前受付ボックス
開校記念日(休業)	4月23日(日)	
授業料等納入期限(全納または春学期分納分)	4月28日(金)	
4年生卒業見込証明書発行	5月8日(月)以降	
履修申告科目確認表送付(本人宛)	5月上旬(掲示を出します)	
健康診断	5月上・中旬	
履修申告修正受付	5月8日(月)~10日(水)(予定)	
休学願提出期限(政治学科春学期分)	5月31日(水)	
春学期補講日	7月10日(月), 11日(火)	
春学期授業終了	7月15日(土)	
春学期末試験時間割発表	7月上旬(掲示を出します)	
春学期末試験	7月18日(火)~26日(水)	
春学期追加試験申込受付	7月中(掲示を出します)	
夏季休業	7月27日(木)~9月21日(木)	
春学期末追加試験	8月3日(木), 4日(金)	
三田一斉休暇	8月9日(水)~15日(火)	
春学期卒業生氏名発表	掲示します	
春学期卒業式	9月19日(火)	
追加卒業生・進級生氏名発表	掲示します	
春学期成績表送付(保証人宛)(対象:政治学科)	9月中旬	
秋学期授業開始	9月25日(月)	
授業料等納入期限(秋学期分納分)	10月31日(火)	
秋学期補講日(1)	11月21日(火) 午前	
三田祭(準備・本祭・片付けを含む)(休講)	11月21日(火) 13時~27日(月)	
休学願提出期限	11月30日(木)	
冬季休業(一斉休暇)	12月23日(土)~1月5日(金)(12月28日(木)~1月5日(金))	
授業開始	1月6日(土)	
福澤先生誕生日(休業)	1月10日(水)	
秋学期補講日(2)	1月16日(火), 18日(木)	
秋学期授業終了	1月22日(月)	
秋学期末試験時間割発表	1月上旬(掲示を出します)	

秋学期末試験	1月23日(火)~2月5日(月)
秋学期末追加試験申込受付	1月中 (掲示を出します)
福澤先生命日	2月3日(土)
春季休業	2月上旬 ~ 3月下旬
学部入学試験	2月上・中旬
秋学期末追加試験	2月下旬 (掲示を出します)
卒業発表	3月9日(金)
学業成績表送付(保証人宛)	3月中旬
卒業式	3月23日(金)

(注1) 印の期間には学事センター窓口業務を執り行いません。証明書発行等も行わないので注意してください。

なお、期日については、決定次第掲示によってお知らせしますので掲示板をご覧ください。

(注2) 事情により日時・教室は変更があり得るので、掲示板等に注意してください。

# 一 般 注 意 事 項

## 学 生 証 ( 身 分 証 明 書 )

1. 学生証は、諸君が本塾大学学生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証、および本塾図書館入館票を兼ねています。
2. 学生証は次のような場合に必要となるので、登校の際、常に携帯しなければなりません。
  - (1) 本塾教職員の請求があった場合
  - (2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合
  - (3) 各種試験を受験する場合
  - (4) 通学定期券または学生割引乗車券購入の際、およびそれを利用して乗車船し、係員の請求があった場合
3. 再交付手続  
学生証を紛失したり、汚損した場合は、写真(縦4cm、横3cm、カラー光沢仕上げ)1枚を添えて学事センターで再交付を受けてください。新しい学生証は原則、当日発行いたします。ただし、機械のメンテナンス、故障等により、当日発行できないこともありますのでご了承ください。学生証の紛失、裏面シールの紛失については、手数料2,000円が必要です。
4. 返 却  
再交付を受けた後、前の学生証が見つかった場合、および退学・卒業などで離籍した場合はただちに学事センターへ返却しなければなりません。

## 学 籍 番 号

学生証に記載されています。この番号は各種試験を受ける際に必要となります。

## 掲 示 板

1. 学生諸君への通達事項は、すべて西校舎正面入口の掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに、掲示に注意してください。掲示に注意しなかったために、諸君自身が非常な不利益をこうむることもあります。  
なお、他学部設置科目を履修した場合はその科目を設置している学部の掲示板を、他地区設置科目を履修した場合はその科目を設置している地区の掲示板を見てください。諸研究所、各種センター設置科目・講座等については、共通掲示板にも注意してください。
2. 主な掲示事項  
授業の休講・補講・時間割の変更、教室の変更等毎日の授業に直接関係のある緊急通達、各種試験の実施要項、学事日程、呼出し等。  
休講・補講、呼出しについては、インターネットに繋がるパソコンまたは携帯電話により学事 Web システムにおいても確認できます。  
また、定期試験時間割、その他掲示の一部は塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) でも確認できます。
3. 研究会に関する掲示は、西校舎 501 番教室後方入口前の掲示板を利用してください。

## 試 験 ・ レ ポ ー ト ・ 成 績

定期試験はもとよりレポート・授業中に行われる小テストにおいても、代筆やカンニング、答案用紙の持ち帰りなどの行為があった場合には、不正行為とみなされ学則第 188 条により厳しく処分されます。このようなことが絶対ないように学生諸君の自戒を強く要望します。

### 1. 定期試験

定期試験は、学期末に行われます。

春学期末：7月18日(火)～26日(水)実施(春学期に終了する科目および通年科目の中間試験を対象とします)

秋学期末：1月23日(火)～2月5日(月)実施(秋学期に終了する科目および通年科目を対象とします)

試験時間割や注意事項は、掲示により発表します。

### 試験に関する注意事項

定期試験の振鈴時間は、三田と日吉で異なりますので注意してください。

受験に際しては不正行為のないように、真摯な態度で臨んでください。

答案は必ず提出しなければなりません。持ち帰った場合は不正行為と判断され、処分の対象とされます。

学生証を必ず携帯し、提示してください。

試験当日、万一学生証を携帯しなかった場合は、学事センターで必ず仮学生証(発行日当日に限り全キャンパスで有効、図書館入館も可)の交付を受けてください。なお、仮学生証の発行には、手数料500円が必要となります。

学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。

仮学生証発行手続により、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。

答案用紙の担当者および科目名ならびに学籍欄の記入事項はすべて略さず正確に記入してください。記入がないと成績はつきません。

試験開始後20分までの遅刻の場合は、試験を受験することができます。ただし、遅刻理由が電車遅延等追加試験の対象となるもの場合、当該試験をそのまま受験するのか、それとも追加試験を受験するのかは、本人の判断に依ります。電車遅延等により遅刻をし

ても試験開始 20 分以内で入室した場合は追加試験の対象とはなりません。また、試験時間の延長もありません。

試験開始後の体調不良などの場合で途中退室する場合は、追加試験の対象とはなりません。

## 2. 平常試験

随時授業時間内に行われます。

## 3. 追加試験

追加試験は、履修申告した授業科目で病気や不慮の事故等、やむを得ぬ事情により定期試験を受験できなかった授業科目に対して行うものです。ただし、外国語科目、演習科目、体育実技、その他定期試験を行わず、レポート等により評価の定まる科目、ならびに研究会については行いません。

他学部設置の授業科目を履修した場合、その実施の有無を含めて取り扱いは当該学部の方針によります。他学部が設置主体である併設科目（総合教育科目「歴史」「美術」「法学（憲法を含む）」「近代思想史」「人類学」等）についてもこれに準じます。

追加試験の申請には、医師の診断書（治療期間の明記されたもの）、事故の証明書、あるいは学習指導の受験許可書のいずれかが必要です。詳細は、試験時間割発表の際に掲示します。

日吉設置の授業科目の追加試験の申請は、所定の手続きを日吉で行う必要があります。なお試験場は日吉になります。

以上の手続きを怠って試験を受けても無効です。

なお、定期試験期間中、当該科目の試験時間内に試験教室に立ち入っていた場合は、追加試験が認められません。

## 4. レポート

三田では、レポートが最終試験と同様に取り扱われますので、提出にあたっては次の手続きを厳守してください。

- (1) 指定された日時に、指定された場所に提出してください。特に学事センター窓口では、指定日時以外は一切受け付けませんので必ず掲示で確認してください。

学事センターレポートボックス受付時間

火・水曜日、木・金曜日 8時45分～16時45分

受付曜日・時間等を変更する場合は、掲示等でお知らせします。

その他の事務取り扱い時間については7ページも参照してください。

- (2) 学事センター窓口への提出を指示された場合は、学事センター指定のレポート提出用紙（2枚複写式）に必要事項を記入し、添付してください（2枚とも）。レポート提出用紙は学事センターに備えてあります。

- (3) 一度提出したレポートの変更・訂正は、提出期間内でも認めません。

## 5. 成績通知

成績結果を記載した学業成績表は、3月中旬に保証人宛に発送します（政治学科の学生に関しては、春学期終了科目について、9月中旬にも発送します）。

## 諸 届

下記事項はすべて学事センターで取り扱います。

### 1. 休学願・就学届・退学届

「病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には休学することができる」（学則152条）。本年度休学希望者は、11月末日までに学習指導担当教員と面接し、休学願（所定用紙）に承認印をうけたうえで学事センターに提出してください。病気を理由に休学する場合は、医師の診断書を添付してください。休学期間は当該年度末（3月31日）までとします。休学が次の年度に及ぶ場合は、改めて許可を得なければなりません。休学の期間が終了した場合は、速やかに就学届を提出しなければなりません。なお、病気を理由に休学をしていた場合には、併せて復学を認める医師の診断書を提出してください。

政治学科の学生は学期単位の休学となります。この場合の休学願の提出は春学期は5月末日、秋学期は11月末日を期限とし、手続き方法等はこれまでと同様とします。なお、休学期間は春学期は9月21日まで、秋学期は3月31日までとなります。

退学予定者は、退学届に本人・保証人の署名捺印の上、学生証を添えて学事センター窓口へ提出しなければなりません。

### 2. 留学願

「本大学が教育上有益と認めるときは、休学することなく外国の大学に留学することを許可することがある」（学則153条）。詳しくは学事センター法学部係に問い合わせてください。

### 3. 住所変更届（本人・保証人）、保証人変更届、改姓（名）届

各届とも学事センター所定の用紙に記入のうえ速やかに学事センター窓口へ届け出てください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。郵便および電話による届け出は受け付けません。

必要書類（所定用紙は学事センターにあります）

住所変更届：在学カード

保証人変更届：変更届、在学カード、誓約書（本人・保証人押印）、保証人住民票

改姓（名）届：改姓（名）届、在学カード、誓約書（本人・保証人押印）、戸籍抄本、学生証再交付願

また、学生総合センター学生生活支援窓口に提出する「学生カード」に新住所等を記入しても、正式な届とは見なされません。必ず学事センターに所定の届を提出してください。

なお、履修上の連絡、あるいはその他の重要な事柄の処理に際し、これらの変更届が出されていない場合は、極めて重大な支障をきたすことがありますので、十分に注意してください。

## 各種証明書

証明書の発行、申込み、受取、いずれの場合でも学生証が必要です。  
授業料等が未納の場合、すべての証明書が発行できません。

### 1. 証明書自動発行機で即時発行する証明書（和文）

料金は改定されることがあります。

在学証明書（4月3日12時30分～）	1通 200円
成績証明書（4月3日12時30分～）	
卒業見込証明書（5月8日～）	
履修科目証明書（6月1日～）	1通 400円
卒業見込証明付成績証明書（5月8日～）	
学割証（JR各社共通）	無料
健康診断証明書（6月中旬～年度内）	1通 200円

#### 注 稼働時間

学事センター事務室内発行機：学事センター事務取扱時間内

南校舎1階設置発行機：9時～20時〔授業期間外の土曜日および休日・大学休業日は除く〕

メンテナンス、故障等により、証明書発行機を停止することがあります。使用する時期や枚数に注意し、あらかじめ早めに準備してください。

学割証（JR各社共通）は1人1年間10枚まで発行。有効期限は発行日から3か月以内（有効期限内でも離籍した場合は無効）。各種学生団体の課外活動に必要な学割証は学事センターに申し出てください。なお、定期健康診断を未受診の場合には、学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

各種証明書等で厳封を必要とする場合には、学事センターに申し出てください（自動発行機で発行した証明書は厳封できません）。健康診断証明書は6月中旬以降、定期診断受診者を対象に発行されます。

なお、奨学金申請等で6月中旬以前に証明書が必要な場合は、保健管理センター三田分室受付に相談してください。

### 2. 学事センター窓口で即時発行する証明書（英文）

いずれも1通200円。（料金は改定されることがあります。）

- (1) 英文在学証明書（4月3日12時30分～）
- (2) 英文卒業見込証明書（5月8日～）
- (3) 英文成績証明書（4月3日12時30分～）

2003年4月以降の入学者は証明書自動発行機で発行できます。その他の学生については従来どおり窓口での発行となります（ただし、窓口で一度英文証明書の申請・交付を受ければ、その翌日から証明書自動発行機での発行が可能になります）。

### 3. 学事センター窓口で申し込み、日数を要して発行する証明書・文書

前記以外の証明書・文書等（例：司法試験用単位取得証明書、公認会計士用証明書、英文履修科目証明書、他大学院受験等のための形式指定の調査書等）の発行に関しては、余裕をもって学事センター窓口で相談のうえ申請してください。なお、交付には和文書類は申請後標準3日、英文書類は申請後標準1週間の日数を要します。

## 教室使用申請について

### 1. 受付窓口

利用団体により、受付窓口が異なりますのでご注意ください。

	利用団体		
	研究会	学生団体	外部団体
授業期間	学事センター	学生総合センター学生生活支援窓口	管財部管財課
休業期間	学事センター	使用できません	管財部管財課

### 2. 授業期間中の教室使用申請

- (1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。
- (2) 学生団体の場合は、学生総合センター学生生活支援窓口にて「学内集会届」を提出してください。
- (3) 申請は使用予定日の2週間前から3日前まで受け付けます（土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた4日前とします）。ただし、土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および定期試験期間中は原則として申請を受け付けません。
- (4) 申請者控は、研究会・学生団体ともに学生総合センター学生生活支援窓口でお受け取りください。
- (5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財課までお問い合わせください。

### 3. 休業期間中の教室使用申請

- (1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。提出にあたっては、「会長名」欄（3枚複写

の3枚とも)に研究会担当教員の印またはサインが必要となります。

- (2) 学生団体は原則として、使用できません。
- (3) 申請は使用予定日の3日前まで受け付けます(土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた3日前とします)。ただし、土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期間中(8月中旬および年末年始)は原則として申請を受け付けません。
- (4) 申請者控は、研究会・学生団体ともに学生総合センター学生生活支援窓口でお受け取りください。
- (5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財課までお問い合わせください。

## 学事センターの窓口

### 1. 学事センター事務取扱時間

月～金曜日……8時45分～16時45分

土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期間は閉室となります。

事務取扱時間を変更する場合は、および事務室の閉室については、掲示等でお知らせします。

### 2. 窓口業務

- (1) 学籍・成績・履修に関すること
- (2) 授業・試験・レポート等に関すること
- (3) 時間割に関すること
- (4) 休講・補講に関すること
- (5) 追加試験の申込み
- (6) 休学願・留学願・退学届・住所変更届・保証人変更届・改姓(名)届等
- (7) 学生証の発行
- (8) 成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行(和文はおもに証明書自動発行機)
- (9) 司法試験受験等のための単位取得証明書の発行
- (10) 教室に関すること(ただし研究会以外の教室使用申請は学生総合センター学生生活支援窓口で行います)
- (11) 通学証明書の発行

落とし物、学生カード提出は学生総合センター学生生活支援窓口が取り扱います。

## 教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室または教員室を訪ねてください。

専門科目担当専任教員(教授・助教授・専任講師・助手)……研究室(三田研究室棟)

日吉専任教員および塾外からの出講者(講師)……教員室(南校舎2階)

## 学生総合センターの窓口

学生総合センターには、主に課外活動・課外教養・奨学金および学生健康保険互助組合を担当する学生生活支援窓口、就職進路支援を行う就職・進路支援窓口があります。ここでは、学生生活を送るうえで何かと関係の深い学生総合センターについて、窓口業務を中心に紹介します。

### 学生生活支援

#### 教室等の使用申込み受付

公認学生団体が会合のために教室を使用したい時は、使用希望日の4日前(休日を除く)までに申し込んでください。休日・試験期間中・休業期間中の使用はできません。(「前述 教室使用申請について」も参照)

使用できる時間は次のとおりです。

月～金曜日 9:00～20:00

土曜日 9:00～18:00

#### 音楽団体指定時間

月～金曜日 18:10～20:10

土曜日 13:00～18:00

なお、教室以外に利用できるスペースとして、学生談話室A・Bと音楽練習室がありますので、使用したい場合は学生生活支援窓口にお問い合わせください。

#### 山食・生協食堂・北館学生食堂の使用申込み受付

公認学生団体・教職員・OB・研究会等が、山食や生協食堂・北館学生食堂をパーティー等で利用したい場合は、学生生活支援窓口で使用申込みをし、予約してください。さらに、予約後2週間以内に学内集会届を提出し、許可を得る必要があります。学内集会届の提出を怠った場合は予約は取り消されますので注意してください。なお日曜日・祝日は利用できません。

#### 学外行事届の受付

公認学生団体や研究会で、合宿、コンサート、パーティーなどの学外行事を行う場合には、その4日前までに届け出てください

( 学生教育研究災害傷害保険の項参照 )。なお、団体割引、減税証明書等の必要があれば申し出てください。

合宿等で団体割引が必要な場合についても学生生活支援窓口で受け付けています。

#### 組織届の受付

クラブ、サークル等を新設する場合は、所定の組織届を提出してください。組織届の提出がないと、学生団体公認申請等の諸手続を行うことはできません。公認申請の詳細については学生生活支援窓口で各自で問い合わせをしてください。

#### 学内における掲示・配布

ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は、学生生活支援窓口へ届け出て、場所等の指示を受けることが必要です。

#### 備品使用申請の受付

公認学生団体で、ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等を借用したい場合は、使用希望日の4日前までに申請してください。

#### 郵便物の取り扱い

外部から送付される各公認学生団体宛の郵便物は、学生生活支援窓口備え付けのメールボックスに区分けしておきますので、学生責任者は定期的に取りに来るようにしてください。なお、個人宛の郵便物は一切取り扱いません。

#### 車両入構申請の受付

塾生の車両入構は認められていませんが、やむをえず車両入構の必要がある場合は、入構希望日の4日前までに申請してください。

#### 学生ラウンジの使用

南校舎1階の学生ラウンジは、個人の利用ができます。開室時間は8:45~21:00です。室内での飲食はできません。

#### 伝言板および「DENGON」の利用

学生ラウンジ横の黒板、および、第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は、塾生間の連絡用として自由に利用してください。A4用紙1枚のみ掲示可能ですが、必ず伝言者の学部・学年・氏名・連絡先を明記してください。

#### そ の 他

学生総合センター「大学生生活懇談会」では見学会、講演会、討論会等の催物を随時行っていますので、積極的に参加してください。また、学生生活支援窓口には、財団法人大学セミナーハウス、展覧会の招待券・割引券等も置いてあります。

遺失物は学生生活支援の受付窓口で取り扱っています。

#### 奨 学 金

学生生活支援窓口において、概ね4月初旬から奨学金案内を配布し、出願受付を行います。

##### 慶應義塾大学奨学金〔給費〕

5月下旬に出願受付を行います。募集日程は西校舎ロビー学生総合センター掲示板に掲示します。

##### 慶應義塾大学特別奨学金〔給費〕

家計支持者の死亡・失職等により家計状況が急変し、経済的に学業の継続が困難になった者を援助することを目的とします。

募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

##### 日本学生支援機構奨学金〔貸費〕

4月中旬に出願受付を行います。第一種(無利子)と第二種(きぼう21プラン)(有利子)があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用(第一種)・応急採用(第二種)があります。

##### 地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金

募集は主に4・5月に行います。募集日程はそのつど、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

##### 指定寄附奨学金〔給費〕

募集は主に4月に行います。募集日程はそのつど、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

#### 奨学融資制度(利子給付奨学金付き学費ローン)

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも応募することが可能です。在学中の借り入れに伴う利子は、規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。

入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は学生生活支援窓口までお問い合わせください。

#### 学生健康保険互助組合

保険証を提示し、病院や診療所で受診した場合、健康保険が適用された自己負担分について、学生健保から医療費給付が受けられます。給付を受けるための手続きは、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続きしてください。なお、給付方法は銀行振込となりますので、口座登録が必要です。

##### (1) 慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院は翌々月20日に、給付金が振り込まれます。

##### (2) 一般病院で受診した場合

学生生活支援窓口においてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄には各自記入して、学生生活支援窓口へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷

病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4か月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの開設などを行っています。さらに、日吉塾生会館内にトレーニングルームも設置しています。詳しくは、入学時に配付した「健保の手引き」(学生総合センター窓口にも置いてあります)をご参照ください。

#### 就職・進路支援

就職担当は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG情報などを、南校舎地下1階の就職担当事務室、1階の就職資料室にて、自由な利用に供しています。就職担当のホームページには求人企業一覧やさまざまな説明会案内などを掲載しています。

また就職活動支援の一環として、3年生を対象に10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるパネルディスカッションなどを開催しています。

就職担当は就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、3年生全員に配布しています。また皆さんが就職活動をすなかでわからないこと、困ったことがあった場合など、いつでも個別相談に応じています。

就職担当を、皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

#### 学生相談室(西校舎地下2階)

学生相談室は、学生生活を送っていく中で出会うさまざまな事柄について、気軽に相談できる場所です。相談には、可能な限りその場で応じますが、原則として予約制となります(電話予約可)。相談内容については、固く秘密を守ります。友人や家族と一緒に来談されても結構です。また、相談内容によっては、必要に応じて他部署・他機関への紹介も行います。

また、学生相談室では、カウンセリングだけでなくより豊かで充実したキャンパスライフをおくれるよう、さまざまなグループ企画を用意しています。参加ご希望の方はお問い合わせください。

#### 学生総合センター窓口取扱時間

学生生活支援、就職・進路支援

月～金曜日……8時45分～16時45分 都合により閉室することがあります。

学生相談室

月～金曜日……9時30分～16時30分

土曜日……閉室

昼休み……11時30分～12時30分

#### 学生教育研究災害傷害保険について

諸君の教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業(総称して以下「授業」といいます)を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

イ. 指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。

ただし、もっぱら被保険者の私生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。

ロ. 指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式などの教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舎にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより、大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登山やハングライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人(被保険者)の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故にあった場合は、学生生活支援窓口で相談のうえ、所定の手続きを行ってください。また、本保険の適用が円滑に行われるよう、ゼミ合宿を学外で行う場合、および学内学生団体が学外で活動する場合は、その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については、直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

#### 任意加入の補償制度について

任意加入の補償制度としては、保険と共済の2つがあり、加入希望の場合は直接それぞれに申し込むかたちになっています。

「学生総合補償」保険は、(株)慶應学術事業会(慶應義塾関連会社)に、「学生総合共済」保険は慶應生活協同組合に、資料請求してください。

連絡先 (株)慶應学術事業会 Tel. 03-3453-6098

慶應生活協同組合 Tel. 045-563-8489

学生カード・大学に対する要望カードの提出について（学生カードの提出によって住所変更の届けとすることはできません。）

次に従って提出してください。

1. 提出学年

3・4年（文学部は2・3・4年）

2. 提出方法

提出日：4月末日まで

提出先：学生総合センター学生生活支援窓口

3. 記入上の注意

学生カードは諸君の在学中に活用する資料ですので必ず提出してください（やむをえず提出日に提出できなかった場合でも、後日必ず学生生活支援窓口に提出してください。）

大学に対する要望カードは、大学における今後の研究・教育・学生生活において、改善のための参考に資するものです。諸君が今までの大学生活の中で、教育一般・カリキュラム・課外活動・施設・その他感じたこと、思ったことで大学に対する要望がありましたら、学生カードに連なる同じカードに記入し、学生総合センター学生生活支援窓口に提出してください。

定期健康診断について

定期健康診断は、学校保健法に基づいて全学年を対象に年1回実施しています。学則第179条にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので、必ず受診してください。未受診の場合には、「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

緊急時における授業の取り扱いについて（三田）

交通機関ストライキ、台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害により鉄道等交通機関の運行が停止した場合や、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合などの授業の取り扱いは次のとおりとします。

1. 鉄道等交通機関運行停止時の授業の取り扱い

【対象事由】

1. 交通機関のストライキ
2. 台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害によるもの

【対象路線】

- ・山手線 ・中央線（東京 - 高尾間） ・京浜東北線（大宮 - 大船間）
- ・東急（電車に限る）

のいずれか1路線の全区間または一部区間において運行停止となった場合。

【時間・対応策】

1. 午前6時30分までに運行を再開した場合は、平常どおり授業を行います。
2. 午前8時までに運行を再開した場合は、第2時限から授業を行います。
3. 午前10時30分までに運行を再開した場合は、第3時限から授業を行います。
4. 正午までに運行を再開した場合は、第4時限から授業を行います。
5. 正午を過ぎても運行が再開されない場合は、当日の授業を休講とします。

【その他】

授業開始後に運行停止となるような場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じます。掲示や構内放送、下記のホームページによる大学からの指示に従ってください。

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/index.html>

交通機関の運行状況に係わらず、大規模な災害や事故等が発生した場合の授業の取り扱いについては、状況によりその都度指示することとします。

2. 政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合の授業の取り扱い

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合の授業の取り扱いは下記のとおりとします。

[1] 「東海地震注意情報」が発せられた場合、ただちに全学休校とします。

[2] 地震が発生することなく「東海地震注意情報」が解除されたときの対応は、交通機関運行停止時の場合に準じます。

早慶戦（野球）が行われる場合の授業について

授業は1時限のみとし、2時限以降は応援のため休講とします（3回戦以降もこれに準じます）。

雨天等により試合が中止になる時は、神宮球場の判断によります。

神宮テレフォンサービス Tel. 03-3236-8000

# 法律・政治学科 共通

## 学事 Web システムの利用方法

- (1) 履修の申告
- (2) 新規履修申告科目なし
- (3) 登録済科目確認
- (4) 休講・補講情報
- (5) パスワードの変更

## 学事 Web システムの利用方法

学内のパソコンからは無論のこと、自宅や海外からでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、学事 Web システム（以下 Web システム）を利用して履修申告や登録済科目の確認、また休講・補講情報の確認などが可能です。

学事 Web システムを利用するためには ID（学籍番号）と事前に通知したパスワードが必要です。このパスワードは途中変更は可能ですが、卒業するまでの間使用することになります。すべて個人管理になりますので忘れないように十分注意してください。

学事 Web システムには以下の 6 つの機能があります。

履修の申告（履修申告期間中は、何度でも修正できます。）

新規履修申告科目なし（4 年生のみ使用可能）

登録済科目確認（履修申告終了後の、ある一定の期間に自分の登録した科目を Web 上で確認できます。）

休講・補講情報

パスワードの変更

受付確認メールの送付先アドレスの変更

学生呼出情報

また、携帯電話では上記のうち、休講・補講情報の確認、パスワードの変更、学生呼出情報の確認を行うことができます。

### ... 注 意 ...

学事 Web システムは 4 月 3 日（月）から休講・補講情報の確認ができます。必ず 4 月 7 日（金）までにログインできることを確認しておいてください。もし学事 Web システムのパスワードを忘れてしまった場合には、4 月 7 日（金）までに学事センターでパスワード変更申請の手続きを行ってください（2004 年度以前に入学した在学生の初期パスワードは、変更していない場合は 2006 年 3 月に送付した成績表に印字されています）。

また、学内のパソコンを利用するための Windows パスワードを忘れてしまった場合には、三田インフォメーションテクノロジーセンター（ITC）大学院校舎地階）で変更申請の手続きを行ってください（ただし学事 Web システムは学内のパソコンに限らず、インターネットに繋がるパソコンがあれば、自宅などからでも利用できます）。

学事 Web システムのユーザー名とパスワードは、ITC 発行の Windows アカウントのユーザー名とパスワードとは別になりますのでご注意ください。

（学事 Web システムのユーザー名）	学籍番号
（Windows アカウントのユーザー名）	f*****

## 学事 Web システム操作上の注意

複数のブラウザを起動して、同時にログインしないでください。

学事 Web システムにログインした後は、ブラウザの [戻る] および [進む] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、[更新] ボタンを押してリロードしてください。

学事 Web システムは 30 分間何も操作しないと自動的に切断されます。インターネットサービスプロバイダーによっては、これよりも短い時間でタイムアウトする場合がありますので注意してください。

ブラウザの [戻る] ボタンや [進む] ボタンを何度も押ししたり、30 分間何も操作をしなかったためタイムアウトになった場合、画面にアクセスエラーと表示されたり、真っ白な画面になる場合があります。そのような場合には、一旦ブラウザを終了し、10 秒程度待ってから再度ブラウザを起動し直してください。このような場合、最後に履修申告メイン画面の [登録] ボタンを押した時点のデータ更新までが反映されています。

学事 Web システムは、各種設定（Cookie, SSL, Proxy 等）を正しく行わないと、ログインできない場合があります。各種設定方法については、学事 Web システムのブラウザ用トップページ（[http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index\\_br\\_top.html](http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html)）からのリンクを参照してください。

氏名等に難しい字が使われている場合、画面上にうまく表示できない場合がありますが、システム上問題はありません。

その他、Q&A、Web 履修にあたっての注意事項（地区 / 学部別）については URL からのリンクを参照してください。

- (1) 履修の申告（必ず法律・政治各学科の「履修申告のしかた」（法律 28 ページ，政治 44 ページ）を参照のうえ利用してください。）  
2006 年度の学事 Web システムを利用する際の履修申告日程と学事 Web システムの URL は以下のとおりです。

日程：4 月 14 日（金）8 時 30 分～15 日（土）15 時，17 日（月）8 時 30 分～15 時

学事 Web システムの URL      <http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>

受付期間中に時間割の変更がある場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要であれば締め切りまでに再申告（申告の修正）を行ってください。

学事 Web システムトップページ（図 1）

上記 URL にアクセスし [ ブラウザー用 ] をクリックしてください。  
履修申告は「Internet Explorer」や「Netscape」などの標準ブラウザを使用してください。携帯端末用メニューからは操作できません。

図 1



学事 Web システムブラウザ用トップページ（図 2）

学事 Web システムの操作方法（特にログインできない場合などの説明）や、よくある質問についての回答などは、このページに用意されています。[ ログイン画面へ ] ボタンをクリックしてください。

図 2



ログイン（図 3）

「ID（学籍番号）」と、事前に通知したパスワードを入力し、[ ログイン ] ボタンをクリックしてください。画面がうまく表示されない場合は、前述の画面の「ログオンできない場合はこちら」を選択し、ブラウザの設定方法等を確認してください。

この画面以降ブラウザの「進む」「戻る」ボタンは使用しないでください。

複数のブラウザを起動して、同時にログインしないでください。

図 3



トップメニュー画面（図 4）

トップメニュー画面から、履修登録後に送信される受付確認メールの送信先の登録・変更ができます。確認できる状態の電子メールアドレスを登録してください。

変更する場合には、新たに登録する電子メールアドレスを 2 箇所入力し（再入力欄にも同じものを入力する）、[ 登録 ] ボタンをクリックしてください。

（学事センターからの連絡や呼出などがある場合、ログイン後のこの画面に表示されることがあります。）

（注意）学事 Web システムに登録されているメールアドレスについて

学事 Web システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) に登録頂いているメールアドレスについて、アドレスの登録間違いにより、履修登録が実行された際に送信するメールが不着になるケースが多発しています。履修申告前に必ず、学事 Web システムに登録されているメールアドレスをご確認ください。

(学事 Web システムログイン直後の「メールアドレス登録・変更」で確認できます。)

学事 Web システムには学校配付のメールアドレス (\*\*\*\*\*@mita.cc.keio.ac.jp, \*\*\*\*\*@sfc.keio.ac.jp 等) を登録し、個人所有のメールアドレスに送りたい場合は転送設定をご利用ください。

メールアドレスのユーザー名 (例: '\*\*\*\*\*@mita.cc.keio.ac.jp' の \*\*\*\*\* の部分) は変更できません。またユーザー名のみ (例: '\*\*\*\*\*@mita.cc.keio.ac.jp' の \*\*\*\*\* の部分だけ) 登録しても届きません。ご注意ください。

#### 履修申告メイン画面 (図 5)

[履修申告] ボタンをクリック後、[Web による履修申告上の注意] をクリックし、必ず注意文を熟読してください (右上図)。その後、[履修申告メイン画面へ進む] ボタンをクリックしてください。

#### 科目の選択

以下の画面が「履修申告メイン画面」になります (図 5)。(a) と (b) の 2 とおりの方法で科目の選択ができます。

##### (a) 時間割から科目を選択するとき

[時間割から選択] ボタンの右側のドロップダウンリストから設置学部・学科・学年を選択してから、[時間割から選択] ボタンをクリックしてください。(初期設定では自分の所属する学部・学科および学年が自動的に指定されています)

科目選択画面 (時間割選択) (図 6) が表示されますので、曜日時限毎に科目および分野をドロップダウンリストから選択してください。他学部の科目を履修する場合などで、分野を「A 欄分野」以外で選択する場合は「履修申告のしかた」内「A・B 欄に記入する授業科目」の表 (法律 29 ページ, 政治 45 ページ) をよく読んでください。選択が完了したら、[選択を終了] ボタンをクリックしてください。

##### (b) 登録番号から科目を選択するとき

[登録番号で選択] ボタンをクリックしてください。科目選択画面 (登録番号) (図 7) が表示されますので、履修書類配布時に配布された時間割表に記載されている 5 桁の登録番号を入力してください。[科目名を確認] ボタンを押し、科目情報欄に表示される科目名、曜日時限などの情報を確認したうえで、最後に [選択を終了] を押してください。

(a) (b) いずれの方法も、分野 (A・B 欄) の選択方法は同じですので、「履修申告のしかた」内「A・B 欄に記入する授業科目」の表 (法律 29 ページ, 政治 45 ページ) を参照してください。

(a) (b) の手順は、連続して行うことができます。

図 4



図 5



図 6

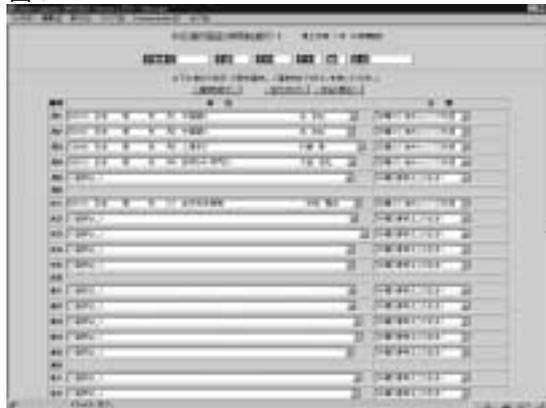


図 7



新学年分の研究会は新たに登録しなければなりません。

同一の曜日時限に春学期と秋学期の科目を一度に選択することはできません。その場合、一度 [ 選択を終了 ] を押し、再度時間割または登録番号から科目を選択してください。

#### 選択した科目の確認 ( 図 8 )

で選択した科目が、一覧表示されますので確認してください。

( 選択直後は 状態 欄に「未登録」として表示されます。登録ボタンを押さないと削除は実行されません。)

図 8



#### 選択した科目を取消する場合

の画面から、取り消したい科目の登録 No. の左側にチェックをつけ、[ 選択の取消 ] ボタンをクリックしてください。その後、一覧表から削除されたことを確認してください。( 登録ボタンを押さないと削除は実行されません。)

#### 選択した科目の登録

選択されている科目を確認したら、画面一番下の [ 登録 ] ボタンを押してください。 および で行った内容はこの [ 登録 ] ボタンを押すまで有効になりません。

#### 登録結果表示の確認 ( 図 9 )

履修申告メイン画面の [ 登録 ] ボタンをクリックすると、選択した科目について、曜日時限の重複や不足科目等のエラーチェックが行われ、その結果が表示されます。( エラーメッセージの詳細については、 の「履修申告メイン画面」の STEP 2 の横にある [ エラーの詳細説明 ] をクリックし、参照してください。) 右端の「状態」欄が「保留中」の場合、エラー科目があるためにすべての科目が未登録です。エラー内容を確認し登録し直してください。「保留中」と表示されている科目は履修申告期間終了後に登録が取り消されます。さらに、上部の「現在の登録状況」に必要な条件不足・不備等のメッセージが表示されていないか確認してください。不足・不備がある場合は登録し直してください。この画面を控としてプリントアウトしておく事をお勧めします。

登録内容を変更したい場合は、[ 履修申告画面へ戻る ] ボタンをクリックし、からの手順を再び行ってください。登録内容がこれで良ければ、[ 履修申告を終了する ] ボタンを押してください。

ここで Web ブラウザーを終了しないでください(ブラウザーの右上の x 印をクリックしないでください)。

図 9



#### 受付確認メール

[ 登録 ] ボタンを押した後、正常にログアウトする際、で登録されているメールアドレスへ受付確認メールが送信されます。受付番号は各自で控えてください。

でメールアドレスの登録を行っていない場合は、一時的な受付メールの送信先を指定できる画面が表示されます。メールアドレスを入力し [ 指定する ] ボタンを押してください。受付番号と受付メールの送信先が表示され、確認メールがそのアドレス宛に送信されます。( この場合は、メールアドレスの登録はされません。)[ 指定しない ] ボタンを押すと、受付番号のみ表示されます。

なお、Webメール等を使用した場合、受付確認メールが字化けすることがあります。他のプロバイダーのアドレスを指定するか、学校配布のメールアドレスを指定するようにしてください( 参照 )。また、携帯電話のメールアドレスを指定した場合は、正しく送信されない可能性がありますので、使用を避けてください。

すべての作業終了後は [ ログアウト ] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

## (2) 新規履修申告科目なし 4年生のみ使用可能

4年生で、前年度までに卒業単位を満たしており、今年度履修申告する科目が1つもない場合のみ申告してください。必ず(1)の履修申告画面で次の点を確認してから申告を行ってください。

- ・すでに登録済の科目がないかどうか。登録科目を削除してから行ってください。
- ・1科目も登録しない状態で[登録]ボタンを押し、エラーメッセージがないかどうか。

エラーが出た場合卒業単位を満たしていないと考えられます。

登録済の科目がある場合には「新規履修申告科目なし」の申請は無効の扱いになります。

前述(1)の(トップメニュー画面)まで同様の操作をし、画面上の[新規履修申告科目なし]ボタンを押してください。

[申請する]ボタンを押してください。

「今回の履修申告では、科目の申請を行いません。[新規履修申告科目なし]の申請を行いました。」と表示されます。この画面を控としてプリントアウトしておくことをお勧めします。

メニュー画面に戻ると、「(新規履修申告科目なし)の申請が行われました。」と赤字で表示されるので確認した後、ログアウトしてください。

申請を取り消す場合はに帰り、の画面で[申請を取り消す]ボタンを押してください。メニュー画面に「(新規履修申告科目なし)の申請は取り消されました。履修申告を行うことができます。」と表示されたら(1)の履修申告を行ってください。

## (3) 登録済科目確認

履修申告で登録された科目は、以後ある一定の期間で Web システムを利用して再度確認することができます(確認できる日程や詳細などは塾生ページで案内します。http://www.gakuji.keio.ac.jp/)。ただし、5月上旬に本人宛送付する「履修申告科目確認表」で必ず最終確認を行ってください。

前述(2)の(トップメニュー画面)までは、同様の操作ですから、画面上の、[登録済科目確認]ボタンを押して、履修申告科目を確認してください。

## (4) 休講・補講情報

Web システムから、全キャンパスの休講・補講情報を Web を利用して確認することができます。またこのサービスは、携帯電話からも同様に見ることができます。

なお、公式の情報は大学の掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、必ず直前に掲示板を確認するようにしてください。また、代替講義日の休講は、通常授業と異なり学事 Web システムの休講情報では対応していませんので、以下のページおよび各キャンパスの学部掲示板で確認してください。

(塾生ページ URL) <http://www.gakuji.keio.ac.jp/>

図10



図11



図12



## [ ブラウザ編 ]

(1) の から までを参照して、Web システムにログインしてください。

(1) の ( トップメニュー画面 ) の画面から [ 休講・補講情報 ] ボタンをクリックしてください。

自分の履修科目の休講・補講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。また、検索期間の選択も同様に行ってください。選択が終了したら、[ 休講・補講情報を検索する ] ボタンをクリックしてください。

図13



図14



休講・補講情報を確認してください。科目名のヘッドに【取消】が入っているのは、休講が取り消された(したがって通常どおり実施する)科目 となりますので注意してください。確認後は[ ログアウト ] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

## [ 携帯端末編 ]

学事 Web システムの URL ( <http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/> ) を携帯電話の画面から入力(詳しくは携帯電話の説明書をお読みください)し、(1) の の画面上で [ 携帯端末用メニュー ] を選択してください。以後、Web 休講・補講補講情報を繰り返して利用する場合には、上記の学事 Web システムの URL をブックマーク等に登録しておくとう便利です(詳しくは使用している携帯電話の説明書で確認してください)。[ i-mode 専用 ] もしくは [ i-mode 以外の携帯端末 ] のいずれかを選択してください。

[ サーバー 1 ] もしくは [ サーバー 2 ] のどちらかを選択してください。選択は任意です。

「学籍番号」と(1)で説明のあった「学事 Web システムパスワード」を入力し、[ ログイン ] ボタンを押してください。

この画面から [ 休講情報 ] ボタンを押してください。

自分の履修科目の休講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。検索期間は検索日から1週間後までの情報が表示されます。休講情報の確認が終了したら、[ 検索画面へ戻る ] ボタンを押してください。

## (5) パスワードの変更 ( 図 15 )

初期パスワードは紙面に印刷されているため、セキュリティ上パスワードを変更することを推奨しています。以下の操作で行ってください。

前述 (2) の ( トップメニュー画面 ) の画面から [ パスワード変更 ] ボタンをクリックしてください。

「現在のパスワード」を入力し、「新パスワード」を 2 箇所入力後(再入力欄にも同じものを入力する)、[ パスワード変更 ] ボタンをクリックしてください。

図15



## 【注意】

パスワードは英数字半角で入力してください(大文字/小文字を区別します)。生年月日や学籍番号など、予想できそうなパスワードは設定しないでください。また変更したパスワードは、必ず忘れないようにしてください。特に学内のパソコンを利用するための Windows アカウントのパスワードと混同しないよう注意してください。

# 法 律 学 科

学 习 指 导 要 项

# 法 律 学 科

## 学 習 指 導 要 項

この学習指導要項は、学則の実際の運用の仕方や、学則には明示されていない細則を解説したものです。皆さんがこれから三田で履修しようとする授業科目を決めるにあたっては、学則とこの指導要項を熟読し、各自の問題意識や研究関心に応じて主体的かつ体系的に科目を決定してください。なお、カリキュラム全体の枠組みや主旨、日吉に設置されている科目の履修については、日吉の履修案内を参照してください。

### 1. 平成 18 年度開講科目（下線のついてる科目は今年度開講されません）

種類	分野・分野番号・科目区分
外国語 科目	分野：01-10-01 必修 英語
	日吉設置 英語第 (1) 英語第 (レベル1)(1) 英語第 (レベル2)(1)
	三田設置 英語第 (1)
	分野：01-10-02 必修 ドイツ語(初級)
	日吉設置 ドイツ語第 (1) ドイツ語第 (1)
	分野：01-10-03 必修 フランス語(初級)
	日吉設置 フランス語第 (1) フランス語第 (1)
	分野：01-10-04 必修 中国語(初級)
	日吉設置 中国語第 (1) 中国語第 (1)
	分野：01-10-05 必修 スペイン語(初級)
	日吉設置 スペイン語第 (1) スペイン語第 (1)
	分野：01-10-06 必修 ロシア語(初級)
	日吉設置 ロシア語第 (1) ロシア語第 (1)
	分野：01-10-10 必修 朝鮮語(初級)
	日吉設置 朝鮮語第 (1) 朝鮮語第 (1)
	分野：01-10-13 必修 日本語(初級)
	日吉設置 日本語(1)
	分野：01-10-16 必修 イタリア語(初級)
	日吉設置 イタリア語第 (1) イタリア語第 (1)
	分野：01-10-51 必修 英語
	日吉設置 英語第 (レベル3)(1) 英語第 (1) 英語第 (1) 英語インテンシブ(1) 外国語特殊(英語)(2)
	分野：01-10-52 必修 ドイツ語(中級)
	日吉設置 ドイツ語第 (1) ドイツ語第 (1) ドイツ語インテンシブ(1)
	分野：01-10-53 必修 フランス語(中級)
	日吉設置 フランス語第 (1) フランス語第 (1) フランス語インテンシブ(1)
	分野：01-10-54 必修 中国語(中級)
	日吉設置 中国語第 (1) 中国語第 (1) 中国語インテンシブ(1)
	分野：01-10-55 必修 スペイン語(中級)
	日吉設置 スペイン語第 (1) スペイン語第 (1) スペイン語インテンシブ(1)
	分野：01-10-56 必修 ロシア語(中級)
	日吉設置 ロシア語第 (1) ロシア語第 (1) ロシア語インテンシブ(1)
	分野：01-10-60 必修 朝鮮語(中級)
	日吉設置 朝鮮語第 (1) 朝鮮語第 (1)
	分野：01-10-63 必修 日本語(中級)
	日吉設置 日本語(1)
	分野：01-10-66 必修 イタリア語(中級)
	日吉設置 イタリア語第 (1) イタリア語第 (1)
	分野：01-20-01 選択 英語
	日吉設置 英語(1) 英語インテンシブ(1) 外国語特殊(英語)(2)
	三田設置 英語インテンシブ(1) 英語第 (1)
	分野：01-20-02 選択 ドイツ語
	日吉設置 ドイツ語(1) 初級ドイツ語演習(1) ドイツ語インテンシブ(1)
三田設置 ドイツ語第 (1) ドイツ語インテンシブ(1) ドイツ語速習(初級)(1) ドイツ語速習(中級)(1)	

外国語 科目	分野：01-20-03	選択 フランス語
	日吉設置	フランス語(1) フランス語インテンシブ(1) 初級フランス語演習(1)
	三田設置	フランス語第 (1) フランス語インテンシブ(1)
	分野：01-20-04	選択 中国語
	日吉設置	中国語(1) 中国語インテンシブ(1)
	三田設置	中国語インテンシブ(1)
	分野：01-20-05	選択 スペイン語
	日吉設置	スペイン語(1) スペイン語インテンシブ(1)
	三田設置	スペイン語第 (1) スペイン語インテンシブ(1)
	分野：01-20-06	選択 ロシア語
	日吉設置	ロシア語(1) ロシア語インテンシブ(1)
	三田設置	ロシア語インテンシブ(1)
	分野：01-20-10	選択 朝鮮語
	日吉設置	朝鮮語(1)
	三田設置	朝鮮語第 (1)
	分野：01-20-11	選択 ラテン語
	日吉設置	ラテン語(1)
	三田設置	ラテン語(中級)(1)
分野：01-20-12	選択 ギリシャ語	
日吉設置	ギリシャ語(1)	
分野：01-20-14	選択 ポルトガル語	
日吉設置	ポルトガル語(1)	
三田設置	ポルトガル語第 (中級)(1) ポルトガル語第 (上級)(1)	
分野：01-20-15	選択 アラビア語	
日吉設置	アラビア語(1)	
分野：01-20-16	選択 イタリア語	
日吉設置	イタリア語(1)	
三田設置	イタリア語第 (1)	
人文科学 科目	分野：02-20-01	選択
	日吉設置	言語学 (2) 言語学 (2) 言語学 (2) 言語学 (2) 地域文化論 (2) 地域文化論 (2) 地域文化論 (2) 地域文化論 (2) 文学(4) 歴史 (2) 歴史 (2) 歴史(4) 科学史(2) 科学史 (2) 科学史 (2) 科学史 (2) 科学史 (2) 論理学(4) 倫理学(4) 宗教学(4) 哲学(4) 音楽(4) 音楽 (2) 音楽 (2) 漢文(2) 美術(4) 人文科学特論 (2) 人文科学特論 (2) 人文総合講座(2) 人文総合講座 (2) 人文総合講座 (2)
	三田設置	人文科学研究会 (2) 人文科学研究会 (2) 人文科学研究会 (2) 人文科学研究会 (2)
自然科学 科目	分野：03-20-01	選択
	日吉設置	物理学(実験を含む)(6) 化学(実験を含む)(6) 生物科学(実験を含む)(6) 基礎数学 (2) 基礎数学 (2) 心理学 (2) 心理学 (2) 基礎統計学 (2) 基礎統計学 (2) 自然科学特論(2) 自然科学特論 (2) 自然科学特論 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学総合講座 (2) 自然科学総合講座 (2)
	三田設置	自然科学特論 (2) 自然科学特論 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学総合講座 (2) 自然科学総合講座 (2)
数学・統計・ 情報処理 科目	分野：04-20-11	選択 数学系列
	日吉設置	数学 (2) 数学 (2) 数学 (2) 数学 (2)
	三田設置	数学概論 (2) 数学概論 (2) 数学 (2) 数学 (2) 数学 (2) 数学 (2)
	分野：04-20-12	選択 統計系列
	日吉設置	統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2)
	三田設置	統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2)
分野：04-20-13	選択 情報処理系列	
日吉設置	情報処理 (2) 情報処理 (2) 情報処理 (2) 情報処理 (2)	
三田設置	情報処理 (2) 情報処理 (2) 統計情報処理 (2) 統計情報処理 (2) 統計情報処理 (2) 統計情報処理 (2)	
社会科学 科目	分野：05-10-01	必修
	日吉設置	法学(憲法を含む)(4)
	分野：05-11-01	選択必修
日吉設置	社会学(4) 地理学(4) 経済学(4) 政治学(4) 近代思想史(4)	

法律学 科目	分野：06-10-01	必修	憲法
	日吉設置	憲法 (4)	
	分野：06-10-02	必修	民法
	日吉設置	民法 (4)	
	分野：06-10-03	必修	刑法
	日吉設置	刑法 (4)	
	分野：06-20-01	選択	A系列
	日吉設置	憲法 (4)	
	三田設置	法理学(4) 国際法 (4) 外国法(英米)(4) 外国法(独)(4) 外国法(仏)(4) 外国法(中)(4) 外国法(EU)(4) 外国法(ラテンアメリカ)(4)	
	分野：06-20-02	選択	B系列
	日吉設置	民法 (4) 民法 (4)	
	三田設置	民法 (4) 民法 (4)	
	分野：06-20-03	選択	C系列
	日吉設置	刑法 (4)	
	三田設置	刑法 (4) 刑事訴訟法(4) 刑事政策(4)	
	分野：06-20-04	選択	D系列
	三田設置	商法 (4) 商法 (4) 商法 (4) 民事訴訟法 (4)	
	分野：06-20-05	選択	E系列
	三田設置	行政法 (4) 行政法 (4) 労働法(4) 経済法(4)	
	分野：06-20-06	選択	F系列
日吉設置	民法演習 (4) 民法演習 (4)		
三田設置	研究会(4) 憲法演習(4) 民法演習(4) 刑法演習(4) 刑事学演習(4) 商法演習(4) 行政法演習(4) 知的財産法演習(4) 国際私法演習(4) 刑事訴訟法演習(4) 民事訴訟法演習(4) 破産法演習(4) 刑事政策演習(4) 外国法演習(英米)(2) 外国法演習(英米)(4) 外国法演習(独)(4) 外国法演習(仏)(4) 外国法演習(EU)(4) 国際法演習(4) 社会法演習(4) 法思想史演習(4) 法制史演習(4) 環境法演習(4) 刑事法演習(4) 国際民事訴訟法演習(4)		
分野：06-20-07	選択	系列外	
日吉設置	法学情報処理(2) 団体法(2) 法制史(基礎)(4)		
	行政法 (4) 国際法 (4) 担保法(4) 商法 (4) 民事訴訟法 (4) 破産法(4) 国際私法(4) 国際取引法(2) 航空・宇宙法(4) 犯罪学(4) 被害者学(4) 法制史(日本)(2) 法制史(日本)(2) 法制史(東洋)(4) 法制史(西洋)(4) 法医学(4) 租税法(4) 国際租税法(4) 海洋法(4) 医事法(4) 信託法(4) 知的財産権法(4) 知的財産法(4) 裁判法(4) 社会保障法(4) 法とコンピュータ(4) 環境法(4) 証券取引法(4) 政策と法(4) 法と経済(2) 法思想史(4) 国際宇宙法(2) 国際環境法(2) 国際経済法(2) 比較競争法(2) 政治学(2) 政治学(2) 社会学(2) 社会学(2) 法社会学(4) 経済政策(4) 経済原論(4) 財政論(4) 金融論(4) 会計学(4) 経営学(4) 他学部等の専門的授業科目		
体育 科目 (2003年度以前は 保健体育科目)	分野：08-20-01	選択	講義系
	日吉設置	体育学講義(2) 体育学演習(1)	
	分野：08-20-02	選択	実技系
	日吉設置	体育実技 A(1) 体育実技 B(1)	
自主選択 科目	三田設置	体育実技 A(1)	
	分野：09-20-01	選択	他学科または他学部および教授会の認める大学付設の研究所その他諸機関の授業科目で、あらかじめ当該授業科目の担当者および学習指導の承認を得た人文・自然・社会科学科目に相当するもの
自由科目	分野：10-30-01	自由	進級および卒業資格とならない科目
	分野：11-30-01	自由	教職課程センター設置科目

2. 進級・卒業に必要な授業科目とその単位数

(1) 第4学年に進級するために必要な授業科目・単位数

第3学年において履修する授業科目（自由科目を除き自主選択科目を含む）から、30単位以上合格することが必要です。ただし、必修として履修した外国語それぞれの語種につき、いまだ取得していない単位が4単位を超える場合には、1年間でそれを取得し終わることができませんので、第4学年に進級することはできません。

(2) 卒業するために必要な授業科目・単位数

授業科目の種類（分野）	内容等		単位数
外国語科目 (01-10-**)	「必修」として履修した語学		2科目各8単位
人文科学科目 (02-20-01)			8
自然科学科目 (03-20-01)	数学・統計・情報処理科目の数学系列(04-20-11), 統計系列(04-20-12)をもって替えることができる <sup>1)</sup>		8
社会科学科目 (05-**-**)	「法学（憲法を含む）」4単位を含む		8
法律学科目	必修科目	憲法 , 民法 , 刑法 (06-10-**) 3科目12単位	88
	系列科目	A～F系列 (06-20-01, 02, 03, 04, 05, 06) 各系列2科目8単位, 合計48単位以上	
	系列外科目	(06-20-07) 76単位以上 <sup>2)</sup>	
自由科目を除くすべての科目 <sup>3)</sup>			16
合 計			144

<sup>1)</sup> 数学・統計・情報処理科目の情報処理系列 (04-20-13) は替えることができません。

<sup>2)</sup> 系列科目のみで満たしてもかまいません。

<sup>3)</sup> 卒業に必要な最低単位数を超過した人文科学, 自然科学, 数学・統計・情報処理, 社会科学, 法律学科目（必修科目を除く）を充当することができます。また, 外国語科目選択, 自主選択科目, 体育科目（2003年度以前は保健体育科目）も含めることができます。

3. 学士入学者の進級・卒業に必要な授業科目とその単位数

(1) 第4学年に進級するために必要な単位数

第3学年において履修する授業科目（自由科目を除く）から、30単位以上合格することが必要です。この中には、認定単位は含まれません。

(2) 卒業するために必要な授業科目・単位数

授業科目の種類	内容等		単位数
法律学科目	必修科目	憲法 , 民法 , 刑法 (06-10-**) 3科目12単位	88
	系列科目	A～F系列 (06-20-01, 02, 03, 04, 05, 06) 各系列2科目8単位, 合計48単位以上	
	系列外科目	(06-20-07) 76単位以上	
合 計			88

系列科目のみで満たしてもかまいません。

## 履修上の注意

各学年の履修単位数の最高限度はそれぞれ 48 単位とし、自由科目を含めて、56 単位までとします。  
ただし、教職課程教科に関する科目はこれに含まれません。

(1) 法律学科のうち必修科目および系列科目は、できるだけ第 3 学年までに履修を完了させるようにしてください。

(2) 第 2 学年までの必修科目等に不足単位のある者は、次に従って本年度必ず再履修してください。

外国語科目必修（英・独・仏・中・西・露・朝・日・伊）

日吉において指定クラスで履修してください。なお、一部の科目では抽選を行います。

法学（憲法を含む） 日吉において履修してください。

法律学科必修 日吉において履修してください。

その他の授業科目 三田において開講する授業科目を履修するか、または日吉において履修してください。

### < 日吉設置科目を履修する場合の注意 >

(1) 三田・日吉の連続する時限の授業科目の履修は認めません。ただし、2・3 時限についてはこの限りではありません。

(2) 日吉設置科目を履修した場合、試験日が重複することもあります。したがって日吉設置科目の履修は、第 3 学年で完了することが望ましいでしょう。やむを得ず第 4 学年で履修する場合は、履修科目に十分余裕をもたないと卒業できない場合もありますから特に注意してください。

(3) 2004 年度から「保健体育科目」が「体育科目」の名称となり、科目名についても変更となりました。今までに「体育理論」「保健衛生」を取得している場合、「体育学講義」「体育学演習」は履修することができません（自由科目扱い）。「体育実技科目」においては制限はありません。

### < 三田設置科目を履修する場合の注意 >

(1) 単位の計算方法

三田で履修する授業科目は講義・演習いずれも「週 1 時限・半期」の授業で 2 単位、「週 1 時限・通年」の授業で 4 単位、「週 2 時限・半期」の集中授業で 4 単位となります（例外もあります）。

(2) 再履修についての注意

前年度までに履修した授業科目はたとえ担当者が変わった場合でも再履修できません。

ただし、人文科学研究会、F 系列の演習科目、体育実技科目、および不合格となった授業科目の履修についてはこの限りではありません。また、A 系列の「外国法」については、(英米)・(独)・(仏)・(中)・(EU)それぞれを別科目として履修することができます（下記 (4) を参照）。

(3) 演習科目を履修する際の注意

人文科学研究会、F 系列の演習を履修する際、同一科目名であっても担当者が異なる場合には履修することができます。なお、人文科学研究会については担当者が同じ場合でも、「          」・「          」を併設としましたので、第 3 学年で            と            を履修し、第 4 学年で            と            を履修してください。

(4) 「外国法」を履修する際の注意

A 系列の「外国法」を履修する際、(英米)・(独)・(仏)・(中)・(EU)についてはそれぞれ別科目として履修することができますが、その場合は 1 科目のみが『A 系列科目』として履修でき、2 科目めからは『系列外科目』として履修することになります。履修申告のしかたは、29 ページ A・B 欄に記入する授業科目 を参照してください。

(5) 法律学科の「研究会(3 年)」、「研究会(4 年)」は別科目とし、それぞれ F 系列の科目になります。

(6) 集中講義（商法 ・ 等）は一週 2 時限ずつ履修しなければなりません。

(7) 政治学科、他学部、研究所等に設置された授業科目を履修する場合の注意

三田に設置されている政治学科、他学部、および大学付設の研究所その他諸機関の専門的授業科目であらかじめ当該授業科目の担当者、および法律学科学習指導が承認した科目（4 月当初より学事センターに「一覧表」を用意します）は、法律学科の「系列外科目」として履修することができます（なお、その場合に、法律学科設置科目と同一科目で、他学部・他学科では名称が異なる科目を別科目として履修することはできませんので注意してください）。

授業科目の履修にあたっては、必ず事前に履修を希望する授業科目の担当者の許可を口頭で得てから（承認印は不要）履修申告をしてください。

これらの授業科目は、直接法律学科の学生を対象に開講されている科目ではないために、その学科、学部、研究所等の規則、教育方針、施設の関係や担当者の教育上の配慮に基づいて履修が認められない場合もあります。

また、あらかじめ法律学科学習指導の承認を得ていない授業科目については、「系列外科目」としては認められず、「自由科目」として履修することになります。

その他、研究所等設置科目の取扱いについては 29 ページの表を参照してください。

(8) 外国語科目について

三田に設置される外国語科目はすべて「外国語科目選択」となりますので、日吉の「外国語科目必修」の単位に振り替えることはできません。

英語：

「英語第 Ⅰ」は週 1 回の授業で、春秋 8 コマ開講します。

ドイツ語：

「ドイツ語インテンシブ」は週 4 回の授業で、1 コース開講します。週 4 回セットで履修してください。4 月 3 日(月)10 時から三田 325 - B 番教室で選抜テストを行って履修者を決めます。新たに参加を希望する者は担当者(三瓶)に相談してください。

「ドイツ語速習」は初級 1 コース、中級 1 コースが開講されます。ドイツ語未習者を対象として、1 年間で文献が読めるまでの力をつけることを目的とします。週 1 回ネイティブスピーカーの授業もあります。

「ドイツ語第 Ⅱ」(春/秋)は週 1 回の授業で、春秋 2 コマ開講します。

フランス語：

「フランス語インテンシブ」は週 4 回の授業で、8 コマのうち 4 つを選択して履修してください。

「フランス語第 Ⅰ」(春/秋)は週 1 回の授業で、春秋 3 コマ開講します。

中国語：

「中国語インテンシブ」は週 3 回の授業で、1 コース開講します。日吉からの 3 年連続コースですが、新たに参加を希望する者は代表担当者(安田)に相談してください。週 1 回の中・上級の授業を希望する者は政治学科の「文献講読 Ⅰ」に参加してください。

スペイン語：

「スペイン語インテンシブ」は週 6 回の授業で、6 コマのうち 3 つ以上を選択して履修してください。日吉からの連続コースですが、新たに参加を希望する者は担当者に相談してください。

「スペイン語第 Ⅰ」(春/秋)は週 1 回の授業で、春秋 1 コマ開講します。

ロシア語：

「ロシア語インテンシブ」は週 4 回の授業で、1 コース開講します。日吉からの 3 年連続コースですが、新たに参加を希望する者は担当者に相談してください。週 1 回の中・上級の授業を希望する者は政治学科の「文献講読 Ⅰ」に参加してください。

朝鮮語：

「朝鮮語第 Ⅰ」(春/秋)は週 1 回の授業で、1 コマ開講します。

イタリア語：

「イタリア語第 Ⅰ」(春/秋)は週 1 回の授業で、1 コマ開講します。

ポルトガル語：

「ポルトガル語第 Ⅰ(中級)」(春/秋)、「ポルトガル語第 Ⅱ(上級)」(春/秋)は週 1 回の授業で、それぞれ 1 コマ開講します。

ラテン語：

「ラテン語(中級)」(春/秋)は週 1 回の授業で、1 コマ開講します。

それぞれの語学のインテンシブコース、および「ドイツ語速習」は 1 年を通じて受講すること、週 3 ないし 4 回の授業をセットとして受講することを原則とします。ほかの授業と重なる場合は、担当者に相談してください。なお、セットで履修できない場合はインテンシブコースは自由科目となりますので注意してください。

(9) 「商法 Ⅰ」については、3 年生・4 年生ともに指定クラスで履修してください。

< 不合格者、休学者、留学者に対する注意 >

(1) 第 3 学年末に進級不合格となった者

不合格年度に履修合格した科目のうち、履修済みと認められる単位は、A・B の評語を得た授業科目に限られます。ただし、外国語科目必修、体育科目、法律学科必修、自由科目、分野 11-30-01 の教職課程教科に関する科目は C の評語を得た授業科目も履修済みと認めます。

(2) 第 4 学年末に卒業不合格となった者

不合格年度に履修合格した科目はすべて履修済みと認めます。

(3) 休学者・留学者が当該年度の休学・留学期間以前に試験を受け、評語を取得できた科目については、履修済みと認めます(3・4 年共通)

< 定期試験期間中の試験についての注意 >

(1) 追加試験

追加試験は、履修申告を行った授業科目で、病気その他「やむを得ない理由」のため定期試験を受けられなかった授業科目について施行します(受験料 = 1 科目につき 2,000 円)。

語学、演習科目、その他定期試験を行わず、レポート等により評価の定まる科目、定期試験期間以外で試験を行う科目は追加試験を行いません。

受験を希望する者は、追加試験申込用紙(用紙は学事センターで交付)に、その理由を明らかにする診断書等の文書を添えて、指定する期日までに学事センター窓口で申し込んでください。詳細は定期試験時間割発表時に掲示します。

追加試験による成績評語は、定期試験の場合のその一段階下の評語となります。ただし、司法試験のような国家試験の受験を理由とした場合、文部科学省が指定する学校伝染病にかかり、出席停止期間が明示された診断書を用意した場合、一親等の忌事の場合はこの限りではありません。

(2) 試験時間の重複により定期試験を受験できなかった授業科目の試験

三田と日吉の試験時間が重複したために定期試験期間中に受験できなかった授業科目の試験は、追加試験期間中に行います。

この場合の受験は、追加試験扱いではなく、定期試験扱い（一段階下の評語にはなりません）となります。

この場合の受験も、追加試験申込用紙を用い、追加試験受験の場合と同じ手続きで申し込んでください（受験料不要）。

(3) 試験日程は春学期終了科目は8月3・4日（三田）、その他の科目は2月下旬の予定です。

(4) 試験における不正行為

定期試験（レポートも含む）において不正行為（答案の持ち帰りも不正行為です）があった場合は、当該科目を不合格とし、当該年度に履修合格した他の全科目について減点します。追加試験の場合も同様です。なお、事情によっては退学・停学の処分も行われますので厳正な態度をもって受験してください。

<退学について>

学則第156条の規定により、第3学年・第4学年に併せて4年間在学し、なお卒業できない場合、退学させられます。

なお、休学期間は在学年数に算入しません（休学願の提出については5ページを参照してください）。

<自主留年について>

4年生が卒業単位を満した上、司法試験・公務員試験等の公的試験を理由にさらに翌年度の在学を希望する場合は、これを認めることがあります。在学を希望する者は、定められた日時までに本人・保証人連署の誓約書を添えて願い出、学習指導の面接を受けなければなりません。日程は12月上旬に掲示します。自主留年を許可された年度においては、次の条件が課せられます。

在学を許可された年度は、1年間に籍しなければなりません。途中で籍を離れる場合は、退学となります。

在学を許可された年度には、自由科目を除き法律学科目（必修を除く）を1科目以上履修し、合格しなくてはなりません。最低1科目に合格しない場合、卒業不合格となり、当該年度の卒業はできないことになります。

<クラス担任>

本年度のクラス担任は次のとおりです。学問的な研究の指導ばかりでなく、日常生活ないし就職など、学生生活の全般にわたって相談や助言が行われます。具体的な指導運営については必要に応じて担当者の指示があるはずですが、同時に学生諸君の自主的なクラス運営が望まれます。

クラス	第3学年	第4学年
A	西川理恵子	君嶋祐子
B	水津太郎	小山剛
C	鈴木千佳子	安富潔
D	島原宏明	斎藤和夫
E	宮島司	田村次朗
F	岩谷十郎	加藤修
G	山本爲三郎	並木和夫
H	坂原正夫	駒村圭吾
I	池田真朗	吉村典久
J	尹仁河	明石欽司
K	太田達也	小林節
L	青木淳一	武川幸嗣
M	加藤久雄	藤原淳一郎
N	内藤恵	小山剛
O	三木浩一	小山剛
P	霞信彦	小山剛
Q	大森正仁	太田達也
R	オステン・フィリップ	太田達也
S	佐藤拓磨	犬伏由子
T	小山剛	太田達也

法律学科の学習指導は次のとおりです。

教授 小山 剛

教授 太田 達也

学習指導の面会は原則として授業期間内の木曜日の昼休みに、三田研究室棟1階の教員談話室で行います。面会希望者は面談日前々日の火曜日午後4時までに学事センター法学部係へ申し込んでください。

# 履修申告のしかた

## 1. 履修申告について

### (1) 申告方法について

原則、『Web』による申告とします(なお、事情により履修申告用紙での申告を希望する者は学事センター窓口(4月10日(月)・11日(火)の両日に限り)に取りにきてください)。ただし、Webによる申告と履修申告用紙による申告を併用することはできませんので必ずどちらか一方で申告してください。

Webによる申告を行うと、即時にエラーチェックおよび進級・卒業の学則判定が行われます。エラーのある場合のみメッセージが表示されます(ただし、最終的な履修科目およびエラー等の確認は、自宅宛に送付する履修確認表で行ってください)。また、用紙の場合と異なり、誤登録・申告漏れ等によって希望どおりに申告できないという事態も軽減されます。

### (2) Webによる申告

Web申告期間 4月14日(金) 8:30～4月15日(土) 15:00, 17日(月) 8:30～15:00

p.14～の学事Webシステムの利用方法 (1)履修の申告を参照してください。

### (3) 履修申告用紙による申告

履修申告用紙提出日(場所:学事センター前受付ボックス)

第3・4学年 4月14日(金) 8:45～16:45

### (4) 申告上の注意

申告にあたっては、2005年度の学業成績表を保証人宛に送付してありますので、各自保証人からそれを受け取り、取得した科目を確認し、「法律学科学習指導要項」、「履修申告のしかた」(本項)を熟読して申告してください。

申告後は、履修科目の変更・追加・取り消しを認めません。また、閲覧・照会にも応じません。Webによる申告をした場合は登録科目一覧画面を印刷、もしくはファイルで保存、履修申告用紙の場合はコピーをとり、時間割とともに控えとして保管してください。期日までに申告しない場合は、原則として修学の意志がないものとして退学処分になります(学則第188条)。

### (5) 履修に関する疑問点、その他については申告以前に、学習指導または学事センター法学部係に問い合わせてください。

### (6) 履修確認表(履修申告した授業科目のリスト)は5月上旬本人住所宛に送付します。確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。この確認を怠ったために生じた問題については、自己責任となります。確認期間は送付後約一週間(詳しくは掲示により指示します)とし、この期間を経過した後は確認が終了したものとみなします。

### (7) 時間割は変更することがありますので、西校舎掲示板で確認のうえ申告してください。

### (8) 申告していない授業科目を受験しても一切無効ですので、単位は取得できません。

## 2. 履修申告用紙(マークシート用紙)の記入方法等について

### (1) 学籍等の記入方法

学部、学科、学年、組、氏名、学籍番号および提出日を記入してください(修士・博士の欄は記入の必要はありません)。学籍番号は数字で記入するとともに、該当する数字をマークしてください。

### (2) 履修科目の記入方法

記入にあたっては、科目名、教員名と登録番号(5桁)に十分注意しHBもしくはBの鉛筆でマークしてください。

複数の教員が担当する科目は、時間割上段に記載されている教員名を記入してください。

1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。

集中講義、実験をとまう科目等で複数の曜日・時限にわたって開講している授業科目についても、必ず登録番号は1か所のみ付いていますので、その登録番号をマークすることで、他の時限についても登録されます。この場合、番号の付いていない曜日・時限に別の科目を登録することはできませんので注意してください。

形態欄は、その科目の形態(春(春学期集中も含む)・秋(秋学期集中も含む)・通年)を で囲み、曜日・時限を記入してください。

「無効マーク」にマークすると、その枠内について「無効」にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することもできますが、跡が残ったり、黒くこすれたりした場合は、この「無効マーク」を利用してください。

履修申告欄は[A]、[B]欄によって構成されています。どちらの欄に記入するかは次ページのとおりです。ただし、同一科目を[A]欄および[B]欄の両方に記入する必要はありません。

A・B欄に記入する授業科目

科目の種類	記入欄	分野の扱い	B欄分野	備考
法律学科設置科目 (日吉・三田とも) *開講科目表の分野どおり履修する場合	A欄	開講科目表どおり		
外国法の2科目めから (A系列で1科目を取得済、もしくは履修の場合)	A欄	系列外科目		時間割表内に(A)(外)と表記し区別しています。登録番号に注意してください。
外国語インテンシブをセット履修できない場合	B欄		99	
政治学科・他学部の専門的授業科目	B欄	大半は系列外科目 (学事センターにて「一覧表」で確認)	55	履修申告前に必ず授業担当者の許可を得てください。
政治学科・他学部の人文・自然・社会科学科目	B欄	大半は自主選択科目 (学事センターで確認)	77	履修申告前に必ず授業担当者の許可を得てください。
他学部設置の外国語科目	B欄	外国語科目選択	01～16	各語種のB欄分野は次ページ参照。開講科目は「全学部共通外国語履修案内」参照。
外国語教育研究センター設置科目	B欄	外国語科目選択	01～16	各語種のB欄分野は次ページ参照。受講申込方法については217ページ参照。
言語文化研究所設置科目	B欄	外国語科目選択または自主選択科目	朝鮮語 ..... 10 アラビア語 ..... 15 その他 自主選択科目 ..... 77	
メディア・コミュニケーション研究所設置科目	B欄	原則として系列外科目	55	例外.....「時事英語・」 「文章作法・」は自主選択科目(B欄77), 研究会(～)の4単位を超えた分は自由科目(B欄99)
国際センター設置科目 <sup>1)</sup>	B欄	自主選択科目または自由科目	自主選択科目 ..... 77 自由科目 ..... 99	分野の扱いについては、222ページ参照。
教職課程センター設置科目	B欄	(教職課程設置)自由科目	95	履修上限には含まれません。教職課程登録者のみ履修可能。
情報処理教育室設置科目	B欄	自主選択科目	77	受講申込方法については260ページ参照。
知的資産センター設置科目	B欄	自主選択科目	77	
体育科目	B欄	体育科目	講義系 81, 実技系 82	履修申告方法については206ページ参照。
保健管理センター設置科目	B欄	自主選択科目	77	
教養研究センター設置科目	B欄	自主選択科目	77	
福澤研究センター設置科目	B欄	自主選択科目	77	
外国語学校設置科目	B欄	自由科目	99	入学手続が必要。181ページ参照。
その他, 自由科目として履修する場合	B欄	自由科目	99	

注<sup>1)</sup> 他学部の科目との併設科目については、国際センター設置科目の時間割、登録番号ではなく、設置学部の時間割、登録番号を使用してください。(223ページ表の「履修取扱い」欄参照)

**B欄記入上の注意事項**

分野欄：法律学科が定める分野を<B欄分野表>に従って2桁の数字を記入しマークしてください。

(3) 履修申告用紙の再交付について

履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は、なるべく「無効マーク」を使用して無効にした上で別の記入欄に正しい科目を登録してください。それでも訂正し切れない場合は交換しますので、その履修申告用紙を持参の上、学事センター窓口へ申し出てください。

交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センター窓口へ申し出てください。そして、複数枚の申込用紙を提出する時には、申告用紙左上の欄(枚目/枚中)を記入してください。

3. 修正申告について

修正期間はあくまでも「修正」の期間ですので「変更・追加・取り消し」は一切認められません。

登録科目に誤りがあり、追加・削除をする場合は、修正申告用の履修申告用紙を使用してください。修正申告用の履修申告用紙は、修正申告の際に学事センターで配付します。

< B 欄分野表 >

B 欄分野	意味する分野番号と科目区分			
01	01 - 20 - 01	外国語科目	選択	英語
02	01 - 20 - 02	"	"	ドイツ語
03	01 - 20 - 03	"	"	フランス語
04	01 - 20 - 04	"	"	中国語
05	01 - 20 - 05	"	"	スペイン語
06	01 - 20 - 06	"	"	ロシア語
10	01 - 20 - 10	"	"	朝鮮語
11	01 - 20 - 11	"	"	ラテン語
12	01 - 20 - 12	"	"	ギリシャ語
14	01 - 20 - 14	"	"	ポルトガル語
15	01 - 20 - 15	"	"	アラビア語
16	01 - 20 - 16	"	"	イタリア語
31	03 - 20 - 01	自然科学科目	選択	
55	06 - 20 - 07	法律学科目	選択	系列外
81	08 - 20 - 01	体育科目	選択	講義系
82	08 - 20 - 02	"	"	実技系
77	09 - 20 - 01	自主選択科目	選択	
99	10 - 30 - 01	自由科目	自由	
95	11 - 30 - 01	(教職課程設置) 自由科目	自由	

# 政治学科

學習指導要項

# 政治学科

## 学習指導要項

この学習指導要項は、学則の実際の運用の仕方や、学則には明示されていない細則を解説したものです。皆さんがこれから三田で履修しようとする授業科目については、学則とこの指導要項を熟読し、その規定を守りながら、各自の問題意識や研究関心に応じて、主体的かつ体系的に決定してください。なお、日吉に設置されている科目の履修については、日吉の履修案内を参照してください。

### 1. 平成 18 年度開講科目（下線のついてる科目は今年度開講されません）

種類	分野・分野番号・科目区分
外国語 科目	分野：01-10-01 必修 英語
	日吉設置 英語第 (1) 英語第 (レベル1)(1) 英語第 (レベル2)(1)
	三田設置 英語第 (1)
	分野：01-10-02 必修 ドイツ語(初級)
	日吉設置 ドイツ語第 (1) ドイツ語第 (1)
	分野：01-10-03 必修 フランス語(初級)
	日吉設置 フランス語第 (1) フランス語第 (1)
	分野：01-10-04 必修 中国語(初級)
	日吉設置 中国語第 (1) 中国語第 (1)
	分野：01-10-05 必修 スペイン語(初級)
	日吉設置 スペイン語第 (1) スペイン語第 (1)
	分野：01-10-06 必修 ロシア語(初級)
	日吉設置 ロシア語第 (1) ロシア語第 (1)
	分野：01-10-10 必修 朝鮮語(初級)
	日吉設置 朝鮮語第 (1) 朝鮮語第 (1)
	分野：01-10-13 必修 日本語(初級)
	日吉設置 日本語(1)
	分野：01-10-16 必修 イタリア語(初級)
	日吉設置 イタリア語第 (1) イタリア語第 (1)
	分野：01-10-51 必修 英語
	日吉設置 英語第 (レベル3)(1) 英語第 (1) 英語第 (1) 英語インテンシブ(1) 外国語特殊(英語)(2)
	分野：01-10-52 必修 ドイツ語(中級)
	日吉設置 ドイツ語第 (1) ドイツ語第 (1) ドイツ語インテンシブ(1)
	分野：01-10-53 必修 フランス語(中級)
	日吉設置 フランス語第 (1) フランス語第 (1) フランス語インテンシブ(1)
	分野：01-10-54 必修 中国語(中級)
	日吉設置 中国語第 (1) 中国語第 (1) 中国語インテンシブ(1)
	分野：01-10-55 必修 スペイン語(中級)
	日吉設置 スペイン語第 (1) スペイン語第 (1) スペイン語インテンシブ(1)
	分野：01-10-56 必修 ロシア語(中級)
	日吉設置 ロシア語第 (1) ロシア語第 (1) ロシア語インテンシブ(1)
	分野：01-10-60 必修 朝鮮語(中級)
	日吉設置 朝鮮語第 (1) 朝鮮語第 (1)
	分野：01-10-63 必修 日本語(中級)
	日吉設置 日本語(1)
	分野：01-10-66 必修 イタリア語(中級)
	日吉設置 イタリア語第 (1) イタリア語第 (1)
	分野：01-20-01 選択 英語
	日吉設置 英語(1) 英語インテンシブ(1) 外国語特殊(英語)(2)
	三田設置 英語インテンシブ(1) 英語第 (1)
	分野：01-20-02 選択 ドイツ語
	日吉設置 ドイツ語(1) 初級ドイツ語演習(1) ドイツ語インテンシブ(1)
三田設置 ドイツ語第 (1) ドイツ語インテンシブ(1) ドイツ語速習(初級)(1) ドイツ語速習(中級)(1)	

外国語 科目	分野：01-20-03	選択	フランス語
	日吉設置	フランス語(1) フランス語インテンシブ(1) 初級フランス語演習(1)	
	三田設置	フランス語第 (1) フランス語インテンシブ(1)	
	分野：01-20-04	選択	中国語
	日吉設置	中国語(1) 中国語インテンシブ(1)	
	三田設置	中国語インテンシブ(1)	
	分野：01-20-05	選択	スペイン語
	日吉設置	スペイン語(1) スペイン語インテンシブ(1)	
	三田設置	スペイン語第 (1) スペイン語インテンシブ(1)	
	分野：01-20-06	選択	ロシア語
	日吉設置	ロシア語(1) ロシア語インテンシブ(1)	
	三田設置	ロシア語インテンシブ(1)	
	分野：01-20-10	選択	朝鮮語
	日吉設置	朝鮮語(1)	
	三田設置	朝鮮語第 (1)	
	分野：01-20-11	選択	ラテン語
	日吉設置	ラテン語(1)	
	三田設置	ラテン語(中級)(1)	
分野：01-20-12	選択	ギリシャ語	
日吉設置	ギリシャ語(1)		
分野：01-20-14	選択	ポルトガル語	
日吉設置	ポルトガル語(1)		
三田設置	ポルトガル語第 (中級)(1) ポルトガル語第 (上級)(1)		
分野：01-20-15	選択	アラビア語	
日吉設置	アラビア語(1)		
分野：01-20-16	選択	イタリア語	
日吉設置	イタリア語(1)		
三田設置	イタリア語第 (1)		
人文科学 科目	分野：02-20-01	選択	
	日吉設置	言語学 (2) 言語学 (2) 言語学 (2) 言語学 (2) 地域文化論 (2) 地域文化論 (2) 地域文化論 (2) 地域文化論 (2) 文学(4) 歴史 (2) 歴史 (2) 歴史(4) 科学史(2) 科学史 (2) 科学史 (2) 科学史 (2) 科学史 (2) 論理学(4) 倫理学(4) 宗教学(4) 哲学(4) 音楽(4) 音楽 (2) 音楽 (2) 漢文(2) 美術(4) 人文科学特論 (2) 人文科学特論 (2) 人文総合講座(2) 人文総合講座 (2) 人文総合講座 (2)	
	三田設置	人文科学研究会 (2) 人文科学研究会 (2) 人文科学研究会 (2) 人文科学研究会 (2)	
自然科学 科目	分野：03-20-01	選択	
	日吉設置	物理学(実験を含む)(6) 化学(実験を含む)(6) 生物科学(実験を含む)(6) 基礎数学 (2) 基礎数学 (2) 心理学 (2) 心理学 (2) 基礎統計学 (2) 基礎統計学 (2) 自然科学特論(2) 自然科学特論 (2) 自然科学特論 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学総合講座 (2) 自然科学総合講座 (2)	
	三田設置	自然科学特論 (2) 自然科学特論 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学総合講座 (2) 自然科学総合講座 (2)	
数学・統計・ 情報処理 科目	分野：04-20-11	選択	数学系列
	日吉設置	数学 (2) 数学 (2) 数学 (2) 数学 (2)	
	三田設置	数学概論 (2) 数学概論 (2) 数学 (2) 数学 (2) 数学 (2) 数学 (2)	
	分野：04-20-12	選択	統計系列
	日吉設置	統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2)	
	三田設置	統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2)	
分野：04-20-13	選択	情報処理系列	
日吉設置	情報処理 (2) 情報処理 (2) 情報処理 (2) 情報処理 (2)		
三田設置	情報処理 (2) 情報処理 (2) 統計情報処理 (2) 統計情報処理 (2) 統計情報処理 (2) 統計情報処理 (2)		
社会科学 科目	分野：05-10-11	必修	社会学系列
	日吉設置	社会学(4)	
	分野：05-10-12	必修	法学系列
日吉設置	(2004年度以降入学者) 法学(憲法を含む)(4) 憲法(4) (2003年度以前入学者) 法学(憲法を含む)(4) 憲法(4) 民法 (4) 民法 (4)		

社会科学 科目	分野：05-10-13	必修	経済学・商学系列
	日吉設置	経済原論 (4) 経済原論 (4)	
	分野：05-11-12	選択必修	法学系列
	日吉設置	(2004年度以降入学者) 行政法(4) 刑法(4) 国際法(4) 民法 (4) 民法 (4)	
		(2003年度以前入学者) 行政法(4) 刑法(4) 国際法(4)	
	分野：05-11-13	選択必修	経済学・商学系列
	三田設置	経済政策(4) 財政論(4) 国際経済論(4)	
	分野：05-20-11	選択	社会学系列
	日吉設置	社会心理学 (4) 社会心理学 (4) 文化人類学 (4) 文化人類学 (4)	
	分野：05-20-12	選択	法学系列
三田設置	民法 (4) 商法 (4) 商法 (4) 労働法(4) 経済法(4) 犯罪学(4)		
分野：05-20-13	選択	経済学・商学系列	
三田設置	計量経済学(4) 経済史(4) 日本経済論(4) 金融論(4) 労働経済論(4) 社会保障論(4) 経営学(4) 会計学(4)		
政治学 科目	分野：07-10-01	必修	基礎科目
	日吉設置	政治学基礎 (2) 政治学基礎 (2) 政治思想基礎(2) 日本政治基礎(2) 地域研究基礎(2) 国際政治基礎(2)	
	分野：07-20-01	選択・系列科目	政治思想論
	日吉設置	政治文化論(2) 民主主義思想論 (2)	
	三田設置	近代政治思想史 (2) 近代政治思想史 (2) 現代政治思想 (2)	
		政治哲学 (2) 政治哲学 (2)	
		政治理論史 (2) 政治理論史 (2) 政治理論史 (2) 政治理論史 (2) 中世政治思想(2) * 東洋政治思想史 (2) * 東洋政治思想史 (2) * 日本政治思想史 (2) * 日本政治思想史 (2) 現代政治思想特殊研究 (2)	
	分野：07-20-02	選択・系列科目	政治・社会論
	日吉設置	行政学 (2) 行政学 (2) * マス・コミュニケーション論 (2)	
	三田設置	アメリカの司法と政治(2) 行政学特論 (2) 行政学特論 (2)	
現代行政論 (2) 現代社会理論 (2) 現代社会理論 (2) 現代政治理論 (2) 現代政治理論 (2) 公共経済論 (2) 公共経済論 (2) * 国際コミュニケーション論 (2) * 国際コミュニケーション論 (2)			
社会調査論 (2) 社会調査論 (2) 社会変動論 (2) 政治過程論 (2) 政治過程論 (2) * 政治経済システム論(2) 政治権力論 (2) 政治権力論 (2) 地域社会論 (2) 地域社会論 (2) * マス・コミュニケーション発達史 (2) * マス・コミュニケーション発達史 (2) * マス・コミュニケーション論 (2) * マス・コミュニケーション論 (2) メディア社会論 (2) メディア社会論 (2) 現代社会理論特殊研究 社会変動論特殊研究 (2) 政治過程論特殊研究 (2) 政治権力論特殊研究 (2) 地域社会論特殊研究 (2) * マス・コミュニケーション論特殊研究 (2)			
分野：07-20-03	選択・系列科目	日本政治論	
日吉設置	* 日本外交史 (2) 日本政治運動史 (2) * マス・コミュニケーション論 (2) 近代日本政治史 (2)		
三田設置	近世日本政治史 (2) 近世日本政治史 (2) 近代日本政治史 (2) 近代日本政治史 (2)		
	近代日本政党史 (2) 近代日本政党史 (2) 現代日本行政論 (2) 現代日本行政論 (2)		
	現代日本政治論 (2) 現代日本政治論 (2) 古代日本政治史 (2) 古代日本政治史 (2) 戦後日本政治史 (2) 戦後日本政治史 (2) 中世日本政治史 (2) 中世日本政治史 (2) * 日本外交史 (2) 日本行政史 (2) 日本行政史 (2) 日本政治運動史 (2) 日本政治運動史 (2) * 日本政治思想史 (2) * 日本政治思想史 (2) * マス・コミュニケーション発達史 (2) * マス・コミュニケーション発達史 (2) * マス・コミュニケーション論 (2) * マス・コミュニケーション論 (2) 立法過程論 (2) 立法過程論 (2) 近代日本政治史特殊研究 (2) 近代日本政治史特殊研究 (2) 古代日本政治史特殊研究 (2) * 日本外交史特殊研究 (2) 日本行政史特殊研究 (2) 日本政治思想史特殊研究 (2) * マス・コミュニケーション論特殊研究 (2)		

政治学 科目	分野：07-20-04	選択・系列科目 地域研究論
	日吉設置	アフリカ現代史 (2) 現代中東論 (2) 現代中国論 (2) 中国政治史 (2) 比較地域研究論 (2)
	三田設置	*NGO・NPO論 (2) アフリカ社会論 (2) アフリカ社会論 (2) アメリカ政治史 (2) イスラーム社会論 (2) ヨーロッパ政治史 (2) ヨーロッパ政治史 (2) *開発援助政策論 (2) *開発援助政策論 (2) 現代アフリカ論 (2) 現代アメリカ論 (2) 現代アメリカ論 (2) 現代オーストラリア論 (2) 現代オーストラリア論 (2) *現代韓国朝鮮論 (2) 現代台湾論(2) 現代中国論 (2) 現代中国論 (2) 現代中東論 (2) 現代中東論 (2) *現代東南アジア論 (2) 現代ラテン・アメリカ論 (2) 現代ラテン・アメリカ論 (2) 現代ロシア論 (2) 現代ロシア論 (2) *シヴィル・ソサイエティ論(2) 西洋法制史(4) 中国政治史 (2) 中国政治史 (2) 中国法制史(4) *東洋政治思想史 (2) *東洋政治思想史 (2) 現代中東論特殊研究 (2) 現代中国論特殊研究(2) *現代東南アジア論特殊研究 (2) 現代ラテン・アメリカ論特殊研究 (2) 現代ロシア論特殊研究 (2) 地域研究論特殊研究 (2) 比較地域研究論特殊研究 (2) 比較地域研究論特殊研究 (2)
	分野：07-20-05	選択・系列科目 国際政治論
	日吉設置	国際政治論 (2) 国際政治論 (2) 西洋外交史 (2) *日本外交史 (2)
	三田設置	*NGO・NPO論 (2) *開発援助政策論 (2) *開発援助政策論 (2) *現代韓国朝鮮論 (2) 現代国際政治 (2) *現代東南アジア論 (2) 現代ヨーロッパの国際関係 (2) 現代ヨーロッパの国際関係 (2) 現代ヨーロッパの国際関係 (2) 現代ヨーロッパの国際関係 (2) *国際コミュニケーション論 (2) *国際コミュニケーション論 (2) 国際政治経済論 (2) 国際政治経済論 (2) 国際政治理論 (2) 国際政治理論 (2) *シヴィル・ソサイエティ論(2) *政治経済システム論(2) 西洋外交史 (2) *日本外交史 (2) *現代東南アジア論特殊研究 (2) 国際政治経済論特殊研究 (2) 国際政治理論特殊研究 (2) 国際政治理論特殊研究 (2) 西洋外交史特殊研究 (2) 西洋外交史特殊研究 (2) *日本外交史特殊研究 (2) 東アジアの国際関係特殊研究 (2)
	分野：07-20-06	選択・系列科目 研究会
	三田設置	研究会(2)
	分野：07-20-07	選択・系列科目 文献講読
	三田設置	文献講読 (2) 文献講読 (2)
分野：07-20-08	選択・系列科目 政治学総合講座	
三田設置	戦後世界と日本(2)	
分野：07-22-01	選択・集中学習科目	
日吉設置	演習 (2) 演習 (2)	
体育 科目 (2003年度以前は 保健体育科目)	分野：08-20-01	選択 講義系
	日吉設置	体育学講義 (2) 体育学演習 (1)
	分野：08-20-02	選択 実技系
	日吉設置	体育実技 A (1) 体育実技 B (1)
三田設置	体育実技 A (1)	
自主選択 科目	分野：09-20-01	選択
		他学科または他学部および教授会の認める大学付設の研究所その他諸機関の授業科目で、あらかじめ当該授業科目の担当者および学習指導の承認を得たもの
自由科目	分野：10-30-01	自由
		進級および卒業資格とならない科目
	分野：11-30-01	自由
	教職課程センター設置科目	

\* 政治学科目の選択・系列科目のうち\*印は、2つの系列に属している科目であることを示します。

2. 進級・卒業に必要な授業科目とその単位数

(1) 第4学年に進級するために必要な授業科目・単位数

第3学年において履修する授業科目(自由科目を除く)から、30単位以上合格することが必要です。ただし、必修として履修した外国語それぞれの語種につき、いまだ取得していない単位が4単位を超える場合には、1年間でそれを取得し終わることができませんので、第4学年に進級することはできません。

(2) **2004年度以降入学者** 卒業するために必要な授業科目・単位数

授業科目の種類(分野)		内容等	単位数	
外国語科目(01-10-**)		「必修」として履修した語学 2科目各8単位	16	
人文科学科目(02-20-01)			8	
自然科学科目(03-20-01)		数学・統計・情報処理科目の数学系列(04-20-11), 統計系列(04-20-12)をもって替えることができる <sup>1)</sup>	8	
社会科学科目		社会学, 法学(憲法を含む), 憲法, 経済原論 } (05-10-**) 必修5科目計20単位	28	
		行政法・国際法・刑法・民法・民法のうち(05-11-12) 1科目4単位		
		経済政策・財政論・国際経済論のうち(05-11-13) 1科目4単位		
政治学科目	基礎科目	政治学基礎, 政治思想基礎, 日本政治基礎, 地域研究基礎, 国際政治基礎 } (07-10-01) 必修6科目計12単位	52	
	選択系列科目	政治思想論系列(07-20-01)		4単位以上
		政治・社会論系列(07-20-02)		4単位以上
		日本政治論系列(07-20-03)		4単位以上
		地域研究論系列(07-20-04)		4単位以上
		国際政治論系列(07-20-05)		4単位以上
	研究会(07-20-06), 文献講読(07-20-07), 演習(07-22-01)	40単位以上		
自由科目を除くすべての科目 <sup>3)</sup> (10-30-01, 11-30-01以外)			32	
合計			144	

<sup>1)</sup> 数学・統計・情報処理科目の情報処理系列(04-20-13)は替えることができません。

<sup>2)</sup> 卒業に必要な最低単位数を超過した人文科学, 自然科学, 数学・統計・情報処理, 社会科学, 政治学科目(基礎科目を除く)を充当することができます。また, 外国語科目選択, 自主選択科目, 体育科目(2003年度以前は保健体育科目)も含めることができます。

(3) **2003年度以前入学者** 卒業するために必要な授業科目・単位数

授業科目の種類(分野)		内容等	単位数	
外国語科目(01-10-**)		「必修」として履修した語学 2科目各8単位	16	
人文科学科目(02-20-01)			8	
自然科学科目(03-20-01)		数学・統計・情報処理科目の数学系列(04-20-11), 統計系列(04-20-12)をもって替えることができる <sup>1)</sup>	8	
社会科学科目		社会学, 法学(憲法を含む), 憲法, 民法, 経済原論 } (05-10-**) 必修7科目計28単位	36	
		行政法・国際法・刑法のうち(05-11-12) 1科目4単位		
		経済政策・財政論・国際経済論のうち(05-11-13) 1科目4単位		
政治学科目 <sup>2)</sup>	基礎科目	政治学基礎, 政治思想基礎, 日本政治基礎, 地域研究基礎, 国際政治基礎 } (07-10-01) 必修6科目計12単位	52	
	選択系列科目	政治思想論系列(07-20-01)		4単位以上
		政治・社会論系列(07-20-02)		4単位以上
		日本政治論系列(07-20-03)		4単位以上
		地域研究論系列(07-20-04)		4単位以上
		国際政治論系列(07-20-05)		4単位以上
	研究会(07-20-06), 文献講読(07-20-07)	40単位以上		
自由科目を除くすべての科目 <sup>3)</sup> (10-30-01, 11-30-01以外)			24	
合計			144	

<sup>1)</sup> 数学・統計・情報処理科目の情報処理系列(04-20-13)は替えることができません。

<sup>2)</sup> 演習, 演習(英書講読)(07-22-01)は政治学科目ですが, 系列科目ではありません。

<sup>3)</sup> 卒業に必要な最低単位数を超過した人文科学, 自然科学, 数学・統計・情報処理, 社会科学, 政治学科目(基礎科目を除く)を充当することができます。また, 外国語科目選択, 自主選択科目, 体育科目(2003年度以前は保健体育科目)も含めることができます。

3. 学士入学者の進級・卒業に必要な授業科目とその単位数

(1) 第4学年に進級するために必要な授業科目・単位数

第3学年において履修する授業科目(自由科目を除く)から、30単位以上合格することが必要です。ただし、進級に必要な「30単位以上」の中に、認定された単位のうち、最大16単位を繰り入れることができます。

(2) 卒業するために必要な授業科目・単位数

授業科目の種類		内容等	単位数		
社会科学科目		社会学, 法学(憲法を含む), 憲法, 民法, 経済原論 } (05-10-**) 7科目計 28単位	36		
		行政法・国際法・刑法のうち (05-11-12) 1科目 4単位			
		経済政策・財政論・国際経済論のうち (05-11-13) 1科目 4単位			
政治学科目	基礎科目	政治学基礎, 政治思想基礎, 日本政治基礎, 地域研究基礎, 国際政治基礎 } (07-10-01) 6科目計 12単位	52		
	選択系列科目	政治思想論系列 (07-20-01)		4単位以上	40単位以上
		政治・社会論系列 (07-20-02)		4単位以上	
		日本政治論系列 (07-20-03)		4単位以上	
		地域研究論系列 (07-20-04)		4単位以上	
		国際政治論系列 (07-20-05)		4単位以上	
	研究会 (07-20-06), 文献講読 (07-20-07)				
		合計	88		

演習, 演習 (英書講読) (07-22-01) は政治学科目ですが, 系列科目ではありません。

## 履修上の注意

### <無理のない計画的な履修を！>

#### (1) 2001年度以降入学者

各学年の履修単位数の最高限度はそれぞれ52単位です。52単位を超える場合は、「自由科目」として履修してください。自分なりに計画をたてた、密度の高い学習をこころがけてください。

なお、履修申告にあたっては、今までどおり、通年・春学期・秋学期科目すべての申告を原則としますが、履修上限が設定されたこととともない、秋学期に「政治学科目」についてのみ、履修上限の範囲内の「追加のみ（削除は認めない）」認めることとします。

たとえば、春学期に48単位を申告した場合は、秋学期に4単位まで追加することができます。追加申告期間、申告方法についてのお知らせは春学期成績表とともに送付します。

#### 2000年度以前入学者

各学年で履修できる単位数に制限がありません。だからといってむやみに履修申告を行うと、途中で放棄したすべての科目にD（不合格）の評価がただけでなく、少人数制をとる科目が増設されていますので、定員からあふれ、履修したくても履修できなかった他の学生に大変な迷惑をかけることとなります。自分なりに計画をたてた、密度の高い学習をこころがけてください。

(2) 第1・第2学年に配当されている必修科目等の単位の不足がある3年生は、今年度中に必ず再履修するようにしてください。第3学年から第4学年への進級の条件は、30単位ですが、必修科目を取り残したまま第4学年に進級しても、履修科目数に十分な余裕がないと卒業できない場合もありえますので特に注意が必要です。

### <日吉設置科目を履修する場合の注意>

#### (1) 外国語科目必修

日吉において指定クラスで履修してください。なお、一部の科目では抽選を行います。

#### (2) 社会科学科目

すべて日吉において再履修してください。再履修にあたってはクラス指定はありません。同一名称の科目が他学部等の三田の科目に存在しても、特別の場合を除きそれを代替科目とは認めません。

#### (3) 政治学科目基礎科目

すべて日吉において再履修してください。再履修にあたってはクラス指定はありません。

#### (4) 体育科目

2004年度から「保健体育科目」が「体育科目」の名称となり、科目名についても変更となりました。今までに「体育理論」「保健衛生」を取得している場合、「体育学講義」「体育学演習」は履修することができません（自由科目扱い）。「体育実技科目」においては制限はありません。

#### (5) その他の科目

人文科学科目、自然科学科目、数学・統計・情報処理科目、社会科学科目、政治学科目系列科目、演習・、体育科目など、その他の日吉設置科目を自分の関心や研究テーマとの関連から履修することはかまいません。

なお、三田・日吉の連続する時限の授業科目の履修は、移動時間が必要ですので、2・3限の場合以外認めません。また、日吉設置科目を履修した場合、三田と日吉の試験日が重複することもありますから、あらかじめ承知しておいてください（この場合、追加試験日程で受験することになります）。

### <三田設置科目を履修する場合の注意>

#### (1) 外国語科目

三田に設置される外国語科目はすべて「外国語科目選択」になりますので、日吉の「外国語科目必修」の単位数に振り替えることはできません。

英語：

「英語第」は週1回の授業で、春秋8コマ開講します。

ドイツ語：

「ドイツ語インテンシブ」は週4回の授業で、1コース開講します。週4回セットで履修してください。4月3日(月)10時から三田325-B番教室で選抜テストを行って履修者を決定します。新たに参加を希望する者は担当者（三瓶）に相談してください。

「ドイツ語速習」は初級1コース、中級1コースが開講されます。ドイツ語未習者を対象として、1年間で文献が読めるまでの力をつけることを目的とします。週1回ネイティブスピーカーの授業もあります。

「ドイツ語第」は週1回の授業で、春秋2コマ開講します。

フランス語：

「フランス語インテンシブ」は週4回の授業で、8コマのうち4つを選択して履修してください。

「フランス語第」は週1回の授業で、春秋3コマ開講します。

中国語：

「中国語インテンシブ」は週3回の授業で、1コース開講します。日吉からの3年連続コースですが、新たに参加を希望する者は代表担当者(安田)に相談してください。中・上級レベルの授業を希望する者は週1回の「文献講読」に参加してください。

スペイン語：

「スペイン語インテンシブ」は週6回の授業で、6コマのうち3つ以上を選択して履修してください。日吉からの連続コースですが、新たに参加を希望する者は担当者に相談してください。

「スペイン語第」は週1回の授業で、春秋1コマ開講します。

ロシア語：

「ロシア語インテンシブ」は週4回の授業で、1コース開講します。日吉からの3年連続コースですが、新たに参加を希望する者は担当者に相談してください。中・上級レベルの授業を希望する者は週1回の「文献講読」に参加してください。

朝鮮語：

「朝鮮語第」は週1回の授業で、春秋1コマ開講します。

イタリア語：

「イタリア語第」は週1回の授業で、春秋1コマ開講します。

ポルトガル語：

「ポルトガル語第(中級)」、「ポルトガル語第(上級)」は週1回の授業で、それぞれ春秋1コマ開講します。

ラテン語：

「ラテン語(中級)」は週1回の授業で、春秋1コマ開講します。

それぞれの語学のインテンシブコース、および「ドイツ語速習」は1年を通じて受講すること、週3ないし4回の授業をセットとして受講することを原則とします。ほかの授業と重なる場合は、担当者に相談してください。なお、セットで履修できない場合はインテンシブコースは自由科目となりますので注意してください。

## (2) 人文科学科目

三田設置の人文科学科目として人文科学研究会・・・が設置されます。これは人文科学分野の演習形式の授業ですので、履修者は少人数に制限されることになります。具体的な履修者の選考方法は研究会によって異なりますので、初回の授業に必ず出席してください。担当者が異なる場合は、同一科目名の履修も可能です。なお、担当者が同じ場合でも、人文科学研究会については「・・・」「・・・」を併設しましたので、第3学年でとを履修し、第4学年でとを履修してください。

## (3) 自然科学科目、数学・統計・情報処理科目

数学や情報処理科目など、科目の性質上、基礎的科目の履修済みが条件として要求されるもの、コンピュータの使用の関係で、履修者に制限のある科目もありますので、講義要綱や授業開始頃の掲示に注意してください。なお、情報処理科目には、法学部設置の科目とは別に、情報処理教育室開講の科目もありますので(本冊子260ページ以降を参照のこと)混同しないようにしてください。

## (4) 社会科学科目

社会科学科目の中で、経済政策、財政論、国際経済論のうちの1科目が必修です。3年生のうちに1科目以上を履修し終わることが望ましいでしょう。平成18年度は経済政策・財政論を各1コマ、国際経済論を5コマ(うち1クラスは集中講義)設置します。「国際経済論」は他学部では別の名前の授業科目ですが、法学部では同一科目名の授業科目となりますので、担当者が異なる場合でも同一科目を二つ以上履修することはできませんので注意してください。

## (5) 政治学科目系列科目

卒業までに「政治思想論系列」、「政治・社会論系列」、「日本政治論系列」、「地域研究論系列」、「国際政治論系列」の5系列の中から、各系列とも4単位以上、また文献講読・・・、研究会、演習・・・(2004年度以降入学者)も含めて合計40単位以上の履修が必要です。これにはもちろん、日吉で開講されている行政学・・・などの系列科目の単位も含まれます。

## (6) 文献講読・・・

文献講読は、大学院への進学や外国語の政治学文献の読解力を高めたい意欲ある学生のための科目です。

文献講読の履修にあたっては、担当者が適当と認める方法で受講者を制限する場合がありますので、講義要綱を十分に参照すると同時に授業開始頃の掲示にも注意し、初回の授業に必ず出席してください。

文献講読の授業への出席が全体の3分の2に満たない場合は、不合格とします。具体的な出欠の認定は担当者が最も適当と考える方法によって行います。

## (7) 研究会

研究会、いわゆるゼミは、第3・4学年に開講され、政治学科の専任教員が担当する系列科目です。

研究会は必修ではありませんが、その履修を途中で放棄することは、様々な意味で望ましくありません。2年間という長丁場での大学生活の中心となる授業科目です。

研究会の履修は一人1科目に限られます。また科目の性格から履修者数は限定されます。研究会の履修者の決定は、原則として、4月の初めの統一試験において行われます。

研究会は2単位として、学期毎に成績を取得することができます。2単位科目となりますが、同一担当者の研究会を、第3・4学年を通じて2年以上履修するという原則は変わりません。なお、研究会の入会のタイミングは第3学年の春学期からとなり、中途から研究

会を履修することはできません。

2006年度の研究会入会者選考の日程は次のとおりです。

第一次統一選考 4月3日(月)午後1時

第一次合格発表 4月4日(火)午前9時以降 西校舎地下2階掲示板にて

第二次選考以降 4月6日(木)午後1時以降

秋学期に三田に進級してくる学生で、研究会の入会を希望する場合は学事センターに問い合わせてください。

研究会の履修申告については、当該学年の分のみを毎年履修してください。研究会は秋学期分も、春学期に必ず履修申告をしてください。

法律学科、他学部の研究会を履修する場合、第3学年、第4学年のどちらか一方が「自主選択科目」として履修でき、残りの一方は「自由科目」になります。

#### (8) 特殊研究

集中学習科目として設置されている特殊研究は、特定の主題に関して受講者の積極的参加を前提として行われる、少人数制のセミナー形式の授業です。したがって、担当者が適当と認める方法で受講者数を制限する場合がありますので、講義要綱を十分に参照すると同時に授業開始頃の掲示にも注意し、初回の授業に必ず出席してください。なお同一担当者の特殊研究は、その名称のいかんにかかわらず、この2科目4単位までが卒業必要科目として履修できる上限です。それ以上履修を希望する場合は「自由科目」の扱いになります。

#### (9) 自主選択科目

三田に設置されている法律学科、他学部、およびメディア・コミュニケーション研究所、言語文化研究所(アラビア語と朝鮮語は外国語科目選択)、福澤研究センター、情報処理教育室開講の専門的授業科目、国際センター開講の科目の一部(222ページ参照)は、政治学科の自主選択科目として卒業単位にすることができます。4月初より学事センターに法律学科、他学部の設置科目で「自主選択科目」と認められる科目の一覧表を用意します。ただし、これらの科目の中には、直接政治学科の学生を対象に開講されている授業科目ではないために、様々な理由から履修が許可されないものもありますから、事前に各研究所その他諸機関に問い合わせるとともに、必ずその授業科目担当者の許可を口頭で得てから履修申告してください。なお、メディア・コミュニケーション研究所開講の研究会( )当該研究所研究生のみ対象科目の4単位を超える分は「自由科目」として履修してください。また同一科目で、学部によって名称のみが異なる科目を別科目として履修することはできません。

#### <履修全般についての注意>

(1) すでに(過年度)一度履修合格した授業科目は、たとえ担当者が変わった場合でも、自由科目として以外は再履修はできません。ただし、1) 担当者の異なる同一名称の特殊研究、2) 担当者の異なる人文科学研究会、3) 不合格となった授業科目の再履修についてはこの限りではありません。

なお履修済みの授業科目はたとえ名称が変わった場合でも再履修はできません。現在までのところ、名称変更があったのは次の科目です。

旧	新
現代朝鮮論	現代韓国朝鮮論
NGO・NPO論	NGO・NPO論
現代中近東論	現代中東論
現代中近東論	現代中東論
イスラム社会論	イスラーム社会論
イスラム社会論	イスラーム社会論
アメリカ政治史	現代アメリカ論
アメリカ政治史	アメリカ政治史
アメリカ政治史	アメリカ政治史

(2) 系列科目の一部の授業科目は二つの系列に属しています。たとえば「政治経済システム論」は、「政治・社会論系列」と「国際政治論系列」にそれぞれ属しています。したがって、履修申告の際、どちらの系列科目として履修するのかを決定し、いずれか一方の登録番号だけを登録することが必要です。申告後にそれを変更することはできません。

(3) 教職課程センター設置科目は、原則として教職課程申告者以外、履修できません。

(4) いくつかの授業科目では履修者数の制限を設けています。それらの科目については、講義要綱と掲示に注意することが重要です。受講者の選抜を行う科目は、「研究会」を除き原則として初回の授業時に行うことになっています。秋学期開講の科目も、同じく秋学期の初回授業日に選抜が行われます。不幸にして選抜に漏れた学生に対しては、同一時間帯の別科目の修正履修申告を秋学期に認めることになります。

#### < 不合格者、休学者、留学者に対する注意 >

進級後、2 学期間在学し、30 単位以上の授業科目に合格すれば上級学年に進級できます。しかし必修科目を取り残したまま上級学年に進級すると、4 年生までは進級できても、1 年では卒業ができない事態になりかねませんから注意してください。また、必修として履修した外国語科目それぞれの語種につき、いまだ取得していない単位が 4 単位を超える場合には 4 年に進級できません。

##### (1) 復活制度について

たとえば進級に 2 単位足りずに留年したとします。その次の学期に奮起して、その学期だけで 20 単位取得すると、そのうちの 2 単位を進級に不足していた単位にあて、残りの 18 単位は上級学年で取得した単位であるとみなすのがこの制度です。これを認めると、1 年半で（つまり半期の留年で）次の学年に進級できるだけでなく、同じ例を用いて説明すれば、進級直後の学期で 12 単位以上に合格すれば、その学年は半年で終了し、元の学年に返り咲くことができるわけです（ただしこのような半期進級が可能なのは、留年あけの次の学期のみです）。

##### (2) 進級不合格者の履修済みの単位（A・B・C の評語を得た授業科目）はすべて履修済みと認めます。

##### (3) 休学・留学は学期単位で認めます。ただし一度に認定できる期間の上限は 1 年（学期毎に 1 枚、計 2 枚の申請書が必要）ですので、それ以上の場合には新規の申請が必要です。休学（語学研修を含む）も留学も、しかるべき書類と会議体での承認が必要ですので、学事センターに問い合わせたうえで、学習指導の面接を受けてください。

#### < 留学について >

学則第 153 条により、在籍途中での留学が認められます。留学を希望する者は、同条項の他に、第 85 条、も併せて読むとともに、学習指導の面接を受けてください。研究会履修者は、必ず研究会担当者とも十分相談してください。留学した場合には、卒業・進級に必要な条件に関して、留学先での科目履修にもとづく単位の認定などに関して特別な措置が講じられます。

#### < 定期試験期間中の試験についての注意 >

##### (1) 追加試験

追加試験は、履修申告を行った授業科目で、病気その他「やむを得ない理由」のために定期試験を受けられなかった授業科目について施行します（受験料 = 1 科目につき 2,000 円）。

語学、人文科学研究会、文献講読、研究会、特殊研究等の平常点の要素が多い科目やレポート採点に替える科目、定期試験期間以外で試験を行う科目は追加試験を行いません。

受験を希望する者は、追加試験申込用紙（用紙は学事センターで交付）に、その理由を明らかにする診断書等の文書を添えて、指定する期日までに学事センター窓口で申し込んでください。詳細は定期試験時間割発表時に掲示します。

追加試験による成績評語は、定期試験の場合のその一段階下の評語となります。ただし、公務員試験・司法試験のような国家試験の受験を理由とした場合、文部科学省が指定する学校伝染病にかかり、出席停止期間が明示された診断書を用意した場合、一親等の忌事の場合はこの限りではありません。

##### (2) 試験時間の重複により定期試験を受験できなかった授業科目の試験

三田と日吉の試験時間が重複したために定期試験期間中に受験できなかった授業科目の試験は、追加試験期間中に行います。

この場合の受験は、追加試験扱いではなく、定期試験扱い（一段階下の評語にはなりません）となります。

この場合の受験も、追加試験申込用紙を用い、追加試験受験の場合と同じ手続きで申し込んでください（受験料不要）。

##### (3) 試験日程は、春学期は 8 月 3・4 日（三田）、秋学期は 2 月下旬の予定です。

##### (4) 試験における不正行為

定期試験（レポートを含む）において不正行為（答案の持ち帰りも不正行為です）があった場合は、当該科目を不合格とし、当該学期に履修合格した他の全科目について減点します。追加試験の場合も同様です。なお、事情によっては退学・停学の処分も行われますので厳正な態度を持って受験してください。

#### < 退学について >

学則第 156 条の規定により、第 3 学年・第 4 学年に併せて 4 年間在学し、なお卒業できない場合、退学させられます。

なお、休学期間は在学年数に算入しません（休学願の届け出については 5 ページを参照してください）。

#### < 自主留年について >

4 年生が卒業単位を満たした上、公務員試験等の公的試験を理由にさらに翌年度 1 年間の在学を希望する場合は、これを認めることがあります。在学を希望する者は、定められた日時までに本人・保証人連署の誓約書を添えて願い出、学習指導の面接を受けなければなりません。日程は 12 月上旬に掲示します。自主留年を許可された年度においては、次の条件が課せられます。

在学を許可された年度は、1 年間在籍しなければなりません。途中で籍を離れる場合は、退学となります。

在学を許可された年度には、自由科目を除き政治学科目（必修を除く）を 1 科目以上履修し、合格しなくてはなりません。最低 1 科目に合格しない場合、卒業不合格となり、当該年度の卒業はできないこととなります。

なお、9 月卒業予定者のみ、理由を公的試験に限らず半年間の自主留年を認めることがあります。日程は 5 月上旬に掲示します。内容詳細については学事センター法学部係に問い合わせてください。

<クラス担任>

クラス担任は学問上の研究指導を行うと同時に、学生生活全般にわたって相談にのり助言を与えることになっています。政治学科では、研究会担当者がクラス担任となります。研究会に所属していない者のクラス担任は、次のとおりです。

A ~ J組 ..... 玉井 清

K ~ T組 ..... 高橋 伸夫

政治学科の学習指導は次のとおりです。

教授 玉井 清

教授 高橋 伸夫

学習指導の面会は原則として授業期間内の金曜日昼休みに、三田研究室棟1階の教員談話室で行います。面会希望者は前々日水曜日午後4時までに学事センター法学部係へ申し込んでください。なお、三田祭期間中は行いません。

# 履修申告のしかた

## 1. 履修申告について

### (1) 申告方法について

原則、『Web』による申告とします(なお、事情により、履修申告用紙での申告を希望する者は学事センター窓口(4月10日(月)・11日(火)の両日に限り)に取りにきてください)。ただし、Webによる申告と履修申告用紙による申告を併用することはできませんので必ずどちらか一方で申告してください。

Webによる申告を行うと、即時にエラーチェックおよび進級・卒業の学則判定が行われます。エラーのある場合のみメッセージが表示されます(ただし、最終的な履修科目およびエラー等の確認は、自宅宛に送付する履修確認表で行ってください)。また、用紙の場合と異なり、誤登録・申告漏れ等によって希望どおりに申告できないという事態も軽減されます。

### (2) Webによる申告

Web申告期間 4月14日(金) 8:30 ~ 4月15日(土) 15:00、17日(月) 8:30 ~ 15:00

p.14 ~ の 学事 Web システムの利用方法 (1) 履修の申告を参照してください。

### (3) 履修申告用紙による申告

履修申告用紙提出日(場所:学事センター前受付ボックス)

第3・4学年 4月14日(金) 8:45 ~ 16:45

### (4) 申告上の注意

申告にあたっては、2005年度の学業成績表を保証人宛に送付してありますので、各自保証人からそれを受け取り、取得した科目を確認し、「政治学科学習指導要項」、「履修申告のしかた」(本項)を熟読して申告してください。

申告後は、履修科目の変更・追加・取り消しを認めません(2001年度以降入学者は39ページ参照)。また、閲覧・照会にも応じません。Webによる申告をした場合は登録科目一覧画面を印刷、もしくはファイルで保存、履修申告用紙の場合はコピーをとり、時間割とともに控えとして保管してください。期日までに申告しない場合は、原則として修学の意志がないものとして退学処分になります(学則第188条)。

(5) 履修に関する疑問点、その他については申告以前に、学習指導または学事センター法学部係に問い合わせてください。

(6) 履修確認表(履修申告した授業科目のリスト)は5月上旬本人住所宛に送付します。確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。この確認を怠ったために生じた問題については、自己責任となります。確認期間は送付後約一週間(詳しくは掲示により指示します)とし、この期間を経過した後は確認が終了したものとみなします。

(7) 時間割は変更することがありますので、西校舎掲示板で変更の有無を確認のうえ申告してください。

(8) 申告していない授業科目を受験しても一切無効ですので、単位は取得できません。

## 2. 履修申告用紙(マークシート用紙)の記入方法等について

### (1) 学籍等の記入方法

学部、学科、学年、組、氏名、学籍番号および提出日を記入してください(修士・博士の欄は記入の必要はありません)。学籍番号は数字で記入するとともに、該当する数字をマークしてください。

### (2) 履修科目の記入方法

記入にあたっては、科目名、教員名と登録番号(5桁)に十分注意しHBもしくはBの鉛筆でマークしてください。

複数の教員が担当する科目は、時間割上段に記載されている教員名を記入してください。

1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。

集中講義、実験をとまなう科目等で複数の曜日・時限にわたって開講している授業科目についても、必ず登録番号は1か所のみ付いていますので、その登録番号をマークすることで、他の時限についても登録されます。この場合、番号の付いていない曜日・時限に別の科目を登録することはできませんので注意してください。

形態欄は、その科目の形態(春(春学期集中も含む)・秋(秋学期集中も含む)・通年)を で囲み、曜日・時限を記入してください。

「無効マーク」にマークすると、その枠内について「無効」にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することもできますが、跡が残ったり、黒くこすれたりした場合は、この「無効マーク」を利用してください。

履修申告欄は[A]、[B]欄によって構成されています。どちらの欄に記入するかは次ページのとおりで。ただし、同一科目を[A]欄および[B]欄の両方に記入する必要はありません。

A・B欄に記入する授業科目

科目の種類	記入欄	分野の扱い	B欄分野	備考
政治学科設置科目 (日吉・三田とも) *開講科目表の分野どおり履修する場合	A欄	開講科目表どおり		
外国語インテンシブをセット履修できない場合	B欄	自由科目	99	
法律学科・他学部の科目	B欄	大半は自主選択科目 (学事センターにて「一覧表」で確認)	77	履修申告前に必ず授業担当者の許可を得てください。
他学部設置の外国語科目	B欄	外国語科目選択	01～16	各語種のB欄分野は次ページ参照。開講科目は「全学部共通外国語履修案内」参照。
外国語教育研究センター設置科目	B欄	外国語科目選択	01～16	各語種のB欄分野は次ページ参照。受講申込方法については217ページ参照。
言語文化研究所設置科目	B欄	外国語科目選択または自主選択科目	朝鮮語 ..... 10 アラビア語 ..... 15 その他 自主選択科目... 77	
メディア・コミュニケーション研究所設置科目	B欄	原則として自主選択科目	77	例外...研究会(～)の4単位を超えた分は自由科目(B欄99)
国際センター設置科目 <sup>1)</sup>	B欄	自主選択科目または自由科目	自主選択科目 ..... 77 自由科目 ..... 99	分野の扱いについては、222ページ参照。
教職課程センター設置科目	B欄	(教職課程設置)自由科目	95	履修上限には含まれません。教職課程登録者のみ履修可能。
情報処理教育室設置科目	B欄	自主選択科目	77	受講申込方法については260ページ参照。
知的資産センター設置科目	B欄	自由科目	99	
体育科目	B欄	体育科目	講義系 81, 実技系 82	履修申告方法については206ページ参照。
保健管理センター設置科目	B欄	自主選択科目	77	
教養研究センター設置科目	B欄	自主選択科目	77	
福澤研究センター設置科目	B欄	自主選択科目	77	
外国語学校設置科目	B欄	自由科目	99	入学手続が必要。181ページ参照。
その他, 自由科目として履修する場合	B欄	自由科目	99	

注<sup>1)</sup> 他学部の科目との併設科目については、国際センター設置科目の時間割、登録番号ではなく、設置学部の時間割、登録番号を使用すること(223ページ表の「履修取扱い」欄参照)。

**B**欄記入上の注意事項

分野欄：政治学科が定める分野を<B欄分野表>に従って2桁の数字を記入しマークしてください。

(3) 履修申告用紙の再交付について

履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は、なるべく「無効マーク」を使用して無効にした上で別の記入欄に正しい科目を登録してください。それでも訂正し切れない場合は交換しますので、その履修申告用紙を持参の上、学事センター窓口に出してください。

交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センター窓口に出してください。そして、複数枚の申込用紙を提出する時には、申告用紙左上の欄(枚目/枚中)を記入してください。

3. 修正申告について

修正期間はあくまでも「修正」の期間ですので「変更・追加・取り消し」は一切認められません。

登録科目に誤りがあり、追加・削除をする場合は、修正申告用の履修申告用紙を使用してください。修正申告用の履修申告用紙は、修正申告の際に学事センターで配付します。

< B 欄分野表 >

B 欄分野	意味する分野番号と科目区分			
01	01 - 20 - 01	外国語科目	選択	英語
02	01 - 20 - 02	"	"	ドイツ語
03	01 - 20 - 03	"	"	フランス語
04	01 - 20 - 04	"	"	中国語
05	01 - 20 - 05	"	"	スペイン語
06	01 - 20 - 06	"	"	ロシア語
10	01 - 20 - 10	"	"	朝鮮語
11	01 - 20 - 11	"	"	ラテン語
12	01 - 20 - 12	"	"	ギリシャ語
14	01 - 20 - 14	"	"	ポルトガル語
15	01 - 20 - 15	"	"	アラビア語
16	01 - 20 - 16	"	"	イタリア語
31	03 - 20 - 01	自然科学科目	選択	
81	08 - 20 - 01	体育科目	選択	講義系
82	08 - 20 - 02	"	"	実技系
77	09 - 20 - 01	自主選択科目	選択	
99	10 - 30 - 01	自由科目	自由	
95	11 - 30 - 01	(教職課程設置) 自由科目	自由	

# 講義要綱・シラバス

講義の内容とその順番は授業の展開等に応じて変更されることもあります。

またその他の項目についても変更されることがあります。

## 系列・系列外科目

A 系列	49
B 系列	51
C 系列	51
D 系列	52
E 系列	55
F 系列	56
研究会（3年）	66
研究会（4年）	75
系列外	82

## 系列・系列外科目

文献講読	101
政治思想論	102
政治・社会論	106
日本政治論	113
地域研究論	121
国際政治論	131
研究会（3年）	137
研究会（4年）	142

## 社会科学科目

選択 法学系列	147
選択必修 経済学・商学系列	149
選択 経済学・商学系列	152

## 法律学科・政治学科設置 共通科目

外国語科目	157
人文科学科目	168
自然科学科目	173
数学・統計・情報処理科目	175

## 〔系列・系列外科目〕

## 〔A系列〕

法 理 学 (春学期集中)

現代正義論の諸問題

講 師 石 山 文 彦

授業科目の内容:

法理学として論じられるテーマは多岐にわたる(その概要については授業の冒頭で簡単に触れる)が、授業では主題を正義論に絞ることとする。正義論は、法の目的あるいは法の目指すべき理念・理想を追究するものであり、法理学の基本問題として最も古くから論じられてきた。授業では、特に現代の正義論のテーマとして、どのような正義原理が個人の自由を完全な形で保障するのか、福祉国家的再配分と自由は両立するのか、またそもそもなぜ個人の自由が尊重されねばならないのか、などの問いを取り上げ、それらに対して、功利主義、平等主義的自由主義、自由尊重主義、共同体主義、フェミニズムから出された回答を紹介し、その長短を検討する。さらに、近年活発になりつつある多文化主義の主張を取り上げ、その分析を行う。

テキスト:

指定しない。

参考書:

- 講義全般に関わるものを以下に掲げる。詳細は、授業中に指示する。
- ・長谷川晃・角田猛之(編著)『ブリッジブック法哲学』(信山社, 2004)
  - ・平井亮輔(編著)『正義』(嵯峨野書院, 2004)
  - ・川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社, 1985)
  - ・W・キムリッカ『現代政治理論』(日本経済評論社, 2002)

国 際 法

教 授 明 石 欽 司

授業科目の内容:

現在の国際法学体系中の基本的事項全般(ただし、国際責任法・国際人道法・紛争解決は除く。)についての講義を行います。

テキスト:

特に指定しませんが、次の概説書を推薦します。栗林忠男『現代国際法』(慶應義塾大学出版会, 1999年)

参考書:

大沼保昭(編集代表)『国際条約集』(2006年版)(有斐閣, 2006年)

外 国 法 (英米)

教 授 西 川 理 恵 子

授業科目の内容:

世界に存在する法体系を大きく分類したとき、わが国の法体系である大陸法と異なる体系として存在するのがいわゆるコモンロー体系である。この体系をとる国家は、アメリカ合衆国をはじめとして、イギリス、カナダ、オーストラリアなど、日本と関係の深い国家が多い。本稿では、コモンローシステムがどのように、成立し、どのようにわが国と異なっているかを考える。わが国の法と異なる体系について考えることにより、法に対する認識、理解を深めることができればと思っている。

テキスト:

特に指定しないが、参考書の内、履修者の気に入ったものを読むことはすすめる。

参考書:

- ・ジュリスト英米法百選、英米法総論(田中英夫)
- ・アメリカ法入門、英米法(現代法学全集)等

外 国 法 (独)

専任講師 フィリップ、オステン

授業科目の内容:

ドイツ法の全体像を理解してもらえようような講義にすることに力を注ぎたい。

テキスト:

毎回、講義資料プリント(レジュメ等)を配布することにする。

参考書:

参考文献については講義のなかで必要に応じて紹介することにする。概説書としては、村上淳一=守矢健一/ハンス・ペーター・マルチュケ『ドイツ法入門・改訂第6版』(有斐閣, 2005年)がある。

外 国 法 (仏)

フランス法の基礎的諸制度および諸理論とその歴史

講 師 上 井 長 久

授業科目の内容:

フランス法の根幹をなす諸制度および諸理論とそれらの理解に必要な歴史について講義します。本講は、フランス私法および公法の基底を理解することを目的として、私法および公法の序論と歴史について原典資料(法文、判例、学説等)により理解しようとするものです。フランス法は、わが国の母法の一つとして重要であるばかりか、フランス革命により近代国家が樹立され、いち早く成文の憲法および諸実定法を持つ法典国として経験が豊富であり、法の宝庫として重要です。

テキスト:

講義資料プリント「Introduction au droit privé」「Introduction au droit public」「Histoire du droit privé」などを配布します。

参考書:

- ・山口俊夫『概説フランス法 上』(東大出版会)
- ・滝沢 正『フランス法』(三省堂)

外 国 法 (中)

現代中国法概説

講 師 黄 清 溪

授業科目の内容:

社会主義国家を堅持しながら、改革開放を推進し、市場経済制度を大胆に採り入れる。そのような中国において、いかなる法制度が展開されているか、民法と会社法を重点において見つめていきたいと思えます。前半は近代中国法の形成に関する、歴史、沿革、社会背景などについて講義をしたのち、後半は輪読の方式で実際の規定条文を理解していく予定です。履修者諸君には、現代中国法体系に関する基礎的理解が得られることが本講義の目標です。

テキスト:

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書:

特に指定しません。

外 国 法 (EU)

EU法の基礎理論と域内市場法を中心に

法務研究科 教授 庄 司 克 宏

授業科目の内容:

欧州連合(EU)法の中核をなす欧州共同体(EU)法に関する基本的知識の習得を目的とする。第1に組織法(EU諸機関、立法手続、行政制度、司法制度)、第2に国内法との関係(直接効果、優越性、EC法上の権利の国内的救済)、第3に実体法としての域内市場法(物・人・サービス・資本の自由移動、競争法)、およびWTO法との関係について講義を行う。また、欧州憲法条約、性差別の禁止を含む基本的人権の保護、環境法、民事司法協力を含む司法内務協力などについても時間の許す範囲で取り上げる。

テキスト:

- ・庄司克宏『EU法 基礎編』岩波書店, 2003年(春学期使用)
- ・庄司克宏『EU法 政策編』岩波書店, 2003年(秋学期使用)

参考書:

授業中に情報提供する。

## 〔 B 系列 〕

## 民法

債権総論

教授 池田 真 朗

## 授業科目の内容：

民法中債権総論の全範囲を講義する。債権総論は、金融実務等で大変重要な分野であるが、保証等、市民の日常生活における必須の知識も含む。また理論的にも非常に奥の深い内容を持っている。日吉での民法 ~ の履修でカリキュラム上は民法系列を充足している諸君も多いと思うが、民法学習の実質を達成するためには是非この民法 も履修していただきたい。

## テキスト：

野村・池田他『民法 債権総論』〔第2版補訂2版〕(有斐閣Sシリーズ)

## 参考書：

- ・池田真朗『スタートライン債権法(第4版)』(日本評論社)
- ・奥田・池田他『判例講義民法 債権』(悠々社)
- ・山田・池田他『分析と展開民法 債権』〔第3版〕(弘文堂)
- ・池田真朗編『新しい民法 現代語化の経緯と解説』(有斐閣ジュリストブックス)

## 民法

家族法

教授 犬伏 由子

## 授業科目の内容：

民法(親族編・相続編)を対象とします。この部分は家族法と呼ばれていますが、家族に関しては、意識や行動、価値観の大きな変化が見られます。講義では、現代社会における家族の変化も踏えて、家族法の基本的枠組や諸課題について、考察して行きます。

## テキスト：

- ・遠藤浩編「民法(8)親族(第4版増補補訂版)」有斐閣
- ・遠藤浩編「民法(9)相続(第4版増補版)」有斐閣

## 参考書：

久貴忠彦他編「家族法判例百選(6版)」有斐閣

## 〔 C 系列 〕

## 刑法

刑法総論における解釈論上の論点の解明

講師 川 端 博

## 授業科目の内容：

刑法総論は難解であるとして敬遠されがちですが、それは誤解に基づいています。たしかに、緻密な解釈論が展開されていますので、一見しますと、非常に分かりにくく感じられることと思われます。しかし、解釈論のルールが理解できると、実にスムーズにマスターできる科目なのです。私たちにとって「犯罪」は身近な出来事であり、それについて刑法的に把握するわけですから、興味深く学べるはず。論点の由来と背景を説明した上で学説・判例を検討し、その実体を把握できるように講述して、刑法解釈論の実力をつけさせるのが本講義の目標です。

## テキスト：

川端博著「刑法総論講義」(成文堂、1995年)

## 参考書：

- ・川端博著「論点講義刑法総論」(弘文堂、2002年)
- ・川端博著「レクチャー刑法総論」(法学書院、2003年)

## 刑事訴訟法

教授 安 富 潔

## 授業科目の内容：

刑事訴訟法は、刑法を具体的に実現する手続法です。つまり、抽象的に刑法に定められた犯罪と刑罰を、個々の事件に具体的にあてはめて、どの

ような犯罪事実が誰によって行われたかを明らかにし、その犯人に対して適切な刑罰を科す手続を定めた法律が刑事訴訟法というわけです。

今日の社会における刑事訴訟法で求められているのは、国家の権限行使が個人の自由を不当に侵害することのないように配慮することといっただいでしょう。そこで、個人の基本的人権と自由の保障を確保することが重要な意義を有することになります。刑事裁判もそうした理念のもとに運用されることが大切です。

自由で豊かな社会を目ざし、秩序と平穏を伴った社会を築いてゆくうえで、ふさわしい刑事訴訟の理想を実現するために、どのような基本原理が妥当し、その原理にしたがって法的規律がなされるべきかを考えてみたいと思います。

講義では、捜査から裁判にいたるまで、その流れにしたがって、第一審の刑事手続を概説し、あわせて重要な論点について詳説し、実務的な話題を折り込んでみなさんが考える素材を提供したいと思います。

## テキスト：

安富潔『やさしい刑事訴訟法』(法学書院)

## 参考書：

安富潔『演習講義・刑事訴訟法』(第二版)(法学書院)

## 刑事政策

刑事司法制度論・犯罪者処遇論・犯罪予防論・被害者学

教授 太田 達也

## 授業科目の内容：

刑事司法制度、犯罪者処遇制度、犯罪予防論、被害者学の概要を講義する。刑事司法制度を政策学的観点から正しく理解し、刑事政策と被害者支援の実務や政策立案に必要な基礎的思考・分析能力を養うことが目的である。

## テキスト：

法務総合研究所『平成17年版犯罪白書』

## 参考書：

その他の参考資料は講義の内容に応じて紹介する。

## 〔 D 系列 〕

## 商 法 (A~J)(春学期集中)

会社法

教授 宮 島 司

## 授業科目の内容：

会社法に関する一般講義を行う。2005年に成立し、本年より施行される新会社法が対象である。従来の会社法とは形式も実質も大きく異なるものであり、その解説と解釈論的な検討を行う。

## テキスト：

宮島司『新会社法エッセンス』(2005年)弘文堂

## 参考書：

必要があれば、その都度指示する。

## 商 法 (K~T)(春学期集中)

会社法

教授 山 本 爲三郎

## 授業科目の内容：

会社法に関する一般講義。全体を通して少くとも卒業論文程度のレベルでの講義にしたいと思います。会社法は取り上げるべき論点が多岐にわたるだけでなく、さらに、近年の度重なる改正(5月には新「会社法」が施行され、それに伴い「会社法施行規則」も春に制定される予定です)により制度が多様化しています。そのために、受講者の予習を前提とし、効率的に講義を進めたいと考えています。

## テキスト：

山本爲三郎『会社法の考え方 第5版』(八千代出版、2005年)

商法 (A~J)(秋学期集中)  
手形法・小切手法(有価証券法理)

教授 加藤 修

授業科目の内容:

手形法・小切手法総論(Allgemeiner Teil)と手形法・小切手法各論(Besonderer Teil)の二部門により構成される。

総論においては、手形・小切手の意義、手形・小切手の経済的機能、有価証券としての手形・小切手と有価証券の意義、手形行為(手形行為の意義・手形行為の解釈・手形行為の独立性)、手形理論(契約説・単独行為説・二段階説)、手形行為と法律行為の一般原則、手形能力、手形上の意思表示、他人による手形行為(手形行為の代理・手形の偽造・手形の変造)、手形と実質関係(手形予約・対価関係・手形の書換)の諸項目が講義される。

各論においては、振出(振出の性質・手形要件・白地手形)、裏書(譲渡裏書・譲渡裏書の効力・善意取得・特殊の裏書)、引受、保証、支払、手形・小切手の権利の消滅(時効・利得償還請求権)の各項目が講義される。

本講義においては、手形(約束手形・為替手形)と小切手の意義につき説明した後に、手形(約束手形・為替手形)と小切手がどのようにして成立し、どのようにしてその役割をはたして、結末をむかえるかということが説明される。手形(約束手形・為替手形)と小切手が、それぞれの満期において支払われれば、手形関係者は満足を得て、円満のうちに法律関係終了ということになるけれども、もし満期において支払がなされなければ、手形法・小切手法において対処方法が規定されているので、その点についても説明される。

本講義は、手形法と小切手法をその対象としているけれども、最終的には、有価証券法理の理解を目的とする。手形(約束手形・為替手形)と小切手は、典型的な有価証券である。そのほかにも、株券、債券、貨物引換証、船荷証券、倉庫証券なども有価証券とされている。現在の国民経済において、資金・資本の調達、それらの流動化、資金・資本の払戻あるいは支払につき、有価証券という道具を利用して処理をすることが大々的に行われている。その意味において、現在の市場経済資本主義は、有価証券資本主義ともいわれている。本講義において、手形法と小切手法の基本法理を理解することにより、市場経済資本主義の基本の一つを構成する有価証券法理の根本を理解することが期待される。

テキスト:

宮島司「やさしい手形法・小切手法」(第2版)法学書院(2003年(平成15年))

参考書:

倉澤康一郎「手形判例の基礎 リーディングケースによる手形法入門」日本評論社(1990年(平成2年初版))

商法 (K~T)(秋学期集中)

手形・小切手法講義

教授 鈴木 千佳子

授業科目の内容:

手形法・小切手法について講義する。有価証券としての手形・小切手の特質を踏まえ、約束手形に関する法制度を中心に問題点を整理する。手形・小切手は学生にとってはイメージを持ちにくい難しい分野と考えられているようであるが、取引の安全の保護などに代表される、最も商法的な考え方が適合するものであって興味深く、勉強するだけ理解は深まってゆくはずなので、積極的に履修することを勧める。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

授業中に指示する。

商法

商法総則・商行為講義

教授 鈴木 千佳子

授業科目の内容:

商法総則・商行為法の講義をおこなう。商法が民法の特別法であ

ることは既に学んでいるとおもうが、商法の総論をまず検討することで、商法とはなにかについて学んだ後、商人・商行為という基礎概念を通じて商法の枠組みを理解してもらいたい。また民法に対する特則になっている部分に関しては、民法との関連性も重要であるから、民法についての詳しく言及し、その相違と理由についても考えてゆきたい。

テキスト:

特に指定しないが、レジュメを生協において販売する(春・秋学期各1回)。

参考書:

授業中に指示する。

民事訴訟法

民事訴訟法のうちの判決手続に関する講義科目

教授 三木 浩一

授業科目の内容:

民事訴訟法(判決手続)について、訴えの提起から判決による訴訟の終了までを取り上げ、民事訴訟の基本原則と基礎的な知識の習得を目標とする。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

- ・伊藤真「民事訴訟法〔第3版補訂版〕」(有斐閣)
- ・新堂幸司「新民事訴訟法〔第2版〕」(弘文堂)
- ・高橋宏志「重点講義民事訴訟法〔上・下〕」(有斐閣)
- ・民事訴訟法判例百選〔第3版〕」(有斐閣)

〔E系列〕

行政法

行政法総論

専任講師 青木 淳一

授業科目の内容:

国や地方公共団体が当事者として登場する法律問題を考察対象とするのが、行政法である。我われの日常生活を見渡せば、実に多種多様な行政活動が関わっていることが容易にわかるだろう。大学入学時に提出する住民票は市町村が管理しているし、自動車を運転するには免許が必要であるし、通学に利用する鉄道の運賃は国の認可を受けたものである。

行政法は「行政組織法」、「行政作用法」、「行政救済法」の三本柱をもって体系を構成している。本講義は、「行政作用法」のうち、さまざまな行政活動に共通して適用される一般的・抽象的な統制原理と、それら行政活動の各々の行為形式に特徴的な、固有の仕組みや法的問題を検討する「行政作用法総論」(通常はこれを「行政法総論」と呼ぶ)について、講義するものである(なお、「行政法総論」で展開される一般抽象理論を個々の行政活動領域において、現実の個別具体的事象に即して詳細に論じるものが「行政(作用)法各論」であり、「教育(行政)法」、「経済行政法」のほか、「環境法」、「社会保障法」などもこれに含むことができる)。

テキスト:

- ・大橋洋一『行政法 現代行政過程論〔第2版〕』(有斐閣, 2004年)
- ・大橋洋一・斎藤誠・山本隆司『行政法判例集』(有斐閣, 2003年)
- ・『六法』(いずれの出版社のものでも良いが、最新年版(平成18年版)を用いること。なお、行政法を学習するためには、少くとも『小六法』(有斐閣)クラスのもの望ましい)

参考書:

学習上有益な教科書、体系書、判例集等については、開講時に文献案内を行う。

行政法

行政救済法

教授 藤原 淳一郎

授業科目の内容:

行政法のうち、本講義は救済法を取扱う。初回講義の際に、行政

## 法律

法学の鳥観図, 担当者の教育理念(法学研究 72 巻 12 号 53 頁), 講義の進め方, 参考文献, 成績評価方法, 成績異議申立手続等記載の講義手引きを配付し説明する(恒例)。冒頭 10 分程度の「週刊時事事例研究」, OHP シートを用いての講義, 受講者に発言機会が与えられることが, 本講義の特徴である。

テキスト:

初学者にはやや難解ではあるが, 塩野宏『行政法』(第四版, 有斐閣, 2005 年)

参考書:

芝池義一『行政救済法講義』(有斐閣), 『行政判例百選』・第五版』(近刊)

### 労働法

企業と労働者(サラリーマン)をめぐる法的問題を分析する  
助教授 内藤 恵

授業科目の内容:

労働法とは, 賃金を得て生活する者(これを労働者と称します。)と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して, 労働市場法, 個別的労働関係法, そして集団的労使関係法に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし, 春学期および秋学期の初めを使って, 特に労働者と使用者の間に締結された労働契約の始期からそれが終了する原因に至るまでを講義します。この二つの法主体間の関係を, 個別的労働関係と呼びます。内容としては, 下記授業計画の第二章から第十一章がそれに当たります。

続いて, 労働法と社会保障法の間位置する労働災害補償の問題を講義(第十二章)し, 更に労働者・使用者・労働組合の三者間の法的関係を解釈する, 集団的労使関係の領域を講じます。内容としては, 第十三章から第十八章がそれに当たります。

講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら, 出来れば話題となった新しいテーマや法改正についても, 随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト:

毎回 Web に講義資料プリントをアップロードします。(2006 年 4 月, 初学者向けテキスト出版予定)

ただし法学部のホームページの特性からパスワードの設定が出来ないので, URL は初回講義の中でお話します。講義には, 六法と判例百選を必ず携行してください。

別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第 7 版〕(有斐閣 2002)

参考書:

初心者向けの参考書として,

- ・野川忍・野田進・和田肇『労働法の世界(第 6 版)』(有斐閣, 2005)
- ・西村健一郎・安枝英紳『労働法(第 8 版)』(有斐閣プリマシリーズ, 2004)
- ・良く書き込まれた概説書に, 菅野和夫『労働法(第 7 版)』(弘文堂, 2005)

### 経済法(春学期集中)

教授 田村 次朗

授業科目の内容:

本講義は, 資本主義経済体制を支える経済法を取り上げる。特に, 市場経済における, 競争メカニズムに密接に関連している独占禁止法(競争法)の現状と課題を法的視点から分析する。今日, 経済活動では, 企業(事業者)の法令遵守(コンプライアンス)が強く求められているが, この独占禁止法をはじめとする経済法は, 企業行動に対する適切な法規制という意味できわめて重要であり, 講義に際しては, この点についても様々な視点から取り上げることとする。

テキスト:

- ・金井貴嗣他編『独占禁止法』(弘文堂 2004)
- ・『独禁法審決・判例百選(第 6 版)』別冊ジュリスト(2002)

参考書:

白石忠志『経済法教材 2005』(商事法務 2005)

## [ F 系列 ]

### 憲法演習

立法に関する総合的な考察と最新の憲法問題の検討

講師 川崎 政司

授業科目の内容:

本演習は, 基本的に 2 つの柱によって構成をする。1 つは, 統治の作用, その中でも特に法実現において重要な地位を占めている「立法」について取り上げ, その意義, 実態, あり方等に関し, 総合的に分析・検討を行うことである。もう 1 つは, 最近の立法, 政治課題, 判例等を題材に, 最新の憲法問題について考察を加え, 法制度設計も含めその法的な解決について検討を行うことである。それらを通じて, 学生諸君にとってあまりなじみのない立法に関する理解・知識を深めるとともに, 憲法の動態等について学んでもらい, あわせて, 近年とみにその重要性が指摘されている, 法制度・法政策の設計・評価に当たっての視点や法的思考能力の養成といったことにも取り組んでいきたいと考えている。

テキスト:

授業のつどレジュメを配布する。

参考書:

特に指定はしないが, 適宜, 参考文献等を紹介する。

### 憲法演習

講師 山岡 永知

授業科目の内容:

憲法演習の授業はアメリカ合衆国憲法を中心に講義し, アメリカ合衆国最高裁判所の憲法判例を研究しながら, 日本国憲法や憲法判例と比較し, 憲法解釈に関する知識を深める。

テキスト:

別冊ジュリスト No.139 「英米判例百選」(有斐閣)

参考書:

- ・「アメリカ法 総論」山岡著(敬文堂)
- ・「対訳 アメリカ合衆国憲法」北脇・山岡共訳(国際書院)

### 憲法演習

憲法を身近に考えよう

講師 向井 久了

授業科目の内容:

「クローン人間の開発を目的とした研究」など現実に生じる様々な憲法問題を生きた素材としてアップ・ツー・デートにとりあげ, 憲法の論理とその動態を検討したいと考えています。

憲法を主権者として主体的に考えるよすがとなれば, と念じております。

テキスト:

向井久了「憲法問題の考え方」法学書院 2001 年

参考書:

- ・向井久了「やさしい憲法(第 3 版)」法学書院 2005 年
- ・向井久了「憲法の情景 課題とその歩み」法学書院 2004 年

### 民法演習

事例問題検討による分析力養成

講師 秋山 知文

授業科目の内容:

指定テキスト記載の事例を素材として, 民法の財産法の分野で重要な論点を網羅的にとりあげて検討する。

授業は質疑応答形式で進める。

秋学期の後半から論文式試験問題等も検討する予定である。

六法は毎回必ず持参されたい。

テキスト:

- ・内田貴著 東京大学出版会 民法
- ・六法(種類は問いません)

参考書:

特に指定はしません。

## 民法演習

民法の債権法に関する基本的事項につき、より深い、かつ、各制度を関連づけた幅広い理解を得る。特に、法曹実務家（国際取引担当）としての立場から、実務と民法理論の架橋 実務的観点から民法理論を解明する を試み、受講生の興味・知的関心を喚起し、民法理解の一助とする。

講師 笠原 英美子

## 授業科目の内容：

債権総論および債権各論を中心に行うが、まず、民法第3編債権の体系を確認し、債権総論の入門編として、債権とは何か、債権の目的、債権の成立要件（契約締結上の過失も含む）、債権の効力につき、その概略を説明したのち、契約総論・各論に移行し、主に設例（過去の判例や司法試験論文試験などを参考にしたもの）を用いて、契約の成立、契約の効力（同時履行の抗弁権、危険負担など）、契約の解除（債務不履行の詳細を含む）、有償契約に適用される売買の売主の各種担保責任の事例等につき、講義・検討する。

その後、債権総論の分野に戻り、近時、金融実務において重要な制度となっている債権譲渡については、その意義、基本的な對抗要件の説明に加え、債権の流動化・証券化等も講義・検討の範囲に含める。また、相殺制度・責任財産の保全・保証については、判例を中心に検討する。

売買契約以外の典型契約に関しては、説例中に含ませるなどして、重要な契約については、検討する予定である。

また、国際取引を含めた日々の法曹実務にとって、民法のどのような知識や考え方が必要とされているのか、現代的・時代的問題（ファンド等）を含めて、担当者が手がけた実務上の具体的なケースや事例を示しながら、帰納的に民法理論・知識をわかりやすく解説する。

テキスト：

特になし（ただし、六法全書は必携のこと。）必要に応じ、適宜、講義資料を配布する。

参考書：

特になし（ただし、内田貴著 民法 ， があればベター。）

## 民法演習

民法の体系・基礎理論とその応用 講師 金井 高志

## 授業科目の内容：

## 1. 民法の体系・基礎理論

最も重要な契約である売買契約や賃貸借契約につき、契約の成立から契約の終了に至るまでの時系列にそって論点・争点の検討を行うことにより、民法典の編別の体系とは別に典型的な契約類型を基にした体系・基礎理論の説明・演習を行います。また、その体系・基礎理論の中で、1年次および2年次などで学習した様々な民法の論点の位置付けの検討を行い、また、様々な論点につき、考え方の論理のパターンで分類を行います。

## 2. 民法の体系・基礎理論の応用

現在の情報化社会で重要となっている知的財産権のライセンス（使用許諾）契約やコンピュータ・インターネットを利用した取引において、民法の体系・基礎理論がどのように応用・修正されているかの検討・演習を行います。

テキスト：

・笠井修他『はじめての契約法』（有斐閣・2003年）  
・西村克己『ロジカル・シンキングが身につく入門テキスト』（中経出版・2003年）

講義の際に、講義資料プリントを配布します。

参考書：

参考文献などは適宜指示します。

## 民法演習

ベンチャー企業をめぐる法律実務 講師 出縄 正人

## 授業科目の内容：

ベンチャー企業をめぐる法律関係を、ベンチャー企業側弁護士あるいはベンチャー企業と取引を行う企業側の弁護士の立場から、必

要な法律関係を抽出かつ分析し、当該法律関係において、法令あるいは判例実務がどのような役割を果たしているのかを研究するとともに、その法律実務において必要とされる基礎的な法律条文（民法・会社法・民事訴訟法等）の現れ方を理解する。その中で、法律要件と法律効果という「法律」適用の基本的な考え方をマスターすることをその目標とする。

テキスト：

特に指定はしないが、六法は「必ず」持参すること。資料を授業中に配布することを予定。

参考書：

特に指定なし。

## 刑法演習

教授 加藤 久雄

## 授業科目の内容：

この刑法演習は、私が、平成18年度の研究会（3年）を担当したので、それに代わるものとして設置した。

この演習では、加藤『医事刑法入門』（2005年版）と『人格障害犯罪者と社会治療』の2冊をテキストとして使い、まだ、比較的新しい分野である「医事刑法」のテーマを中心に刑法理論の研究を行っていく。

テキスト：

加藤『医事刑法入門』（2005年版）と『人格障害犯罪者と社会治療』の2冊をテキストとする。

## 刑法演習

専任講師 佐藤 拓磨

## 授業科目の内容：

主として判例を素材に、刑法総論および刑法各論の重要論点につき検討を加えて行く予定です。毎週レポーターを決めて報告してもらい、その後全員で討論するという形を採りたいと思います。

テキスト：

特になし。素材とする判例は、そのつど指示します。

## 刑法演習

刑法理論と実務

講師 瀬戸 毅

## 授業科目の内容：

刑法の基本的理論が、具体的事例を解決する上でどのような役割を果たしているかを理解し、実務に役立つ法的思考を涵養してもらうことを目的とする。そのため、あらかじめ具体的事例を提供し、その問題を解決するために検討すべき刑法理論を概観するとともに、当該論点に関する判例の動向にも留意しながら、法律の具体的事例への当てはめの過程を学んでもらい、かつ、その結論の妥当性についても議論する予定である。

また、講師は、現職の検事として、検察実務および法務行政に関わってきたことから、実際の捜査・公判の在り方や法律実務家が行政の分野で果たす役割についても、適宜紹介したい。

テキスト：

なし

参考書：

なし

## 刑法演習

判決の理由づけを読み取る

講師 野阪 滋男

## 授業科目の内容：

主として刑法総論に関する判決を、毎回報告者を決めて議論できたらとおもう。現実起きた事件に対する判決には、論理のほかに何かが含まれていることが多い。報告者においては、その事件の事実の概要および判旨をまとめるなかで、その問題の所在を明らかにし、他の履修者を加えて討論し、従来の判例のなかでどのような地位を占めるかにも論及できたらとおもう。

テキスト：

特に指定しません。検討裁判例は、新しい判決例をとりあげるので、(1週間前)にコピー配布します。

## 授業科目の内容：

刑法総論・各論の重要問題のなかから、受講者の関心のあるテーマをとりあげ、深く掘り下げ検討します。第1回の授業時に、報告者と報告のテーマを決定する予定です。履修希望者は、第1回の授業にはできるだけ出席してください。報告に基づき、フリーディスカッションの形式で授業を進めますので積極的に参加してください。

テキスト：

特に指定しません。詳細は開講時に指示します。

参考書：

- ・町野朔・丸山雅夫・山本輝之編『ロースクール刑法総論』『ロースクール刑法各論』(信山社・2004)
- ・大塚仁・佐藤文哉編『新実例刑法[総論]』(青林書院・2001)

## 授業科目の内容：

本科目では、ジェンダーの視点にたつて、刑法・刑事法を見直すということを学びます。例えば、日本の刑法の177条には強姦の規定がありますが、そこには、被害者は女性に限ると書かれています。このこと一つからも、これはなぜなのか。そもそも強姦罪の保護法益は何なのか。判例はどうなっているのか。そして、他の国では一体どのような規定になっているのか。と言った論点が浮かび上がってきます。このように、実は、刑事法とジェンダーというテーマには、多くの問題が含まれています。

刑事法とジェンダーの問題として、強姦・強制猥褻、DV・夫婦間強姦、売買春、墮胎(人工妊娠中絶)、猥褻物(ポルノグラフィ)などを取り上げる予定です。この他、日本ではあまり知られていませんが、ジェンダーに関わる犯罪の一つとして、ヘイトクライムも取り上げる予定です。

これまでジェンダーと刑事法ということについて学んだことのない方が殆どだと思いますので、最初に数回講義を行った後、各自、テーマを選んで頂き、判例などを使いながら発表をして頂きます。

テキスト：

テーマによって指定します。判例についてはその都度配布します。

参考書：

- ・『ジェンダーと法』辻村みよ子 不磨書房 2005年
- ・『ジェンダーの法律学』金城清子 有斐閣 2002年
- ・『導入対話によるジェンダー法学(第2版)』浅倉むつ子監修 不磨書房 2005年
- ・『事例で学ぶ司法におけるジェンダー・バイアス』第二東京弁護士会司法改革推進二弁本部ジェンダー部会司法におけるジェンダー問題諮問会議編 明石書店 2003年
- ・『フェミニズム法学 生活と法の新しい関係』浅倉むつ子・戒能民江・若尾典子 明石書店 2004年 など

## 授業科目の内容：

新しい「会社法」典の制定によって、会社法で学ぶべき知識・論点は飛躍的に増大しました。それに伴い、会社法を講義する商法では、従来取り上げていた掘り下げた論点のうち何割かを割愛せざるをえなくなっています。そこで、本演習においては、私が担当する商法の内容補充を第1の目的とします。昨年度はM&Aに関する諸問題を主として取り上げました。次に、履修者の要望によっては、秋学期には金融法(従来の保険法、銀行法、信託法、証券取引法を中心とした法領域)の基本的論点を取り上げたいと思っています。履修希望者は初回の授業に必ず出席してください。

テキスト：

山本為三郎『会社法の考え方 第5版』(八千代出版, 2005年)

## 授業科目の内容：

会社法、手形・小切手法および商法(総則・商行為)を中心として、それらに関する基礎知識の習得と、簡単な事例への適用による解決を、具体的に分かり易く解説することにより、より確実に基礎知識とその応用力を身に付けて行く。

テキスト：

会社判例百選、手形小切手判例百選、商法(総則・商行為)判例百選

## 授業科目の内容：

行政法理論を中心に、その理解を目的とします。授業は、行政法の各テーマについての講義、判例研究、関連課題の検討から構成されます。

受講者数にもよりますが、演習ですから「参加型」の授業にしたいと思います。

テキスト：

詳しくは第1回の授業で連絡します。

1つの候補として、芝池義一編『ケースブック行政法』第2版(弘文堂)を挙げておきます。

参考書：

行政判例百選・(有斐閣)

## 授業科目の内容：

「渉外的な私法関係に適用すべき法を指定する規則」を定める国際私法の現状と、その問題点を、演習形式を通じて検証することを目的としています。渉外的な私法関係を扱うという科目の特性から、国際私法の講義を既に受講していることは勿論のこと、民法、商法、および、民事訴訟法についても受講済みか、または、並行して受講していることが必要です。

テキスト：

テキストは指定しません。使いやすいものを選んで購入してください。

参考書：

- ・櫻田・道垣内編「国際私法判例百選」(別冊ジュリスト)有斐閣
- ・道垣内正人「国際私法入門[第5版]」(有斐閣双書)有斐閣
- ・櫻田嘉章「国際私法[第4版]」(Sシリーズ)有斐閣

## 授業科目の内容：

刑事手続一般に関する演習を行う。具体的な演習方法については、参加者の要望や多寡を考慮して決定するが、現在のところ、重要な判例を教材として用いることを考えている。

テキスト：

井上正仁編『刑事訴訟法判例百選[第8版]』(有斐閣, 2005年)

参考書：

- ・安富潔『演習講義刑事訴訟法[第2版]』(法学書院, 2001年)
- ・池田修=前田雅英『刑事訴訟法講義』(東大出版会, 2004年)

## 授業科目の内容：

民事訴訟法の分野における判例および設例を素材に、具体的事例における理論的な問題点の解明を試みる。

テキスト：

講義資料プリントを配布する。

## 参考書：

民事訴訟法判例百選 (新法対応版) および民事訴訟法に関する体系書

## 破産法演習

新しい倒産法制を深く学ぶ

法務研究科 教授 中 島 弘 雅

## 授業科目の内容：

2000年4月の民事再生法の施行, 2003年4月の新会社更生法の施行, そして2005年1月の新破産法の施行により, わが国の倒産法制は大きく変わった。今年度の本演習では, 装いを新たにした現在の倒産法制を学ぶことにする。

## テキスト：

〔春学期〕中島弘雅『現代倒産法』(2006, 中央経済社)

〔秋学期〕中島弘雅『現代倒産法 講義案』(プリント版)

## 参考書：

伊藤真『破産法 [第4版補訂版]』(2006, 有斐閣)

## 刑事政策演習

矯正処遇論

講師 内 田 雅 人

## 授業科目の内容：

非行少年や犯罪者の非行・犯罪原因や社会復帰処遇対策などのテーマを中心に, 少年鑑別所および拘留所における心理技官, 国連職員, 矯正研修所教官, アジア極東犯罪防止研究所教官などの経験にもとづく国際比較制度・処遇論を中心に演習を行っていきたい。

将来, 留学して専門家になりたい学部学生・院生で国立の研究機関の研究者や国際公務員, 法務省, 警察庁, 家庭裁判所調査官などで刑事法の知見を活かした専門家として勤務したいと希望している他学部の学生・研究科の院生の諸君の聴講も歓迎する。

## テキスト：

受講者の希望などを考慮して最初の講義・演習のときにきめる。

## 刑事政策演習

少年犯罪とその法的対応

講師 守 山 正

## 授業科目の内容：

少年法を中心に学ぶ。こんにち少年著名事件の発生を契機に, 少年犯罪・非行をめぐる問題が多く領域で議論され, 近年, 少年法改正など大きな法制度の変化がみられる。当演習では, 少年犯罪・非行の実態と法制度の対応を対象に考察し, 受講者の報告・発表と教員による解説を組み合わせる。犯罪実態に関しては犯罪学の知見を利用し, 法制度については, わが国だけでなく, 諸外国の制度も参照して, 総合的な少年司法制度の解明に務める。また, 必要であれば, ビデオ・DVD等を教材として活用する。

## テキスト：

守山・後藤編『ピギナズ少年法』(成文堂)

## 刑事政策演習

少年非行の原因と対策を中心に

講師 小 林 寿 一

## 授業科目の内容：

この演習では, 少年非行の原因と対策(少年法の諸問題を含む)について, 我が国と諸外国(特にアメリカ合衆国)の状況を学習する。少年非行の原因については, 心理学・社会学等の行動科学の視点から理論および研究知見を検討し, 少年非行の対策については, 少年法に関わる問題や公的機関や民間の活動を検討する。なお, 履修者の希望に応じて, 少年非行と隣接した領域(児童虐待やDVや地域の犯罪防止など)についても学習することにしたい。したがって, 本演習では, 学際的なアプローチを重視するので, 法律学科の学生だけでなく, 他学部・他学科の学生(特に, 人間科学や行動科学を専攻する者)の履修を歓迎する。また, 将来, 国家公務員や家庭裁判所調査官などとなって, 少年非行に関わる実務に就くことを希望する者の履修も歓迎する。

## テキスト：

次のものをテキストとする予定であるが, 履修者と話し合って決めたい。

守山正・後藤弘子編 ピギナズ少年法 成文堂

## 参考書：

適宜紹介する。

## 刑事政策演習

刑事政策におけるパラダイム変換を学ぶ

講師 諸 澤 英 道

## 授業科目の内容：

刑事政策は, 今, 大きく変わろうとしている。その転換は, 国連においての議論でも同じであり, 1955年以来, 世界の刑事政策を引っ張ってきた「犯罪防止および犯罪者の処遇に関する国連会議(通称, 国連犯罪防止会議)」は, 創設50周年に当たる2005年から「犯罪防止および刑事司法に関する国連会議」と名称を変えた。

それは, 犯罪者の処遇における近代化, 人道化, したがって, 犯罪者の人権確立が最優先課題であった20世紀の刑事政策から, 「社会の安全」「人々の安心」が最優先課題である21世紀の刑事政策への変換を意味している。つまり, 捜査に始まり, 刑事裁判, 犯罪者の社会復帰に至る「刑事司法制度」に被害者が参加し, 国民の感覚に近づける制度への大改革である。

受講者のみなさんには, この講義を通して, 刑事政策に求められている発想の転換, すなわち「パラダイムの変換」を学んでいただくと同時に, パラダイム変換の中核をなす「被害者の視点に立った刑事政策」についても理解を深めていただく。

日本における「被害者の視点の導入」は, 欧米に20年以上も遅れただけでなく, この問題についての正しい理解をしている専門家は少ない。最近の10年間に被害者をめぐるさまざまな問題が起こっているが, その問題に対する専門家の指摘にも偏見に満ちたものが散見される。履修者には, 現在わが国で混乱している被害者理解についての正しい視点を身につけてもらいたい。

被害者対策の面で諸外国に大きく遅れをとった日本ではあるが, 2000年に, いわゆる「犯罪被害者保護法」が制定され, 2005年12月には「犯罪被害者等基本法」が成立した。また, 刑法の中の業務上過失致死傷罪に関連して危険運転致死傷罪(刑208条の2)が新設され, ストーカー行為等規制法, 児童虐待防止法, 配偶者暴力防止保護法(DV法)が制定され, また, 刑事訴訟法, 検察審査会法, 少年法, 犯罪被害者等給付金支給法も一部改正された。

被害者に対する人々の関心が高まり, 法整備も順調に進んできているように見えるが, これらの法律では, 被害者は「配慮」される対象であって, 権利性は認められていなかった。それが, 2005年4月の犯罪被害者等基本法の施行により大きく方向転換することになった。

基本法は, 安全で安心して暮らせる社会を実現する国の責務を明記し, 犯罪被害者等には「個人の尊厳が重んじられ, その尊厳にふさわしい処遇を保障される権利」があることを謳っている。授業を通じて, 被害者への正しい理解と支援のあり方について学んでもらう。

## テキスト：

諸澤英道著「新版被害者学入門」成文堂, 2001年

## 参考書：

諸澤英道著「被害者のための正義」成文堂, 2003年

## 外国法演習(英米)(春学期)

教授 西 川 理 恵 子

## 授業科目の内容：

アメリカの「不法行為(Torts)」を勉強する。不法行為は, 日本では, 政権法の一部として議論されるが, アメリカでは法を学ぶに当たっての最も大切な基礎科目の一つと考えられている。そこで, 不法行為のケースや論文を読みながら, 不法行為をめぐるさまざまな論点, アメリカの法思考方法などを学ぼうというのが, 法演習の目的である。

## テキスト：

適宜, 教材のコピーを配布する。

## 参考書：

開講時に指定

## 法律

---

外国法演習（英米）  
イギリス刑事司法制度研究 客員教授 倉田 靖 司

---

### 授業科目の内容：

いわゆる当事者主義の母国であるイギリスの刑事司法制度（実体法を含む。）を研究して、我が国における刑事司法制度の在り方を考える一助とする。

### テキスト：

最高裁判事局監修「陪審・参審制度 英国編」（司法協会）

### 参考書：

- ・Inns of Court School of Law "Criminal Litigation and Sentencing 2005/2006"(Oxford University Press)
- ・倉田靖司「陪審裁判復活の条件」（判例タイムズ 801-4, 802-40）
- ・倉田靖司「イギリスにおける否認事件の捜査・起訴の実態およびその前提となる諸条件に関する一考察」（司法研修所論集 1997- 464）
- ・鯉越溢弘「裁判員制度と国民の司法参加」（現代人文社）

---

外国法演習（英米）  
外国文献による証券取引法の研究 教授 並木 和夫

---

### 授業科目の内容：

証券取引法に関する、英文書を論読していく。

### テキスト：

適宜、取材のコピーを配布します。

---

外国法演習（独） 専任講師 フィリップ、オステン

---

### 授業科目の内容：

本演習は、ドイツ法・ドイツ法学に関する原書（ドイツ語文献）を理解できるようにすることを目的とするものである。

### テキスト：

テキストについては、履修者の希望・語学力等を考慮して、開講時に決定したうえで、プリントをして配布する予定。

### 参考書：

参考文献については、演習のなかで必要に応じて紹介することになる。

---

外国法演習（仏）  
フランス法入門そしてフランス法文献の読み方と調べ方  
講師 小川 健

---

### 授業科目の内容：

フランス法は、近代法の先駆けとなったナポレオン法典の制定以来、世界各国の近代および現代の法制に大きな影響を与えてきている。日本法にも、ドイツ法や英米法と並んでこの国の法制は強い影響を与えており、日本法の理解のためにその学習は欠くことができない。

また、今後我が国が諸外国と様々な関係を続け、その関係を発展させていくためには外国諸制度に対する対応や調整がどうしても必要となってくるであろう。この点でも、国連およびEUの主要な構成国であるとともに国際取引の分野に影響力のあるこの国の法制や法認識の理解は我が国にとって重要なものであり続ける筈である。

フランス法学習の導入を担当する科目として、本演習では、フランス語の読みやすい文献を参照しながら、フランス法の基礎的な知識を学ぶとともに、フランス法学の問題の分析の仕方が解るように授業をすすめていければと考えている。

受講者に、英米法や他の大陸法の理解、日本法の理解、フランス語の能力、等の不足が認められる場合は、必要に応じこれを補っていくつもりである。

### テキスト：

受講者の興味のあるところ、フランス語の能力等を勘案して、話し合っ

- ・決めるが、
- ・J. -L Aubert, Introduction au droit, Que sais-je?, PUF (2002) 「法学入門」;
- ・H. Batiffol, La Philosophie du droit, Que sais-je?, PUF (2000) 「法哲学」.

（いずれもわが国で言う新書の様なもの）

あるいは、仏文の新聞雑誌の記事あたりであろうか。

### 参考書：

初学者にも使いやすい本格的な仏和辞書として、少々かさばり、値も張るが、田村毅、他編・ロワイヤル仏和辞典(1985)、4,725円、を一応あげておく。

---

外国法演習（仏） 講師 末道 康之

---

### 授業科目の内容：

フランスの司法制度（特に刑事司法に関する問題）又はフランス刑事法に関連する最近のフランス語文献を読み、フランスの刑事司法、又は刑法解釈学の現状について検討し、フランス刑事法についての理解を深めることを目標とします。

フランス語学習の経験がないがフランス法に関心のある学生については、日本語の文献を読む方法で代替することも考えます。

### テキスト：

受講者と相談のうえ、フランス語文献についてはコピーして配付します。なお、2005年度はJ.Leroy, Droit pénal général, L. G. O. J. (2003) を使用しました。

### 参考書：

末道康之『フランス刑法における未遂犯論』（成文堂、1998年）

---

外国法演習（EU）  
EU法における「多様性の中の結合」の探求  
法務研究科 教授 庄司 克宏

---

### 授業科目の内容：

EUは国内法でも国際法でもない独自の法秩序を形成している。EU法全般にわたる基本的教科書を使用し、(イ)学生の報告と質疑応答および(ロ)担当教員からの応用問題を軸に、「多様性の中の結合」をキーワードとしてEU法がいかなる性格の法体系であるかについて理解することを目標とする。具体的分野としては、EUの組織法、手続法および実体法を総体的に扱う。

### テキスト：

Karen Davies, Understanding European Union Law (2nd ed.), Cavendish Publishing Limited, London, 2003

（各自、Amazon等で入手ください。）

### 参考書：

- ・庄司克宏『EU法 基礎篇』岩波書店、2003年
- ・庄司克宏『EU法 政策篇』岩波書店、2003年
- ・田中俊郎・庄司克宏編『EUと市民』慶應義塾大学出版会、2005年
- ・庄司克宏編『国際機構』岩波書店、2006年（4月刊行予定）

---

国際法演習 教授 明石 欽司

---

### 授業科目の内容：

「国際社会」をどのように認識するかによって「国際法」の把握の仕方も変わり得ます。この演習では、「国際社会観」がどのように「国際法観」に影響を及ぼすのかについて、主として近年の英語文献を題材にして考えてみたいと思います。

一文献について二乃至三名の報告担当者を割当て、当該担当者が内容紹介と論点の提示を行い、受講者全員での討論を行うという形式で授業を進める予定です。

### テキスト：

教材（文献）は講義担当者が用意します。

---

社会法演習  
ジェンダーからみた労働法 講師 神尾 真知子

---

### 授業科目の内容：

社会的文化的に作られた性差、すなわちジェンダーという視点で、労働法を見直します。法規定や判例の中にどのようにジェンダーが潜んでいるのかを明らかにします。憲法14条、女性差別撤廃条約、女性労働の歴史、均等法、労基法的女性保護規定、労基法4条、育児・介護休業法などを取り上げます。

女性労働の歴史を学ぶために、女性と仕事の未来館を見学します。

また、裁判所も見学します。

テキスト：

- ・山下・戒能・神尾・植野『法女性学への招待（新版）』有斐閣
- ・講義時の配布資料

参考書：

講義時に適宜紹介する。

法思想史演習

法・国家・正義に関わる諸問題の検討

講師 國分典子

授業科目の内容：

春学期は、現代の学者の書いた法思想史に関する論文を読み、法・正義・国家といった概念に関わる諸問題を考察するとともに、入手しやすい文庫本等に収められた代表的な法思想家の著作を読んで、討論を行います。秋学期は、受講者各自の選んだテーマでの自由報告を中心に進めます。但し、少人数の授業ですので、扱う文献および授業の進め方については初回に参加者の希望を聞き、できるだけ受講者の興味に沿った内容としたいと思います。

テキスト：

初回に受講者と話し合って採り上げる文献を決定します。

法制史演習（秋学期）

大正・昭和戦前期の法制史・法思想

（共同担当）教授 岩谷十郎

（共同担当）講師 出口雄一

授業科目の内容：

明治時代に始まる我が国の法制の近代史は、大正期・昭和期（特に戦前期）においてどのような展開があったのであろうか。通常「近代法体制の再編期」とも称される上記の期間は、大正デモクラシーの政治状況下にあったが、同時に西洋法の影響下にあった日本法がその「固有」の姿を求め、様々な法制改革が試みられた時期でもあった。また総力体制下の戦時状況に臨み我が国の法制はどのような時代的変容を余儀なくされたのか。そしてGHQによる占領改革は日本法の近代史においていかなる意義があったのか。

本演習では、以下に記す授業計画・方法に従って、上記の諸問題を半期に亘って受講者諸君と共に考えてゆくことにしたい。

テキスト：

予め授業担当者の方で、テキストとする論説などをコピーしそれを受講者に実費で購入して頂く予定である。

参考書：

適宜授業内で紹介してゆく。

## 〔研究会（3年）〕

研究会（3年）

憲法

教授 小林 節

授業科目の内容：

日本国憲法を研究する。論点方式で、憲法の体系に従って、全員で討論を展開し、当該論点の理解を深める。また、学年の途中で憲法に関する重要な判決が下された場合には、その検討も行う。一年間で、日本国憲法に関する重要な論点を総て網羅する予定である。なお、3年次の一月に卒業研究の指導を始める。卒業研究の課題と方法は各自の好みと必要に応じて選択する。

テキスト：

特になし。

参考書：

特に指定せず。

研究会（3年）

基本的人権の諸問題

教授 小山 剛

授業科目の内容：

3年次はレポーター形式により、基本的人権に関する重要論点について研究する。取り扱う論点は受講者と相談の上で決定する。

なお、開講に先立ち4年生による模擬演習を予定しているので、参考にすること。

テキスト：

開講に先立ちガイダンスをおこない、具体的に指示する。

参考書：

開講に先立ちガイダンスをおこない、具体的に指示する。

研究会（3年）

教授 駒村圭吾

授業科目の内容：

憲法の代表的論点について、深くかつ多面的に探求する演習を行う。手法としては、重要判例を素材にして賛成・反対に分かれ討論する方法と、担当者が作成した新作事例問題を解く手法とを併用する予定である。ロースクール教育に耐えられる力をつけるために、判例と学説のいわば reverse engineering を行い、あらゆる事例に対応できる応用力と、法学部生一般に要求される legal mind を、獲得することを目指す。

が、他方で、憲法学は、憲法理論を駆使するいわば職人芸的な力のみならず、憲法理論そのものの妥当性を吟味する原理的思考力をも必要とする。したがって、かかる原理的思考を喚起する機会を別途（合宿など）で持ちたいと考えている。

テキスト：

判例集や教科書・論文集を駆使してもらうので、教科書は指定しない。が、担当者作法の独自の見取り図を配布する予定である。

参考書：

使用頻度が高くなるものとして次の参考書を上げておく。

- ・芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法 第3版』（岩波書店）
- ・野中俊彦・中村睦男・高橋和之・高見勝利『憲法 第3版』（有斐閣）

研究会（3年）

行政法事例研究

教授 藤原 淳一郎

授業科目の内容：

行政法の事例問題をソクラティック・メソッドにより教授する。

テキスト：

- ・『六法全書』（いわゆる大六法）（有斐閣）
- ・原田尚彦『行政法要論』（学陽書房）

参考書：

塩野宏『行政法 』大橋洋一『行政法』（ともに有斐閣）

研究会（3年）

行政法研究

専任講師 青木 淳一

授業科目の内容：

行政法の領域で議論されるべき裁判例や時事問題を素材に、行政法の理論と実務を学ぶ。

テキスト：

いわゆる基本書その他の主要な文献のほか、資料調査法について、開講時にガイダンスを行う。

研究会（3年）

租税回避行為の研究

助教授 吉村 典久

授業科目の内容：

租税法および国際租税法の基礎知識を修得し、国際的租税回避行為や米仏独における租税回避行為など重要な租税問題につき、十分に理解できる基礎学力を養成します。法律的会話をを行うことができるようになれば、本授業の目標は達成されたと認められます。

## 法律

テキスト：

- ・金子宏『租税法』弘文堂
- ・『実務税法六法（法令編）』新日本法規

研究会（3年）

教授 西川 理恵子

授業科目の内容：

国際商取引に関する法律について、下のテキストを使い勉強する。国際取引法を理解するには、日本法だけでなく、相手国の法も理解しなければならない。そこで、日本の最も重要な取引相手国がアメリカであることもあり、また、アメリカがコモンロー国家であるので、アメリカ合衆国における関連法も、視野に入れる。カバーする予定の問題は、国際売買契約および、それに関連するさまざまな問題、紛争解決手段としての商事仲裁などを含む。この研究会の目的は、国際取引という場面では、法とは何か、そして、それがどのように働くかを理解することである。

テキスト：

Folsom, Gordon, Spangle "International Business Transaction"

研究会（3年）

教授 大森 正 仁

授業科目の内容：

国際法の基本的な理解とその具体的な場面への適用について研究することを目標とします。前者については個別の問題についてレポートの作成を、後者については4年生との模擬裁判を通じて行います。

テキスト：

- ・杉原高嶺他『現代国際法講義』（有斐閣、第3版、2003年）
- ・大沼保昭編『国際条約集 2006年版』（有斐閣、2006年）

参考書：

- ・栗林忠男『現代国際法』（慶應義塾大学出版会、1999年）
- ・山本草二他『国際法判例百選』（有斐閣、2001年）

研究会（3年）

教授 明石 欽 司

授業科目の内容：

担当者が用意する幾つかの選択肢のなかから、参加者の希望と既習得語学等を考慮して、研究会の進め方を決定する。

研究会（3年）

国際法

専任講師 尹 仁 河

授業科目の内容：

本研究会は国際法全般を対象としますが、中でも国際人権法および国際人道法に重点をおいて研究を行います。

テキスト：

- ・栗林忠男『現代国際法』（慶應義塾大学出版会、1999年）
- ・大沼保昭編『国際条約集 2006年版』（有斐閣、2006年）

参考書：

開講時に一覧を示します。

研究会（3年）

教授 安富 潔

授業科目の内容：

判例を素材にした問題の検討を中心とした刑事訴訟法の研究を行う。報告者の発表をもとに参加者全員によるディスカッション形式で進めていきます。

問題解決能力の基本を養いたいと思います。

研究会（3年）

刑事政策・被害者学・アジア法

教授 太田 達 也

授業科目の内容：

本研究会は、刑事政策と被害者学について扱う。刑事司法制度、犯罪者処遇制度、犯罪予防論、被害者学に関する重要な問題について受講生に順番に報告してもらい、担当者を受講生全員で議論を行う。3年次には刑事政策の基本的な事項について正しく理解すると

ともに、刑事政策の問題に対する考察能力を深めることが課題である。また、犯罪者処遇の実務を知るため、合宿を兼ね、刑務所、少年院、更生保護施設、児童自立支援施設などの施設参観を予定している。アジア法に関心のある受講生についても適宜指導を行うので、学習の成果を研究会の時間に報告してもらい、さらに関心があれば、卒業論文のテーマとすることも認める。

テキスト：

特に使用しない。

参考書：

犯罪白書の最新版を使用する。

研究会（3年）

専任講師 フィリップ、オステン

授業科目の内容：

本研究会は、現在の国際刑事法およびその成立過程を主な対象とする。また、個々の研究テーマに応じて、外国文献の講読等も予定している。

テキスト：

必要に応じて資料プリントを配布することにするが、毎回、六法および国際条約集（山手治之・他〔編〕『ベーシック条約集〔第6版〕』東信堂（2005年）を推奨する）を持参されたい。

参考書：

- ・小長谷和高『国際刑事裁判序説〔訂正版〕』尚学社（2001年）
- ・安藤泰子『国際刑事裁判所の理念』成文堂（2002年）
- ・森下忠『新しい国際刑法』信山社（2002年）
- ・フィリップ・オステン「国際刑事裁判所規程と国内立法 ドイツ『国際刑法典』草案を素材として」ジュリスト 1207号（2001年）126頁以下
- ・松宮孝明「実体刑法とその国際化 またはグローバル化に伴う諸問題」法律時報 927号（2003年）25頁以下
- ・高山佳奈子「国際刑事裁判権」法学論叢 154巻（2003年）1号 1頁以下・2号 22頁以下
- ・Cassese, Antonio, International Criminal Law (Oxford UP), 2003 その他、随時指示する

研究会（3年）

専任講師 佐藤 拓 磨

授業科目の内容：

後掲の教科書を題材にして、刑法総論のテーマにつき、深く掘り下げて検討を加えて行きます。毎週レポーターを決めて報告してもらい、その後全員で討論するという形を採りたいと思います。

テキスト：

井田良・丸山雅夫『ケーススタディ刑法〔第2版〕』（日本評論社、2004）

研究会（3年）

刑事法ゼミナール

法務研究科 教授 伊東 研 祐

授業科目の内容：

現代社会状況の中で明らかになって来る刑事実体法に関わる諸々の問題につき、その適正な解決を図るべく、自ら考える為の視座の形成を目的とします。当然ながら、問題を発見し、解析し、解決の為に調査する等々の能力の養成も行います。参加者の主体的な取り組みを前提とした、小人数のゼミです。

テキスト：

指定しない。

参考書：

参加者の研究の必要に応じ、随時指示します。

研究会（3年）

国際金融法務

法理論と法実務の架橋

法と経済の交錯

教授 斎藤 和 夫

授業科目の内容：

国際金融取引 法理論と法実務 を、「担保法」や「金融法」の視点から、考察します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

随時、指示します。

---

研究会(3年)

民法財産法ゼミナール 教授 池田真朗

---

授業科目の内容：

民法財産法の範囲で、事例問題を用いた演習を行う。なお、本年も秋に恒例の早稲田大学鎌田ゼミとの早慶合同ゼミナールを行う予定である。

(過去の出題講評者は、星野英一、川井健、好美清光、下森定、石田喜久夫、加藤雅信、加藤新太郎、寺田逸郎、野村豊弘、瀬川信久、能見善久、安永正昭、吉田克己、内田貴、中田裕康、山本敬三、奥田昌道・椿寿夫の諸先生である。)

ゼミ生には毎回のディベート参加と、一回おきの4000字のレポートが義務づけられる(夏合宿後のレポートは1万字である)。

テキスト：

問題集として池田真朗・半田正夫他『スリーステップ民法ゼミナール』(一粒社)を使用する。(ただし昨年使用した問題をのぞく。また、問題集が絶版のため入手に困難を生じる場合には、別途考慮する)

参考書：

毎回多数の論文、判例評釈等を使用する(資料集めはゼミ生の諸君が協力して行う)

---

研究会(3年)

家族法研究 教授 犬伏由子

---

授業科目の内容：

家族法(民法 親族・相続編)を対象とします。具体的なテーマについては、受講生と相談の上決定しますが、家族法の諸論点を、学説・判例を踏えて検討すること、および、現代家族が抱える諸課題について立法論も含めて検討する予定です。

参考書：

「家族法判例百選(第6版)」有斐閣

---

研究会(3年)

民法(財産法)の総合的研究 教授 武川幸嗣

---

授業科目の内容：

財産法分野に関する応用事例の演習を通して、基本的理解の深化ならびに応用的思考力の涵養を図ることを目的とする。具体的な進め方としては、班分けした上で、担当者が予め配布する課題(事例が中心)につき事前に各班で検討を行い(したがって自主的にゼミを開いてもらう)、本ゼミの際にその成果を班ごとにレポーターを立てて報告し、さらに全体で討議をしてもらう予定である。演習課題の対象範囲は年間を通して財産法全般にわたるよう、ゼミを進行していきたい。

このほか、夏期合宿を行い、集中的にまとまった課題研究を行う予定である。

テキスト：

とくに共通のテキストは指定しないが、基本書レベルのものは開講時まで各自が通読していることを前提としてゼミを進行する。課題ごとの参考文献については必要に応じて逐次指示する。

参考書：

同上。

---

研究会(3年)

助教授 君嶋祐子

---

授業科目の内容：

判例を中心に、特許法の基本的問題点について研究する。特許法の基本的問題点について、研究、議論することで、知的財産法の基本的な考え方について理解し、自分なりの意見を発言できるようにすることを目標とする。

研究会では、予め与えられた課題について積極的に発言すること

を求められる。

次年度の研究会(4年)では、知的財産法の分野から各自テーマを選んで、卒論を作成する予定である。

テキスト：

別冊ジュリスト170号・特許判例百選[第3版](2004)。

各自、特許法の条文全文を持参のこと。

参考書：

初回に指示する。

---

研究会(3年)

民法財産法研究 専任講師 水津太郎

---

授業科目の内容：

民法財産法の基本問題を、具体的な事例を素材として、参加者全員で自由に議論します。基本的知識の確認はもちろんですが、主眼はむしろ、各人が自由な発想で法的にものを考え、他者に対して適切に表現する力を身に付けることにあります。法的な思考と論理をとおして、問題を発見し、解決する能力を涵養することを目的とします。

参考書：

必要に応じて、随時指示します。

---

研究会(3年)

民法財産法の総合的研究  
法務研究科 教授 片山直也

---

授業科目の内容：

春学期は、6つのサイクルに分け、各サイクルごとに1つのテーマを設定し、事例問題研究、討論研究(ディベート)および判例研究を組み合わせた双方向の多角的な演習を行い、論理的思考能力、問題解決能力の育成をめざす。

秋学期は、受講生が各自の研究テーマを選択し、近接するテーマごといくつかのグループを組み、各グループの構成員を中心に、裁判例や代表的な論文の分析研究を行い、4年次のリサーチペーパー、卒業論文の作成に備える。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

各テーマごとに、ゼミに先立って、メディアセンターで判例、雑誌論文などの資料を収集し、分析検討を行う。

---

研究会(3年)

法務研究科 教授 北居 功

---

授業科目の内容：

民法財産法について、主要なテーマを具体例を素材にしつつ扱いながら、参加者の議論を通じて、理解を深めることを目指している。従って、議論を深めるうえでも、各参加者には、事前の十分な予習を求めることとなる。

---

研究会(3年)

民法理論の基礎から応用へ  
法務研究科 教授 松尾 弘

---

授業科目の内容：

- (1) 民法全般にわたり、理論と実務の双方の観点から解釈論を深める。同時に、法改正や裁判例の動向、法解釈方法論、比較法、法形成(法継受)の歴史にも注意を払っていきたい。
- (2) 国家の「良い統治」を目指した法制度改革、その一環としての発展途上国への法整備支援などを対象とする、開発法学(Law and Development)の理論と実践を分析する。

ゼミでは(1)を主眼とし、(2)はメンバーの希望や関心に応じて取り上げる。具体的には、つぎのような活動を予定している。民法全般にわたり、主要問題に関する判例、学説を的確に整理し、自説を形成する(レポーター制)。と並行しながら、法解釈方法論を検討する。最新の裁判例の中から重要なものを抽出し、内容や意義を検討する(担当者[松尾]と共同)。民法関連の法改正の内容を検討する(解説書を用いる)。諸外国の民法の概要、その形

## 法律

成プロセス、法継受などを通じた相互作用について学習する(担当者と共に、開発法学の動向、法整備支援の状況を検討する(最初は担当者と希望者)、ゼミ誌を発行する(担当者と共に)。

テキスト：

に関して

- ・山野目章夫＝野澤正充編『ケースではじめる民法〔補正版〕』(弘文堂, 2005)
- ・松尾弘『民法の体系 市民法の基礎 (第4版)』(慶應義塾大学出版会, 2005)
- に関して
- ・五十嵐清『法学入門(新版)』(悠々社, 2002)
- ・ヤン・シュレーダー／石部雅亮編訳『トピック・類推・衡平 法解釈方法論史の基本概念』(信山社, 2000)
- に関して
- ・オッコー・ベーレンツ＝河上正二『歴史の中の民法 ローマ法との対話』(日本評論社, 2001)
- に関して
- ・松尾弘「開発法学と法整備支援の理論化」横浜国際経済法学 11 巻 1 号 (2002) 55-89 頁

参考書：

授業中に随時紹介する。

---

研究会(3年) 法務研究科 教授 金山直樹

---

授業科目の内容：

民法は、大教室の講義だけでは自分のものとして「体得」することは困難です。本ゼミでは、この困難さを克服することを目標とし、民法上の様々な問題について具体的なケースを手がかりに議論をすることによって、民法学習の困難さを軽快に乗り越えることをめざします。互いに本音で論じ合うことによって、不明点を明確にするとともに、自ら考え理解することの楽しさを味わってみたいと思います。そのため、議論を最大限に重視する方針です。

テキスト：

以下の二つを交互に用いる予定です。

- 1 民法ゼミナール教材(有斐閣)...どの問題を選ぶかは、受講生が自主的かつ自由に決定するものとします。ただし、絶版のため、教材を変更するかもしれません。
- 2 最新判例を検討します。主に最高裁の判決を扱いますが、下級審の判決を取り上げることもあります。検討すべき判例は教員が指定します。

---

研究会(3年) 民法(財産法)研究 法務研究科 教授 平野裕之

---

授業科目の内容：

民法財産法の問題を、事例問題を用いて研究をする。法科大学院への進学希望者にとっては、ロースクールのプレ授業のようなものになりたいと思っている。内容としては、年2回の討論会を行い、研究し報告する能力を磨いてもらう。予定としては、非常勤をしている早稲田大学の私のゼミとの合同討論会を前期6月末、後期12月中旬に行いたい。夏合宿も早慶合同で行い、合宿では日ごろの勉強を忘れて、スポーツなどをして交流を深めてほしい。

日ごろの授業内容をもう一度確認すると、ロースクールで行われているソクラテスメソッドの入門版のようなものを考えている。毎回1～2問、場合によっては3問の問題を、報告者を決めことなく全員が予習をしてきて、質疑応答の形で進め、学生同士での議論も行えるようにしたいと思っている。厳しくも楽しい授業、そして、毎回授業が終わるごとに実力がついたと実感できるような授業にしたいと考えている。

テキスト：

使用しない。ただし、問題をコピーして最初の時期に配布する。

参考書：

特に指定しない。各自の教科書などで必ず予習をしてもらうこと。

---

研究会(3年) 事例に学ぶ民法 法務研究科 教授 鹿野菜穂子

---

授業科目の内容：

この授業は、民法の財産法に関する裁判例や設例の検討を通して、民法の重要事項を確認するとともに、応用力を養うことを目的とします。前期は、主に最高裁の判例を取り上げ、後期は、設例の検討を行う予定です。参加者を4つのグループに分け、それぞれのグループに、毎回異なる役割を分担してもらいます。

テキスト：

特に指定しません

参考書：

民法判例百選

---

研究会(3年) 商法(会社法)ゼミナール 教授 加藤修

---

授業科目の内容：

会社法上の重要問題について報告・検討し、その基本法理を研究する。具体的には、会社法総論として、企業形態論、共同企業論、会社定款論、営利法人性、会社の社団性、会社制度の悪用、仮装の資調達を研究する。会社法各論としては、設立、株式・持分論、機関論(株主総会・取締役・取締役会・代表取締役・監査役・監査役会・執行役・代表執行役)、各種の資金調達、企業結合論、会社組織論を研究する。参加者は、事前にレポートを用意し、随時、そのレポートに基づいて口頭報告あるいは意見・見解説明が求められる。夏休みの合宿においては、各人の問題意識に基づいて、会社法上の問題につき口頭報告が全員に求められる。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

特に指定しない。

---

研究会(3年) 商法研究 教授 宮島司

---

授業科目の内容：

商法に関する具体的事例の検討を行う。それにより、法的問題点の考え方、解決方法を見出すようになれば幸いである。

テキスト：

研究会であるので、テーマに応じてその都度。

参考書：

会社法概説(第三版補正第二版) 弘文堂

---

研究会(3年) 教授 山本為三郎

---

授業科目の内容：

会社法の事例研究および商事法(主として、会社法、商法総則、商行為法、有価証券法)に関する最新の判例研究を行う予定です。問題点の把握・検討は、リポーターの発表(当該レポートの提出義務があります)を中心に進められます。また、早稲田大学企業法研究会とのディベートを毎年行っています。

研究会員各自が研究者として自覚を持ちゼミに参加することにより、一年後には、卒業論文作成の基礎となる法的思考能力の深化を確認できるでしょう。

テキスト：

山本為三郎『会社法の考え方(第5版)』(八千代出版, 2005年)

---

研究会(3年) 会社法ゼミナール 教授 鈴木千佳子

---

授業科目の内容：

会社法の内容と特色を、毎週提示される課題を解決してゆくことで理解を深める。また、研究をすすめるうえで不可欠な資料検索・レポート作成・報告の方法などもあわせて指導する。

テキスト：

最初の授業で指示する。

参考書：

最初の授業で指示する。

研究会(3年)

商法(手形・小切手法)

教授 島原 宏 明

授業科目の内容：

手形・小切手法のケース・スタディーを行う。一見、手形・小切手法は応用的なジャンルの法律とみられがちであるが、これらは使用される社会が限定されているため、私法の本質的な要素をとらえるためには絶好の素材だともいえる。すなわち、手形・小切手法を通して民法(財産法)を理解することが、このゼミの一つの目標である。ただし、とりあえず現時点では民法、商法についての知識を要求しない(ヤル気があれば、それで十分である)。

なお、合宿、コンパ、ソフトボール等の活動も積極的に行っていくつもりである。

テキスト：

使用しない。

参考書：

開講時に指示する。

研究会(3年)

商法・国際取引法・法交渉

法務研究科 教授 山手 正 史

授業科目の内容：

法解釈学の学習を通じて論理的・原則的思考力を練磨するとともに、法規制の政策論的含意把握を通して社会科学的分析能力の向上を目指す。題材としては、商法総則、会社法、商行為法(国際取引法を含む)に関する判決を取りあげる。ただし、受講生各自の研究の展開によって、保険法、海商法、手形法等に関する判決を取りあげてもよい。要するに、商法に関するものであれば「何でもあり」ということである。

報告・討論方式で行う。毎回ひとつの判決を取りあげる。取りあげる判決は、報告者が自ら決定する。報告者は、遅くとも報告の1週間前までに、レジュメを受講生全員に配布しなければならない。報告者以外の受講生も、全員、発言義務を負う。国際取引法と法交渉についての学習は、主として、毎年秋に行われるインターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション(<http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inc/index.html>, 法学教室 2004年3月号参照)への参加を通して行う。

テキスト：

報告者が作成したレジュメに基づいて授業を進めるが、別冊ジュリスト『商法(総則・商行為)判例百選[第4版]』(有斐閣)および同『会社判例百選[第6版]』(有斐閣)は用意しておくこと。

参考書：

授業中に随時指示する。

研究会(3年)

会社法および証券取引法についての研究

教授 並木 和 夫

授業科目の内容：

並木和夫著、証券取引法(中央経済社)に基づいて研究を行う。

研究会(3年)

民事訴訟法

教授 坂原 正 夫

授業科目の内容：

民事訴訟法に関する事例問題を履修者全員が徹底的に討論することによって、履修者が民事訴訟法の基礎理論について理解できるようにします。換言すれば、履修者が民事訴訟法の基本的な問題について判例・通説の内容と問題点を認識し、各自がそれぞれの問題について自らの見解をまとめることができるように指導します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

春休み中(3月中旬)に勉強会を行いました。そのためのガイダンスの際(2月中旬)に配布した演習問題に、参考書一覧が記載されているので、それを参照してください。

研究会(3年)

教授 三木 浩 一

授業科目の内容：

民事訴訟法判決手続について、通年のゼミナール形式で演習を行う。授業のスタイルとしては、担当者が作成した事例問題を課題として事前に与えておき、授業当日はこれを素材としてソクラティック・メソッドを用いて議論を行う。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

最初の授業の日に口頭で指定する。

研究会(3年)

経済法(独占禁止法)・国際経済法(GATT/WTO)

教授 田村 次 朗

授業科目の内容：

企業間の競争を通じて、低廉・良質な財・サービスが消費者に提供されることは、資本主義メカニズムの根幹であるが、競争は時として、独占企業や寡占によって減殺される。このような弊害を是正し、競争を維持・促進する法制度が独占禁止法(競争法)である。競争法では、独占やカルテル、イノベーションの促進と知的財産権、規制緩和問題(情報通信・電力・ガス事業)などを取り扱う。また、国内市場を規律する競争法の検討とともに、国際貿易を規律する法制度である国際経済法を検討する。国際経済法では、主としてWTO(世界貿易機関)における紛争解決事例の検討を通じて、セーフガード、アンチ・ダンピング、国際的環境問題を検討する予定である。

テキスト：

- ・根岸 哲・舟田正之『独占禁止法概説(第2版)』(有斐閣, 2003)
- ・田村次朗『WTOガイドブック』(弘文堂, 2001)
- ・厚谷襄児・稗貫俊文(編)『独禁法審決・判例百選(第6版)』(有斐閣, 2002)

参考書：

- ・村上政博『独占禁止法の日米比較』(弘文堂, 1992)
- ・松下満雄『経済法概説』(東京大学出版会, 1995)
- ・松下満雄『国際経済法 国際通商・投資の規制(第3版)』(有斐閣, 2001) など

研究会(3年)

労働法・社会保障法

助教授 内藤 恵

授業科目の内容：

当ゼミナールでは、3・4年生一緒に2コマ(3時間)通して、研究会を行います。3年生は特に、学部における内藤担当の労働法および社会保障法の講義を履修し、それと相互補完的に下記のテーマに関する裁判例および理論研究を行います。毎週1つのテーマにつき2名のリポーターをたて、その報告をきいて、全員参加のディスカッションを進めます。

同時に3年生は、夏休みから11月にかけて学生論文集『法律学研究』に掲載する論文を全員で執筆します。テーマは3年生が自ら選びます。4年生は、春学期は就職活動が終了するまでゼミのリポーターからは外れますが、各々の就職が決まり次第各自ゼミに復帰し、3年生のリポートに対してディスカッションに参加し、同時に卒業論文の作成を進めます。秋学期になると、リポーターは出来る限り3&4年生のペアで行い、それぞれの視点を生かした形で研究を進めます。

夏期休業中に、ゼミ合宿を行います。その席上、4年生は卒業論文の中間報告をし、他の4年生あるいは3年生からの質問を受け議論をし、秋学期の卒論作成の参考にします。

## 法律

テキスト：

特に指定せず、各テーマに関する参考文献等をそれぞれのテーマに応じて指示します。

但し最低でも、労働法あるいは社会保障法のそれぞれのテーマに応じて、下記から菅野和夫『労働法』あるいは西村健一郎『社会保障法』および、各々の判例百選および六法は持参すること。

参考書：

労働法

- ・野川忍・野田進・和田肇『労働法の世界(第6版)』(有斐閣,2005)
- ・西村健一郎・安枝英誦『労働法(第8版)』(有斐閣プリマシリーズ,2004)
- ・菅野和夫『労働法(第7版)』(弘文堂,2005)

社会保障法

- ・西村健一郎『社会保障法』(有斐閣,2003)

### 研究会(3年)

ヨーロッパ法史研究 教授 森 征一

授業科目の内容：

法制史は、法を学ぶ者が身につけるべき基礎教養科目であり、当然に憲法、民法、刑法、訴訟法等の実定法科目と有機的に連結して、法学教育の一端を担うものです。

本研究会は、現在ヨーロッパ共通法として形成されつつあるEU(欧州連合)法を視野に入れながら、近代日本法の形成に大きな影響を与えた、12世紀から19世紀にいたるヨーロッパ法の歴史を辿り、ヨーロッパ法文化の本質を理解することが目標です。

テキスト：

勝田有恒・森征一・山内進編著『概説 西洋法制史』(ミネルヴァ書房 2004年)

参考書：

- ・P.スタイン/屋敷二郎監訳『ローマ法とヨーロッパ』(ミネルヴァ書房 2003年)
- ・K.W.ネル/村上淳一訳『ヨーロッパ法史入門』(東京大学出版会 1999年)
- ・O.F.Robinson, T.D.Fergus, European Legal History, London, 1994
- ・M.Bellomo, The Common Legal Past of Europe 1000-1800, Washington D.C., 1995, 他

### 研究会(3年)

教授 霞 信彦

授業科目の内容：

明治初期の刑事法や刑事裁判制度に関する理解を深めることを目的とする。しかしそのためには、わが国近世および近代史に対する基礎的な知見を有することが、前提かつ必須である。そこで三年次では、まず幅広く先学の著作・論考を読み、また史跡を訪ね史料にふれること等を通じて、「明治」という時代がいかなる時代であったかを体感し、自分なりの理解を深めることをスタート点としたい。

テキスト：

霞・漆原・浜野「日本法制史 史料集」(慶應義塾大学出版会 2003年 2000円)

参考書：

講義において必要に応じて指摘する。

### 研究会(3年)

日本近代期の法の歴史・法文化 教授 岩谷 十郎

授業科目の内容：

日本法の「近代」がどのように展開したのか、法制度・法意識・法文化の観点から、様々な文献を通じて議論する。

テキスト：

未定(参考書から1冊選ぶこともある)

参考書：

- ・大木雅夫『日本人の法観念』(東大出版会)
- ・村上淳一『法の歴史』(同前)
- ・田中成明『転換期の日本法』(岩波書店)
- ・小林直樹『法の人間の考察』(同前) 他
- ・竹下賢他編『訂正版 マルチ・リーガル・カルチャー』(晃洋書房)

## 〔研究会(4年)〕

### 研究会(4年)

憲法 教授 小林 節

授業科目の内容：

3年次の一月に選択した各自の課題と方法に従って、卒業研究の指導を続行する。必要に応じて中間報告を求める。4年生は、時間の許す限り、3年生の研究会にも出席すること。

テキスト：

特になし。

参考書：

特に指定せず。

### 研究会(4年)

教授 小山 剛

授業科目の内容：

〔春学期〕統治の基本問題について演習をおこなう。

〔秋学期〕各自の選択したテーマにしたがって卒業論文またはサーチ・ペーパーを執筆する。

テキスト：

とくになし

参考書：

適宜指示する

### 研究会(4年)

教授 駒村 圭吾

授業科目の内容：

3年生のゼミに陪席しながら、憲法知識をさらに高めるとともに、各自の卒業研究の作成を行う。

テキスト：

開講後、随時決定する。

参考書：

上記に従って、随時決定する。

### 研究会(4年)

行政法事例演習&卒論作成 教授 藤原 淳一郎

授業科目の内容：

行政法の基礎理論を「演習問題」で復習する一方、「月刊法学教室」演習問題、最新判例、最新学術論文等により、一層の学力の向上を目指す。秋学期には卒業論文を作成する。テーマは、法哲学、法社会学、法政策学、法と経済、行政学等に及ぶものでも良い。

テキスト：

特にはない。

参考書：

既に研究会(3年)のときに指示。

### 研究会(4年)

行政法研究&卒業研究 専任講師 青木 淳一

授業科目の内容：

研究会活動の集大成として、卒業論文を作成する。

テキスト：

卒業論文の作成を念頭に置いた資料調査法等について、開講時にガイダンスを行う。

### 研究会(4年)

租税回避行為の研究 助教授 吉村 典久

授業科目の内容：

2年間の研究会活動の集大成として、卒業論文を作成します。同時に、司会および裁判官として、後進の指導にあたってください。

テキスト：

・金子宏『租税法』弘文堂

・『実務税法六法（法令編）』新日本法規

研究会（４年） 教授 西川 理恵子

授業科目の内容：

前年度のトピックに関する勉強の継続と、各自、卒論を自分の選んだテーマで書く。

テキスト：

Folsom, Gordon Spangle “International Business, Transaction”

研究会（４年） 教授 大森 正仁

授業科目の内容：

３年次に獲得した国際法の知識の事例への適用として、模擬裁判を行います。同時に大学での学習の集大成としての卒業論文の作成に取り組みます。

テキスト：

・杉原高嶺他『現代国際法講義』（有斐閣、第３版、２００３年）

・大沼保昭編『国際条約集 ２００６年版』（有斐閣、２００６年）

参考書：

・栗林忠男『現代国際法』（慶應義塾大学出版会、１９９９年）

・山本草二他『国際法判例百選』（有斐閣、２００１年）

研究会（４年） 教授 加藤 久雄

授業科目の内容：

前期は、就職活動とか各種の試験が行われるので、全員が揃うことは、少ないので、出席者を中心にして、卒論のテーマの確定と若干の趣旨説明をしてもらう。その際、参考文献の紹介もあわせて行う。

テキスト：

加藤『医事刑法入門』（２００５年版）と『人格障害犯罪者と社会治療』の２冊をテキストとする。卒論のテーマもこの２冊の中から、選ぶのが望ましい。

研究会（４年） 教授 安富 潔

授業科目の内容：

総合的な事例の検討を中心として刑事訴訟法の研究を行います。問題解決能力の練成をめざします。

研究会（４年）  
刑事政策・被害者学・アジア法 教授 太田 達也

授業科目の内容：

４年次は、３年次の刑事政策・被害者学に関する基礎的な学習を踏まえ、各自の卒業論文の作成が中心課題となる。まず、前期は、刑事政策および被害者の新しい動向に関する文献講読を行い、それぞれの問題について討議を行う。以後は、卒業論文の中間報告を中心にゼミを進める。

テキスト：

講義の時に資料を配付する。

参考書：

犯罪白書の最新版を使用する。

研究会（４年） 専任講師 フィリップ、オステン

授業科目の内容：

前年度のトピック（国際刑事法）に関する研究の継続と、ゼミ生の希望に応じて、刑法総論の主要論点等を班形式で取り上げ、全員で討論を行う予定である。

なお、卒業論文の作成を希望する学生に対しては、その指導を行う。

また、個々の研究テーマに応じて、外国文献の講読等も予定している。

研究会（４年）  
刑事法ゼミナール 法務研究科 教授 伊東 研祐

授業科目の内容：

３年の研究会で形成されたはずの自ら考える為の視座に基づき、各人の選んだ研究テーマを深く掘り下げ、ユニークな見解を纏めることを目的とします。小社会集団における共生・共働の修得をも目指した小人数のゼミです。

テキスト：

指定しない。

参考書：

参加者の研究の必要に応じ、随時指示します。

研究会（４年）  
卒論研究、進路を考える（就職観）  
教授 斎藤 和夫

授業科目の内容：

卒論作成の作業を進めます。三年次の限テーマ（国際金融法務）と限テーマ（担保法）との、いずれかを選択して、卒論テーマを選択してください。大学院法学研究科（研究大学院）への進学希望者については、個別の研究指導（論文指導を含む）をおこないます。同時併行して、進路ガイダンス（木・限）も試みます。

テキスト：

特に指定しません。「判例研究（評釈）」や「重要論文」を精読することが肝要です。

参考書：

各テーマについての参考文献等については、個別に対応します。

研究会（４年）  
民法財産法ゼミナール 教授 池田 真朗

授業科目の内容：

春学期は就職希望者の卒業論文の中間報告とそれに対する質疑を内容とする。秋学期は司法試験受験者と法科大学院進学者の個別報告とそれに対する質疑を行う。

参考書：

各人のテーマによって収集する

研究会（４年）  
家族法研究 教授 犬伏 由子

授業科目の内容：

家族法（民法 親族・相続編）を対象とします。三年次に引き続き、家族法の諸課題について研究を深め、各自テーマを選抜し、卒業論文の作成を行うこととなります。

参考書：

「家族法判例百選（第６版）」有斐閣

研究会（４年）  
財産法の応用的展開 教授 武川 幸嗣

授業科目の内容：

ゼミ生の将来の進路ないし希望に応じて適宜調整するつもりであるが、基本的には、３年次の課題演習を継続しつつ、これと並行ないし前後して、各自が自ら設定したテーマ研究につき、中間報告・討論を行うことを予定している。最終的には、卒業論文または課題研究としてまとめて提出してもらう。

テキスト：

特に指定しない。課題に応じて適宜指示する。

参考書：

同上。

## 研究会(4年)

民法財産法の発展的研究

法務研究科 教授 片山 直也

## 授業科目の内容:

研究会(3年)春学期において養われた論理的思考能力および問題解決能力を基礎に、同・秋学期において育まれた興味関心をさらに発展させ、リサーチペーパーまたは卒業論文の作成を行う。

春学期、秋学期にそれぞれ各人の研究の進捗状況について中間報告を行うとともに、秋学期は各自の研究テーマに近接する3年生のグループ研究を指導する。

## テキスト:

特に指定しない。

## 参考書:

各人のテーマごとに、メディアセンターで判例、雑誌論文などの資料を収集し、分析検討を行う。

## 研究会(4年)

法務研究科 教授 北居 功

## 授業科目の内容:

本年は卒業論文の作成を行う。その内容等については、研究会の学生との話し合いで決定する。

## 研究会(4年)

民法理論の応用と基本の再確認

法務研究科 教授 松尾 弘

## 授業科目の内容:

(1) 3年次における活動を踏まえ、民法解釈論の応用問題を分析し、自分自身の考察を深め、レポートないし卒業論文を作成する。

(2) 応用問題の一環として、政府のガバナンス向上のための法制度改革、発展途上国への法整備支援などを対象とする、開発法学(Law and Development)に関わる諸問題の中から、自らの興味に従ってテーマを選定して研究を進め、レポートないし卒業論文を作成する。

各人の興味に従い、前期(1)または(2)のうちから何れか一方を選択し、文献収集、分析、中間報告を行ったうえで、成果物を作成する。

春学期は、とを中心とし、個別指導を行う。

秋学期は、を中心とし、報告と議論を行う。

## テキスト:

各人の興味と必要に応じて文献の紹介、検索・分析のアドバイス等を行う。とくに決まったテキスト、その他の文献は用いない。

## 参考書:

授業中に随時紹介する。

## 研究会(4年)

法務研究科 教授 金山 直樹

## 授業科目の内容:

民法は、大教室の講義だけでは自分のものとして「体得」することは困難です。本ゼミでは、この困難さを克服することを目指し、民法上の様々な問題について具体的なケースを手がかりに議論をすることによって、民法学習の困難さを軽快に乗り越えることをめざします。互いに本音で論じ合うことによって、不明点を明確にするとともに、自ら考え理解することの楽しさを味わってみたいと思います。そのため、議論を最大限に重視する方針です。

## テキスト:

以下の二つを交互に用いる予定です。

1 民法ゼミナール教材(有斐閣)...どの問題を選ぶかは、受講生が自主的かつ自由に決定するものとします。ただし、絶版のため、教材を変更するかもしれません。

2 最新判例を検討します。主に最高裁の判決を扱いますが、下級審の判決を取り上げることもあります。検討すべき判例は教員が指定します。

## 研究会(4年)

民法(財産法)研究 法務研究科 教授 平野 裕之

## 授業科目の内容:

民法財産法の問題を、事例問題を用いて研究をする。法科大学院への進学希望者にとっては、ロースクールのプレ授業のようなものにしたいたいと思っている。内容としては、年2回の討論会を行い、研究し報告する能力を磨いてもらう。予定としては、非常勤をしている早稲田大学の私のゼミとの合同討論会を前期6月末、後期12月中旬に行いたい。夏合宿も早慶合同で行い、合宿では日ごろの勉強を忘れて、スポーツなどをして交流を深めてもらいたい。

日ごろの授業内容をもう一度確認すると、ロースクールで行われているソクラテスメソッドの入門版のようなものを考えている。毎回1~2問、場合によっては3問の問題を、報告者を決めることなく全員が予習をしてきて質疑応答の形で進め、学生同士での議論も行えるようにしたいと思っている。厳しくも楽しい授業、そして、毎回授業が終わるごとに実力がついたと実感できるような授業にしたいと考えている。4年生は今年の授業の続きであり、説明する必要もないであろう。

## テキスト:

使用しない。ただし、問題をコピーして最初の時期に配布する。

## 参考書:

特に指定しない。各自の教科書などで必ず予習をしてくること。

## 研究会(4年)

商法(会社法)ゼミナール 教授 加藤 修

## 授業科目の内容:

学術論文とは何なのかを指導し、その後、卒業論文執筆のための指導を行う。どのようにして問題意識を明確にして、論文の題目にするかがまず指導される。その後、関係参考文献と資料の探知方法、問題意識の再構成、関係参考文献と資料の批判的解析方法とその方法に基づく実行と新展開への指導がなされる。参加者全員が各自で、必ずどこかで商法と接点を有する法律問題あるいは商法の問題そのものにおいて題目を設定し、複数回の中間報告を行い卒業論文を完成する。中間報告は十分な準備をかさね、事前にレジュメを参加者全員に配布し、学会における学術発表と同じ形式でなされる。合格率の極端に低い国家試験に挑戦しようとする参加者については、卒業論文作成についての時間と労力の配分について、相談に応じます。相談に応じるだけの経験と秘訣は持ち合わせております。

## テキスト:

特に指定しない。

## 参考書:

特に指定しない。

## 研究会(4年)

商法研究 教授 宮島 司

## 授業科目の内容:

春学期は3年と共に商法に関する具体的事例の検討を行い、秋学期は卒論の中間報告。

## テキスト:

研究会であるので、テーマに応じてその都度。

## 参考書:

会社法概説(第三版補正第二版)、弘文堂

## 研究会(4年)

教授 山本 爲三郎

## 授業科目の内容:

卒業論文を作成します。テーマは商事法の中から自由選択。会社法、有価証券法に限らず保険法、海商法や金融法でも可。4万字以上を目標に頑張ってください。

## テキスト:

山本爲三郎『会社法の考え方(第5版)』(八千代出版、2005年)

研究会(4年)  
会社法ゼミナール 教授 鈴木 千佳子

## 授業科目の内容:

三年に学習した会社法の知識を基にして、さらに高度な内容の習得を目指す。初めて取り組む卒業論文のテーマの選択から完成までの全ての過程で、指導をおこなってゆく。

## テキスト:

特になし。

## 参考書:

特になし。

研究会(4年)  
商法(手形・小切手法) 教授 島原 宏明

## 授業科目の内容:

前半では手形・小切手法の判例研究を行い、後半では卒業論文の中間発表を行う。

## テキスト:

使用しない。

## 参考書:

開講時に指示する。

研究会(4年)  
商法・国際取引法・法交渉  
法務研究科 教授 山手 正史

## 授業科目の内容:

法解釈学の学習を通じて論理的・原則的思考力を練磨するとともに、法規制の政策論的含意把握を通して社会科学的分析能力の向上を目指す。題材としては、商法総則、会社法、商行為法(国際取引法を含む)に関する判決を取りあげる。ただし、受講生各自の研究の展開によって、保険法、海商法、手形法等に関する判決を取りあげてもよい。要するに、商法に関することであれば「何でもあり」ということである。

報告・討論方式で行う。毎回ひとつの判決を取りあげる。取りあげる判決は、報告者が自ら決定する。報告者は、遅くとも報告の1週間前までに、レジュメを受講生全員に配布しなければならない。報告者以外の受講生も、全員、発言義務を負う。

国際取引法と法交渉についての学習は、主として、毎年秋に行われるインターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション(<http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inc/index.html>, 法学教室 2004年3月号参照)への参加を通して行う。

## テキスト:

報告者が作成したレジュメに基づいて授業を進めるが、別冊ジュリスト『商法(総則・商行為)判例百選〔第4版〕』(有斐閣)および同『会社判例百選〔第6版〕』(有斐閣)は用意しておくこと。

## 参考書:

授業中に随時指示する。

研究会(4年)  
民事訴訟法 教授 坂原 正夫

## 授業科目の内容:

民事訴訟法に関する卒業論文を完成させることができるようにします。卒業論文を執筆するためには、履修者は民事訴訟法に関する問題の中から任意に卒業論文のテーマを選ぶ必要があります。次に履修者はそのテーマに関して事例問題を作成し、問題と解答を授業中に報告しなければなりません。報告内容についての履修者全員の検討と担当者の講評を参考にすることによって、卒業論文の内容が深まるように指導します。

## テキスト:

特に指定しません。

## 参考書:

論文執筆に関する一般的な参考書については、研究会(3年)の最

後の授業で配布した「4年生の研究会要領」に記載されていますので、それを参照してください。

研究会(4年) 教授 三木 浩一

## 授業科目の内容:

民事訴訟法判決手続に関するテーマを各人が選択して卒業論文の作成を行う。夏に中間報告会を行う。

## テキスト:

特に指定しない。

## 参考書:

特に指定しない。

研究会(4年)  
経済法(独占禁止法)・国際経済法(GATT/WTO)  
教授 田村 次朗

## 授業科目の内容:

研究会(3年)の学習内容をふまえて、各自、経済法・国際経済法に関する卒業論文を作成することが基本となる。授業では卒論指導のほか、私のもう1つの専門分野である交渉学を学習する。交渉学は、講義を通じて学ぶものではなく、ロール・プレイを通じて体験的に学習するものである。具体的には、ロール・プレイを学生諸君に体験してもらい、その後のフィードバックを通じて、交渉学の基礎概念やテクニックを学んでもらう。なお、日本の法学教育における交渉学は、いまだ馴染みの浅い領域であるので、学生諸君には、単に交渉学を学ぶという姿勢にとどまらず、交渉学を私と共に作り上げるような積極的な姿勢で参加してほしい。

## テキスト:

授業のなかで適宜指示・配布する。

## 参考書:

授業のなかで適宜指示・配布する。

研究会(4年)  
労働法・社会保障法 助教授 内藤 恵

## 授業科目の内容:

当ゼミナールでは、3・4年生一緒に2コマ(3時間)通して、研究会を行います。3年生は特に、学部における内藤担当の労働法および社会保障法の講義を履修し、それと相互補完的に下記のテーマに関する裁判例および理論研究を行います。毎週1つのテーマにつき2名のリポーターをたて、その報告をきいて、全員参加のディスカッションを進めます。

同時に3年生は、夏休みから11月にかけて学生論文集『法律学研究』に掲載する論文を全員で執筆します。テーマは3年生が自ら選びます。4年生は、春学期は就職活動が終了するまでゼミのリポーターからは外れますが、各々の就職が決まり次第各自ゼミに復帰し、3年生のリポートに対してディスカッションに参加し、同時に卒業論文の作成を進めます。秋学期になると、リポーターは出来る限り3&4年生のペアで行い、それぞれの視点を生かした形で研究を進めます。

9月中旬には、ゼミ合宿を行います。その席上、4年生は卒業論文の中間報告をし、他の4年生あるいは3年生からの質問を受け議論をし、秋学期の卒論作成の参考にします。

## テキスト:

特に指定せず、各テーマに関する参考文献等をそれぞれのテーマに応じて指示します。

但し最低でも、労働法あるいは社会保障法のそれぞれのテーマに応じて、下記から菅野和夫『労働法』あるいは西村健一郎『社会保障法』および、各々の判例百選および六法は持参すること。

## 参考書:

## 労働法

- ・野川忍・野田進・和田肇『労働法の世界(第6版)』(有斐閣, 2005)
- ・西村健一郎・安枝英紳『労働法(第8版)』(有斐閣プリマシリーズ, 2004)
- ・菅野和夫『労働法(第7版)』(弘文堂, 2005)

## 社会保障法

## 法律

・西村健一郎『社会保障法』(有斐閣, 2003)

### 研究会(4年)

ヨーロッパ法史研究 教授 森 征 一

#### 授業科目の内容:

本研究会は、現在ヨーロッパ共通法として形成されつつある EU (欧州連合) 法を視野に入れながら、近代日本法の形成に大きな影響を与えた、12世紀から19世紀にいたるヨーロッパ法の歴史を辿り、ヨーロッパ法文化の本質を理解しようとするものですが、4年では研究をさらに深め、その結果を卒業論文として仕上げてもらおうことが目標です。

#### テキスト:

勝田有恒・森征一・山内進編著『概説 西洋法制史』(ミネルヴァ書房 2004年)

#### 参考書:

その都度、内容に即して参考書を指示する。

### 研究会(4年)

教授 霞 信 彦

#### 授業科目の内容:

三年次における学習や研究を基礎とし、各自が興味をもつ題材を選択して卒業論文の作成をおこなう。研究の進展にともない、随時中間報告を求めその完成をめざす。

### 研究会(4年)

日本近代期の法の歴史・法文化 教授 岩 谷 十 郎

#### 授業科目の内容:

3年次の課題を継続する。最終目標を卒業論文作成に置く。

#### テキスト:

大木雅夫『日本人の法観念』(東大出版会)

#### 参考書:

未定

## 〔系列外〕

### 行政法

講師 田 村 泰 俊

#### 授業科目の内容:

本講義では、行政法の中でも、地方自治法、行政組織法、公務員法を主にその対象とする。この分野は、法科大学院や公務員を志望する者には必須のものであるにもかかわらず、比較的、手薄になりやすい。そこで、行政法の基礎理論を含め、丁寧に進めて行くこととしたい。特に、地方自治法は最近も改正されており、独学では、その把握が困難であると思われるから、上記の進路を志望する者には履修をすすめたい。

#### テキスト:

・宇賀克也『地方自治法概説』(有斐閣)

・塩野 宏『行政法』(有斐閣)

### 国際法

国際法における紛争解決および権利と義務の実現のための手続 講師 青 木 隆

#### 授業科目の内容:

国際法上の多様な手続を考察することによって国際法の理解をいっそう深めることを目的として、平和的解決手続を中心とする国際紛争の解決のための方法を基礎に、他の現代国際法の特徴を示すと考えられる諸局面について講義を行います。

#### テキスト:

教科書として指定する書籍はありません。ただし、受講にあたっては可能な限り条約集を携行してください。

#### 参考書:

上に述べた条約集の解説とともに初回講義において説明を行います。

また、授業内容の理解を深めるのに役立つ文献は、そのつど紹介します。

### 担保法

担保法 実体法と手続法の交錯 判例研究  
(共同担当) 教授 齋 藤 和 夫  
(共同担当) 講師 花 房 博 文

#### 授業科目の内容:

- 1) 民法判例百選 (ジュリスト増刊)・担保法の判例 (ジュリスト増刊)・清水=高木編・「担保・保証」・有斐閣:1988年を教材として、レポーター形式(演習形式)(判例研究)でおこないます。研究会(齋藤)履修者の場合には、ゼミナールのスケジュールの一環を成すものとなります。前年度のスケジュールの継続となりますので、4年ゼミ員も履修申告のこと。
- 2) また、今年度のポイントとして、民法典の担保物権編や人的担保、執行法や倒産法との関連なども、重点的に考察する予定です。
- 3) 大学院法学研究科(研究大学院)への進学希望者(ゼミ履修者)には、個別研究指導や相談により対応します。

#### テキスト:

特に指定しません。

#### 参考書:

講義の進行にあわせて、随時、指示します。

### 商 法

保険法 教授 島 原 宏 明

#### 授業科目の内容:

一般に、人の経済生活に関する法律制度は、経済制度を形成・維持するための手段たる形式であるから、経済制度と法形式が内容上異なるということは考えにくい。ところが、保険制度にあつては、経済制度としては保険団体を要素とするものでありながら、法律制度としては保険契約の当事者間の契約のみが問題されるというように、同一の取引について、経済制度と法律制度とでとらえる側面がまったく異なるという特殊性がみられる。こうした特殊性を念頭に置くとき、個々の被保険者と保険者との間の権利・義務がいかなる内容をもつことになるのであろうか。さらにまた、保険制度の発展・変革は、保険者と保険契約者との対等性を喪失させるが、その復権がいかなるべきであるか。こうしたことを意識しながら、保険法に関する一般講義を行う。

#### テキスト:

使用しない。

#### 参考書:

倉沢康一郎『保険法通論』三嶺書房

### 民事訴訟法

の残り、複雑訴訟・上訴・再審、民事執行法概要  
教授 坂 原 正 夫

#### 授業科目の内容:

本講義が担当する領域は、民事訴訟法(判決手続法)では「複雑訴訟(複数請求訴訟と多数当事者訴訟)」と「上訴(控訴, 上告, 抗告)・再審」です。さらに「民事執行法」も担当領域に入っています。しかし、授業では、先ず昨年度の私の民事訴訟法 で、講義できなかったもので重要なものについて取り上げます。その次に上記の担当領域について講義しますが、民事執行法については、簡単な解説にとどめます。

このように本講義では民事訴訟法 との連続性を考えています。すなわち本授業は前年度の民事訴訟法 の履修者が本授業を履修することによって、民事訴訟法(判決手続法)の全領域に関して基本的な知識を修得し、それぞれの制度を十分に理解することができることを目標としています。なお昨年度に民事訴訟法 を履修したことを本授業の履修の条件にはしませんが、授業は民事訴訟法の基本的な知識(民事訴訟法 を履修すれば修得するであろう知識)を有していることを前提に行います。

最後に、民事執行法について一言説明します。民事執行法は、主に強制執行を規律する法律です。強制執行とは、私法上の請求権(給

付義務)の強制的満足を目的にする制度です。すなわち、強制執行は請求権の内容に従い、関係者の利害の現実的な調整をはかりつつ、法の妥当性を究極的に確保する機能を担っています。それは正に権利の実効性を支えるものです。いわば実体法と訴訟法を支え、統合している分野です。授業では強制執行手続の概要を述べながら、民事執行法と実体法や民事訴訟法(判決手続法)との関係について考察し、そこで発生する諸問題について、理論的な解答を探究してみようと考えています。

なお民事訴訟法(判決手続法)については既に昨年度講義しましたし、昨年度の講義要綱でも述べましたので、その説明は省略します。テキスト:

昨年度、民事訴訟法 で使用した池田辰夫編『新現代民事訴訟法入門』(法律文化社)をそのまま使用します。最新の法改正に伴うテキストの記述の修正は、授業中に適宜指示します。民事執行法については、特に指定しません。

参考書:

ここ数年、毎年関係する法律が改正されています。したがって参考書を利用する場合、改正法を織り込んだ最新のものを利用すべきです。しかし、それはそうでない参考書は法の改正によって価値がなくなったということではありません。改正に関係ない箇所や理論的な問題については、十分利用できるからです。ただ利用するに際して、当該事項が改正法に関係しているか否かを考えたいので、利用する必要があります。

なお以下の参考書の一覧は平成17年11月1日現在に作成したものです。平成18年4月には、 においては、かなりの本で新しい版が出版されると思われます。

民事訴訟法の一般的な参考書(五十音順)

- 伊藤眞『民事訴訟法〔第3版補訂版〕』(有斐閣,05年)
- 上田徹一郎『民事訴訟法〔第4版〕』(法学書院,04年)
- 新堂幸司『新民事訴訟法〔第3版補訂版〕』(弘文堂,05年)
- 高橋宏志『重点講義 民事訴訟法〔上〕』(有斐閣,05年)
- 高橋宏志『重点講義 民事訴訟法〔下〕』(有斐閣,04年)
- 中野貞一郎ほか編『新民事訴訟法講義(第2版)』(有斐閣,05年)
- 松本博之=上野泰男『民事訴訟法〔第4版〕』(弘文堂,05年)

民事訴訟法の判例を知るための参考書

- 伊藤眞ほか編『民事訴訟法判例百選 [第3版]』(=別冊ジュリスト169号,有斐閣,03年)

民事訴訟法の論点を整理するための参考書

- 青山善充ほか編『民事訴訟法の争点(第3版)』(有斐閣,98年)

民事訴訟法に関する辞典

- 林屋礼二ほか編『民事訴訟法辞典』(信山社,00年)

民事執行法についての詳細な参考書

- 中野貞一郎『民事執行法〔新訂4版〕』(青林書院,00年)

## 破産法

破産法・民事再生法を中心とした倒産法の基礎理論の理解  
法務研究科 教授 三上 威彦

授業科目の内容:

ある企業ないし個人が倒産した場合、絶対的に不足する債務者の財産をめぐって債権者の利害は鋭く対立する。この倒産という現象を、可能な限り平和的に解決するためには、関係人の利害を調整しつつこれら債権者の公平な満足を図ると共に、もし可能ならば、債務者の経済的な再出発をも可能にするような法制度が是非とも必要になる。本授業では、このような倒産法制度の基礎理論を講義する。

授業では、会社更生法や民事再生法などが国における現行の倒産法制にも言及するが、破産法を中心に講義をすることになる。なぜならば、破産法は、我が国倒産法制の中でもっとも基本的なものであり、各倒産法制は、多かれ少なかれ、破産法の基礎概念の上に構築されているといっても過言ではない。よって、わが国倒産法制を理解するためには、破産法の基礎概念の理解が不可欠であり、逆に言えば、破産法が理解できれば、他の倒産法制の理解も格段に容易になると考えるからである。

講義にあたっては、初学者を対象に、破産手続の基本的な流れを十分に理解してもらうために、基本的な事項を中心として手続の初めから終わりまでまんべんなく触れるつもりである。

テキスト:

テキストは用いず、講義レジュメを配布するが、サブテキストとして、青山善充=伊藤眞=松下淳一編『倒産判例百選〔第三版〕』(別冊ジュリスト No.163)有斐閣を適宜使用する。なお、詳しい文献紹介は最初の授業の時に進行。

参考書:

- ・伊藤眞『破産法(第4版)』有斐閣
- ・山本和彦『倒産処理法入門(第2版)』有斐閣
- ・加藤哲夫『破産法〔第四版〕』弘文堂

国際私法

講師 横山 潤

授業科目の内容:

私人間の法律関係が国境を越えて生起する場合、いかなる問題が発生するかを説明する。その後、法的安定性の観点からは、各国の法の内容を統一することが望ましいけれども、統一法条約が成功した例は少なく、各国の法の抵触は避けがたいこと、そして、少くとも当事者の予測可能性を確保しなければならないことを解説する。法的安定性および当事者の予見可能性の観点から、問題となっている法律関係に最も密接に関連する地の法を適用することが原則として必要であることを説く。

テキスト:

なし。事前配布する。

参考書:

なし。

国際取引法(秋学期)

教授 西川 理恵子

授業科目の内容:

国境を越える関係の中でも、商取引関係が我々の生活に与える影響は大きい。本講では活発化する商事の国際活動に焦点をあて、人、物、金銭の動きをめぐる法律問題を概観する予定である。

テキスト:

開講時に指定。

参考書:

開講時に指定。

犯罪学

犯罪原因論と刑事政策論の統合科学的研究について

(共同担当)教授 加藤 久雄

(共同担当)講師 守山 正

授業科目の内容:

今年度は、加藤が主催する科研費「性犯罪者の総合的検討」の研究グループのメンバーである守山教授と共同担当する。守山教授は、犯罪社会学を得意領域にしておられるので、犯罪原因論では、犯罪社会学の側面からのアプローチ、そして、加藤は、犯罪生物学的側面からのアプローチに基づく講義にしたい。また、今日では、犯罪学・刑事政策学の対象領域は拡大化しつつあり、とくに欧米では、犯罪・犯罪者の問題にとどまらず、被害者、地域社会のあり方、さらには、その法的対応にまで言及して、総合科学の一領域であると考えられている。しかし、他の関連科目との関係から、本講義では、できる限り事実的視点に依拠して、犯罪・非行という「まなの実事」を種々の角度から考察し、犯罪・非行の人的、社会的、文化的意味を考究する。

講義では、内容は基本的にはプロジェクター画面に表示し、必要であれば、ビデオ・DVD等を教材として活用する。

われわれ二人は、科研費の共同研究者であり、17年も「重大性犯罪者の処遇と社会復帰」という名で国際会議を開催して大きな成果をあげた。特に、本年度前期では、この研究成果を踏まえて、「性犯罪」に関する犯罪学的・刑事政策的・国際的なダイナミックな講義にしていきたい。後期では、組織犯罪、テロ犯罪、経済犯罪、環境犯罪、医事犯罪、少年犯罪、などのテーマを中心に論じていく。

テキスト:

- ・加藤久雄『人格障害犯罪者と社会治療』(成文堂・2003年)
- ・守山 正著『新・犯罪学講義ノート』(成文堂,2005年)

## 法律

参考書：

加藤久雄『ポストゲノム社会における医事刑法入門』(東京法令出版, 2005年)

### 被害者学

被害者基礎理論と被害者支援論 教授 太田 達也

授業科目の内容：

被害者学は、被害者化と呼ばれる犯罪被害の発生過程と要因を実証的に研究する基礎理論と、そうした研究成果をも踏まえ、犯罪被害者に対する支援や刑事手続における地位の在り方、更には効果的な被害予防を検討する被害者支援論とも言うべき分野に大別される。

被害者学は第二次世界大戦後に提起された新しい学問分野であるが、歴史的には、犯罪の発生過程における犯罪者と被害者の関係や犯罪被害の受けやすさ(被害受容性)といった被害者化の過程に関する研究に始まり、1960年代以降は、犯罪被害者に対する国家補償制度、1970年代以降は被害者に対する危機介入などの直接支援、更に1980年代以降は、被害者の権利や刑事手続における被害者の地位に関する研究へと発展してきている。また、犯罪者が被害者やコミュニティに与えた「損害」の内容を犯罪者自身に正しく認識させ、その「損害」の「回復」に向けた適切で可能な限りの努力を営ませることによって犯罪という「紛争」の真の「解決」ないし「終結」を目指すことを司法の基本理念とする修復的司法の理念に基づく様々制度が世界各地で導入されるに至り、被害者の立場にも大きな影響を与えると同時に、被害者支援の見地からあるべき姿の模索が続けられている。

我が国でも、遅ればせながら、1980年に犯罪被害者等給付金支給法(2001年の改正で法律の名称が改正されている)が制定され、公的な財源による犯罪被害者への給付金制度が創設され、その後の空白期間を経て、1996年に警察庁が被害者対策要綱を制定してからは、犯罪被害者に対する保護や支援の制度が実務レベルで改善されるとともに、刑事訴訟法一部改正、いわゆる犯罪被害者保護法、児童虐待防止法、配偶者暴力防止法、ストーカー行為規制法、少年法一部改正などの立法も実現している。

本講義では、被害者学の創設期に提唱された基礎的な理論を紹介した上で、各種犯罪被害の状況や要因について概説し、後期には、犯罪被害者に対する経済的支援、被害者の保護・二次被害の防止、被害者への情報提供、被害者の刑事手続における地位と関与、修復的司法などについて講義する。

テキスト：

特に指定しないが、下記の参考書を参考にされたい。

参考書：

講義毎に適宜紹介するが、概ね、以下のものが参考になる。

- ・諸澤英道『新版被害者学入門』(2001年,成文堂)
- ・小西聖子『犯罪被害者の心の傷』(1996年,白水社)
- ・宮澤浩一=田口守一=高橋剛夫『犯罪被害者の研究』(1996年,成文堂)
- ・宮澤浩一=國松孝次監修『講座被害者支援』全5巻(2000年,成文堂)
- ・松尾浩也編著『逐条解説・犯罪被害者保護二法』ジュリストブック(2001年,有斐閣)

さらに、日本被害者学会の学会誌『被害者学研究』に多くの論文が掲載されている。

法制史 (日本)(春学期) 教授 霞 信彦

授業科目の内容：

法律学という学問に取り組み、これから長い期間にわたり法との関わりをもつであろう学生諸君にとって、『歴史』のあなたにあるわが国の法の変遷を承知することは、法に対する知見を広げ、現行法理解に向けて豊かな基礎力を涵養するために、有効な手段のひとつであると考え。そこで本講義では、中世の日本法の一つについて述べることを予定している。すなわち、武士の台頭と切り離すことのできない鎌倉時代という時代が、一体どの様な時代であったかを考えながら、武家社会の法として著名な「貞永式目」の編纂経緯や内容、鎌倉幕府のもとでおこなわれた裁判制度にもふれてみたい。続いて、室町時代開幕期に定められた「建武式目」の性格づけを論じ、さらに、戦国大名が領国経営のために制定した戦国家法を取りあげ、その特徴に言及するつもりである。

テキスト：

霞・漆原・浜野「日本法制史史料集」(慶應義塾大学出版会)

参考書：

講義において必要に応じて指摘する

法制史 (日本)(秋学期) 教授 霞 信彦

授業科目の内容：

法律学という学問に取り組み、これから長い期間にわたり法との関わりをもつであろう学生諸君にとって、『歴史』のあなたにあるわが国の法の変遷を承知することは、法に対する知見を広げ、現行法理解に向けて豊かな基礎力を涵養するために、有効な手段のひとつであると考え。そこで本講義では、近世の日本法の一つについて述べることを予定している。まず初めに、約260年の長きにわたり徳川幕府により統治された江戸時代について概観しつつ、同時代の「法」の全体的な構造について述べてみたいと思う。そうして得られた基礎知識を前提に、初代家康以来時代とともに変わりゆく、幕府と大名との支配関係を詳らかにする「武家諸法度」の内容にふれるつもりである。さらに幕府が直接支配する地域におこなった「公事方御定書」の編纂・性格・具体的内容を明らかにしたい。さらには、TV・映画・演劇で日本人の血をわかせる時代劇の世界へも目を向け、当時の刑事罰や警察活動(いわゆる「捕物」の世界である)、併せて刑事裁判の史実現実にも迫りたいと考えている。

テキスト：

霞・漆原・浜野「日本法制史史料集」(慶應義塾大学出版会)

参考書：

講義において必要に応じて指摘する

法制史 (日本)(春学期)  
明治時代以降の日本法の近代化過程を論点的に考察する  
教授 岩谷 十郎

授業科目の内容：

まず講義前半部分では、法の歴史を問う現代的な視点を明らかにするために、現代に生ずる様々な訴訟事件を法的に解決するにあたって、優れて歴史解的センスが要求された問題を取り上げ、それらを通して、法史の上で現在と過去をつなぐ論点を確認する。さらに、析出された具体的な論点を歴史に問う手段として、とくに訴訟関係資料を中心とした資料論を提示し、近代日本法の歴史を学ぶ基本的な道具立てを紹介する。

後半では、近代日本法を形成する主要法典の編纂過程を概観する。諸法典が制定されてゆく経過を、我が国の近代法の描く国家と法のグランドデザインの形成過程としてとらえつつ、講義を進めてゆきたい。

また、これまで「日本人の法意識」が具体的に論じられる素材として、日本人の訴訟忌避行動についての分析が、現在、様々な角度から法社会学的に進められている。本講義では、歴史学的視点からこの問題を吟味するために、我が国の近世における民事訴訟システムのあり方と近代期のそれとの比較を行い、両者間の連続と断絶を見極め、日本人の法意識を形成する歴史的な要因を考えてみることも行いたい。

なお本講義は、秋学期に開講される「法制史演習」(岩谷・出口担当)に内容的に接続するものである。双方の履修が望ましいことを付記しておく。

テキスト：

特に指定はしない。

参考書：

- ・川口由彦著『日本近代法制史 新法学ライブラリ29』(新世社・1998年)
- ・山中永之佑編『新・日本近代法論』(法律文化社・2002年)
- ・同編『日本近代法案内』(法律文化社・2003年)
- ・同著『民事裁判の法史学』(法律文化社・2005年)

法制史(東洋)  
法文化の歩み 講師 堀 毅

授業科目の内容：

21世紀は国際化の時代といわれている。欧州では経済的な統合が

進められ、日米に対抗する第三極を構成している。

一方、アジア地域では、多様な言語・異質な文化などの他、経済的な格差が大きく、経済的な統合や自由化は遠い将来の事である、といわれている。

アジアを概観すると、東アジア・東南アジア・南アジア・西アジアに大別されるが、講義は中国を主軸とする東アジアの法を中心に進める。

また、近年、イスラム圏に対しても大きな関心が寄せられているので、メソポタミアにおける法文化についても言及したい。

参考書：

授業時に提示

#### 法制史(西洋)

ローマ法とヨーロッパ法史

講師 村上 裕

授業科目の内容：

ヨーロッパ法の基礎であるローマ法の特質と、中世から近代にかけての法発展のアウトラインを捉えることを目的にして、内容は以下のような2部構成とします。

第1部は、共和政からユスティニアヌス法典の成立に至るまでのローマ法史を概観し、ローマ人の現実主義的な特質が法思考・法制度にどのように現れているかを、民事訴訟制度の展開などを採り上げて示していきます。

第2部は、ドイツを中心に中世から近代までの法の流れを辿っていきます。中世における非学問的な法からローマ法の継受をへて近代の体系的・論理的構築物としての法へと進んでいく際の現実的契機と、ヨーロッパに普遍的な要素と特殊ドイツ的な面の対比を軸として、ヨーロッパ法史における諸々の時代的局をクローズアップしていきたいと思っています。

テキスト：

特に指定しません。講義資料は私のホームページからダウンロードできるようにします。URLやパスワードについては授業時に指示します。

参考書：

概説『西洋法制史』(勝田有恒・森征一・山内進編著)ミネルヴァ書房

#### 法医学(秋学期集中)

犯罪・事故の実態、解明と予防を目指して

医学部 教授 藤田 眞 幸

授業科目の内容：

日常診療の中で、医師は患者を治療するために診断を行っています。法医学者が行う診断は、紛争の解決を目的とするものです。例えば、交通事故で2台の車が関与したような場合、外傷がどちらの車によるものかということは、治療上は、どうでもよいことですが、紛争という点からは、最も重要になってきます。講義では、犯罪や事故、突然死などについて、臨床医学的な視点だけでなく、このような法医学的な視点から解説していきます。また、皆さんからは、法学部生でなければ気づかないような疑問点や問題点について積極的に意見を述べていただき、皆さんとともに法医学の世界を広げていきたいと思っています。

テキスト：

必要に応じてプリントを配布する予定。

・法医学(改訂第4版)(金芳堂)

参考書：

・エッセンシャル法医学(医歯薬出版)

#### 租税法

21世紀にふさわしい税制の構築に向けて 法人税制を中心に  
助教授 吉村典久

授業科目の内容：

租税法は総合科学です。したがって法学方法のみならず、経済学的アプローチも駆使します。今年度の授業の重心は、所得税・法人税・消費税です。日本の財政赤字が拡大し、歳入の柱であるこれらの租税の重要性は高まることであっても、減じることはありません。21世紀の税制を皆さんとともに考えていきましょう。

テキスト：

岸田貞夫・矢内一好・柳裕治・吉村典久『現代税法の基礎知識』ぎょうせい

又は 清水敬次『税法』ミネルヴァ書房

参考書：

金子宏『租税法』弘文堂、『小六法』有斐閣、『実務税法六法(法令編)』新日本法規出版

#### 国際租税法

講師 赤松 晃

授業科目の内容：

経済のグローバル化は、国際租税に関する基本的理解を抜きにしてビジネスプランを語れない状況をもたらしています。すなわち国際的事業活動の経営判断に当たっては租税コストの予見可能性は極めて重要です。したがって現実のビジネスでは、租税法の適用を踏まえて経営判断がなされています。このように国際租税法は、今や国際ビジネスパーソン必修の知識となっています。

本講義は国際ビジネスに興味のある学生の履修を歓迎します。したがって、租税法についての専門的知識が無くとも興味をもって積極的に講義に参加できるように新聞等で報道された具体的事例を素材として行います。国際節税商品、恒久的施設(P.E.)認定課税、タックス・ヘイブン対策税制、外国税額控除、国際金融取引に係る源泉所得税、移転価格課税、国際M&A、新日米租税条約などに関する新聞報道を通じて、国際租税原則、国内租税法と租税条約の適用関係、税務調査の実際、国際的二次課税の排除のための制度とその運用の実際についてのトータルな理解を得ることにより、国際租税法についての基本的な力を身につけることを目的としています。

テキスト：

- ・テキストは特に指定しません。次の資料を含む講義資料プリントを配布します。
- ・赤松晃「恒久的施設(Permanent Establishment)の認定課税とOECDモデル租税条約コメントリーの進展」ジュリスト2004.9.1
- ・赤松晃「徴収法の国際的側面 徴収共助に係るOECDモデル租税条約の進展とわが国の方向」租税法研究33号(2005)
- ・赤松晃「外国税額控除制度における控除限度額管理の再検討 日米新租税条約と我が国の方向」租税研究2005・9
- ・赤松晃「米国LLCの外国法人該当性」租税判例百選(4版)別冊ジュリスト178号(2005年10月)

税制調査会に財務省が提出した次の資料が参考となります。

- ・「基礎問題小委員会」第2回(平成15年11月17日開催)日米新租税条約
- ・「基礎問題小委員会」第19回(平成12年4月25日開催)国際課税  
<http://www.mof.go.jp/singikai/zeicho/top.htm>(議事録・提出資料)
- ・国税庁パンフレット「非居住者または外国人に支払う所得の源泉徴収事務」も参照します。

<http://www.nta.go.jp/category/pamph/gensen/4135/10/01.htm>

参考書：

水野忠恒『租税法(2版)』有斐閣

#### 海洋法

名誉教授 栗林 忠 男

授業科目の内容：

近年の国際海洋法秩序は、200海里の排他的経済水域(EEZ)の導入に見られるように、大きな変動期を迎えている。この講義では、第三次国連海洋法会議(1973-82年)により採択された「海洋法に関する国際連合条約」(国連海洋法条約、1994年発効)に包括的に規定された国際海洋法の諸原則・規制を中心に、海洋法の諸問題を講義する。その中心的テーマは新しい海洋法秩序の現代的諸相である。日本をめぐる海洋法の諸問題にも随時触れる。

テキスト：

特に指定せず、毎回授業のはじめにレジュメを配布する。関連参考書は適宜紹介する。

医事法	(共同担当) 教授 加藤 久雄
医事刑法	(共同担当) 客員教授 児玉 安司

## 授業科目の内容：

ポストゲノムの時代に突入し、医療をめぐる法律問題は益々複雑になってきている。また、「医事法」は、言うまでもなく、「医療」をめぐる法律問題を幅広く扱うばかりではなく、遺伝子組換え、遺伝子治療、染色体異常、脳死、臓器移植（生体間移植、異種移植も含む）、安楽死と尊厳死、人工授精（リプロダクション）、初期胚の保護、ガンの告知、エイズ問題、インフォームド・コンセントの問題、医学・医療上の人体実験、医療現場における安全対策、解法精神障害者の処遇など「法と医の倫理」の問題をも広くストライク・ゾーンとしている最も今日的な法学の研究領域である。

これらのテーマについて、具体的判例を検討する。そして、医事法で扱うテーマでは、たとえば1997年10月施行された「臓器移植法」の成立過程で明らかになったように、高額医療に対する保険や厚生行政の問題、脳死を「人の死」とするかどうかで「生命倫理」の問題、早すぎる臓器摘出に伴う、刑法上、民法上の諸問題、ドナー不足と生体間移植の問題などについて法学のみならず政治学、生命倫理学、社会学、行政学、法制度論、医学、情報処理学などからの解決が必要である。

担当者加藤は、医事刑法をその主たる専門領域としているので、英米法と民事法に関する医事法のテーマに関連する他の専門領域に関しては共同担当者の児玉安司客員教授（弁護士・ニューヨーク州弁護士）に第一線の実務家の立場から具体的事例を中心に、またテーマによりゲストの講師による幅広い、ダイナミックな講義を予定している。そして、今年は、科研費最後の年なので、国際会議も二度ほど開催し、医事法関係のシンポジウムも企画している。受講生の皆さんにも大勢参加してもらいたいと考えています。

## テキスト：

加藤久雄『ポストゲノム社会における医事刑法入門』（東京法令出版・2005年新訂（修正）版）

知的財産法	助教授 君嶋 祐子
-------	-----------

## 授業科目の内容：

知的財産法とはどのような法分野かということを紹介した上、代表的な創作保護法である特許法と著作権法の2分野について、概要を講義する。

知的財産法は、無体物の財産的利用を中心に定めた法の総称である。有体物についての物件法のように、無体物を一定の範囲で排他的に利用できる権利の変動について定めた法や、不法行為法の特別法として位置づけられる不正競争法のうち、無体物の利用に関する行為類型について定めた法を含めて呼ぶことが多い。

また、知的財産法の分野では、特許権のように、出願・審査等の手続を経て、登録によって権利が発生するものがあり、立法により詳細な手続が定められている。

さらに、発生した知的財産権の客体は無体物なので、権利の客体的解釈や、その権利を侵害する行為かどうかの解釈、損害額の算定には、有体物に対する権利侵害とは比べて労力を要することが多い。

そのため、「知的財産法」の一言でカバーされる法分野は、客体的種類の多様さと解釈の難しさという点で、また、法令が財産法、手続法全般にわたる規定を設けているという点で、広分野にわたる。

本講義では、まず、春学期に、そのような法分野全体を紹介した上で、技術的思想である発明を保護対象とし、詳細な出願・審査・審判手続を設けている特許法について、概要を講義する。秋学期には、創作的表現を保護し、格別の手続を要することなく創作行為によって発生する著作権法について、概要を講義する。

## テキスト：

テキストは指定しないが、各自、初回授業で指定する法令の条文全文を持参すること。

## 参考書：

初回に指示する。

裁判法	わが国の裁判所と法律家と裁判手続
	法務研究科 教授 三上 威彦

## 授業科目の内容：

本講義は、紛争解決手段の中心的役割を担っている裁判につき、裁判はどのような組織によってなされるのか（裁判所制度）、裁判はどのような人々によって運営されているのか（法律家）、裁判はどのようなルールに基づいて行われるのか（裁判手続）といった3つの柱を中心にして講義を進める。それによって、受講生に、わが国の裁判制度ないし紛争解決制度について具体的なイメージをもってもらうことを目的とする。講義に当たっては、それぞれの現状を説明するのはもちろん、それぞれが直面している課題その克服のための努力についても話をしたいと考えている。

## テキスト：

とくに指定せず、講義レジュメを配布する。

## 参考書：

講義の進行に伴い、兼子一・竹下守夫（著）『裁判法〔第4版2刷（補訂）〕』（有斐閣）、市川正人・酒巻匡・山本和彦（著）『現代の裁判〔第3版〕』（有斐閣アルマ（有斐閣）、および小島武司（編）『ブリッジブック裁判法』（信山社）等を適宜参照されたい。

## 社会保障法

労働者の生活を支える社会保険と高齢者に関する政策を学ぶ  
助教授 内藤 恵

## 授業科目の内容：

社会保障法とは、社会法の範疇において、個人の幸福追求権をどのように実現するかを考える領域です。対象範囲がきわめて広く、また「社会保障」という概念自体が定説を持ちません。大別すれば社会保険と社会福祉の二つの領域に分けられる広い分野の法的問題を研究対象とします。

そこで当講義で具体的に取り上げる領域としては、まず社会保障法総論をお話ししたあと、労働法と呼応する形で、労働者がその人生の中で様々な関わる社会保険（雇用保険、労働災害補償保険、年金保険、医療保険、介護保険）を中心に講義をします。

続いて秋学期中頃から社会福祉の領域に入り、特に高齢者福祉の問題を取り上げます。医療・福祉・介護といった、縦割りの領域としては三つの法分野にまたがる問題点を、多角的に講義します。これは上述の介護保険と関連させて理解しなければならない領域です。後期の最後の講義では、地方分権という流れの中で、地方公共団体の役割と財政の問題に触れて全体を締めくくります。

なお、労働法と社会保障法は相互補完的領域ですので、内藤担当の労働法（E系列）を既に履修したか、履修中であることが望ましいと考えます。

## テキスト：

テキストは指定せず、毎回Webに講義資料プリントをアップロードします。

ただし法学部のホームページの特性からパスワードの設定が出来ないので、URLは初回講義の中でお話しします。なお講義には、六法と下記の二冊を必ず携行してください。

- ・別冊ジュリスト・社会保障判例百選〔第三版〕（有斐閣、2000）
- ・岩村・菊池・編『目で見える社会保障教材〔第三版〕』（有斐閣、2004）

## 参考書：

- ・西村健一郎『社会保障法』（有斐閣、2003）

法とコンピュータ	講師 吉野 一
----------	---------

## 授業科目の内容：

コンピュータを応用して、事例問題を法的により適切に解決する方法を学ぶ。法学をよく学ぶためにも、法的実務でよい働きをするためにも、知識情報処理の理論と技術を習得することが有効である。本講義・演習は事例問題から出発し、その問題を解決するために必要な知識と技術を身に付けるというアプローチをとる。事例問題は国際産産売買の事例で、手紙やファクス等の事実資料からなる。

入門事例は8頁、応用事例は30頁程度の資料からなる。この事例問題を解くためにいかなる法的知識が必要か、その知識はどのような内容と構造を有するか、そしてそれがいかにして獲得されるかを、知識情報処理の理論と技術を習得しながら、それをういて、学んでいく。知識情報処理の理論と技術は、人工知能に伴って発達した。法的知識の知識情報処理の理論と技術は法律人工知能研究に伴って発達している。本講義・演習は、法律人工知能の基礎理論と技術を修得し、それを応用する。法律人工知能は、相談事例を入力すると、法的推論を行い、法的判断を出力するシステムである。それはまた法的推論過程や法の構造を分かりやすく示してくれる。法律人工知能は、法的知識を構造化してコンピュータに登載することによって実現される。本講義・実習では、契約法の実例問題を解くための法的知識と法的推論の構造を分析し、コンピュータ上に実装する。受講者が自分自身の一つの法的推論システムを実現し、それを応用して事例問題の解決を論証し、論争する能力を身につけることが最終目標である。

テキスト：

吉野一（編著）『法律人工知能』（創成社）

教材は、適宜授業において提示するとともに、事前に Web 上で公開する予定である。

参考書：

- ・吉野一（編著）『法律エキスパートシステムの基礎』（ぎょうせい）
- ・加賀山茂・松浦好治『法情報学』（有斐閣）

## 環境法

法はどのようにして環境を破壊から守ろうとしているのか

法務研究科 教授 六車 明

授業科目の内容：

受講者が環境法の全体像を1年間でとらえることができるようになることを目標に講義を進めます。環境問題は、さまざまな分野にわたって発生しています。なかには、私たち自身が被害者であるとともに加害者であったり、私たちの世代だけでなく、次の世代にまで影響を及ぼし、あるいは国内にとどまらず、地球全体に影響を及ぼす問題もあります。環境法の対象もますます広がってきています。法はどのようにして環境を破壊から守り、後の世代によりよい環境を残そうとしているのであろうか、ということを考えてながら進めていきます。

テキスト：

プリントを配る予定です。

参考書：

- ・大塚 直「環境法」有斐閣、2002年（2006年4月までには改訂版が出る予定）
- ・交吉直史・白杵知史・前田陽一・黒川哲志「環境法入門」有斐閣、2005年

## 証券取引法

証券の発行および取引等についての学習

教授 並木 和夫

授業科目の内容：

並木和夫著、証券取引法（中央経済社）に基づいて研究を行う。

テキスト：

並木和夫著、証券取引法（中央経済社）

参考書：

- ・並木和夫、会社法・証券取引法の研究（中央経済）
- ・堀口巨、最新証券取引法（商事法務）・ハンドブック証券取引法（勤草書房）
- ・河本＝大武、証券取引法読本（有斐閣）
- ・近藤光男他、証券取引法入門（商事法務）

## 政策と法

政策の形成、執行、評価およびこれらの統制に関する

法制度とその実態 講師 有川 博

授業科目の内容：

国および地方公共団体における政策の立案・形成、執行、その評価、そして次の政策形成へのフィードバックへと至る、いわゆる政

策過程全体を視野に入れながら、その中で行政が適正に遂行され、効果的・効率的に行政目的を実現できるようにするために、どのようなコントロールが法制度として用意されているか（そして、それが近年どのようなスタイルに変容しているか）を学ぶとともに、各政策過程における失敗事例を検証しながら、それら法制度の実態についてもあわせて学ぶ。

テキスト：

拙著『有効性の検査の展開 政策評価との交錯』

上記のほか、講義要旨プリントおよび講義資料プリントを作成、配布します。

参考書：

講義項目ごとに配布するプリントの中で紹介します。

## 法と経済（秋学期）

市場経済社会における法・政策

産業研究所 助教授 石岡 克俊

授業科目の内容：

かつて、経済法の講義は総論と各論の二つの部分により構成され、前者においては経済法の一般理論が、後者においては独占禁止法を中心とした実定経済法の解釈論が、それぞれ講じられていた。しかし、このところの実定経済法 とりわけ独占禁止法 の理論の進展、判・審決例の集積、行政ガイドラインの定着などを受け、経済法の講義は実定経済法の中心である独占禁止法の説明に多くの時間を費やさざるを得なくなった。このため、慶應義塾において伝統的に行われてきた経済法・総論の内容が十分に論じられることがないまま、ここ数年、経済法＝独占禁止法という枠組みの中で講義が展開され、総論的内容はおろそかにされる傾向があった。このような状況に対処すべく、設置されたのが本科目「法と経済」である。

したがって、本講義では、まず経済法の一般理論を、その発生・成立の経緯から戦前戦後にわたる学説の展開に至るまでを、伝統的かつオーソドックスな手法で解説を試み、経済法理論の現段階を明らかにしていく。

わが国は、戦後において経済制度の転換を経験しつつも、現在までに大きな経済的成功をわがものとしてきた。この経済的発展には、数多くの実定経済法とそれに基づく具体的な経済政策とが深く関わってきたといえる。しかしながら、これらの実定経済法の統一的ないし体系的把握は、現在に至るまで、必ずしも充分になされてきたとはいえない。わが国における経済法の本質的把握には、市場や経済に対し、国・公権力が、法を媒介として、どのように介入・関与しているのかをつぶさに検証していかなければならない。また、その評価には一定の理論というフィルターが必要となる。そこで、ここではいまだ試論の域を出ないが、現代における市場経済体制を基盤とした経済法理論の構築を目指しつつ、実定経済法の統一的・体系的把握を試みていくことにしたい。

テキスト：

講義全体をカバーする適当な教科書はないため、特に指定しない。本講義の構想と併せて簡単な文献紹介は講義初回に行う。

参考書：

テキスト同様、特に指定しないが、内容との関係で有意義と認められるものについては、講義中にその都度紹介する。また、経済法の一般理論についての参考文献については若干古いものもあわせていくつか指摘しておくことにする。

- ・正田彬『経済法講義』（日本評論社・1999年）
- ・正田彬＝金井貫嗣＝畠山武道＝藤原淳一郎『現代経済法講座第1巻・現代経済社会と法』（三省堂・1990年）
- ・丹宗暁信＝伊従寛『経済法総論』（青林書院・1999年）
- ・丹宗暁信＝厚谷襄児編『現代経済法入門』（法律文化社・1981年）：新版が1999年に刊行されているが、ここではあえて旧版をあげておく。
- ・金沢良雄『経済法』（有斐閣・新版・1980年）
- ・峯村光郎『経済法の基本問題』（慶應通信・1959年）

## 法思想史

法と国家に関する諸理論の史的考察

講師 國分典子

## 授業科目の内容：

「法思想史」は、「法」「思想」「史」の三つの要素をもつために、とすれば「法学」から逸脱した感も与える幅広い学問領域です。しかし、一方で、「思想的」「史的」考察の基礎づけなくして「法」は語れません。

ここでは、正義の概念、法と国家の関係を中心に、西洋法思想の発展過程を考察し、それが現代の法理論状況とどう関わっているかを考えてゆきます。

春学期は総論と古代から近代まで、秋学期は近代以降を中心に、アジアにおける西洋法受容の問題も扱う予定です。

## テキスト：

授業内容のレジュメをプリントしてそのつど、配布します。

## 参考書：

田中成明他『法思想史』(有斐閣Sシリーズ)

## 国際宇宙法(秋学期) 総合政策学部 教授 青木節子

## 授業科目の内容：

国際宇宙公法を中心に、宇宙活動を律する私法についても学習する。半期の受講により、現在の宇宙法の全体像を把握することが講義の目的である。

## テキスト：

国際法学会編『陸・空・宇宙』(三省堂, 2001年)

## 参考書：

編集代表栗林忠男『解説宇宙法資料集』(慶應通信, 1995年)

## 国際環境法(秋学期) 教授 大森正仁

## 授業科目の内容：

環境問題のなかでも国境を越える汚染を中心にして、国際環境の保護に関して発展してきた国際環境法について取り上げる。様々な分野において環境の保護のための国際的な法制度が整備されてきているが、その現状と限界、またこれからの展望を視野に入れて説明を行う。個別の分野における法的規制の状況を検討することを通じて、国際環境保護に用いられている法的な手段を明らかにしたい。

## テキスト：

特に指定しない。必要な資料を適宜配布する。

## 参考書：

広部他編『解説国際環境条約集』(三省堂, 2003年)

## 国際経済法(秋学期) 教授 田村次朗

## 授業科目の内容：

世界貿易機関(WTO)を中心とする国際経済法について、その基本的な法構造および、セーフガードおよびアンチダンピングなど主要規制の概要を取り上げる。特にWTOにおけるパネル・上級委員会が取り上げる各種通商問題に関する紛争処理について、その具体的な事例を取り上げ、WTO協定の解釈・運用の実際について、解説する。また、通商法は、各国の通商政策とも密接に関連していることから、最近、話題となっている二国間での自由貿易協定や、サービス貿易、知的財産権を巡る通商問題、さらに食品の安全性や環境問題といった通商政策の新しい展開とそれに対する法的規制のあり方を分析する。

## テキスト：

・田村次朗『WTOガイドブック』(弘文堂2001)

・小寺彰・中川淳司編『基礎経済条約集』(有斐閣2002)

## 参考書：

UFJ総合研究所新戦略部通商政策ユニット編『WTO入門』(2004日本評論社)

## 比較競争法(秋学期)

教授 田村次朗

## 授業科目の内容：

企業の反競争的行為は、そのビジネスの多様性と同様、多種多様である。しかし、そこにはいくつか共通のパターンがある。そして、このパターンを分析する上で、諸外国の競争性(日本では独占禁止法)を比較・検討することが有益である。特に、経済のグローバル化に伴い、企業の反競争的行為もまたグローバル化しつつある。他方、海外企業の進出に伴い、ビジネスにおいても各国の競争法の比較分析が注目されている。そこで、本講義では、日米欧の競争法を比較法的視点から分析する。

## テキスト：

村上政博『アメリカ独占禁止法(第2版)』(弘文堂 2001)

## 参考書：

村上政博『EC競争法 第2版』(弘文堂 2000)

## 政治学(春学期)

講師 森正

## 授業科目の内容：

この講義では、現代日本の政治過程における諸現象について、実証的な研究事例を通じて解説することを目的としている。豊富なデータに基づき、わが国の民主主義がいかなる状況にあったのか、具体的にどのような問題を抱えているのか、どのような論理で日本の政治が動いてきたのかを明らかにする。

さらに、実証分析から導き出される現実の姿と理念の間にギャップがあれば、その乖離を埋めるための方策を検討、考察したい。現在の政治状況が抱える諸問題をいかに解決していくことができるのか、履修者自身が考察するための参考になればと考えている。

春学期では、有権者が選挙を通して政党や候補者に託した民意が、どのような形で再び有権者にフィードバックされているのかを検討する。政党、政治家、官僚、利益集団といったさまざまなアクターが自らの合理性を追求した結果、政策決定がなされている状況について論じる。

## テキスト：

小林良彰『現代日本の政治過程 日本型民主主義の計量分析』東京大学出版会, 1997年

## 参考書：

・小林良彰『選挙・投票行動』東京大学出版会, 2000年

・小林良彰(編)『日本における有権者意識の動態』慶應義塾大学出版会, 2005年

## 政治学(秋学期)

講師 森正

## 授業科目の内容：

この講義では、現代日本の政治過程における諸現象について、実証的な研究事例を通じて解説することを目的としている。豊富なデータに基づき、わが国の民主主義がいかなる状況にあったのか、具体的にどのような問題を抱えているのか、どのような論理で日本の政治が動いてきたのかを明らかにする。

さらに、実証分析から導き出される現実の姿と理念の間にギャップがあれば、その乖離を埋めるための方策を検討したい。現在の政治状況が抱える諸問題をいかに解決していくことができるのか、履修者自身が考察するための参考になればと考えている。

秋学期では、特に有権者の投票行動、政治参加に焦点を当てる。前半部では、地域特性や経済状況を示すアグリゲートデータを用いた投票行動や政党支持に関するマクロ分析を、後半部では、世論調査によるサーベイデータを用いたミクロ的な分析を紹介する。

## テキスト：

小林良彰『現代日本の政治過程 日本型民主主義の計量分析』東京大学出版会, 1997年

## 参考書：

・小林良彰『選挙・投票行動』東京大学出版会, 2000年

・小林良彰(編)『日本における有権者意識の動態』慶應義塾大学出版会, 2005年

社会学（春学期）  
都市社会学概説

教授 有末 賢

## 授業科目の内容：

都市化社会と呼ばれる現代社会において、都市と地域社会（コミュニティ）は、われわれの社会生活において重要な空間であるだけでなく、集団でも関係でもある。本講義においては、地域社会を対象として、都市社会学を中心とした学説・理論から解説し、実証的研究の系譜や日本の農村と都市、都市問題と都市計画、世界の都市と都市化現象などを講義していく。

理論・学説においては、1920年代、アメリカのシカゴ学派による「人間生態学」とシカゴ・モノグラフ・シリーズの登場、ヨーロッパを中心とした1970年代以降の大都市社会学や「空間の社会学」の動向などを扱う。また、後半では、ビデオ視聴なども加えながら、先進資本主義諸国の都市問題、発展途上国などの都市化などについても考察する予定である。講義予定題目は以下のようである。

## テキスト：

有末賢『現代大都市の重層的構造』ミネルヴァ書房、1999年

## 参考書：

- ・藤田弘夫・吉原直樹編著『都市社会学』有斐閣、1999年
- ・地域社会学会編『キーワード地域社会学』ハーベスト社、2000年

社会学（秋学期）  
東京圏の社会学

教授 有末 賢

## 授業科目の内容：

地域社会論から引き続いて、都市社会学を中心とした地域社会の現代的・実証的なテーマを扱っていく。今回は、一つのケース・スタディとして「東京圏」の社会学を講義する。「東京」は現代大都市の中でも多くの問題を抱え、しかもダイナミックな社会変動によって、一刻一刻その姿を変えつつある。まず、イギリスのロンドンと比較しながら、歴史的な都市化の特性をとらえ、都市化 郊外化 脱郊外化 反都市化などの人口変動のサイクルを検証する。また、東京圏内部を都心業務地域、インナーシティ・エリア、下町山の手、戦前型郊外住宅地、戦後ニュータウン、盛り場・繁華街などに類型化しながらそれぞれの地区特性と現代的問題点を解説していく。最後には、東京論とライフスタイルについても考察していきたい。講義予定題目は以下のようである。

## テキスト：

有末賢『現代大都市の重層的構造』ミネルヴァ書房、1999年

## 参考書：

- ・藤田弘夫・吉原直樹編著『都市社会学』有斐閣、1999年
- ・地域社会学会編『キーワード地域社会学』ハーベスト社、2000年

## 経済政策

政府が市場に介入する根拠は何か 講師 川野辺 裕 幸

## 授業科目の内容：

先進資本主義国における経済は各個人や企業の市場における取引を中心として成り立っている。社会主義計画経済と市場経済の優劣は近年のソ連東欧圏の崩壊から明らかと思われる。しかしわが国をふくめて多くの先進資本主義国には巨大な政府部門があり、市場経済にさまざまな形で影響をあたえようとしている。経済政策をもっとも広い意味でとれば、この全体が経済政策である。本講義は、「市場経済に政府が経済政策という形で介入する根拠：その正当性と成果」の解明をテーマにする。講義はマクロ・ミクロ経済学の基礎知識を前提として進め、簡単な理論で現実をいかに説明し、政策論を展開できるかに主眼をおく。景気政策、規制緩和、社会保障政策、環境政策など、経済政策課題を取り入れる。その意味で、この講義は、経済理論と現実への架け橋を理解することをねらっている。また、政府による政策決定と市場における決定の違いを明らかにするために、公共選択論による民主主義的な意思決定システムの特徴を講義する。

## テキスト：

特に指定しない。

## 参考書：

授業計画を参照。

## 経済原論

経済学はなぜ必要か 経済学部 教授 山田 太 門

## 授業科目の内容：

今日の社会ではほとんどすべての生活が経済取引と関係している。そこで経済とは何かを明らかにするための経済学がどのように形成されているかを説明する。経済学で用いられる用語が一般の言葉とどのように形成されているかを説明する。経済学で用いられる用語が一般の言葉とどのように異なるかに注意しながら経済学の基本的な考え方を紹介する。次に経済学が現実の様々な現象を説明するためにどのように応用されているかを公共経済学を例として解説する。

## テキスト：

特に指定しない。

## 参考書：

授業中に指示する予定。

## 財政論（秋学期集中）

講師 宮里 尚 三

## 授業科目の内容：

財政学は政府の経済活動について分析する分野である。現代の政府は市場メカニズムを前提としながらも様々な経済活動を行っている。それでは、なぜ政府は様々な経済活動を行う必要があるのか？政府のあるべき経済活動は、どのような観点から行うべきであろうか？そのような問題に対して、主に政府支出や税金、公債発行という観点から分析を行うのが本講義の目的である。

## テキスト：

特に指定しません。

## 参考書：

- ・麻生良文『公共経済学』（有斐閣、1998年）
- ・井堀利宏『財政』（岩波書店、1995年）
- ・『図説 日本の財政（平成18年度版）』（東洋経済新報社）

## 金融論

経済学部 教授 吉野 直 行（春学期）

経済学部 教授 塩 澤 修 平（秋学期）

## 授業科目の内容：

## 〔春学期〕

日本の資金循環、各経済主体の金融活動、資産価格の変動、債券市場・株式市場、為替レートの動きについて、制度・データなどを用いた計量的な観点から概説する。

## 〔秋学期〕

金融市場、金融政策、国際金融、金融派生商品について、主として理論的な観点から概説する。

## テキスト：

〔春学期〕使用しない。

〔秋学期〕塩澤『現代金融論』創文社、2002年

## 参考書：

〔春学期〕吉野直行・高月昭年『入門・金融』有斐閣

その他の参考文献は、講義の中で説明する。

〔秋学期〕適宜指示する。

## 会計学

名誉教授 笠井 昭 次

## 授業科目の内容：

現代会計の全体を合理的に説明する論理を探求する。ただし、その点に関する私見を一方的に述べるのではなく、他の学説と比較検討しながら行なう。そのプロセスにおいて、受講生諸君が、みずから考える力を身につけられるような形で講義をしていきたい。

## テキスト：

笠井昭次著『現代会計論』（慶應義塾大学出版会）

---

経営学	商学部 教授 今口忠政（春学期）
	商学部 教授 渡部直樹（秋学期）

---

授業科目の内容：

企業を取り巻く環境は急激な勢いで変化している。グローバル化、情報化、個客化などの進展によって、企業経営のあり方も、迅速に、かつ柔軟に変化に適應できる形態が求められている。講義では、企業を取り巻く環境の変化とそれに対応した経営という視点で、経営学の理論と事例を紹介するが、それを通じて、現代企業が置かれている経営状況を具体的に理解し、これからの企業経営に必要な考え方を提供する。

担当者は春学期のみであるから、経営学の歴史的な発展、企業形態、企業統治などを中心として、現代企業が抱える問題を理解する。そして、多くの従業員、資本、設備から構成されている企業を組織的に運営するために必要な、経営戦略の策定、組織の設計、マネジメントについて講義する。講義を通じて、良い企業の行動、優れた企業の取り組みを理解する。

テキスト：

〔春学期〕今口忠政『事例で学ぶ経営学』白桃書房、2004年。

〔秋学期〕特になし、毎回プリント配布

参考書：

〔春学期〕

- ・小倉昌男『経営学』日経BP社、1999年。
- ・今口忠政『戦略構築と組織設計のマネジメント』中央経済社、2001年。

その他は講義時に随時紹介します。

〔秋学期〕授業内で紹介する

## 〔系列科目〕

## 〔文献講読〕

文献講読 (独書)(春学期) 助教授 田上雅徳

授業科目の内容:

ドイツ語で著された政治史・政治思想史の研究書を講読します。

テキスト:

Rudolf Weber-Fas; Über die Staatsgewalt, Von Platons Idealstaat bis zur Europäischen Union (München, 2000).

文献講読 (独書)(秋学期)

政治学文献をドイツ語で読めるようになろう

教授 萩原能久

授業科目の内容:

この授業では、ドイツ語で書かれた社会科学の専門書を正確に読みこなす能力の育成と同時に、書かれている内容についても積極的な討論を行います。履修者は少数でしょうから、基本的には開講時に相談して、受講者の関心にできるだけそった使用テキストを決めたいと思いますが、基本的に、政治学の理論的問題、ドイツを中心とした戦後ヨーロッパの政治・社会情勢の問題を扱うつもりです。

政治思想に関心のある受講者が多い場合には、特定の思想家の著作を読むこともあります。

テキスト:

開講時に履修者と相談して決めます。

参考書:

辞書(電子辞書でも結構ですが、収録語数、文例の多いものでないと役に立ちません)は必ず携行してください。

文献講読 (仏書)(春学期)

フランスの文化政策 その伝統と現在

教授 鶴崎明彦

授業科目の内容:

フランスには、王政の昔から国家的政策として芸術の保護と奨励の伝統が存在し、現在でもこの目的のための独自の省、すなわち文化省が毎年国家予算の1パーセント以上を費やしています。民間主導、国家の不介入を原則とするアメリカなどとは対照的であり、それ自体フランス文化の特徴の一つをなしています。こうしたフランスの文化政策の歴史と現状に関するなるべく平明なテキストをピックアップして講読し、その理解を深めることができると考えています。

テキスト:

講読用テキストはプリントにて配布いたします。

参考書:

必要に応じて適宜紹介します。

文献講読 (仏書)(秋学期)

フランスの政治、政治文化、政治哲学

助教授 堤林 剣

授業科目の内容:

Pierre Manent, Cours familier de philosophie politique を輪読しながら、フランスの政治、政治文化、政治哲学について考える。

テキスト:

Pierre Manent, Cours familier de philosophie politique (Paris: Gallimard, 2001)

文献講読 (中国書)(春学期) 教授 安田 淳

授業科目の内容:

中国の政治・社会等に関する中国語文献を講読することにより、

現代中国の歴史や現状を理解し問題意識を高めることを目的とする。

テキスト:

教材は授業中にプリントとして配布する。

文献講読 (中国書)(秋学期) 教授 安田 淳

授業科目の内容:

文献講読 (中国書)(春学期)に同じ。

文献講読 (西書)(春学期) 助教授 出岡直也

授業科目の内容:

スペイン語の文献を講読する。文献としては、ラテンアメリカがスペインに関する社会科学の論文を考えているが、具体的には参加者との相談で決定する。

文献講読 (西書)(秋学期) 助教授 出岡直也

授業科目の内容:

スペイン語の文献を講読する。文献としては、ラテンアメリカがスペインに関する社会科学の論文を考えているが、具体的には参加者との相談で決定する。

文献講読 (露語)(春学期)

ネットの記事を読もう

教授 山田 恒

授業科目の内容:

ネットの上の記事を容易に読めるようになることが目的です。ロシアのニュースをできるだけ時間をかけずに読む能力の養成です。ただネットの上の記事は、語彙や文体が若干違っているので、それに習熟する必要があります。

春学期には用意されたテキストを全てきちんと理解することから始めます。文法事項、語句、表現などを徹底して理解し、身に付けられるよう、授業を進めます。テキストとしてロシアの政治、経済などを伝えるニュースを使い、文法としては完了・完了、形動詞などの事項の習熟、長文読解に必要な語句を分割し、理解する能力の向上が中心となる課題となります。

履修者によってはさらに徹底した文法の復習を行います。

テキスト:

コピーを使います。

参考書:

文法の教科書と辞書は毎回持参すること。

文献講読 (露語)(秋学期)

ネットの記事を読もう

教授 山田 恒

授業科目の内容:

ロシアのニュースをできるだけ時間をかけずに読む能力をさらに高めることが目的です。春学期に習得した力を基に、秋学期には用意されたテキストをかなりのスピードで読むことを目標とします。

テキスト:

コピーを使います。

参考書:

文法の教科書と辞書は毎回持参すること。

## 〔政治思想論〕

近代政治思想史 (春学期)

ヨーロッパの歴史における政治と政治思想の発展

講師 鈴木朝生

授業科目の内容:

政治思想史(政治学史)は、伝統的には政治学説の通史であり、各々の思想家や政治学者による政治の對象化の営為の蓄積に学ぶことがその目的である。しかし、思想や著作は、思想家が現実の

## 政治

政治 に関与し、それと格闘した所産であるという観点も忘れてはならず、本講義では可能な限り、史実や政治的枠組みにも言及する。

「近代政治思想史」では、ルネサンス・宗教改革からピューリタン革命までを扱う。

テキスト：

プリント配布。テキストはなし。

参考書：

- ・有賀弘他『政治思想史の基礎知識』（有斐閣）
- ・佐々木・鷲見・杉田『西洋政治思想史』（北樹出版）
- ・佐々木毅他『近代政治思想史(1) - (5)』（有斐閣）

---

### 近代政治思想史（秋学期）

ヨーロッパの歴史における政治と政治思想の発展

講師 鈴木朝生

授業科目の内容：

政治思想史（政治学史）は、伝統的には政治学説の通史であり、各々の思想家や政治学者による 政治 の対象化の営為の蓄積に学ぶことがその目的である。しかし、思想や著作は、思想家が現実の政治 に関与し、それと格闘した所産であるという観点も忘れてはならず、本講義では可能な限り、史実や政治的枠組みにも言及する。「近代政治思想史」では、名譽革命から 20 世紀までを扱う。

テキスト：

プリント配布。テキストはなし。

参考書：

- ・有賀弘他『政治思想史の基礎知識』（有斐閣）
- ・佐々木・鷲見・杉田『西洋政治思想史』（北樹出版）
- ・佐々木毅他『近代政治思想史(1) - (5)』（有斐閣）

---

### 現代政治思想（秋学期）

1920 年代と現代

教授 薩山 宏

授業科目の内容：

1920 年に亡くなったマックス・ウェーバー以後の思想状況を解明したい。ドイツ、フランスが中心になる。狭義の政治思想をこえた分野もとり上げたい。

テキスト：

特になし

参考書：

その都度指示する

---

### 政治哲学（春学期）

政治的なものの概念

教授 萩原能久

授業科目の内容：

この講義では、政治哲学、および政治学方法論上の基礎概念、基本問題についての理解を深めることを目標におきます。しかし最終的には、様々なアプローチや思想についての「知識」を得ることが目的ではなく、私としては受講者の皆さんが、政治的現実を批判的に、かつ「他人の指導がなくても自分自身の悟性を取って使用しようとする決意と勇氣」（カント）をもって考えることができるようになることを望んでいます。

テキスト：

特に用いませぬ。

参考書：

逐一、講義のなかで示していきます。

---

### 政治哲学（秋学期）

政治の暴力と戦争廃絶のために

教授 萩原能久

授業科目の内容：

この講義では、政治の暴力という問題を、ポストモダンと呼びならわされている現代世界とその政治状況との関連から思想的に理解することを目標にします。政治哲学 とセットでの履修は望ましいですが、その履修が前提条件ではありません。

テキスト：

特に用いませぬ。

参考書：

逐一、講義のなかで示していきます。

---

### 政治理論史（秋学期）

西欧政治思想史における自由の問題

助教授 堤林 剣

授業科目の内容：

自由が西欧の思想史における枢要概念の一つであることを疑う者は殆どいないだろう。

しかし、自由をめぐる思索が二千五百年も続いているにもかかわらず、その意味内容と価値に関するコンセンサスは依然として確立していない。また、その多義性は自由と政治との結びつきの多様性とも相即し、事態は一層複雑かつ不明瞭なものとなっている。本講義では、自由と政治との関係性のある特定の視座から考察し、整理することを試みる。

当然、ここで展開される議論は、最終的なものでも網羅的なものでもない。それどころか、考察対象も地域もアプローチもかなり限定する。そうせざるをえないし、またそうした方が、逆に、多岐を極めた政治社会の諸現象・諸問題の理解に際して、限定的ながらも有意な視角が得られるのではないかと考えるからである。本講義の通奏低音となるキーワードは「Fortuna(運命)との対決」である。偶然性、不確実性、アンビヴァレンスを背景としながら、人びとがいかにそうした問題を意識し、自由をいかに構想し行使し、そして政治社会の形成を試みたかを、「政治思想史的」に概観していきたいと思う。

この「政治思想史的」が括弧つきにならざるを得ないのは、そもそも政治思想史研究のアプローチが多様であると同時に、今日どのアプローチも批判に晒され改良を余儀なくされているからである。こうした事情に鑑みれば、本来は方法論の話から始めるべきかもしれないが、時間に限りがあるので、本講義では、いささか不親切ながらも（「政治思想基礎」で紹介されたいわゆるオーソドックスな政治思想史の叙述を前提としつつ）アプローチの話は最小限に留め、本論に入ることにする。

時代は古代ギリシアから始まる。ギリシア神話、ギリシア悲劇、プラトンやアリストテレスなどの哲学者、トゥキュディデスのような歴史家の議論にみられる自由と政治の問題を先のキーワードとの関連で考察する。そして、そこで設定される問題史的パラダイムを起点とし、中世、近代へとつづく潮流（変化、断絶をも含む）を追いつつ、それぞれの時代における特定の思想の特異性と画期性を明らかにしたいと思う。

またその際、そうした思想がいかなる形で（広義の）政治制度と関連するかに注目してみたい。というのも、本講義で重視するのは、思想の内在的展開のダイナミクスというよりは、思想と時代状況・政治的現実との相互作用関係であるからである。その意味で、中世以降の議論においては「代表制」（あるいはその危機）がもう一つの重要な鍵概念となる。

なお、地域的にはフランスに集中することもあらかじめお断りしておきたい。もちろん、イギリスやドイツやイタリアとの比較も多少は行うつもりではあるが、しかし議論を錯綜させないためにも（そしてもちろん時間の限定があるので）フランスを中心に扱いたいと思う。

テキスト：

なし。

参考書：

講義で紹介。

---

### 政治理論史（春学期）

政治の諸概念をめぐる理論史的考察

講師 関谷 昇

授業科目の内容：

古典古代から継承・解釈・批判・創造が繰り返されてきた「政治をめぐる知」を、理論的に考察します。本講義では、古代ギリシアにおける政治の起源に立ち返ることから始め、「自然」「共同体」「主体」「公共性」といった政治を規定し続けている諸概念の意味と

可能性を解明するとともに、これら把える多角的な視角について理解を深めていきたいと思ひます。柔軟な思考力と政治的な判断力を養っていくことを目標とします。

テキスト：

テキストは特に指定せず、毎回レジメを配布します。

参考書：

テーマ毎にレジメに掲載するとともに、講義時に適宜紹介していきます。

さしあたって、B. クリック『政治の弁証』（前田康博訳）、岩波書店、1969年、同『現代政治学入門』（添谷育志・金田耕一訳）、講談社学術文庫、2003年を挙げておきます。

#### 政治理論史（秋学期）

政治のダイナミズムをめぐる理論史的考察

講師 関谷 昇

授業科目の内容：

古典古代から継承・解釈・批判・創造が繰り返されてきた「政治をめぐる知」を、理論的に考察します。本講義では、政治がいかなるものによって突き動かされ、どのような諸活動と諸制度の下に営まれているのかということが多角的観点から解き明かし、さらに現代の政治理論との架橋を試みることによって、政治のダイナミズムを考察していきたいと思ひます。柔軟な思考力と政治的な判断力を養っていくことを目標とします。

テキスト：

テキストは特に指定せず、毎回レジメを配布します。

参考書：

テーマ毎にレジメに掲載するとともに、講義時に適宜紹介していきます。

さしあたって、B. クリック『政治の弁証』（前田康博訳）、岩波書店、1969年、同『現代政治学入門』（添谷育志・金田耕一訳）、講談社学術文庫、2003年を挙げておきます。

#### 中世政治思想（春学期）

「政治と宗教の相克」という視点から

助教授 田上雅徳

授業科目の内容：

西欧中世をキリスト教世界として位置づけた上で、そこでの政治思想的な問題圏が宗教とのせめぎ合いの中から誕生し・変容していく流れを考えたいと思ひます。

テキスト：

鷲見誠一著『ヨーロッパ文化の原型』（南窓社）

参考書：

授業の中で適宜紹介していきますが、さしあたって、福田歓一著『政治学史』（東京大学出版会）、宮田光雄著『宮田光雄集 国家と宗教』（岩波書店）をあげておきます。

#### 東洋政治思想史（春学期）

近代中国政治思想の展開

講師 光田 剛

授業科目の内容：

17世紀ごろ（明清交替期、日本では江戸時代初期）から1930年代までの中国の政治思想の展開を年代順に講義します。この間、中国政治を基礎づける思想は、王朝時代の儒学から、現在の共産党社会主義に至るまで大きく変容しました。しかし、その大きな変容にもかかわらず、一貫しているものもあります。それは「理屈っぽさ」とでも呼べる要素です。もう少し詳しく言えば、世界を成り立たせている原理や「こうやれば世界はうまくいくはずだ」という原理と現実との対応関係を常に意識しつつ、それぞれの時代の政治思想が組み立てられているということです。その「理」と「現実」との対応関係を意識しながら、それぞれの時代の政治思想を論じていきたいと思ひます。この授業で扱うのは、中国が今日の中華人民共和国とは違う体制で支配されていた時代の政治思想です。しかし、この授業で扱う時代の政治思想について知ることは、今日の中国・日本との関係が緊密になり、それとともに摩擦も増加している中国政治

を観るうえでも有益なことだと思います。

テキスト：

特にありません。授業では、原則として、毎回、プリントを配布します。また、プリントの内容は授業のホームページ（授業開始時に開設）にも掲載します。

<http://www.nk.rim.or.jp/~tmitsuta/keio/toyoseijishisoshi1/>

参考書：

溝口雄三『方法としての中国』東京大学出版会、吉沢誠一郎『愛国主義の創成』岩波書店ほか

#### 東洋政治思想史（秋学期）

現代アジアのナショナリズム

講師 光田 剛

授業科目の内容：

第二次大戦後から現在までのアジアの政治思想について、主としてナショナリズムに注目しながら講義します。現代アジアの民族・国家は、一方で第二次大戦期までの旧覇権国や同時代の覇権国に対抗して自らの独立を守らなければならず、他方で、国内での少数者の運動や反体制運動を抑圧しなければなりません。また、その民族らしさ・その国家らしさを確立しながら、同時に、伝統的な社会を改革し、近代世界に適合した社会に変えていかなければなりません。そこでは、独立・解放と統一・抑圧、保守と変革が複雑に入り交じっていました。その問題は徐々にかたちを変えながらも今日も続いている（と私は思ひます）。この戦後アジア政治思想を地域別に概観していこうと思ひます。

テキスト：

特にありません。授業では、原則として、毎回、プリントを配布します。また、プリントの内容は授業のホームページ（授業開始時に開設）にも掲載します。

<http://www.nk.rim.or.jp/~tmitsuta/keio/toyoseijishisoshi2/>

参考書：

授業開始時、または、授業中に随時、紹介します。

#### 日本政治思想史（春学期）

教授 寺崎 修

授業科目の内容：

日本の政治思想をその当時の時代状況のなかで理解しようとする立場から、明治維新以降の政治思想を概観する。

テキスト：

未定

参考書：

講義の際に適宜紹介する

#### 日本政治思想史（秋学期）

福澤諭吉の政治論

教授 寺崎 修

授業科目の内容：

福澤諭吉の学問論や実業論については、よく知られているが、彼の政治論については意外と知られていない。本講義では彼の政治論に焦点をしばり、詳しく解説をしたい。

テキスト：

『福澤諭吉著作集』第7巻（慶應義塾大学出版会）

参考書：

講義の際に適宜紹介する。

### 〔政治・社会論〕

#### アメリカの司法と政治（春学期）

アメリカにおける違憲審査制の確立と展開

講師 山本龍彦

授業科目の内容：

「司法権の独立」という規範的テーゼに対して、19世紀はじめにA. トックヴィルが観察し、20世紀はじめにリアリズム法学が明らかにしたのは、アメリカにおける司法と政治の興味深いかかわりであっ

## 政治

た。本講義は、アメリカ建国史、連邦最高裁判所の主要判決、それらをめぐる政治的社会的状況、学説などの総合的な分析を通して、この両者の関係について検討していく。本講義によって、アメリカ政治を読む新たな視点を持ち、また、わが国の司法改革に対する批判的視座を持つことができれば、担当者の目的はほぼ達成されたことになる。

テキスト：  
大沢秀介『アメリカの司法と政治講義ノート』（成文堂）

参考書：  
必要に応じて随時紹介する。

---

### 行政学特論（行政管理論）（春学期）

これから「政府」「公共政策」はどうあるべきかの視点で官僚制、行政活動、公務員のあり方等を考える

講師 佐々木 信夫

授業科目の内容：

行政学は、おもに国や地方自治体の官僚制や行政活動について、その生理と病理を政治学的な視点から研究する学問である。

その中で、組織管理とか人事管理、財務管理といった組織内管理を行う「行政管理」という領域は極めて重要な位置を占める。税金を原資として成り立つ政府の活動について、国民がそれをしっかり統制しその活動について参加することは民主主義の骨格を成すものである。国民の代理人として政治家がその役割を果たすことも重要だし、権力分立の観点から会計検査や、監査など独立機関を置いてコントロールすることも重要である。しかし、いまや伝統的な官僚機構の管理をもって行政管理だというほど事は単純ではなくなった。現代社会が求める行政管理は、例えば公共事業を効率よく建設・執行するだけでなく、そもそもその公共事業は国民ニーズに合っているか、時代的な要請に応えているかを評価することまで養成する。政策の形成、実施、評価という一連の政策過程を国民がコントロールしなければ、真の行政管理とは言えない時代である。

本講義では、伝統的な行政管理論を講述するのではなく、例えば分権化によって顧客満足度を高め、税財政の効率化を図る改革まで行政管理の範疇に入れる、新しい政策学としての行政学の構想を視野に入れ、行政管理論の再定義を図るような講義をねらいとしている。

テキスト：  
佐々木信夫『現代行政学 管理の行政学から政策学へ』（学陽書房、2000年）

参考書：  
講義の進展に応じ、必要な文献、政府資料などを紹介、配布する。

---

### 行政学特論（地方自治論）（秋学期）

地方自治は民主主義の学校である。地方分権の意義を理解し地方の政治や行政、住民のあり方を考える

講師 佐々木 信夫

授業科目の内容：

従来、地方自治論は行政学の一部として、また地方行政論として中央集権体制を前提に末端行政論として論じられる傾向が強かった。しかし、身近な政治や行政の営みである地方自治を末端行政視する視点からは何も生まれない。それでは地方は単なる国の下部機構となり、住民からの政治参加もなければ、行財政へのコントロールもできない。じつはわが国で戦後50数年続いた、知事、市町村長を大臣の地方機関と位置づけ、国の仕事を通達と補助金で執行命令する「機関委任事務制度」はそうした性格のものだった。

しかし、2000年の地方分権一括法施行を契機に、本格的な地方分権が始まった。分権下での地方自治を構想する時代が来たのである。地方自治体は霞ヶ関に責任をもつ政治から住民に責任をもつ政治へ、自己決定・自己責任の経営へパラダイム転換を迫られている。本講義では、そうした転換期を迎えたわが国の地方自治について、主要な論点を幾つか挙げて、理論面、実証面、改革方向について考察したい。

テキスト：  
・佐々木信夫『自治体をどう変えるか』『地方は変わるか』『市町村合併』（共にちくま新書。06年、04年、02年発行）  
・同『東京都政』『都庁 もうひとつの政府』（共に岩波新書。03年、1991年発行）

参考書：  
講義の進展に応じ、必要な文献、地方資料などを紹介、配布する。

---

### 現代行政論（春学期）

行政指導を素材とした国家と社会、政府と市場（産業）関係再検討

教授 大山 耕輔

授業科目の内容：

通商産業省（現在、経済産業省）が戦後に行ってきた行政指導（administrative guidance）について、事例研究（ケース・スタディ）の方法を用いて分析します。この分析を通じて、戦後日本における国家と社会、政府と市場（産業）の関係がダイナミックに逆転してきたことを明らかにします。また、これに関連して、経済発展と民主化の関係について比較政治学的な視点から考察します。さらに、規制改革（regulatory reform）についてガバナンスの視点から国際比較し、日本の現状と課題についても考察します。

テキスト：  
拙著『行政指導の政治経済学 産業政策の形成と実施』（有斐閣、1996）

参考書：  
・「民主主義のガバナンス」（大山編著『比較ガバナンス』ブレーン出版、近刊予定、終章）  
・「政策実施と行政手段」（福田耕治・真淵勝・縣公一郎共編著『行政の新展開』法律文化社、2002、第5章）  
・「規制システム」（宮川公男・山本清編著『パブリック・ガバナンス』日本経済評論社、2002、第4章第3節）  
・『通商産業政策史』（通商産業調査会、1990年前後）等

---

### 現代社会理論（秋学期）

社会理論の系譜と展開

教授 澤 井 敦

授業科目の内容：

私たちの生きる同時代の社会、「現代社会」がはらむ問題性を、リアルタイムで、なおかつ総体的に診断しようとする営みを「現代社会理論」と呼ぶ場合、その原点として、第二次大戦中の亡命社会学者たちの理論をあげる論者が少なくない。本講義では、この原点から現在にいたる社会理論の系譜と展開を、理論がうみだされた時代的・社会的背景、および、各々の理論の相互関係に留意しながら、解説していく。また、さまざまな社会理論が日本において受容され、日本社会の分析に使用される際に被る変容についても、随時言及する。

テキスト：  
特に指定しない。

参考書：  
授業中に紹介する。

---

### 現代政治理論（春学期）

現代の民主主義理論

教授 河野 武司

授業科目の内容：

本講義では現代の政治理論の中でも特に、機能不全が叫ばれているデモクラシーに関する様々な理論について紹介し、検討します。

テキスト：  
特に指定しません。

参考書：  
白鳥令他編『現代世界の民主主義理論』新評論、1984年。  
その他、授業中に適宜紹介します。

---

### 現代政治理論（秋学期）

政治過程における集団・組織

教授 河野 武司

授業科目の内容：

政治過程において利益団体に代表されるいわゆる中間集団の役割には、非常に大きなものがあります。組織化された集団に触れずに政治過程を語ることはできません。そこで本講義では、現代政治理論の中でも、政治過程における利益団体の役割や、その組織化、さらには組織における政策決定の問題に関する様々な理論を取り上げて、検討します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

- ・白鳥令編『政策決定の理論』東海大学出版会，1990年。
  - ・森脇俊雅『集団・組織』東京大学出版会，2000年。
  - ・河野武司・岩崎正洋編『利益誘導政治 国際比較とメカニズム』芦書房，2004年。
- その他，授業中に適宜紹介します。

#### 国際コミュニケーション論（春学期）

グローバル化とコミュニケーション 講師 伊藤 英一

授業科目の内容：

自分自身との対話，友達や家族との会話，といったコミュニケーションでも，もどかしく感じることはありませんか？ コミュニケーションの重要性を切実に感じているにしても，円滑なコミュニケーションは至難の業です。ましてや「文化や言語の異なる人々とのコミュニケーションなんて」と，一歩後退したくなるかも知れません。

しかし，山頂から見晴らす眺望が麓からの見た風景とは違うように，視点をかえてこそ理解できることもあるのではないのでしょうか。

この講義では，あたかも『星』になった諸君が，丸い地球を見下ろしながら，その地球を巡るコミュニケーションを考察できるような場を提供します。

テキスト：

適宜，案内します。

参考書：

- ・福澤諭吉；『西洋事情』（慶應義塾大学出版会）
- ・伊藤英一；『マルチメディアの新世紀』（丸善）
- ・Daya Kishan Thussu; "International Communication"(Arnold)

#### 国際コミュニケーション論（秋学期）

異文化を繋ぐコミュニケーション 講師 伊藤 英一

授業科目の内容：

21世紀はグローバル化，情報化の時代であるとも言われます。同時に，文化や社会の枠を越えた地球規模のコミュニケーションの重要性も指摘されています。

しかし，メディアの高度化・迅速化が，必ずしもコミュニケーションの精度や密度を高める方向に働いているとも言い切れません。

国際コミュニケーションの様々な問題をケース・スタディの題材として取り上げながら，枠に捉われないコミュニケーションの素晴らしさを，諸君と共に，探ってみます。

テキスト：

適宜，案内します。

参考書：

- ・福澤諭吉；『文明論之概略』（慶應義塾大学出版会）
- ・Fred E. Jandt; "An Introduction to Intercultural Communication" (Sage)

#### 社会調査論（春学期）

社会調査の考え方，基本的な手続き

講師 中村 良二

授業科目の内容：

本講では，社会調査の全体像を大掴みに把握することを目的とする。まず最初に，社会調査の拡がりを確認した上で，基本的な社会調査の一連の過程について学ぶ。

どのような調査であれ，調査を行う目的があり，それを明らかにするためにもっとも適した調査方法を選択する。実査を経て，集められたデータを解析することにより，その調査本来の目的がどの程度達成されたのかを検討する。それだけである。しかし，その過程は，卒倒しそうなほど面倒なことが多い。

社会調査の方法論だけを学ぶことには，あまり意味はない。そこから，社会の変化をいかに読みとるかが重要である。その判断材料となる調査結果は，本当に信頼に足るものなのか，その点を見抜く眼力も必要となる。そうした一連の過程の，まさに第一歩として，

社会調査の基礎的な過程について学ぶことにしたい。

テキスト：

特定のテキストは用いない。

参考書：

盛山和夫 2004 『社会調査法入門』有斐閣

#### 社会調査論（秋学期）

社会調査から見えるもの，見えないもの

講師 中村 良二

授業科目の内容：

本講では，社会調査論の内容をふまえ，これまで実施されたいくつかの調査に関して，その計画から実施，結果の吟味までの一連の過程を検討し，そこから見える日本社会の変遷を検討してゆく。働くこと，労働の過程は，社会におけるもっとも基礎的な営みの一つである。ここでは，働くことに関する調査結果から見える，一つの日本社会論を講義する。

現在，実に様々な働き方がある。働くことを含めた生き方，その選択の幅は，確実に広がっている。しかし，それがすぐさま，幸せにつながる訳ではない。その中から一番大事なものを自分で選び出し，その結果責任を負わなくてはならない。成果主義的人事管理や，非正規雇用，フリーターなど，多くの新しい動向が報じられている。これらは本当に，一人ひとりが「働いて幸せに生きること」につながっているのだろうか。それらを一つひとつ確かめることにより，「働くこと」の変化の経緯，現状，今後の方向性を考えてゆく。

社会調査は，これまで，ある時は実に珍しい，またある時は，まったく当たり前の事実を明らかにしてきた。それは果たして，社会全体を見る際に，どこまで有効であったのだろうか。多くのことを覚えるためではなくむしろ，いろいろな疑問を持ち，今後の社会を考えるきっかけを提供してゆきたい。

テキスト：

特定のテキストは，用いない。

参考書：

授業中に，適宜，紹介してゆく。

#### 政治過程論（春学期）

「決定」することは簡単なのか？ 講師 河村 和徳

授業科目の内容：

小学校の学級委員を決める時を思い出してほしい。履修者諸君の多くはおそらく「多数決」によって学級委員を選出したのではないだろうか。ならば，なぜ「多数決」なのであろうか，その点まで考えたことはないのではないだろうか。

政治の世界でも，意思決定をしなければならない状況にしばしば直面する。市町村合併の住民投票のような身近な意思決定から，イラクへの自衛隊派遣など国際政治に関わるような意思決定まで様々である。しかし，意思決定過程における参加者（政治的アクター）の行動戦略やその帰結には，一定の共通性をみてとることもできる。政治過程を分析するにあたっては，意思決定のプロセスを吟味し普遍的な図式に目を配る必要がある。

本講義では，「公共選択論」の立場から講義を進めていくことにする。公共選択論には「われわれの社会においてどのような決定がなされるのが望ましいか」を検討する「規範的公共選択論」と「われわれの社会がどのような状態にあるか」を把握する「実証的公共選択論」の2つの側面がある。講義では前者と後者の問題について具体的な事例も交えながら，政治過程における決定について論を進めていくこととする。

テキスト：

小林良彰『公共選択論』東京大学出版会 1988

参考書：

講義中に指示をする

# 政治

## 政治過程論 (秋学期)

われわれは1票を投じる際、どのようなことを考えるのか？

講師 河村 和 徳

### 授業科目の内容：

民主社会の中で、政治過程における重要な政治構成要素は「選挙」である。「選挙」に対する研究は選挙の歴史や法律的な制度など多岐にわたるが、本講義では有権者が自らの1票をどのように投じているか、という「投票行動」を取りあげ、それらの研究について紹介していくことにする。

投票行動研究は、米国の歴代大統領選挙で行われた調査の蓄積の基に成り立っているといっても過言ではない。アメリカでは世論調査データの整備がはやくから進められており、日本でも近年のこうした世論調査データベースが整えられつつある。データベースの蓄積によって、これまで多くの研究が発表されさまざまな仮説が報告されてきた。そこで、本講義では、これまでの研究の蓄積を、投票行動に関わる理論とモデル、投票行動を規定する諸仮説の視点から紹介していくこととしたい。また投票行動だけの議論に終始するのではなく、各有権者の投票行動の結果つくられた政治環境が政治過程に対してどのような影響を与えているのか、地方自治体の事例なども紹介していきたい。

### テキスト：

小林良彰『選挙・投票行動』東京大学出版会 2000

### 参考書：

講義中に指示をする

## 地域社会論 (春学期)

教授 有 末 賢

### 授業科目の内容：

都市化社会と呼ばれる現代社会において、都市と地域社会(コミュニティ)は、われわれの社会生活において重要な空間であるだけでなく、集団でも関係でもある。本講義においては、地域社会を対象として、都市社会学を中心とした学説・理論から解説し、実証的研究の系譜や日本の農村と都市、都市問題と都市計画、世界の都市と都市化現象などを講義していく。

理論・学説においては、1920年代、アメリカのシカゴ学派による「人間生態学」とシカゴ・モノグラフ・シリーズの登場、ヨーロッパを中心とした1970年代以降の大都市社会学や「空間の社会学」の動向などを扱う。また、後半では、ビデオ視聴なども加えながら、先進資本主義諸国の都市問題、発展途上国などの都市化などについても考察する予定である。講義予定題目は以下のようである。

### テキスト：

有末賢『現代大都市の重層的構造』ミネルヴァ書房、1999年

### 参考書：

- ・藤田弘夫・吉原直樹編著『都市社会学』有斐閣、1999年
- ・地域社会学会編『キーワード地域社会学』ハーベスト社、2000年

## 地域社会論 (秋学期)

教授 有 末 賢

### 授業科目の内容：

地域社会論から引き続いて、都市社会学を中心とした地域社会の現代的・実証的なテーマを扱っていく。今回は、一つのケース・スタディとして「東京圏」の社会学を講義する。「東京」は現代大都市の中でも多くの問題を抱え、しかもダイナミックな社会変動によって、一刻一刻その姿を変えつつある。まず、イギリスのロンドンと比較しながら、歴史的な都市化の特性をとらえ、都市化 郊外化 脱郊外化 反都市化などの人口変動のサイクルを検証する。また、東京圏内部を都心業務地域、インナーシティ・エリア、下町山の手、戦前型郊外住宅地、戦後ニュータウン、盛り場・繁華街などに類型化しながらそれぞれの地区特性と現代の問題点を解説していく。最後には、東京論とライフスタイルについても考察していきたい。講義予定題目は以下のようである。

### テキスト：

有末賢『現代大都市の重層的構造』ミネルヴァ書房、1999年

### 参考書：

- ・藤田弘夫・吉原直樹編著『都市社会学』有斐閣、1999年
- ・地域社会学会編『キーワード地域社会学』ハーベスト社、2000年

## マス・コミュニケーション発達史 (春学期)

日本の近代化とジャーナリズム 講師 鈴木 雄 雅

### 授業科目の内容：

ジャーナリズムの発展について概説する。文字の誕生から紙、印刷などの複製技術の出現、通信、交通手段の発展が、ジャーナリズムの形式を規定していく状況を眺める。さらに幕末日本に新聞、雑誌が出現してから近代新聞が成長し、その過程でジャーナリズムの機能がどのように近代日本の社会発展と関わりあってきたかを考察する。授業スケジュール・参考文献類については、最初の講義時に発表。

### 授業サイト URL

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/keio/guide06.html>

### テキスト：

春原昭彦『日本新聞通史 [四訂]』(新泉社、2003)

### 参考書：

宮地正人『国際政治下の近代日本』(山川出版社)ほか。講義時に紹介する

## マス・コミュニケーション発達史 (秋学期)

イギリスのジャーナリズム 講師 鈴木 雄 雅

### 授業科目の内容：

ジャーナリズム揺籃の地といわれるヨーロッパ地域のマス・メディアについて学ぶ。外国のマス・メディアを学ぶ基礎的知識・オリエンテーションののち、イギリス・ジャーナリズムの歴史、現状、問題点を探る。

適時 ヨーロッパのマス・メディア ジャーナリズムの問題をとりあげるが 国際的なマス・メディア産業の動態分析やジャーナリズム研究にとどまらず その形成過程に多大な影響を及ぼす政治体制や社会構造の変化にも注目する。さらに 常に日本の状況と比較しながら 現代ヨーロッパのマス・メディアの構造と機能を研究する。授業スケジュール・参考文献類については 最初の講義時に発表。

### 授業サイト URL

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/keio/guide06.html>

### テキスト：

とくに指定しない。適時指示する。

### 参考書：

Euromedia Research Group, The Media in Europe: The Euromedia Handbook London: Sage,2004.

## マス・コミュニケーション論 (春学期)

マス・コミュニケーションと政治 教授 大 石 裕

### 授業科目の内容：

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

### テキスト：

- ・大石裕『コミュニケーション研究(第2版)』慶應義塾大学出版会、2006年
- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

### 参考書：

- ・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
- ・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房

## マス・コミュニケーション論 (秋学期)

ジャーナリズムとメディア言説 教授 大 石 裕

### 授業科目の内容：

ジャーナリズムに関する理論的考察(ニュース論や客観報道論など)、言説分析によるニュース分析、メディア・イベントとメディア言説、に関して講義する。

テキスト：

大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』(勁草書房)

参考書：

- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣
- ・鶴木真編『客観報道』成文堂
- ・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房

メディア社会論 (秋学期)

メディア・コンテンツへの物語論的接近

講師 藤田 真文

授業科目の内容：

この授業では、物語論という方法を中心にメディア・コンテンツを分析していきます。授業の約3分の2は、『ギフト』(1997年放送)というテレビドラマを分析対象にして、物語構造、映像表現、メディア特性、社会的コード、視聴者による読解など多様な観点からテレビ・テキストの分析を試みます。残りの約3分の1は、ニュースやCMなど他のコンテンツに物語分析を応用していきます。

各回の前半に分析方法を解説し、後半にはドラマの映像を見ながら分析を実践していきます。

テキスト：

藤田真文『ギフト、再配達』せりか書房(近刊)

補助的に毎回授業中にプリントを配布します(原則として再配布はしません)。

社会変動論特殊研究 (秋学期)

グローバリゼーションと国民国家の文化・社会・政治変動

教授 関根 政美

授業科目の内容：

本授業では、現代社会の文化・社会変動に関する教科書(グローバリゼーション、人種・民族・エスニシティ、ナショナリズム、多文化主義と極右政党などに関するもの)を土台に討論を行う演習授業を実施したい。履修者の数にもよるが、毎回2、3名の報告者による競争的報告を行ってもらい、それらをもとに討論をしてゆきたい。また、必要に応じて本授業のテーマに沿ってビデオを見て討論したいと思っている。

授業のテーマは以下の通り。現代世界はグローバリゼーション(国際化)の影響を経験し大きな文化・社会変動を経験している。「グローバリゼーション」は、近年日本でも盛んに使われるようになった言葉だが、グローバリゼーションそのものは多様な現象であり、一筋縄ではその実態をつかむことが難しい。本授業では、人口移動のグローバリゼーションだけではなく様々なグローバリゼーションに注目し、国民国家への文化・社会・政治的影響について議論しながら授業を進めたい。授業担当者は、オーストラリア研究を生業としているが、本授業では必ずしもオーストラリアに関する文献を使用するわけではない。オーストラリアに関する著書を利用する場合でもオーストラリアに関する深い知識を必要とはしないはずである。

テキスト：

未定(最新のものを利用したいので、未定である。著書の他に適宜論文の輪読も予定している)。最初の授業でテキスト・論文などを提示するので履修希望者は必ず参加のこと。

参考書：

- ・関根政美『多文化主義社会の到来』朝日新聞社, 2000年。
- ・カースルズ/ミラー(関根・関根訳, 1996年)『国際移民の時代』名古屋大学出版会。
- ・D・ヒーター(田中・関根訳)『市民権とは何か』岩波書店, 2003年。

政治過程論特殊研究 (秋学期)

政治過程の分析

教授 小林 良彰

授業科目の内容：

この授業の目的は、次の三点にあります。

現代の政治過程における「客観的なデータに基づく計量分析」を行い、発表をする上級者向けのクラスです。

その上で、自分が興味を持っている問題について、どのようにしたら客観的な分析ができるのかを考えることにしたい。

さらに、その上で、可能な人は分析を行い、他の人からの意見を受けながら、より良い、分析を目指すことにしたい。

テキスト：

特にありません。

参考書：

履修者の問題関心にしたいがい、必要であれば、授業中に指示します。

政治権力論特殊研究 (秋学期)

社会学の新たな地平

教授 霜野 寿亮

授業科目の内容：

下記文献を読み、その内容を理解する。

テキスト：

ニック・クロスリー著、西原和久訳、「間主観性と公共性」、新泉社, 2003年

参考書：

なし

地域社会論特殊研究 (春学期)

教授 有末 賢

授業科目の内容：

この特殊研究では、下記の文献に関心のある少数の受講生による報告(レジュメ用意)と討論によって授業を進める。内容的には社会学、文化人類学、アボリジニ研究、ポストコロナル、エスニシティ、場所性、オーラル・ヒストリーなどに関心のある者に限定する。

テキスト：

- ・保苅実『ラディカル・オーラル・ヒストリー』御茶の水書房, 2004年
- ・ホミ・K. パーバ(本橋哲也他訳)『文化の場所：ポストコロナリズムの位相』法政大学出版局, 2005年

## 〔日本政治論〕

近世日本政治史 (春学期)

国家システムの形成と「大きな政府」

講師 大石 学

授業科目の内容：

織豊政権から幕末にいたる約300年の時代(日本近世)は、近代国民国家の前史、形成過程(early modern)としてとらえることができる。そのさい、近世日本政治史の分野では、国民国家化の重要な指標の1つである法と官僚による国家システムの形成過程の検討が重要な課題となる。本授業では、近世において国家システムが急速に整備された18世紀前半の「享保改革」をとりあげ、近世前期の政治史の展開と関連させつつ、この改革の実態と歴史的意義について考えることにしたい。

なお、近世日本政治史と深くかかわる内容なので両方あわせて履修することが望ましい。

テキスト：

大石学『吉宗と享保の改革・改訂新版』(東京堂出版, 2001年)

近世日本政治史 (秋学期)

近世日本における「大きな政府」と「小さな政府」

講師 大石 学

授業科目の内容：

近世日本政治史に続き、近世日本政治史の重要な転換期といえる「享保改革」についてみていく。本授業では、享保改革の中頃におきた御三家筆頭の尾張藩の藩主徳川宗春の失脚事件などを手がかりに、幕府による中央集権化、社会への規制強化などの実態と意義について考えることにしたい。が近世前期の政治史の展開に留意したのに対し、本授業では近世後期の政治史との関連を重視する。

・の講義をとおして、規制緩和、地方分権、首都機能移転、官僚機構の改革など、今日の国家や社会をめぐる議論が、かつて享保改革がめざし、近代日本が達成した構造やシステムを解体・改編

## 政治

する作業であることを認識したい。

テキスト：

近世日本政治史 と同じ。

---

近代日本政治史 (秋学期)

原敬と立憲政友会

教授 玉井 清

---

授業科目の内容：

周知のように、原敬は、大正中葉に我が国最初の本格的政党を成立させた政治家である。しかし、幕末には反維新の側に立った南部藩出身という彼の出自は、政界雄飛に際し、逆風にこそなれ順風たりえなかった。その原が、何故、明治憲法体制下、重要閣僚であった内相を歴任し、衆議院第一党の立憲政友会の党首となり、さらに同党を率いて権力の頂点まで昇りつめることができたのであろうか。また誕生した原内閣は、彼が暗殺されるまで三年余に亘り続き、同憲法体制下歴代4位に位置する長期政権になったが、その理由はどこにあったのであろうか。原の政権戦略を中心に検証してみたい。

参考書：

玉井清『原敬と立憲政友会』(慶應義塾大学出版会)

---

近代日本政党史 (春学期)

大正期の政党

講師 酒井正文

---

授業科目の内容：

わが国の政党史をみると、明治期に生まれた自由党と改進黨の二つの潮流は、昭和戦前期には政友会と民政党の二大政党時代となった。この授業では、このうち改進黨の流れを引く大正期の立憲同志会、憲政会の動向を中心に、展開された各勢力間の葛藤や主要政治家の人物論を交えながら、近代日本政党史を講義する予定である。

テキスト：

教科書は使用しない。

参考書：

参考文献等は、講義の中で適宜指示する。

---

近代日本政党史 (秋学期)

二大政党対立時代を軸にして

講師 酒井正文

---

授業科目の内容：

わが国の政党史をみると、明治期に生まれた自由党と改進黨の二つの潮流は、昭和戦前期には政友会と民政党の二大政党時代となった。この授業では、春学期に続いて、大正期後半の憲政会内閣の時代から昭和期の政友会・民政党の二大政党対立時代を中心に、憲政会(民政党)に軸を置きながら、展開された各勢力間の葛藤や主要政治家の人物論を交えながら、近代日本政党史を講義する予定である。

テキスト：

教科書は使用しない。

参考書：

参考文献等は、講義の中で適宜指示する。

---

現代日本行政論 (春学期)

日本の行政の制度・運営とその改革を中心として

講師 堀江正弘

---

授業科目の内容：

内外の構造的変化の中であって、日本は種々の厳しい課題に直面しており、政府・行政も多くの問題・課題に取り組んでいる。このため、現代日本の行政を理解するには、現在ある制度について理解するだけでなく、その運営の実際、直面する問題や課題、それらへの取り組み状況、今後の見通し等、幅広く、アプローチすることが重要である。

本講義では、中央官庁に30年以上在職し、様々の改革に直接・間接に関わってきた経験、内外の大学等での講義や研究指導の経験を活かし、行政の主要な制度の理論にとどまらず、実例・エピソード等も加えながら、行政の実際、実態についても分かりやすく紹介し、日本の政府・行政の制度・運営、問題点・課題、現在進行中の諸改革等について、いろいろな角度から考えてみたい。具体的に講義でカバーする予定の分野・事項は、政府・統治構造、内閣制度、議会制度、政官関

係、行政組織、行政活動、公務員制度、人事行政、要員管理、特殊法人・独立行政法人、公益法人等、予算・財政制度と財政投融资制度、国・地方国家と地方分権、これらを包括した行政改革等である。

(秋学期)と合わせて主要分野、事項をカバーする予定である。

テキスト：

・「行政学」(西尾勝,有斐閣)

・「現代の行政(改訂版)」(森田朗,放送大学教育振興会)

参考書：

データ集「データブック日本の行政」(行政管理研究センター)

---

現代日本行政論 (秋学期)

日本の行政の制度・運営とその改革を中心として

講師 堀江正弘

---

授業科目の内容：

現代日本行政論 とセットの講義である。・あわせて、日本の行政に関する主要な制度およびこれを巡る問題について概ね全体をカバーする予定であるが、現代日本行政論を受講できない(できなかった)者も受講することができる。春学期で受講できなかった者のため、および、受講した者のレビューのため、秋学期の冒頭に、現代日本行政論のエッセンスを説明する。

現代日本行政論 でカバーする予定の分野・事項は、行政改革、政策決定と政策手段、規制制度、規制改革、行政手続、情報公開、情報保護、行政の情報化、電子政府、統計制度、統計情報、行政評価、政策評価、行政監視、行政相談、オンブズマン、行政不服審査、政府広報等である。

テキスト：

現代日本行政論 と同じ

・「行政学」(西尾勝,有斐閣)

・「現代の行政(改訂版)」(森田朗,放送大学教育振興会)

参考書：

データ集「データブック日本の行政」(行政管理研究センター)

---

現代日本政治論 (春学期)

講師 森

正

---

授業科目の内容：

この講義では、現代日本の政治過程における諸現象について、実証的な研究事例を通じて解説することを目的としている。豊富なデータに基づき、わが国の民主主義がいかなる状況にあったのか、具体的にどのような問題を抱えているのか、どのような論理で日本の政治が動いてきたのかを明らかにする。

さらに、実証分析から導き出される現実の姿と理念の間にギャップがあれば、その乖離を埋めるための方策を検討、考察したい。現在の政治状況が抱える諸問題をいかに解決していくことができるのか、履修者自身が考察するための参考になればと考えている。

春学期では、有権者が選挙を通して政党や候補者に託した民意が、どのような形で再び有権者にフィードバックされているのかを検討する。政党、政治家、官僚、利益集団といったさまざまなアクターが自らの合理性を追求した結果、政策決定がなされている状況について論じる。

テキスト：

小林良彰『現代日本の政治過程 日本型民主主義の計量分析』東京大学出版会、1997年

参考書：

・小林良彰『選挙・投票行動』東京大学出版会、2000年

・小林良彰(編)『日本における有権者意識の動態』慶應義塾大学出版会、2005年

---

現代日本政治論 (秋学期)

講師 森

正

---

授業科目の内容：

この講義では、現代日本の政治過程における諸現象について、実証的な研究事例を通じて解説することを目的としている。豊富なデータに基づき、わが国の民主主義がいかなる状況にあったのか、具体的にどのような問題を抱えているのか、どのような論理で日本の政治が動いてきたのかを明らかにする。

さらに、実証分析から導き出される現実の姿と理念の間にギャッ

ブがあれば、その乖離を埋めるための方策を検討したい。現在の政治状況が抱える諸問題をいかに解決していくことができるのか、履修者自身が考察するための参考になればと考えている。

秋学期では、特に有権者の投票行動、政治参加に焦点を当てる。前半部では、地域特性や経済状況を示すアグリゲートデータを用いた投票行動や政党支持に関するマクロ分析を、後半部では、世論調査によるサーベイデータを用いたミクロ的な分析を紹介する。

テキスト：

小林良彰『現代日本の政治過程 日本型民主主義の計量分析』東京大学出版会、1997年

参考書：

- ・小林良彰『選挙・投票行動』東京大学出版会、2000年
- ・小林良彰（編）『日本における有権者意識の動態』慶應義塾大学出版会、2005年

---

#### 古代日本政治史（秋学期）

古代国家の形成過程

教授 笠原英彦

---

授業科目の内容：

1. 邪馬台国をめぐって
2. 上代の王位継承
3. 応神朝以降の政治動向
4. 倭の五王の時代
5. 5C～6Cの政治動向

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

- ・笠原英彦『天皇と官僚』（PHP研究所）
- ・笠原英彦『歴代天皇総覧』（中公新書）

---

#### 戦後日本政治史（春学期）

終戦から東京オリンピックまで

講師 佐藤晋

---

授業科目の内容：

本講義では、従来しばしば見られたような「戦後史＝内閣史」という整理ではなく、国際環境の変容と、国民世論および各利益集団の動向に規定された歴史としての戦後日本政治史の構築を試みます。取り扱う時期は、1945（昭和20）年の太平洋戦争終戦時から、東京オリンピックが開催された1964（昭和39）年までの約20年間です。

本講義を通じて、履修者が、多角的かつバランスよく戦後日本政治をとらえることができるようにします。また、戦後日本の進路をめぐり、実現には至らなかったさまざまな構想を取り上げることで、戦後政治上の指導者が実際にとった選択の是非を、受講者自身が評価することができるようになることを目指します。

テキスト：

石川真澄『戦後政治史』（岩波新書、2004年）

また、毎回、講義資料プリントを配布します。

参考書：

- 講義の中で逐次紹介します。まずは、渡邊昭夫編『戦後日本の宰相たち』（中央公論社、1995年）、北岡伸一『自民党』（読売新聞社、1995年）をお勧めします。

---

#### 戦後日本政治史（秋学期）

高度経済成長の実現とその後

講師 佐藤晋

---

授業科目の内容：

本講義では、従来しばしば見られたような「戦後史＝内閣史」という整理ではなく、国際環境の変容と、国民世論および各利益集団の動向に規定された歴史としての戦後日本政治史の構築を試みます。取り扱う時期は、日本が世界の経済大国の仲間入りを果たしつつあった1965（昭和40）年から、政界再編が一段落した1996（平成8）年までの約30年間です。

本講義を通じて、履修者が、多角的かつバランスよく戦後日本政治をとらえることができるようにします。また、戦後日本の進路をめぐり、実現には至らなかったさまざまな構想を取り上げることで、戦後政治上の指導者が実際にとった選択の是非を、受講者自身が評

価することができるようになることを目指します。

テキスト：

石川真澄『戦後政治史』（岩波新書、2004年）

また、毎回、講義資料プリントを配布します。

参考書：

- 講義の中で逐次紹介します。まずは、渡邊昭夫編『戦後日本の宰相たち』（中央公論社、1995年）、北岡伸一『自民党』（読売新聞社、1995年）をお勧めします。

---

#### 中世日本政治史（春学期）

治承・寿永の内乱と鎌倉幕府の成立

講師 川合康

---

授業科目の内容：

本講義では、中世荘園制が展開する12世紀前半の鳥羽院政期から鎌倉幕府の成立に至る政治史の展開を検討する。この時代は、保元の乱、平治の乱、治承・寿永の内乱と大規模な戦乱が続き、社会的秩序や国家体制の在り方を大きく変容させていった時代である。本講義では、そのような社会変動に注目しつつ、12世紀末に全国の地域社会を巻き込んだ治承・寿永の内乱がなぜ勃発し、いかなる権力として鎌倉幕府が生まれ出されてきたのかについて考察したい。

テキスト：

講義資料プリントを配布する。

参考書：

- 川合康『源平合戦の虚像を剥ぐ』（講談社選書メチエ）、同『鎌倉幕府成立史の研究』（校倉書房）

---

#### 中世日本政治史（秋学期）

飢饉・戦乱の時代と鎌倉幕府

講師 川合康

---

授業科目の内容：

本講義は、鎌倉幕府が成立したのち、13世紀前半の北条泰時・時頼による執権政治の展開に至る時期の政治史を、公武両権力の動向を踏まえながら検討する。この段階は、源氏将軍の断絶や承久の乱、そして寛喜の大飢饉など、公武両権力にとっては様々な「危機」に直面し、それに対応する政策や政治体制の構築が迫られた時代である。本講義では、そのような中世国家の危機管理の在り方の一つとして執権政治をとらえ直し、13世紀前半の社会の現実から鎌倉幕府の意義を考察したい。

テキスト：

講義資料プリントを配布する。

参考書：

授業中に適宜紹介する。

---

#### 日本外交史（春学期）

教授 添谷芳秀

---

授業科目の内容：

戦後日本外交の変遷を講義する。重要事項を外交史の事例として理解することとあわせて、戦後日本外交の全体像を理解するための視角や枠組みを重視して講義する。とりわけ、選択の自由が根本的に締約されていた占領下での吉田茂の選択が、その後不完全なまま定着したことの意味を考えてみたい。それは、きわめて今日の問題でもあり、そのことを深くみつめ直さなければ、今後の日本外交の指針もみえてこないだろう。

テキスト：

添谷芳秀『日本の「ミドルパワー」外交』（ちくま新書、2005年）

参考書：

参考文献を適宜講義のなかで紹介する。概説としてはとりあえず以下を参照のこと。

- ・添谷芳秀『日本外交と中国1945-1972』（慶應義塾大学出版会、1995年）
- ・五百旗頭真『戦後日本外交史』（有斐閣、1999年）

# 政治

日本行政史 (春学期) 講師 進 邦 徹 夫

## 授業科目の内容:

本講義は、我が国の行政改革の史的展開を検討することを通じ、日本の行政システムに内在する「行政文化」を抽出することを課題とします。

明治国家設立の背景には、「天皇親政論」と「講義政体論」という二律背反的な政体への志向がありました。明治初期太政官制改革の背景には、かかる政体論から導かれた政府内部の混乱のほか、太政官制に内在する制度的欠陥が存在したことを指摘する必要があります。

本講義では、明治初期太政官制改革を中心に、錯綜する政府内部の対立の構図と、官制改革を導いた制度的要因を講述します。

## テキスト:

笠原英彦 / 桑原英明編『日本行政の歴史と理論』芦書店 2004

## 参考書:

笠原英彦『日本行政史序説』芦書店

日本行政史 (秋学期) 講師 進 邦 徹 夫

## 授業科目の内容:

本講義は、我が国地方行政の史的展開を検討することを通じて、我が国の中央 地方関係を規定する行政文化の抽出を試みます。

中央 地方関係を分析するにあたっては、事務・財政・人事等の様々なリソースを媒介変数として設定する必要があります。このようなリソースを媒介変数とすれば、近年の地方分権の議論は、中央から地方にリソースをシフトさせる議論として捉えることができましょう。本講義では、以上のようなリソースを媒介変数として地方行政の史的展開を検討し、もって中央 地方関係を規定した背景を講述します。

## テキスト:

笠原英彦 / 桑原英明編『日本行政の歴史と理論』芦書店 2004

## 参考書:

笠原英彦『日本行政史序説』芦書店

日本政治運動史 (春学期)  
明治維新 講師 吉 田 博 司

## 授業科目の内容:

明治維新を対象とする講義です。まず、幕末の尊攘運動、倒幕運動を考察し、自由民権運動に及びます。政治運動における大義(タテマエ)と権力闘争(ホンネ)を歴史的事例で理解します。運動を担った代表的なリーダーたちの人物論も織り込み政治的人間を浮彫にする試みもします。

## 参考書:

ガイドンスで説明します。

日本政治運動史 (秋学期)  
大正デモクラシーと昭和維新 講師 吉 田 博 司

## 授業科目の内容:

近代日本の政党政治の形成と挫折の過程を検討します。第一次護憲運動、普通選挙運動を通して民衆の政治的台頭を見、大正デモクラシーの思想的指導者に触れます。次に昭和期の国家主義的革新運動と政党政治の挫折を歴史のおよび思想的背景から理解に努めます。

## 参考書:

- ・寺崎修編著『シリーズ日本の政治』第2巻、法律文化社。
- ・吉田博司『近代日本の政治精神』芦書房(いずれかレポート作成に使用)

日本政治思想史 (春学期) 教授 寺 崎 修

## 授業科目の内容:

日本の政治思想をその当時の時代状況のなかで理解しようとする立場から、明治維新以降の政治思想を概観する。

## テキスト:

未定

参考書:  
講義の際に適宜紹介する

日本政治思想史 (秋学期)  
福澤諭吉の政治論 教授 寺 崎 修

## 授業科目の内容:

福澤諭吉の学問論や実業論については、よく知られているが、彼の政治論については意外と知られていない。本講義では彼の政治論に焦点をしばり、詳しく解説をしたい。

## テキスト:

『福澤諭吉著作集』第7巻(慶應義塾大学出版会)

## 参考書:

講義の際に適宜紹介する。

マス・コミュニケーション発達史 (春学期)  
講師 鈴 木 雄 雅

## 授業科目の内容:

ジャーナリズムの発展について概説する。文字の誕生から紙、印刷などの複製技術の出現、通信、交通手段の発展が、ジャーナリズムの形式を規定していく状況を眺める。さらに幕末日本に新聞、雑誌が出現してから近代新聞が成長し、その過程でジャーナリズムの機能がどのように近代日本の社会発展と関わりあってきたかを考察する。授業スケジュール・参考文献類については、最初の講義時に発表。

## 授業サイト URL

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/keio/guide06.html>

## テキスト:

春原昭彦『日本新聞通史[四訂]』(新泉社, 2003)

## 参考書:

宮地正人『国際政治下の近代日本』(山川出版社)ほか。講義時に紹介する

マス・コミュニケーション発達史 (秋学期)  
イギリスのジャーナリズム 講師 鈴 木 雄 雅

## 授業科目の内容:

ジャーナリズム揺籃の地といわれるヨーロッパ地域のマス・メディアについて学ぶ。外国のマス・メディアを学ぶ基礎的知識・オリエンテーションののち、イギリス・ジャーナリズムの歴史、現状、問題点を探る。

適時、ヨーロッパのマス・メディア、ジャーナリズムの問題をとりあげるが、国際的なマス・メディア産業の動態分析やジャーナリズム研究にとどまらず、その形成過程に多大な影響を及ぼす政治体制や社会構造の変化にも注目する。さらに、常に日本の状況と比較しながら、現代ヨーロッパのマス・メディアの構造と機能を研究する。授業スケジュール・参考文献類については、最初の講義時に発表。

## 授業サイト URL

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/keio/guide06.html>

## テキスト:

とくに指定しない。適時指示する。

## 参考書:

Euromedia Research Group, The Media in Europe: The Euromedia Handbook London: Sage, 2004.

マス・コミュニケーション論 (春学期)  
マス・コミュニケーションと政治 教授 大 石 裕

## 授業科目の内容:

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

## テキスト:

- ・大石裕『コミュニケーション研究(第2版)』慶應義塾大学出版会, 2006年
- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書：

- ・マッコムズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
- ・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房

マス・コミュニケーション論（秋学期）  
ジャーナリズムとメディア言説 教授 大石 裕

授業科目の内容：

ジャーナリズムに関する理論的考察（ニュース論や客観報道論など）、言説分析によるニュース分析、メディア・イベントとメディア言説、に関して講義する。

テキスト：

大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』（勁草書房）

参考書：

- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣
- ・鶴木真編『客観報道』成文堂
- ・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房

立法過程論（春学期） 教授 増山 幹 高

授業科目の内容：

この講義では、立法過程における「制度と行動の相互性」について論じます。民主的な代議政体において、どのような権力の集中・分散が達成されるかは、現政権の実績と将来の政権構想の二者択一がどの程度有権者に意識されているのかということに依存する問題です。本講義では、どのように権力の集中・分散が立法過程や政策形成において促進されているのかということについて、これまでの政治学的な理論・実証分析を解説していきます。

テキスト：

- ・増山著『議会制度と日本政治』（木鐸社、2003年）
- ・河野・平野編著『アクセス日本政治論』（日本経済評論社、2003年）

参考書：

授業で随時案内します。

立法過程論（秋学期） 教授 増山 幹 高

授業科目の内容：

この講義では、春学期に続いて、立法過程における「制度と行動の相互性」について検討するとともに、焦点を日本の国会における立法手続きに移行させ、立法過程の各段階に携わる実務家をゲスト・スピーカーとして招きます。具体的には、日本の国会は二院制や委員会制が採用されており、権力の集中度が本来の議院内閣制が想定しているほどには進んでいません。この講義では、立法の実務的な現場感覚を知ることによって、立法過程や政策形成における「制度と行動の相互性」を検証していくこととします。

テキスト：

- ・増山著『議会制度と日本政治』（木鐸社、2003年）
- ・河野・平野編著『アクセス日本政治論』（日本経済評論社、2003年）

参考書：

授業で随時案内します。

近代日本政治史特殊研究（春学期）教授 玉井 清

授業科目の内容：

ナチス・ヒットラーの抬頭を同時代の日本人はどのように捉えていたのだろうか。昭和戦前期日本人の対独感を下記のテキストを土台にして考察してみたい。

テキスト：

岩村正史『戦前日本人の対独意識』（慶應義塾大学出版会）

近代日本政治史特殊研究（秋学期）  
満州事変の衝撃と内外の反応 教授 玉井 清

授業科目の内容：

昭和6年9月に勃発した満州事変は、その後の日中戦争、日米開戦へと向う我が国の歩みに鑑みる時、戦前の日本政治史上、書き落

とすことの出来ぬ出来事である。この事変に関し、国内の各政治勢力がさらに関係諸外国がいかなる反応を示したかは、その後の我が国の進路を検証する際の重要な視座を提示している。

下記の研究書を読み解きながら、上記の問題意識に立ち議論を深めたい。

テキスト：

中村勝範編『満州事変の衝撃』（勁草書房）

古代日本政治史特殊研究（秋学期）  
大化改新をめぐって 教授 笠原 英彦

授業科目の内容：

遠山美津男『大化改新』（中公新書）や同『壬申の乱』（中公新書）を輪読する。

テキスト：

- ・平野邦雄編『史話日本の古代 六 大化の改新と壬申の乱』（作品社）
- ・遠山美都男『大化改新』（中公新書）
- ・ " " 『壬申の乱』（中公新書）

参考書：

笠原英彦『天皇と官僚』（PHP研究所）

日本行政史特殊研究（春学期）  
大学病院のあり方 教授 笠原 英彦

授業科目の内容：

毎日新聞科学部『大学病院ってなんだ』（新潮社）を輪読しながら関連事項について考える。

テキスト：

毎日新聞科学部『大学病院ってなんだ』（新潮社）

参考書：

笠原英彦『日本の医療行政』（慶應義塾大学出版会）

日本政治思想史特殊研究（秋学期）  
教授 寺崎 修

授業科目の内容：

福沢の書簡を通じて彼の人間像に接近する。

テキスト：

『福澤諭吉の手紙』（岩波文庫）

参考書：

富田正文『考証福澤諭吉』上・下（岩波書店）

## 〔地域研究論〕

NGO・NPO 論（秋学期）  
世界と日本社会の変動の原点を草の根の視点で考える  
講師 毛受敏浩

授業科目の内容：

- ・ NGO・NPO の日本社会における意義
- ・ グローバル化と地域社会における変化
- ・ NGO・NPO を成功させるための要件
- ・ NGO・NPO を立ちあげるには（実践者の経験に学ぶ）

テキスト：

「地球市民ネットワーク」アルク、毛受敏浩著

参考書：

- ・ 「異文化体験入門」（明石書店、毛受敏浩著）
- ・ 「草の根の国際交流と国際協力」（明石書店、毛受敏浩著）

アフリカ社会論（春学期）  
イギリスおよびフランスの古典的民族誌を中心に  
講師 菊地 滋 夫

授業科目の内容：

サハラ砂漠以南のアフリカは、主としてイギリスやフランスの人

## 政治

類学者たちのフィールドとして、膨大な研究が蓄積されてきました。また、過去 30 数年あまりの間には、日本の人類学者たちによる研究も非常に盛んに行われています。「アフリカ社会論」では、アフリカ諸地域を対象とした文化人類学的研究を幅広く取りあげる予定ですが、春学期に開講されるこの「アフリカ社会論」では、とくにイギリスおよびフランスの古典的民族誌を中心に紹介してゆきます。履修者のみなさんにとっては、アフリカの社会的・文化的多様性と、それらをめぐる人類学的研究の様々なアプローチに接する機会となるでしょう。ただし、授業担当者は、今日のアフリカの社会を理解するうえで極めて重要であると思われる妖術や憑依霊信仰などの呪術・宗教文化に関心を寄せて来ましたので、そうした内容を比較的多く扱うことになります。そして、授業全体に通底するキーワードは、伝統的なアフリカ諸社会に様々な形で見出された「両義性」です。

テキスト：

使用しません。

参考書：

授業の中で適宜紹介します。

---

### アフリカ社会論（秋学期）

日本の人類学者による近年の研究を中心に

講師 菊地 滋夫

---

授業科目の内容：

サハラ砂漠以南のアフリカは、主としてイギリスやフランスの人類学者たちのフィールドとして、膨大な研究が蓄積されてきました。また、過去 30 数年あまりの間には、日本の人類学者たちによる研究も非常に盛んに行われています。「アフリカ社会論」では、アフリカ諸地域を対象とした文化人類学的研究を幅広く取りあげる予定ですが、秋学期に開講されるこの「アフリカ社会論」では、とくに日本の人類学者による近年の研究を中心に紹介してゆきます。履修者のみなさんは、一見したところ「伝統的」な装いのもとに生成する今日のオカルト文化の持つ近現代的な背景や、「都市」、「国家」、「民族紛争」、「社会変化」などといった、アフリカの現在を理解するうえで無視しがたいテーマを扱った人類学的研究に触れることになるでしょう。

テキスト：

使用しません。

参考書：

授業の中で適宜紹介します。

---

### イスラーム社会論（春学期）

現代エジプトの都市化と社会変動 講師 店田 廣文

---

授業科目の内容：

世界人口の 5 分の 1 は、イスラーム信者であり、世界の 200 ヶ国以上の多様な社会にかかれは居住している。現代エジプトの都市社会を事例としながら、イスラーム社会の現代について学ぶ。

テキスト：

店田廣文「エジプトの都市社会」（早稲田大学出版部、1999 年）

参考書：

授業中に指示する。

---

### 開発援助政策論（春学期）

講師 後藤 一美

---

授業科目の内容：

(1) 概要：開発援助を含む国際開発協力の世界は、一見きれいごとのように見えても、その実、利害関係を有する多様なアクター間のダイナミックな緊張関係が渦巻く同床異夢の世界である。世界の開発・環境・人権・平和をめざす「政府開発援助」(ODA) という名の美德のかたまりをある種の隠れ蓑にしなが、あまたの組織や集団や個人が、「私」の夢と欲望と使命で織りなした「公」の装いを表現することによって、それぞれの行動を展開している。わが国 ODA50 年余の歴史を回顧すれば、戦後の国際社会における日本という国とその民の「自分探しの旅」であったといえよう。ODA は、「国際社会で日本という国と国民を映し出す鏡である」という。「顔の見える援助」、「声の聞こえる援助」というかけ声と裏腹に、日本のアイデ

ンティティ（自分らしさ）は、国際社会の他のアクターとの関係性において、どれほどまでに発現されているのだろうか。また、援助という手段をとおした「国益」の実現への寄与が求められる昨今、日本が追及する目標とは、はたしてどのようなものであろうか。

(2) 目的：本講義の目的は、日本の国際開発協力に関する主要な援助形態と行動主体を中心として、その実態と特色を明らかにするとともに、今後の課題と展望を提示することである。本講義では、「日本の国際開発協力」(春学期)と「開発援助政策研究」(秋学期)を学習しながら、「開発援助政策論」(援助行政と開発行政の相互作用に係る制度・実施・評価の実態分析に基づく問題解決アプローチ)を展開することによって、将来、国際開発協力の世界で活躍する人材の育成をめざしたい。(秋学期においては、実際に国際開発協力の現場で働いている方々を授業内ゲスト・スピーカーとして招待することも予定したい。)

(3) 手法：本講義は、ビデオ(日本語・英語)、講義(OHP 使用)、質疑応答の 3 点セットを組み合わせながら、開発援助の臨場感を抱けるように工夫している。特段の予備知識を必要としない。また、講師による一方的講義スタイルではなく、受講者の参加型演習とプレゼンテーションを随所に設けることにより、受講者の表現能力の能力向上に力点を置いている。

テキスト：

後藤一美・大野泉・渡辺利夫(編著)『日本の国際開発協力』シリーズ国際開発：第 4 巻 日本評論社、2005 年。

講義資料・参考資料・参考文献リスト 授業のなかで配布。

参考書：

- ・ 荒木光弥、『1970 年代途上国援助 歴史の証言』『1980 年代途上国援助 歴史の証言』『1990 年代途上国援助 歴史の証言』国際開発ジャーナル社、1997 年 & 2005 年。
- ・ 西垣昭・下村恭民・辻一人『開発援助の経済学 共生の世界と日本の ODA』第 3 版 有斐閣、2003 年。
- ・ 渡辺利夫・三浦有史『ODA (政府開発援助) 日本に何ができるか』中公新書、2003 年。

---

### 開発援助政策論（秋学期）

講師 後藤 一美

---

授業科目の内容：

(1) 概要：開発援助を含む国際開発協力の世界は、一見きれいごとのように見えても、その実、利害関係を有する多様なアクター間のダイナミックな緊張関係が渦巻く同床異夢の世界である。世界の開発・環境・人権・平和をめざす「政府開発援助」(ODA) という名の美德のかたまりをある種の隠れ蓑にしなが、あまたの組織や集団や個人が、「私」の夢と欲望と使命で織りなした「公」の装いを表現することによって、それぞれの行動を展開している。わが国 ODA50 年余の歴史を回顧すれば、戦後の国際社会における日本という国とその民の「自分探しの旅」であったといえよう。ODA は、「国際社会で日本という国と国民を映し出す鏡である」という。「顔の見える援助」、「声の聞こえる援助」というかけ声と裏腹に、日本のアイデンティティ（自分らしさ）は、国際社会の他のアクターとの関係性において、どれほどまでに発現されているのだろうか。また、援助という手段をとおした「国益」の実現への寄与が求められる昨今、日本が追及する目標とは、はたしてどのようなものであろうか。

(2) 目的：本講義の目的は、日本の国際開発協力に関する主要な援助形態と行動主体を中心として、その実態と特色を明らかにするとともに、今後の課題と展望を提示することである。本講義では、「日本の国際開発協力」(春学期)と「開発援助政策研究」(秋学期)を学習しながら、「開発援助政策論」(援助行政と開発行政の相互作用に係る制度・実施・評価の実態分析に基づく問題解決アプローチ)を展開することによって、将来、国際開発協力の世界で活躍する人材の育成をめざしたい。(秋学期においては、実際に国際開発協力の現場で働いている方々を授業内ゲスト・スピーカーとして招待することも予定したい。)

(3) 手法：本講義は、ビデオ(日本語・英語)、講義(OHP 使用)、質疑応答の 3 点セットを組み合わせながら、開発援助の臨場感を抱けるように工夫している。特段の予備知識を必要としない。また、講師による一方的講義スタイルではなく、受講者の参加型演習とプレゼンテーションを随所に設けることにより、

受講者の表現能力の能力向上に力点を置いている。

テキスト：

後藤一美（監修）『国際協力用語集』第3版，国際開発ジャーナル社，2004年。

講義資料・参考資料・参考文献リスト 授業のなかで配布。

参考書：

- ・絵所秀紀・穂坂光彦・野上裕生（編著）『貧困と開発』シリーズ 国際開発：第1巻 日本評論社，2004年。
- ・白井早由里『マクロ開発経済学 対外援助の新潮流』有斐閣，2005年。
- ・John Degenbol-Martinussen and Poul Engberg-Pedersen, Aid: Understanding International Development Cooperation, Palgrave-Macmillan, 2003.

#### 現代アメリカ論（春学期）

現代アメリカ政治の基礎と最近の動向

客員教授 久保文明

授業科目の内容：

アメリカの政治制度の概説を行った後，政治過程および政策決定過程の特徴に及び，いくつかの政治的争点について各論的に触れた後，政治文化ないし政治思想的側面から考察を行う。理論的な考察と地域研究的な分析，そして比較論的な視座を交えながら議論を進めていきたい。アメリカ政治の特質を探りつつ，同時に近年の政治変動やブッシュ政権の動向についても注意を払いたい。

テキスト：

阿部育・久保文明『国際社会研究：現代アメリカの政治』（放送大学教育振興会，2002年）

参考書：

- ・久保文明編『G.W. ブッシュ政権とアメリカの保守勢力』（日本国際問題研究所，2003年）
- ・久保文明編『米国民党 2008年政権奪回への課題』（日本国際問題研究所，2005年）
- ・久保文明『現代アメリカ政治と公共利益 環境保護をめぐる政治過程』（東大出版会，1997年）

#### 現代アメリカ論（秋学期）

現代アメリカ政治概論 理論と歴史の視点から

講師 岡山 裕

授業科目の内容：

アメリカ合衆国の政治の重要な構成要素を取りあげ，集中的に検討します。アメリカ政治についてはニュース等で多くの情報が得られ，「大統領制」「二大政党制」「連邦制」といったはっきりした特徴もあることからわかった気になりがちですが，その面白さ（と難しさ）はそこから一歩踏み出したところにあると考えています。そこでこのコースでは，現代を念頭に置きつつも，ある要素が政治全体の構造の中でどう位置づけられ，それを取りまく主体や制度からいかなる影響を受けているのか，またアメリカ政治の構造自体がどう変動してきた（と考えられている）のか，に注意を払い，理論と歴史の両面から解説を行います。従って，手っとり早くアメリカの「事情通」になりたい人にはあまり向きません。むしろ，日々得られる情報をもとに自分で考えられるようになりたい人に，そのための分析上の道具立てを提供できればと考えています。

テキスト：

毎回レジュメと資料プリントを配布し，久保文明編『アメリカの政治』（弘文堂，2005年）の指定箇所を読んでいくことを前提に授業を進めます（講義がこの書物に準拠するという意味ではありません）。

参考書：

阿部齊他『北アメリカ』第2版（自由国民社，2005年）

#### 現代オーストラリア論（春学期）

多文化交錯社会オーストラリアにおける市民意識の動態と秩序形成(1)

教授 関根政美

授業科目の内容：

本年は，日豪交流年である。それは，1976年の日豪友好基本条約

締結30年を祝い，両国間の相互理解を促進するために設定されたものである。よって，本年度は，その記念事業の一環として，通常半年授業として実施してきた現代オーストラリア論を春学期・秋学期を通して実施し，オーストラリアの過去・現在・未来について論じたい。授業全体は，白豪主義国家オーストラリアがアジア・太平洋国家／多文化主義社会オーストラリアへと変貌していく文化・社会変動に焦点を当てる予定である。春学期は現代オーストラリア論として，現代の移民国家オーストラリアの多文化主義についてまず解説することからはじめ，白人入植以前のオーストラリアの状況，そして，白人入植以後の「白豪主義」の発展と確立過程である19世紀半ばから20世紀半ばに焦点を当てる。授業では，アボリジニの時代，白人植民地・連邦国家の発展と白豪主義の展開の時代を論じ，なぜ19世紀から20世紀半ばにかけて，オーストラリアは白豪主義を採用したのかその理由について，19世紀の国民国家形成とナショナリズムの展開との関係に焦点を当てて論じたいが，そのことにより，近代とはどういう時代であったのかについて明らかにするつもりである。

テキスト：

藤川隆男編2004年『オーストラリアの歴史：多文化社会の歴史の可能性を探る』有斐閣，2003年。

参考書：

- ・関根政美，『マルチカルチュラル・オーストラリア 現代オーストラリアの社会変動』成文堂，1989年。
- ・森・竹田編『オーストラリア入門』，東京大学出版会刊，1998年
- ・竹田いさみ『オーストラリア物語』中央公論社，2000年
- ・関根政美『多文化主義社会の到来』朝日新聞社刊，2000年

#### 現代オーストラリア論（秋学期）

多文化交錯社会オーストラリアにおける市民意識の動態と秩序形成(2)

教授 関根政美

授業科目の内容：

本年は，日豪交流年である。それは，1976年の日豪友好基本条約締結30年を祝い，両国間の相互理解を促進するために設定されたものである。よって，本年度は，その記念事業の一環として，通常半年授業として実施してきた現代オーストラリア論を春学期・秋学期を通して実施し，オーストラリアの過去・現在・未来について論じたい。授業全体は，白豪主義国家オーストラリアがアジア・太平洋国家／多文化主義社会オーストラリアへと変貌していく文化・社会変動に焦点を当てる予定である。春学期に続き，秋学期は現代オーストラリア論として，現代の移民国家オーストラリアの多文化主義に焦点を当て，現代オーストラリアが，人口移動のグローバル化に揺れる現代世界と国民国家に対応するための新しい文化・社会秩序形成努力において先進的な事例であることから論じはじめ，第2次世界大戦後の文化・社会変動の過程を論じたい。授業では，第2次世界大戦後の白豪主義政策の終焉過程と，多文化主義政策の登場する理由を論じ，その後の多文化主義政策の発展過程とオーストラリア社会の文化・社会変動について論じたい。その際に，多文化主義の変容過程に注目するだけでなく，多文化主義の可能性と限界についても論じたい。オーストラリアを見ることにより，オーストラリアだけではなく，日本を含むすべての先進諸国を取り巻く巨大な世界変動の波を実感することができるだろう。

テキスト：

・藤川隆男編2004年『オーストラリアの歴史：多文化社会の歴史の可能性を探る』有斐閣。

・関根政美著，2000年『多文化主義社会の到来』朝日新聞社刊。

参考書：

- ・関根政美，1989年『マルチカルチュラル・オーストラリア 現代オーストラリアの社会変動』成文堂。
- ・森・竹田編1998年『オーストラリア入門』，東京大学出版会刊。
- ・竹田いさみ2000年『オーストラリア物語』中央公論社。
- ・カースルズ／ミラー（関根・関根訳，1996年）『国際移民の時代』名古屋大学出版会。
- ・関根政美，1994年『エスニシティの政治社会学』名古屋大学出版会。
- ・D・ヒーター（田中・関根訳『市民権とは何か』岩波書店，2003年。

## 政治

---

現代韓国朝鮮論 (春学期) 教授 小此木 政 夫

---

### 授業科目の内容:

朝鮮戦争後の韓国と北朝鮮の国内政治や対外関係について講義する。韓国については、リーダーシップ、政治体制などの観点から、軍隊の政治介入、工業化の達成、民主化などについて、また北朝鮮については独自社会主義の形成、民族解放闘争などについて説明する。さらに、南北関係、日韓・日朝関係なども重要なテーマになる。そのつど、時事的なトピックについても解説する。

### テキスト:

なし

### 参考書:

随時紹介します。

---

現代台湾論 (秋学期) 講師 若 林 正 丈

---

### 授業科目の内容:

複数の帝国(中華帝国、近代日本植民帝国、戦後のアメリカの非公式帝国)の周縁に位置づけられてきたという台湾の歴史に留意しながら、民主化とともにまたそれを越えて展開する「中華民国台湾化」という政治構造変動のダイナミクスを論じる。それは、台湾内部でも国際社会でも「台湾とは何か」が争われる「アイデンティティの政治」である。

### テキスト:

若林正丈『台湾』(ちくま新書, 2001年)。

### 参考書:

若林正丈『台湾 分裂国家と民主化』東京大学出版会, 1992

---

現代中国論 (秋学期)  
中国の国際関係 教授 国 分 良 成

---

### 授業科目の内容:

中国をめぐる国際関係を様々な角度から具体的に分析する。

### 参考書:

- ・国分良成『アジア時代の検証 中国の視点から』朝日選書, 1996年
- ・国分良成『中華人民共和国』ちくま新書, 1999年
- ・国分良成編『中国政治と東アジア』慶應義塾大学出版会, 2004年

---

現代中東論 (春学期)  
中東のエスニシティと政治文化 教授 富 田 広 士

---

### 授業科目の内容:

次の講義項目を予定している。若干修正変更する。

#### (1) 一体性

- 1 国家概念の重層性
- 2 アラブ・イスラーム・アイデンティティの諸相

#### (2) 多様性

- 1 少数宗派・宗教・民族
- 2 地域紛争の構造

#### (3) 政治文化

- 1 アラブの社会構造
- 2 ベドウィン(遊牧民部族)の意志決定様式

### テキスト:

立山良司他『国際情勢ベーシック シリーズ 中東』(第3版)自由国民者(2002年)

### 参考書:

学期中、図書館リザーブ・ブックとして閲覧可。

---

現代中東論 (秋学期)  
中東の政治経済学 教授 富 田 広 士

---

### 授業科目の内容:

次の講義項目を予定している。若干修正変更する。

#### 1. 政治風土

- (1) イスラームの展開

(2) 中東経済の歴史的背景と現状

#### 2. 国際環境

- (1) 植民地支配と「国民国家」の成立
- (2) パレスチナ問題の発生と展開
- (3) 域内国際関係

#### 3. 人口問題

#### 4. 経済開発と国家

- (1) 政府主導主義
- (2) 工業化政策

#### 5. 経済自由化

- (都市化)
- (農業と食糧問題)
- (経済開発と国際関係)

#### 6. 政治体制の国別比較(政党・選挙・議会)

### テキスト:

学期初めに、資料・統計・参考文献等の教材プリントを、生協で販売する。

### 参考書:

学期中、三田図書館リザーブ・ブックとして閲覧可。

---

現代東南アジア論 (春学期)  
東南アジア地域におけるナショナリズム  
教授 山 本 信 人

---

### 授業科目の内容:

東南アジア地域の20世紀はナショナリズムの歴史であったといっても過言ではない。植民地勢力に対抗するナショナリズム、独立を求めるナショナリズム、国民形成のためのナショナリズム、排除のためのナショナリズム、保守的なナショナリズムと、さまざまな様相を呈している。そこには東南アジア地域独特のものもあれば、普遍的な特徴を有するものもある。本講義では、東南アジア地域におけるナショナリズムの生成と変遷の過程を整理する。

### テキスト:

特になし。

### 参考書:

適宜提示する。

---

現代ラテン・アメリカ論 (秋学期)  
助教授 出 岡 直 也

---

### 授業科目の内容:

ラテン・アメリカ諸国の政治の歴史と現状を、国民国家の形成と変容の視角を重視して概観します。

---

現代ロシア論 (春学期)  
ロシアの政治 教授 横 手 慎 二

---

### 授業科目の内容:

ロシアの政治史を講義する。近年の変化で、ロシア社会についての多くのデータが入手可能になった。この結果、これまで不可解とされた事柄が少しずつ明らかになっている。この講義では、こうした近年の研究成果に依拠しつつ、アメリカでもヨーロッパでもない日本との比較を考えながら、ロシア政治の変化した部分と変化しない部分がどのようなものであるか考察する。

### テキスト:

横手慎二『現代ロシア政治入門』(慶應大学出版会)

### 参考書:

講義の中であげる。

---

現代ロシア論 (秋学期)  
ロシアの外交 教授 横 手 慎 二

---

### 授業科目の内容:

ロシアの外交史を講義する。冷戦史の研究の蓄積によって多くの新事実が明らかになっているので、これらを含めながら従来の研究を批判的に吟味する。また現代のロシア外交を考える視座を考えたい。

テキスト：

横手慎二『現代ロシア政治入門』（慶應大学出版会）

参考書：

横手慎二編『東ロシアのロシア』（慶應義塾大学出版会）

渋沢栄一記念財団寄附講座 シヴィル・ソサエティ論（春学期）

東アジアにおけるシヴィル・ソサエティの役割

教授 小此木 政 夫

教授 国 分 良 成

客員教授 山 本 正

授業科目の内容：

「シヴィル・ソサエティ論 新公益論」は、渋沢栄一を記念して2004年度より開設された科目です。各界の第一線で活躍する有識者や実務家を講師に迎え、東アジアにおけるシヴィル・ソサエティの役割を、3つの観点（授業計画を参照）から検証していきます。

日本が封建体制から脱却し、急速な近代化の道を歩み始めた激動の時代にあつて、渋沢栄一の実業、教育、福祉、外交などの諸分野における数々の偉業を支えたものは、公益の視点にもとづく民間の活動が政府の活動を補完あるいは先導すべきであり、それこそが日本に活力ある発展をもたらすとともに、国際社会に貢献するという意味での「開国」を可能にするという信念でした。

グローバリゼーションが進展し、社会が多様化するなかで、日本における「公益」のみならず、日本を含めた東アジアにおけるシヴィル・ソサエティの役割を考えることは必須です。東アジアが直面している諸課題について分析し、今後の政策的・制度的対応のあり方について幅広い視野を養って頂きたいと考えます。

テキスト：

テキストは特に指定しません。講義用資料は、必要に応じて、当日教室にて配布します。

西洋法制史

ローマ法とヨーロッパ法史

講師 村 上 裕

授業科目の内容：

ヨーロッパ法の基礎であるローマ法の特質と、中世から近代にかけての法発展のアウトラインを捉えることを目的にして、内容は以下のような2部構成とします。

第1部は、共和政からユスティニアヌス法典の成立に至るまでのローマ法史を概観し、ローマ人の現実主義的な特質が法思考・法制度にどのように現れているかを、民事訴訟制度の展開などを採り上げて示していきます。

第2部は、ドイツを中心に中世から近代までの法の流れを辿っていきます。中世における非学問的な法からローマ法の継承をへて近代の体系的・論理的構築物としての法へと進んでいく際の現実的契機と、ヨーロッパに普遍的な要素と特殊ドイツ的な面の対比を軸として、ヨーロッパ法史における諸々の時代的局面向をクローズアップしていきたいと思っています。

テキスト：

特に指定しません。講義資料は私のホームページからダウンロードできるようにします。URLやパスワードについては授業時に指示します。

参考書：

概説『西洋法制史』（勝田有恒・森征一・山内進編著）ミネルヴァ書房

中国政治史（秋学期）

教授 高橋 伸 夫

授業科目の内容：

主としてアヘン戦争から辛亥革命にいたる中国の近代政治史について語る。最近、政治史はすっかり影が薄くなってしまった。たしかに、過去を「上から」ではなく「下から」、つまり権力の作用とその諸結果からではなく、民衆の経験や視点から復元してみようとする近年の社会史の試みは重要であり、次々と注目すべき成果が生み出されている。そうした「新しい歴史学」に馴染んだ者にとっては、この講義はいささか古めかしく映るかもしれない。しかし、そうはいっても、権力が歴史において果たす役割の重要性は、いかなる社会

史家でも否定できないだろう。この講義で学ぶことのできる政治史の基本的知識なしに社会史家のいう「全体をみる眼」を養うことはできない。政治史と社会史はライバルであると同時にパートナーであるべきなのである。社会史の成果については、折を見て言及することになる。

テキスト：

特に指定しない。

中国政治史（春学期）

20世紀前半の中国革命史

教授 高橋 伸 夫

授業科目の内容：

20世紀初頭から中華人民共和国成立にいたる時期の中国政治史を、中国共産党の思想、組織、運動を中心に講義する。研究者たちはこれまでもっぱら「中央委員たちの事跡」しか語ってこなかった。党組織の頂点部分におけるコミンテルンの政策の受容、それに伴う党内の権力闘争、そしてその結果としての指導者の交替と革命戦略の変化 これらが従来の研究の主題であった。以上に加えて、この講義では「下から」の視点を導入したい。つまり、一般党員および革命運動に支持を与えたとされる労働者、農民の視点から革命を再構成してみたいのである。

テキスト：

特に指定しない。

中国法制史

講師 堀 毅

授業科目の内容：

21世紀は国際化の時代といわれている。欧州では経済的な統合が進められ、日米に対抗する第三極を構成している。

一方、アジア地域では、多様な言語・異質な文化などの他、経済的な格差が大きく、経済的な統合や自由化は遠い将来の事である、といわれている。

アジアを概観すると、東アジア・東南アジア・南アジア・西アジアに大別されるが、講義は中国を主軸とする東アジアの法を中心に進める。

また、近年、イスラム圏に対しても大きな関心が寄せられているので、メソポタミアにおける法文化についても言及したい。

参考書：

授業時に提示

東洋政治思想史（春学期）

近代中国政治思想の展開

講師 光 田 剛

授業科目の内容：

17世紀ごろ（明清交替期、日本では江戸時代初期）から1930年代までの中国の政治思想の展開を年代順に講義します。この間、中国政治を基礎づける思想は、王朝時代の儒学から、現在の共産党社会主義に至るまで大きく変容しました。しかし、その大きな変容にもかかわらず、一貫しているものもあります。それは「理屈っぽさ」とでも呼べる要素です。もう少し詳しく言えば、世界を成り立たせている原理や「こうやれば世界はうまくいくはずだ」という原理と現実との対応関係を常に意識しつつ、それぞれの時代の政治思想が組み立てられているということです。その「理」と「現実」との対応関係を意識しながら、それぞれの時代の政治思想を論じていきたいと思っています。この授業で扱うのは、中国が今日の中華人民共和国とは違う体制で支配されていた時代の政治思想です。しかし、この授業で扱う時代の政治思想について知ることは、今日の中国・日本との関係が緊密になり、それとともに摩擦も増加している中国政治を観るうえで有益なことだと思います。

テキスト：

特にありません。授業では、原則として、毎回、プリントを配布します。また、プリントの内容は授業のホームページ（授業開始時に開設）にも掲載します。

<http://www.nk.rim.or.jp/~tmitsuta/keio/toyoseijishisoshi1/>

参考書：

溝口雄三『方法としての中国』東京大学出版会、吉沢誠一郎『愛国主義の創成』岩波書店ほか

東洋政治思想史（秋学期）  
現代アジアのナショナリズム 講師 光田 剛

授業科目の内容：

第二次大戦後から現在までのアジアの政治思想について、主としてナショナリズムに注目しながら講義します。現代アジアの民族・国家は、一方で第二次大戦期までの旧覇権国や同時代の覇権国に対抗して自らの独立を守らなければならず、他方で、国内での少数者の運動や反体制運動を抑圧しなければなりません。また、その民族らしさ・その国家らしさを確立しながら、同時に、伝統的な社会を改革し、近代世界に適合した社会に変えていかなければなりません。そこでは、独立・解放と統一・抑圧、保守と変革が複雑に入り交じっていました。その問題は徐々にかたちを変えながらも今日も続いている（と私は思います）。この戦後アジア政治思想を地域別に概観していこうと思います。

テキスト：

特にありません。授業では、原則として、毎回、プリントを配布します。また、プリントの内容は授業のホームページ（授業開始時に開設）にも掲載します。

<http://www.nk.rim.or.jp/~tmitsuta/keio/toyoseijishisoshi2/>

参考書：

授業開始時、または、授業中に随時、紹介します。

現代中国論特殊研究（秋学期）  
中国の政治と国際関係に関する研究  
教授 国分良成

授業科目の内容：

各履習者の問題意識に基づいてテーマを設定し、毎週その報告をもとに討論する。

テーマは現代中国の内政・外交に関わるものとする。

参考書：

適宜指示する。

現代ロシア論特殊研究（秋学期）  
歴史の中の日露関係 教授 横手慎二

授業科目の内容：

日露関係史を1904年から1945年まで対象として講義とディスカッション形式で研究する。

テキスト：

初回に示す。

地域研究論特殊研究（春学期）  
発展途上国の政治と開発 教授 井上一明

授業科目の内容：

発展途上国（第三世界）における政治体制と開発の問題を分析する際に有効なさまざまな理論・分析枠組みに関する基礎的な文献を輪読する。前半は政治体制論、そして後半は開発関係である。

テキスト：

なし

参考書：

なし

比較地域研究論特殊研究（春学期）  
途上国比較政治 専任講師 粕谷祐子

授業科目の内容：

演習形式でおこなう本授業では、途上国政治研究のなかでも特に重要なテーマである「国家建設」に関連した諸問題を検討します。ここで使用する国家建設の概念は、公的な政治制度全般の構築・運営、およびその下での政策帰結までを含む幅広いものと捉えてください。具体的な検討課題としては、途上国の国家（政治制度・官僚機構）はどのような経緯で創設されたのか、国家はどのような働き

をするのか（あるいはしないのか）、国家は諸社会勢力とどのように関わっているのか。また、その関わりかたは政策帰結や政治体制の安定にどのように影響するのか、などがあります（各回のテーマは下記授業計画参照）。授業は2部構成になっていて、第1部では途上国の政治分析そのものに、第2部では途上国の国家建設に対する国際的支援に焦点を当てます。各国ごとの政治を分析することは本科目の主目的ではないので、地域に焦点をあてた分析は各参加者がレポート作成などを通じておこなってください。本科目で使用する文献はほぼすべて英語です。毎回の授業の進め方は、まず、報告担当者による指定文献のまとめ、コメンテーター（2名）による論点の提示をおこなった後、クラス全体でディスカッションをします。期末レポート（A4用紙2行間隔で7~10枚程度）では、授業で学んだ論点や理論を自分の興味のある国・地域の政治に応用した分析をおこなってもらいます（トピック、対象国の選択は自由）。本科目の目的としては、以下のようなものがあります：(1) 途上国政治研究の諸理論・重要概念について学ぶ、(2) アカデミックな英語の読解力を身につける、(3) アカデミックな議論のしかたを身につける、(4) レポートの書き方を学ぶ。

テキスト：

初回授業時に配布します。

参考書：

随時紹介します。

比較地域研究論特殊研究（秋学期）  
実証政治学のリサーチデザイン 専任講師 粕谷祐子

授業科目の内容：

社会科学としての政治学の論文を書いてみたい、あるいは書き方を学びたい人のための演習形式の授業です。論文を書くということは、実際にやってみないとわからないことも沢山ありますが、書き方の作法を知っていることで効率的により質の高い論文の作成が可能になります。本授業では、(日本を含む)世界各国の国内政治や国際政治に関する、実証データを用いて分析した論文を書くにあたってのリサーチデザイン作成にまつわる諸問題を検討します。実質的な理論（先行研究の検討など）や分析手法（統計手法やゲーム理論など）は本科目の対象外です。授業の前半7回では、リサーチデザインについての英語論文を精読します。この過程で各参加者に研究計画を作成してもらい（トピックは自由）、後半5回はその報告とクラスディスカッションにあてます。期末レポートとして、研究計画または論文（実質的なデータ分析を伴ったもの）を提出してもらいます。

テキスト：

授業初回に配布します。

参考書：

随時紹介します。

## 〔国際政治論〕

NGO・NPO論（秋学期）  
世界と日本社会の変動の原点を草の根の視点で考える  
講師 毛受敏浩

授業科目の内容：

- ・ NGO・NPOの日本社会における意義
- ・ グローバル化と地域社会における変化
- ・ NGO・NPOを成功させるための要件
- ・ NGO・NPOを立ちあげるには（実践者の経験に学ぶ）

テキスト：

「地球市民ネットワーク」アルク、毛受敏浩著

参考書：

- ・ 「異文化体験入門」（明石書店、毛受敏浩著）
- ・ 「草の根の国際交流と国際協力」（明石書店、毛受敏浩著）

## 授業科目の内容:

(1) 概要: 開発援助を含む国際開発協力の世界は、一見きれいごとのように見えても、その実、利害関係を有する多様なアクター間のダイナミックな緊張関係が渦巻く同床異夢の世界である。世界の開発・環境・人権・平和をめざす「政府開発援助」(ODA) という名の美德のかたまりをある種の隠れ蓑にしながら、あまたの組織や集団や個人が、「私」の夢と欲望と使命で織りなした「公」の装いを表現することによって、それぞれの行動を展開している。わが国 ODA50 年余の歴史を回顧すれば、戦後の国際社会における日本という国とその民の「自分探しの旅」であったといえよう。ODA は、「国際社会で日本という国と国民を映し出す鏡である」という。「顔の見える援助」「声の聞こえる援助」というかけ声と裏腹に、日本のアイデンティティ(自分らしさ)は、国際社会の他のアクターとの関係性において、どれほどまでに発現されているのだろうか。また、援助という手段をとおした「国益」の実現への寄与が求められる昨今、日本が追及する目標とは、はたしてどのようなものであろうか。

(2) 目的: 本講義の目的は、日本の国際開発協力に関する主要な援助形態と行動主体を中心として、その実態と特色を明らかにするとともに、今後の課題と展望を提示することである。本講義では、「日本の国際開発協力」(春学期)と「開発援助政策研究」(秋学期)を学習しながら、「開発援助政策論」(援助行政と開発行政の相互作用に係る制度・実施・評価の実態分析に基づく問題解決アプローチ)を展開することによって、将来、国際開発協力の世界で活躍する人材の育成をめざしたい。(秋学期においては、実際に国際開発協力の現場で働いている方々を授業内ゲスト・スピーカーとして招待することも予定したい。)

(3) 手法: 本講義は、ビデオ(日本語・英語)、講義(OHP 使用)、質疑応答の3点セットを組み合わせながら、開発援助の臨場感を抱けるように工夫しているので、特段の予備知識を必要としていない。また、講師による一方的講義スタイルではなく、受講者の参加型演習とプレゼンテーションを随所に設けることにより、受講者の表現能力の能力向上に力点を置いている。

## テキスト:

後藤一美・大野泉・渡辺利夫(編著)『日本の国際開発協力』シリーズ国際開発:第4巻 日本評論社,2005年。

講義資料・参考資料・参考文献リスト 授業のなかで配布。

## 参考書:

- ・荒木光弥,『1970年代途上国援助 歴史の証言』『1980年代途上国援助 歴史の証言』『1990年代途上国援助 歴史の証言』国際開発ジャーナル社,1997年&2005年。
- ・西垣昭・下村恭民・辻一人『開発援助の経済学 共生の世界と日本のODA』第3版 有斐閣,2003年。
- ・渡辺利夫・三浦有史『ODA(政府開発援助)日本に何ができるか』中公新書,2003年。

## 授業科目の内容:

(1) 概要: 開発援助を含む国際開発協力の世界は、一見きれいごとのように見えても、その実、利害関係を有する多様なアクター間のダイナミックな緊張関係が渦巻く同床異夢の世界である。世界の開発・環境・人権・平和をめざす「政府開発援助」(ODA) という名の美德のかたまりをある種の隠れ蓑にしながら、あまたの組織や集団や個人が、「私」の夢と欲望と使命で織りなした「公」の装いを表現することによって、それぞれの行動を展開している。わが国 ODA50 年余の歴史を回顧すれば、戦後の国際社会における日本という国とその民の「自分探しの旅」であったといえよう。ODA は、「国際社会で日本という国と国民を映し出す鏡である」という。「顔の見える援助」「声の聞こえる援助」というかけ声と裏腹に、日本のアイデンティティ(自分らしさ)は、国際社会の他のアクターとの関係性において、どれほどまでに発現されているのだろうか。また、援助という手段をとおした「国益」の実現への寄与が求められる昨今、日本が追及する目標とは、はたしてどのようなものであろうか。

(2) 目的: 本講義の目的は、日本の国際開発協力に関する主要な援助形態と行動主体を中心として、その実態と特色を明らかにするとともに、今後の課題と展望を提示することである。本講義では、「日本の国際開発協力」(春学期)と「開発援助政策研究」(秋学期)を学習しながら、「開発援助政策論」(援助行政と開発行政の相互作用に係る制度・実施・評価の実態分析に基づく問題解決アプローチ)を展開することによって、将来、国際開発協力の世界で活躍する人材の育成をめざしたい。(秋学期においては、実際に国際開発協力の現場で働いている方々を授業内ゲスト・スピーカーとして招待することも予定したい。)

(3) 手法: 本講義は、ビデオ(日本語・英語)、講義(OHP 使用)、質疑応答の3点セットを組み合わせながら、開発援助の臨場感を抱けるように工夫しているので、特段の予備知識を必要としていない。また、講師による一方的講義スタイルではなく、受講者の参加型演習とプレゼンテーションを随所に設けることにより、受講者の表現能力の能力向上に力点を置いている。

## テキスト:

後藤一美(監修)『国際協力用語集』第3版,国際開発ジャーナル社,2004年。

講義資料・参考資料・参考文献リスト 授業のなかで配布。

## 参考書:

- ・絵所秀紀・穂坂光彦・野上裕生(編著)『貧困と開発』シリーズ国際開発:第1巻 日本評論社,2004年。
- ・白井早由里『マクロ開発経済学 対外援助の新潮流』有斐閣,2005年。
- ・John Degenbol-Martinussen and Poul Engberg-Pedersen, Aid: Understanding International Development Cooperation, Palgrave-Macmillan, 2003.

## 授業科目の内容:

朝鮮戦争後の韓国と北朝鮮の国内政治や対外関係について講義する。韓国については、リーダーシップ、政治体制などの観点から、軍隊の政治介入、工業化の達成、民主化などについて、また北朝鮮については独自社会主義の形成、民族解放闘争などについて説明する。さらに、南北関係、日韓・日朝関係なども重要なテーマになる。そのつど、時事的なトピックについても解説する。

## テキスト:

なし

## 参考書:

随時紹介します。

## 授業科目の内容:

東南アジア地域の20世紀はナショナリズムの歴史であったといっても過言ではない。植民地勢力に対抗するナショナリズム、独立を求めるナショナリズム、国民形成のためのナショナリズム、排除のためのナショナリズム、保守的なナショナリズムと、さまざまな様相を呈している。そこには東南アジア地域独特のものもあれば、普遍的な特徴を有するものもある。本講義では、東南アジア地域におけるナショナリズムの生成と変遷の過程を整理する。

## テキスト:

特になし。

## 参考書:

適宜提示する。

## 授業科目の内容:

ヨーロッパ大陸内の国際関係は、EU(欧州連合)の構築により、伝統的な主権国家関係とは異なる新たな国家間関係により規定されている。EU統合は欧州大陸に平和と経済的繁栄をもたらし、世界

## 政治

における欧州の地位復活を目指した歴史的な実験である。本講義では、その EU 統合の歴史を第二次世界大戦直後から概観することにより、EU 統合の実状を理解できるようにする。

テキスト：

アンジェラ・ラフィット著『ヨーロッパ統合』創元社 (2005)

参考書：

- ・島野、岡村、田中編著『EU 入門』有斐閣 (2000)
- ・その他授業にて紹介する

---

現代ヨーロッパの国際関係 (秋学期)

ジャン・モネ・チェア 教授 田中俊郎

授業科目の内容：

現代ヨーロッパの国際関係で、EU の歴史を学んでいることを前提に、EU の政策決定過程、EU の諸機関と諸政策 (域内、域外) について講義する予定。欧州委員会、理事会、欧州議会、欧州司法裁判所などの諸機関と構成国が繰りひろげる政治、さらには世界でその重要性を増しつつある EU の対外関係の実態について紹介する。

テキスト：

田中俊郎『EU の政治』岩波書店、1998 年

参考書：

田中俊郎・庄司克宏編『EU と市民』慶應義塾大学出版会、2005 年、『日本 EU 学会年報』各号

---

現代ヨーロッパの国際関係 (秋学期)

「拡大ヨーロッパ」：グローバルとナショナルのはざま

講師 羽場久滯子

授業科目の内容：

本講義は、第 2 次世界大戦後の欧州統合と冷戦による欧州分断から説き起こし、冷戦の終焉と社会主義体制崩壊後、分断されていた欧州がどのように再統一されていくのか、その過程で、「ヨーロッパ・アイデンティティ」やヨーロッパの境界線の問い返し、グローバル化とナショナリズムの相克、イラク戦争をめぐる欧州内部の確執、農業問題や欧州憲法をめぐる軋轢、アメリカとの対抗関係の始まりなど、欧州国際関係をめぐる諸問題を、主にヨーロッパ東半分の側から分析する。それにより旧来とは異なった新たなヨーロッパ国際関係の見方が提起できれば、と考える。

テキスト：

- ・『拡大ヨーロッパの挑戦 アメリカに並ぶ多元的パワーとなるか』
- ・『グローバル化と欧州拡大』
- ・『統合ヨーロッパの民族問題』

参考書：

授業の始めおよびそのつど提示する。

---

現代ヨーロッパの国際関係 (春学期)

北欧諸国の外交政策 講師 吉武信彦

授業科目の内容：

本講義は、ヨーロッパの中でも特に北欧諸国 (デンマーク、フィンランド、アイスランド、ノルウェー、スウェーデン) に注目し、その第二次世界大戦後の外交政策を国内環境と国際環境の両面から検討する。

第二次世界大戦後、北欧諸国は地域協力を発展させ、冷戦といわれる厳しい国際環境にもかかわらず地域の安定を確保すると同時に、国際社会においても活発な外交を発展してきた。人口の点では、北欧 5 カ国は合計してもわずか 2400 万人にしかならない小規模な国々であるが、国際関係においてなぜ大きな発言力、影響力を行使できるのであろうか。また、冷戦が終焉し、21 世紀を迎えた現在、北欧諸国は外交上いかなる問題に直面しているのであろうか。

テキスト：

- ・拙著『日本人は北欧から何を学んだか 日本・北欧政治関係史入門』(新評論、2003 年)
- ・拙著『国民投票と欧州統合 デンマーク・EU 関係史』(勁草書房、2005 年)

参考書：

第 2 回目の講義で、詳細な参考文献リストを配布します。

---

国際コミュニケーション論 (春学期)

グローバル化とコミュニケーション 講師 伊藤英一

授業科目の内容：

自分自身との対話、友達や家族との会話、といったコミュニケーションでも、もどかしく感じることはありませんか？ コミュニケーションの重要性を切実に感じているにしても、円滑なコミュニケーションは至難の業です。ましてや、「文化や言語の異なる人々とのコミュニケーションなんて」と、一歩後退したくなるかも知れません。

しかし、山頂から見晴らす眺望が麓からの見た風景とは違うように、視点をかえてこそ理解できることもあるのではないのでしょうか。

この講義では、あたかも、『星』になった諸君が、丸い地球を見下ろしながら、その地球を巡るコミュニケーションを考察できるような場を提供します。

テキスト：

適宜、案内します。

参考書：

- ・福澤諭吉；『西洋事情』(慶應義塾大学出版会)
- ・伊藤英一；『マルチメディアの新世紀』(丸善)
- ・Daya Kishan Thussu; "International Communication" (Arnold)

---

国際コミュニケーション論 (秋学期)

異文化を繋ぐコミュニケーション 講師 伊藤英一

授業科目の内容：

21 世紀はグローバル化、情報化の時代であるとも言われます。同時に、文化や社会の枠を越えた地球規模のコミュニケーションの重要性も指摘されています。

しかし、メディアの高度化・迅速化が、必ずしもコミュニケーションの精度や密度を高める方向に働いているとも言い切れません。

国際コミュニケーションの様々な問題をケース・スタディの題材として取り上げながら、枠に捉われないコミュニケーションの素晴らしさを、諸君と共に、探ってみます。

テキスト：

適宜、案内します。

参考書：

- ・福澤諭吉；『文明論之概略』(慶應義塾大学出版会)
- ・Fred E. Jandt; "An Introduction to Intercultural Communication" (Sage)

---

国際政治理論 (春学期)

総合政策学部 助教授 土屋大洋

授業科目の内容：

マクロ国際政治理論を扱う。マクロ国際政治理論とは、国単位の国際関係を理解する場合のレンズに相当し、勢力均衡論、相互依存論、世界システム論の三つの大きなパラダイム理論の相互関係を明らかにするものである。その他にも、ネットワーク理論や新帝国主義論など、新しい理論の展開を踏まえながら、国際政治を分析する視点を養う。秋学期の国際政治理論 とともに受講することが望ましい。

参考書：

- ・葉師寺泰蔵『公共政策』東京大学出版会、1989 年
- ・石井貫太郎『現代国際政治理論』ミネルヴァ書房、2002 年
- ・土屋大洋『情報とグローバル・ガバナンス』慶應義塾大学出版会、2001 年

---

国際政治理論 (秋学期)

総合政策学部 助教授 土屋大洋

授業科目の内容：

ミクロ国際政治理論を扱う。ミクロ国際政治理論は、政策決定過程論とも政治経済学ともいわれるが、本講義ではもっと広くサブナショナルな単位が国際関係にどのように影響するかについて考える。前半では国際関係のアクターを分析する視点について検討し、後半ではさまざまなイシュー領域における構造的なパワーについて検討

する。春学期の国際政治理論Iとともに受講することが望ましい。

参考書：

- ・スーザン・ストレンジ（西川潤・佐藤元彦訳）『国際政治経済学入門』東洋経済新報社、1994年
- ・Lawrence Lessig, Code and Other Laws of Cyberspace, Basic Books, 2000
- ・土屋大洋『ネット・ポリティクス 9.11以後の世界の情報戦略』岩波書店、2003年

渋沢栄一記念財団寄附講座 シヴィル・ソサエティ論（春学期）  
東アジアにおけるシヴィル・ソサエティの役割

教授 小此木 政 夫  
教授 国 分 良 成  
客員教授 山 本 正

授業科目の内容：

「シヴィル・ソサエティ論 新公益論」は、渋沢栄一を記念して2004年度より開設された科目です。各界の第一線で活躍する有識者や実務家を講師に迎え、東アジアにおけるシヴィル・ソサエティの役割を、3つの観点（授業計画を参照）から検証していきます。

日本が封建体制から脱却し、急速な近代化の道を歩み始めた激動の時代にあつて、渋沢栄一の実業、教育、福祉、外交などの諸分野における数々の偉業を支えたものは、公益の視点にもとづく民間の活動が政府の活動を補完あるいは先導すべきであり、それこそが日本に活力ある発展をもたらすとともに、国際社会に貢献するという意味での「開国」を可能にするという信念でした。

グローバル化が進展し、社会が多様化するなかで、日本における「公益」のみならず、日本を含めた東アジアにおけるシヴィル・ソサエティの役割を考えることは必須です。東アジアが直面している諸課題について分析し、今後の政策的・制度的対応のあり方について幅広い視野を養って頂きたいと考えます。

テキスト：

テキストは特に指定しません。講義用資料は、必要に応じて、当日教室にて配布します。

西洋外交史（秋学期）

現代ヨーロッパの国際政治 助教授 細 谷 雄 一

授業科目の内容：

本講義では、第二次世界大戦の起源から冷戦後の現在に至るまでの、現代ヨーロッパ外交史を検討する。第二次世界大戦と冷戦は、我々の生きる時代の土台を形成することになった。世界では米ソ二つの超大国が登場し、ヨーロッパ諸国は二度の世界大戦で国力を大きく失い、植民地独立問題に直面した。かつての威光を失う中で、西欧諸国は統合によって自立と復興を模索し、大西洋同盟によって安全保障を確立することを目指した。複雑化する世界を理解するためにも、戦後外交史を学び、現代国際政治の基礎を提供する。

テキスト：

- ・渡邊啓貴編『ヨーロッパ国際関係史』（有斐閣）

参考書：

- ・キッシンジャー『外交（下）』岡崎久彦監訳（日本経済新聞社）
- ・クレイグ＝ジョージ『軍力と現代外交』木村修三他訳（有斐閣）
- ・ジョセフ・S・ナイ『国際紛争 理論と歴史〔原書第5版〕』田中明彦・村田晃嗣訳（有斐閣）
- ・ジョン・ルイス・ギャディス『歴史としての冷戦』赤木完爾・斎藤祐介訳（慶應義塾大学出版会）
- ・ジョン・ルイス・ギャディス『ロング・ピース』五味俊樹他訳（芦書房）
- ・石井修『国際政治史としての二〇世紀』（有信堂）
- ・佐々木雄太・木畑洋一編『イギリス外交史』（有斐閣）
- ・細谷雄一『外交による平和』（有斐閣）
- ・細谷雄一『戦後国際秩序とイギリス外交』（創文社）
- ・細谷雄一『大英帝国の外交官たち』（筑摩書房）

日本外交史（春学期）

教授 添 谷 芳 秀

授業科目の内容：

戦後日本外交の変遷を講義する。重要事項を外交史の事例として理解することとあわせて、戦後日本外交の全体像を理解するための視角や枠組みを重視して講義する。とりわけ、選択の自由が根本的に締約されていた占領下での吉田茂の選択が、その後不完全なまま定着したことの意味を考えてみたい。それは、きわめて今日の問題でもあり、そのことを深くみつめ直さなければ、今後の日本外交の指針もみえてこないだろう。

テキスト：

添谷芳秀『日本の「ミドルパワー」外交』（ちくま新書、2005年）

参考書：

参考文献を適宜講義のなかで紹介する。概説としてはとりあえず以下を参照のこと。

- ・添谷芳秀『日本外交と中国 1945 - 1972』（慶應義塾大学出版会、1995年）
- ・五百旗頭真『戦後日本外交史』（有斐閣、1999年）

国際政治理論特殊研究（春学期）客員教授 薬師寺 泰 蔵

授業科目の内容：

国際政治を公共政策学の観点から、具体的課題（安全保障、環境問題、科学技術、エネルギー etc.）をベースに最近の理論を紹介しながら進めて行く。その都度数冊の関連書を紹介し、ゼミ形式で討論を中心とする。春学期と秋学期の通年の授業である。秋学期は研究発表の方法論もカバーする。方法論は学生参加型のものを選ぶ。各期ごとの内容は参加学生の希望や能力に応じて調整する。

テキスト：

講義ごとに指定

参考書：

特になし

国際政治理論特殊研究（秋学期）客員教授 薬師寺 泰 蔵

授業科目の内容：

国際政治を公共政策学の観点から、具体的課題（安全保障、環境問題、科学技術、エネルギー etc.）をベースに最近の理論を紹介しながら進めて行く。その都度数冊の関連書を紹介し、ゼミ形式で討論を中心とする。春学期と秋学期の通年の授業である。秋学期は研究発表の方法論もカバーする。方法論は学生参加型のものを選ぶ。各期ごとの内容は参加学生の希望や能力に応じて調整する。

テキスト：

講義ごとに指定

参考書：

特になし

西洋外交史特殊研究（春学期）

チャーチルと第二次世界大戦 助教授 細 谷 雄 一

授業科目の内容：

イギリスの首相、ウィンストン・チャーチルは、「二十世紀の最も偉大な人物」とも称される。彼は半世紀にもわたり下院議席を保持し、世界政治においても中心的な役割を担ってきた。本授業では、そのチャーチルが記した『第二次世界大戦』（全4巻）を読むことによって、二十世紀を動かした指導者と巨大な戦争を振り返ってみることにしたい。

テキスト：

- ・河合秀和『チャーチル・増補版』（中央公論新社）
- ・W・Sチャーチル『第二次世界大戦』（全4巻）（河出文庫）

参考書：

- ・細谷雄一『外交による平和』（有斐閣）
- ・佐々木雄太・木畑洋一編『イギリス外交史』（有斐閣）
- ・木畑洋一『第二次世界大戦』（吉川弘文堂）

## 西洋外交史特殊研究（秋学期）

「長い19世紀」のヨーロッパ外交 助教授 細谷 雄一

## 授業科目の内容：

この特殊研究では、少人数の演習形式で議論を通じて、「長い19世紀」のヨーロッパ外交史を学ぶことになる。19世紀ヨーロッパ外交史についての文献は、日本語では限られているが、この時代を深く理解することはその後の20世紀の国際政治を学ぶ上でも重要な意味を持っている。「現代」という時代を相対化するためにも、19世紀の外交を考えてみたい。

## テキスト：

- ・高坂正堯『古典外交の成熟と崩壊』（中央公論社）（あるいは『高坂正堯著作集6』）
- ・田所昌幸編『ロイヤル・ネイビーとパクス・ブリタニカ』（有斐閣、近刊予定）
- ・A・J・P・テイラー『ハプスブルク帝国』（筑摩書房）
- ・ルネ・ジロー『国際関係史1871～1914年』（未来社）

## 参考書：

- ・ヘンリー・キッシンジャー『外交（上）』（日本経済新聞社）
- ・細谷雄一『大英帝国の外交官』（筑摩書房）
- ・佐々木雄太・木畑洋一編『イギリス外交史』（有斐閣）
- ・スティーヴン・ペラー『フランツ・ヨーゼフとハプスブルク帝国』（刀水書房）
- ・塚本哲也『エリザベート』（文春文庫）

## 東アジアの国際関係特殊研究（春学期）

教授 添谷 芳秀

## 授業科目の内容：

日本の地域主義政策も含めて、戦後東アジアの地域主義の生成と発展について検討する。文献の講読が中心になるが、履修者の数によって可能であれば個別の研究会発表を組み入れることも考えたい。

## テキスト：

シラバス形式の文献リストを授業で配布する。

## 〔研究会(3年)〕

## 研究会(3年)〔春学期〕〔秋学期〕 教授 蔭山 宏

## 授業科目の内容：

社会科学の古典的書物を精読する。詳しくはゼミナリストと相談して決めたい。

## 研究会(3年)〔春学期〕〔秋学期〕

政治哲学,(現代)政治思想,政治学,平和学の研究

教授 萩原 能久

## 授業科目の内容：

4月に決定した研究会会員の希望にそって、中心的にテーマを設定し、そのテーマを扱った広範囲の重要文献を選定して輪読をすすめていきます。乱読はこうした分野に不可欠ですので、かなりの量の文献を読むことになります。

上記の、いわゆる本ゼミと平行してサブゼミも行います。サブゼミでは1)本ゼミの理解の助けとなるような二次的研究文献の輪読、2)ディベート、3)研究会ホームページの作成、4)三田祭時に毎年刊行している論文集のための研究中間報告を行うこととなります。

## テキスト：

開講時に履修者と相談して決めます。

## 参考書：

ゼミのなかで随時紹介していきます。

## 研究会(3年)〔春学期〕〔秋学期〕

日本国憲法とアメリカ憲法 教授 大沢 秀介

## 授業科目の内容：

日本国憲法の基本理念を知る上で重要なアメリカ憲法について、日本国憲法の現況を踏まえた上で、研究を行う。

## テキスト：

芦部信喜(高橋和之補訂)『憲法(第三版)』(岩波書店)および英書

## 参考書：

大沢秀介『憲法入門(第3版)』(成文堂)

## 研究会(3年)〔春学期〕〔秋学期〕 教授 小林 良彰

## 授業科目の内容：

あるべき政治の姿を念頭に置きながら、現代の政治過程の実態を調べ、自分が何に関心を持っているのかを、次第に自分自身で掴んで行くことを目的とする。その上で、現代の政治過程の中から、各自の問題意識にしたがって研究を進め、研究成果は三田祭で発表する。

## テキスト：

ジョン・ロールズ『正義論』

## 参考書：

各自の問題意識にしたがって、随時、使用します。

## 研究会(3年)〔春学期〕〔秋学期〕

「独立自尊(ガバナンス)の行政学」と現代日本行政システムの分析

教授 大山 耕輔

## 授業科目の内容：

伝統的な「国家中心の行政学」を批判的に検討するとともに、グローバル化のなかの「国から地方へ民間へ」という時代における「独立自尊(ガバナンス)の行政学」の可能性と限界について考察します。またそのような視点から、現代日本行政システムを分析します。各自の卒論研究について、問題発見と洗練化、仮説設定、データ収集、批判的考察、結論という一連のプロセスの導入部分を指導します。

## テキスト：

最初のゼミの時間に指示します。

## 参考書：

担当者の考えを知るには、『比較ガバナンス』(共著、ブレーン出版、近刊予定)、『エネルギー・ガバナンスの行政学』(慶應義塾大学出版会、2002)、『パブリック・ガバナンス』(共著、日本経済評論社、2002)などが参考となります。その他ゼミ紹介に掲載されている文献などが参考となります。

## 研究会(3年)〔春学期〕〔秋学期〕

現代の民主主義をいかに機能させるか

教授 河野 武司

## 授業科目の内容：

政治的無関心が蔓延する中、危機に立つ代議制民主主義を維持、発展させる様々な要因や制度的方法について、研究会会員諸君とともに検討したいと考えています。

## テキスト：

研究会会員と相談して決めます。

## 参考書：

授業中に、適宜紹介します。

## 研究会(3年)〔春学期〕〔秋学期〕

権力理論の考察

教授 霜野 寿亮

## 授業科目の内容：

権力に関する文献を読み進みながら議論をする。

## テキスト：

- ・盛山和夫「権力」、東大出版会、2000年
- ・杉田 敦「権力」、岩波書店、2000年

参考書：  
なし

研究会(3年)(春学期)(秋学期)  
脱工業化・グローバル化時代の世界・日本/豪州の  
文化・社会変動 教授 関根政美

授業科目の内容：

研究会では、学生諸君は2年間私を指導教授として研究活動を行うことになる。高校時代までは、先生の話聞いてノートを書いて覚え、試験でよい点をとるという作業である「お勉強」を中心にしていたはずである。それは、社会にでてから日常・職業生活に困らないような知識・技能を学び、市民として恥ずかしくない生活を送れるようにするためであった。しかし、大学では、自ら研究課題を設定し、そのテーマを中心に調査・資料収集、分析・報告・討論などを行うという「研究活動」を行い、社会に役立つような知識を生み出すことが大きな目的となる。本研究会の主要テーマは、グローバル化と脱工業化の社会変動、人種・民族・エスニシティ・ナショナリズム・多文化主義の政治・社会学、現代オーストラリア研究に大きく分かれている。入会に当たっては、テーマの選択に注意してほしい。テーマ設定に当たり大学1年次より、研究活動に慣れておく必要があるので演習などの授業に参加しておくことが望ましい。

テキスト：

研究会では、「自由論題」と称して、諸君の自主研究報告を中心としたセッションと、輪読書を決めて報告・討論を行うセッションの2種類が実施される。テキストはそのつど諸君の希望を入れて選択していく予定である。自由論題による報告は、先行研究を踏まえて各自が収集した参考文献、調査報告書を分析して行うようにしてほしい。必要とあらば現地調査・インタビュー調査をすること。なお、授業では毎回3,000字ほどの報告・コメントを作成し2,3名の報告者と司会者・討論者をあらかじめ決めて討論を進めていくものとする。

参考書：

研究会指導者の著書・論文は一応目を通しておくこと。『エスニシティの政治社会学』名古屋大学出版会1994年。『多文化主義社会の到来』朝日新聞社2000年。『マルチカルチュラル・オーストラリア』成文堂1989年。有末・霜野・関根編『社会学入門』弘文堂1996年。関根政美・山本信人編『海域アジア』慶應義塾大学出版会、2004年などを読みテーマを考えておくこと。カースルズ/ミラー(関根・関根訳)『国際移民の時代』名古屋大学出版会1996年、D・ヒーター(田中・関根訳)『市民権とは何か』岩波書店2003年、ガッサン・ハージ(保苅・塩原訳)『ホワイト・ネイション』平凡社2003年。

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 教授 有末 賢

授業科目の内容：

社会学の基礎的な概念、見方、分析方法などをまず習得してもらうために、文献を指定して毎週輪読することから始める。秋学期以降は、三田祭での研究発表も含めて、自主的な活動を尊重したいが、本ゼミにおいては、都市社会学を中心とした研究への導入を行いたいと考えている。

テキスト：

春学期は社会学の概論、秋学期については都市社会学ジェンダー論などの専門書を読む予定である。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)  
メディアと政治社会について考える 教授 大石 裕

授業科目の内容：

春学期は、マス・コミュニケーション、ジャーナリズム、政治社会学に関する文献や論文を読み、それについて討議する。

秋学期は、それに卒業論文発表が加わる。

その他、合宿、4年生のゼミ、サブゼミへの参加を通して研究を

進めていく。

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 教授 澤井 敦

授業科目の内容：

社会理論を基盤としながら、現代社会のさまざまな動向について考察することを目的とする。社会理論および社会学の基礎知識の習得とその応用を目的とする「共同研究」と、各自の卒業論文の作成に向けての「個別研究」を並行させて、授業をすすめていく。

テキスト：

初回授業時に決定する。

参考書：

授業中に紹介する。

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 教授 笠原英彦

授業科目の内容：

基礎的文献を輪読し討論する。

引き続き共同研究を行う。

テキスト：

初回の授業で文献リストを配布する。

参考書：

授業時に適宜指定する。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)  
日本政治思想史・運動史 教授 寺崎 修

授業科目の内容：

春学期は、思想史の方法、資料収集の方法などを学びながら共同研究に従事する。三田祭後は各自、卒業論文のテーマ設定など、論文作成の準備をはじめめる。

参考書：

適宜指示する

研究会(3年)(春学期)(秋学期)  
近代日本政治研究 教授 玉井 清

授業科目の内容：

近代日本政治に関する基礎的研究書を読み解くとともに、資料収集から分析の方法を学びながら、各自卒論のテーマを設定することを目指す。

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 教授 増山 幹高

授業科目の内容：

この研究会の目的は、社会現象の実証分析方法を習得し、履修者各自の問題意識から、政策的に効果のある提案をいかに政治的に実現していくかという実践的な研究を行うことにあります。とくに履修者独自の研究企画を策定し、仮説を実際のデータから検証し、分析結果を取りまとめることに重点を置きます。また研究成果を説得力のあるプレゼンテーションによって発表し、研究成果を批判的に評価する能力の向上を目指します。

テキスト：

授業で随時案内します。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)  
中東地域研究のセミナー 教授 富田 広士

授業科目の内容：

様々な関心と分析方法を用いて、中東問題に取り組み、その中から自分なりの問題を見つけ出し、分析し、論文にまとめる。

(1) 文献(日本語および英語)の内容報告、(2) 3学年度末に提出する論文(12000字程度)の作成を中心に進める。

テキスト：

授業時に指示する。

## 政治

参考書：

授業時に指示する。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

現代中国政治・外交, 東アジア研究

教授 国分良成

授業科目の内容：

春学期は基本篇として文献を毎週読み, 秋学期は応用篇としてグループ研究を行う。

テキスト：

順次指定する。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

ロシアの政治と外交

教授 横手慎二

授業科目の内容：

ロシアを題材にして, ゼミナール形式で, 現代の政治と外交を研究する。研究題目は参加者の問題関心によって決める。最近の例で言うと, スターリンについての集団的記憶の問題, ロシアの刑法改正問題, 年金問題, 農業問題, チェチェン問題, 犯罪の問題, カスピ海の資源問題, 中ロ両国の経済改革の比較, ロシアの安全保障政策, ユーゴスラヴィアの政治体制などである。こうした問題について, これまでなされてきた研究を読み, 解釈やアプローチの違いを知ることが最初の課題である。各人の発表とそれをめぐる自由な議論を通じて, プレゼンテーションや意見交換(討議)の仕方を身につけることを目指す。

テキスト：

特別に利用しない。ただし夏休みの合宿では, 必ず英語の本を読むことにしている。また, 日頃, 英語と日本語の新聞や雑誌を比較しながら読むことを求めている。ロシア語の読める人がいれば, ロシア語の新聞も読んで同様の報告を求める。ただしロシア語は必須ではない。現在では, インターネットの英語版を使うことでかなりの事実を追いかけることが可能だからである。

参考書：

3年生の春学期は, 基本的な本を読むことにしている。これまでアリソン『決定の本質』, プレジンスキー『地政学で世界を読む』, 船橋洋一編『同盟の比較研究』など, また各種の日本語のロシア論を取り上げた。

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 教授 井上一明

授業科目の内容：

春学期は, 政治体制および開発に関する基本的な英語文献を輪読する。秋学期は, 各自の卒業論文のテーマに関連した英語文献のプレゼンテーションをおこなう。

テキスト：

なし

参考書：

なし

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 教授 高橋伸夫

授業科目の内容：

主として中国政治史の分野で研究を行うための基礎体力の養成を目的とする。古典的な中国社会論および比較政治学的観点から書かれた中国研究の文献のリーディング, およびそれに基づく討論が中心となる。

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 助教授 出岡直也

授業科目の内容：

ラテン・アメリカ諸国の政治を重要な文献(主に英語)の講読と参加者の研究報告などによって学びます。参加者は, 4年次の卒業論文の執筆まで, 様々な義務を負うこととなります。

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 教授 小此木政夫

授業科目の内容：

春学期には, 専門的な知識を吸収し, 国際政治的なセンスを磨くために, 必要と思われる文献を精力的に読破する。履修者は多くのアサインメントに耐えなければならない。その後, 夏季休業までに三田祭の発表テーマを決定し, 共同研究に着手する。各自が分担し, 共同論文を執筆しなければならない。意欲のある会員のみが参加を許される。詳しくは, 研究会ホームページを参照すること。

<http://www.clb.law.mita.keio.ac.jp/okonogi/>

テキスト：

開講時に紹介する。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

EUの政治 ジャン・モネ チェア 教授 田中俊郎

授業科目の内容：

ヨーロッパ連合(EU)に関する英文の文献を読みながら, 卒業論文の準備をする。

テキスト：

・Michelle CINI, European Union Politics, Oxford University Press, 2003

・Fraser Cameron ed., The Future of Europe, Routledge, 2004

参考書：

田中俊郎『EUの政治』岩波書店, 1998年など

研究会(3年)(春学期)

教授 添谷芳秀

授業科目の内容：

国際政治と日本外交の関連に着目し, 戦後史を概観するとともに様々な分析枠組みを検討する。特殊(個別的事象)と普遍(一般的意義付け)の間を柔軟に往復する分析力と, 具体的出来事の連なりを構造的に把握する能力を養いたい。

テキスト：

適宜指定する。

研究会(3年)(秋学期)

現代国際政治・安全保障研究

教授 赤木完爾

授業科目の内容：

現代国際政治ならびに安全保障問題の重要な論点を理解するために, 基本文献を輪読し, 議論し, 各自の研究発表などを行う。

テキスト：

研究会において使用する文献リストは, 開講後配付する。

研究会(3年)(春学期)(秋学期) 教授 山本信人

授業科目の内容：

東南アジア地域研究に関する各自の興味を発掘し, 理解を深める取り組みをおこなう。基本文献の読破, 毎週のペーパー作成, ゼミでの議論, そして各自の研究発表が研究活動の軸になる。

テキスト：

特になし。

参考書：

適宜提示する。

研究会(3年)(春学期)(秋学期)

ヨーロッパ外交史の研究

助教授 細谷雄一

授業科目の内容：

ヨーロッパ外交史に関係する文献を幅広く講読する。またそのためにも, 多様な国際政治学の著書や, 歴史に関する著書, 古典的な文献なども読み進めたい。歴史を基礎に, 現代の国際政治の複雑さや多面性を理解するための知的な体力を養って頂きたい。

テキスト：

初回授業で扱うテキストを紹介する。

参考書：

- ・渡邊啓貴編『ヨーロッパ国際関係史』(有斐閣アルマ)
- ・佐々木雄太・木畑洋一編『イギリス外交史』(有斐閣アルマ)
- ・キッシンジャー『外交(上・下)』(日本経済新聞社)
- ・石井修『国際政治史としての二〇世紀』(有信堂)
- ・細谷雄一『戦後国際秩序とイギリス外交』(創文社)
- ・細谷雄一『外交による平和』(有斐閣)
- ・細谷雄一『大英帝国の外交官』(筑摩書房)

## 〔研究会(4年)〕

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 教授 薩山 宏

授業科目の内容：

社会科学の古典的書物を精読する。詳しくはゼミナリストと相談して決めたい。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

政治哲学,(現代)政治思想,政治学,平和学分野での  
卒論作成に向けて 教授 萩原 能久

授業科目の内容：

3年生,院生と合同の「本ゼミ」に参加することとは別に,4年生のみで,各人が自由に選んだテーマでの卒論の中間発表を行っていきます。

テキスト：

用いません。

参考書：

ゼミの中で随時紹介していきます。

研究会(4年)(春学期) 助教授 田上 雅徳

授業科目の内容：

卒業論文の作成を中心に進めます。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

日本国憲法とアメリカ憲法 教授 大沢 秀介

授業科目の内容：

各自が選択したテーマにしたがって,卒業論文作成にあたる。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 教授 小林 良彰

授業科目の内容：

現代の政治過程の中から,各自の問題意識にしたがって研究を進め,現代の政治過程の分析を行う。研究成果は,最終的に各自の卒業論文として提出する。

テキスト：

統一したものは使用しない。

参考書：

各自の問題意識にしたがって,随時,使用します。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

「独立自尊(ガバナンス)の行政学」の視点から各自の卒論作成指導  
教授 大山 耕輔

授業科目の内容：

「独立自尊(ガバナンス)の行政学」の視点から,各自の卒論作成を指導します。問題発見と洗練化,仮説設定,データ収集,批判

的考察,結論という一連の段階に応じて中間報告を求め,コメントします。最終的には,各自の卒論を集めて1冊の『5期生卒論集』として製本し研究室に「永久保存」します。また優秀な作品は,政ゼミ委員会編集の『政治学研究』に投稿できるよう指導します。

テキスト：

とくに指定しません。

参考書：

行政学のテキストに限らず,政策研究やガバナンス論についての本や論文,新聞・雑誌など各自の問題関心にしたがって良書と出会い,どんどん読み進めて欲しい。論文の考え方や書き方についての参考書も自分にあったものを選ぶとよい。ネット検索だけでは限界がある。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

客員教授 麻生 良文

授業科目の内容：

卒業論文について報告してもらいます。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

現代の民主主義をいかに機能させるか  
教授 河野 武司

授業科目の内容：

政治的無関心が蔓延する中,危機に立つ代議制民主主義を維持,発展させる様々な要因や制度的方法について,研究会会員諸君とともに検討したいと考えています。

テキスト：

研究会会員と相談して決めます。

参考書：

授業中に,適宜紹介します。

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

社会学理論の考察 教授 霜野 寿亮

授業科目の内容：

各自の卒論作成に関して個別の指導を行う。

テキスト：

なし

参考書：

なし

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

脱工業化・グローバル化時代の世界・日本/豪州の  
文化・社会変動 教授 関根 政美

授業科目の内容：

3年生の間に「お勉強」から「研究活動」への気持ちの転換を終わった諸君である関根研究会4年生の活動は,基本的には卒業論文作成のための研究活動を中心とする。3年春合宿で報告した10,000字レポートの内容を土台に研究活動を継続する。と同時に,4年生は春学期中の研究会の本ゼミセッションでは3年生の研究指導を行う。ただし,春合宿以降に卒論テーマ変更をした場合は,その旨研究会指導教授に直ちに報告すること。報告に際してパワーポイントなどの使用を推奨するが,その場合でも報告書3~4,000字レポートは人数分作成し配布する。春学期中就活に勤しむものが多いが,6月上旬までには授業に復帰することを原則とする。授業に一度も参加しないものは,4年生春学期の2単位は与えない。

テキスト：

3年との合同で行う研究会「本ゼミ」セッションでは,3年生が使用するテキスト・論文を利用する。なお,諸君より読みたい著書なり論文があれば申し出ること。

参考書：

各自が,図書館等で卒論作成に必要な参考文献を探して読んでおくこと。

## 政治

---

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 教授 有末 賢

---

授業科目の内容:

卒業論文の指導を行う。春学期には、各自の論文のテーマを確定し、文献・資料を読み、調査も行う。夏合宿以後は、中間報告をし、場合によっては個別指導も取り入れる。

---

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 教授 大石 裕

---

授業科目の内容:

各人の卒業論文の発表を中心に授業を行う。

---

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 教授 澤井 敦

---

授業科目の内容:

各自の卒業論文の作成に向けて、報告・討議、また個別相談をおこなう。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

卒業論文のテーマに応じて、各自に紹介する。

---

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

日本政治史および日本行政史 教授 笠原 英彦

---

授業科目の内容:

卒業論文の作成を指導する。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

授業時に適宜指示する。

---

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

日本政治思想史・運動史 教授 寺崎 修

---

授業科目の内容:

各自の研究テーマについて、順次報告をもとめ、討議を行う。

参考書:

適宜指示する。

---

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

近代日本政治研究 教授 玉井 清

---

授業科目の内容:

卒論完成に向け、各自のテーマに従い発表を行う。

---

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 教授 増山 幹高

---

授業科目の内容:

前年度の履修を前提として、そこで培った研究企画・分析能力を活用し、活字媒体において成果を公表していきます。

テキスト:

授業で随時案内します。

---

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

中東地域研究のセミナー 教授 富田 広士

---

授業科目の内容:

中東問題に様々な関心と分析方法を用いて取り組み、その中で自分なりの問題を見つけ出し、分析し、論文にまとめる。

(1) 文献(日本語および英語)の内容報告、(2) 卒論の作成を中心に進める。

テキスト:

授業時に指示する。

参考書:

授業時に指示する。

---

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

現代中国政治・外交、東アジア研究

教授 国分 良成

---

授業科目の内容:

卒業論文の中間報告を行う。

---

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

ロシアの政治と外交

教授 横手 慎二

---

授業科目の内容:

卒業論文の作成を目指して、ゼミナール形式で授業を進める。プレゼンテーションやそれをめぐる議論での貢献度が重視される。論文は基本的に、4万字程度、脚注の付いたアカデミックなものとするを求めている。

---

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 教授 井上 一明

---

授業科目の内容:

卒業論文の作成。

---

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 教授 高橋 伸夫

---

授業科目の内容:

参加者の研究報告とそれに基づく討論を通じて、卒業論文の完成をめざす。

---

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 助教授 出岡 直也

---

授業科目の内容:

卒業論文の執筆に向けて、文献講読と研究報告を行います。

---

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 教授 小此木 政夫

---

授業科目の内容:

前年度に蓄積した知識と磨かれたセンスを生かして、卒業論文テーマを作成する。テーマを設定し、情報を自分なりに体系化し、説得力と独創性のある論文を完成しなければならない。

---

研究会(4年)(春学期)(秋学期)

EUの政治 ジャン・モネ チェア 教授 田中 俊郎

---

授業科目の内容:

卒業論文を作成する。

---

研究会(4年)(春学期)

教授 添谷 芳秀

---

授業科目の内容:

卒業論文の研究および作成に関する指導を中心に行う。

---

研究会(4年)(秋学期)

卒業論文指導

教授 赤木 完爾

---

授業科目の内容:

卒業論文の完成に向けてゼミ生各自の卒業論文にかかわる研究報告とそれに対する指導を行う。

---

研究会(4年)(春学期)(秋学期) 教授 山本 信人

---

授業科目の内容:

卒業論文の報告と指導を中心に進める。

# 法律学科 設置 共通科目 政治学科

( 外国語科目, 人文科学科目, 自然科学科目, )  
数学・統計・情報処理科目

## 〔外国語科目〕

### 英語第 ( a )( 春学期 )( 秋学期 )

英語の速読・読解力の強化 教授 辻 幸夫

#### 授業科目の内容：

本講座では下記のうち、特に (1) と (2) を中心に進めます。

#### (1) 速読の訓練。

テキストを読みます。教養書や啓蒙書あるいは新聞や雑誌記事など、知的レベルの高いものをその都度採用します。ただし文章を逐語訳する読み方ではなく、要点を素早く的確に把握するような読み方をします。

#### (2) 語彙力の増強。

提示された語彙や表現については覚えることが課題となります。表現力の増強。

#### (3) 授業の中で取り上げられるトピックについて作文およびグループディスカッションをします。英語で人の意見を聞き、自分の意見を表現することの練習をします。適宜英語によるレポートの提出を課します。

#### テキスト：

教材については、授業や掲示でその都度お知らせします。

### 英語第 ( b )( 春学期 )( 秋学期 )

英語の語彙力・表現力の強化 教授 辻 幸夫

#### 授業科目の内容：

本講座では下記のうち、特に (2) と (3) に力点を置いて進めますが、良質のインプットが多ければ、良いアウトプットも望めるという期待から (1) についても採用します。

#### (1) 速読の訓練。

テキストを読みます。教養書や啓蒙書あるいは新聞や雑誌記事など、知的レベルの高いものをその都度採用します。ただし文章を逐語訳する読み方ではなく、要点を素早く的確に把握するような読み方をします。

#### (2) 語彙力の増強。

提示された語彙や表現については覚えることが課題となります。表現力の増強。

#### (3) 授業の中で取り上げられるトピックについて作文およびグループディスカッションをします。英語で人の意見を聞き、自分の意見を表現することの練習をします。適宜英語によるレポートの提出を課します。

#### テキスト：

教材については、授業や掲示でその都度お知らせします。

### 英語第 ( 春学期 )( 秋学期 ) 教授 太田 昭子

#### 授業科目の内容：

〔春学期〕 Academic Writing : ほぼ毎回アサインメントを提出していただきます。いわゆるスタンダードな five-paragraph essay の書き方を、段階的に学びます。英文の要約練習から始め、読んだ英文に対するコメント、時事問題などに関するコメント、更にエッセー作成へと発展させていく予定です。

#### 〔秋学期〕

学期前半：Essay writing を oral level で発展させ、いくつかのテーマについて Debate を行います。(希望者が多ければ、Discussion 或いは Speech など加えます。)

学期後半：各自がテーマを選び、長めの英文レポートを作成していただく予定です。

#### テキスト：

特定の教科書は使用しません。随時プリントを配布します。

#### 参考書：

英英辞書を必ず持ってきてください。

### 英語第 ( 春学期 )( 秋学期 )

Political Debate: Dilemmas in International Politics

教授 マクリン, ニール B.

#### 授業科目の内容：

This is an advanced class aimed to promote skill and self-confidence in formal discussion. The purpose is to teach the techniques of exposition, argument, persuasion and debate. At the same time, the class is intended to provide students with an opportunity to investigate in detail some issues which are important for their study of political science (and, to a lesser extent, law).

The first semester will therefore be devoted to an exploration of some of the questions that political decision-makers have faced and continue to face, using the experience of Hungary as a case study. We shall deal both with wide topics like the Hungary's place in Europe, its relationships with both Eastern and Western Europe and its national identity, and also with more concrete questions, past and present. In the second semester we shall use the same debate-based approach to study the politics another region of the world: perhaps India.

### 英語第 ( 春学期 )( 秋学期 )

アカデミックライティング 教授 井上 逸兵

#### 授業科目の内容：

アカデミックライティングについて学び、実際にエッセイ等を書くことでその技術を実践してみる。いわゆる英作文の授業ではない。この授業は以下の3つを柱としてすすめる。

#### (1) テキストにそってアカデミックライティングのエッセンスを学ぶ。

#### (2) テキストの練習問題を中心に、アカデミックライティングの諸技法を実践してみる。

#### (3) 受講者それぞれの専門や関心にあわせてエッセイを書く。しばしば課題を与えるが、提出物はすべて電子メールによることとするので、これを使う技術、および環境があることを受講の条件とする。

#### テキスト：

Alice Oshima & Ann Hogue, Writing Academic English (Third Edition). Longman.

#### 参考書：

授業中に指示する。

### 英語第 ( a )( 春学期 )( 秋学期 )

Topical discussion 講師 スワン, ウィリアム L.

#### 授業科目の内容：

Class discussion will center on stories/news articles/etc. which the students will get a week in advance to be read and prepared for discussion in the next class. Some of the stories/articles will be provided by the instructor; each student, or a group of students, will also be expected to prepare and present topics for discussion during the term. Along with the class discussion, higher levels of vocabulary and expressions will also be emphasized.

#### テキスト：

There is no textbook. Class discussions are based on handouts that are given out in class.

英語第 (b)(春学期)(秋学期)  
Topical discussion 講師 スワン, ウィリアム L.

授業科目の内容:

Class discussion will center on stories/news articles/etc. which the students will get a week in advance to be read and prepared for discussion in the next class. Some of the stories/articles will be provided by the instructor; each student, or a group of students, will also be expected to prepare and present topics for discussion during the term. Along with the class discussion, higher levels of vocabulary and expressions will also be emphasized.

テキスト:

There is no textbook. Class discussions are based on handouts that are given out in class.

英語第 (a)(春学期)(秋学期)  
会社で使う英語: コミュニケーション編  
講師 日向 清人

授業科目の内容:

講師が担当した NHK ラジオ「ビジネス英会話」(2004 年前期) を拡充したコースです。ライティングを含め、「これさえ知っていればなんとかなる」レベルのビジネス英語が身につきます。英語で言う the nuts and bolts of business English がどういうものであるかを知り、身につけることができるようになっていきます。通年で約 300 の言い回しを見ていきます。

テキスト:

プリントを配布します。

参考書:

日向清人著「会社で使う英語スキルアップゼミ」(桐原書店)

英語第 (b)(春学期)(秋学期)  
会社で使う英語: ポキャブラリー編  
講師 日向 清人

授業科目の内容:

英語でどんどん発信していくことが求められる時代です。こうしたなか契約を英語では agreement/contract と言うのだという程度の英語力では受信一方の狭い世界から脱することができません。締結する, 更新する, 解除するといった言い方に対応する英語がぱっと出てくるぐらいになって初めてツールとしての英語が身につけると言えるのです。そこで「この単語・言回しは普通どように使われるのか」という問題意識に立って, 基本的なビジネス英単語の意味を理解し, 使い方を会得しようというのが, このコースです。こまめにテストをしていきますので, まじめに出席すれば企業情報や経済記事を読める程度の語彙力は身につきますし, 反覆継続して暗記するところまで行けば, 実務に耐える英語力を一気に身につけることができます。春は企業関連の単語や言回しを約 300 例, 秋は経済関連の単語や言回しを約 200 例とりあげます。

テキスト:

日向清人著「ビジネス英語スーパー・ハンドブック」(アルク)

参考書:

日向清人著「ビジネス英語スーパー辞典」(アルク)

ドイツ語第 (春学期)(秋学期)  
Der Spiegel 戦後 60 年特集記事を読む  
講師 鎌倉 澄

授業の内容:

2005 年は第二次世界大戦後 60 年という節目の年でしたが, これに伴い Der Spiegel 誌では昨年, シリーズで第二次世界大戦と戦後についての特集記事が組まれました。この授業ではそれらのテキストを読み, 内容について討論していきます。辞書なしで大まかに理解しながら内容をつかんだり, 長いテキストを要約したり, また細かい文法事項も含め, じっくりテキストを読み込むなど, 様々な読

み方を練習します。

テーマごとに, 背景について簡単な口頭発表や, テーマについての自分自身の考えをドイツ語で表現することも予定しています。予習も含め, 積極的な授業参加を期待します。

テキスト:

プリントを配布します。

参考書:

授業中に指示します。

ドイツ語第 (春学期)(秋学期)  
時事ドイツ語と „Und wie ist das in Japan?“  
講師 シュミット, ウーテ

授業科目の内容:

今のドイツで何が話題になっているのか。インターネット・新聞・雑誌の短い記事を活用して, 最新のドイツの情報を紹介していきます。テーマは政治, 経済, 大学・学生・市民生活, 環境などで, 参加者の興味と希望に応じていくつかピックアップします。授業の狙いの第一は時事ドイツ語のテキストの講読になれることです。複雑な文法構造が含まれている上に, 多くの時事ドイツ語の単語が辞書に載っておらず, 今までのドイツ語の知識と想像力が試されます。第二はテキストについての自分の立場, 意見を述べる練習をします。それに必要な表現は授業中に練習します。簡単なディスカッションを試みます。ドイツ人と知り合うと必ず Und wie ist das in Japan? 「日本ではどうですか」と聞かれます。その質問に備え, 取り扱ったテーマについて, テキストで習った表現を活かして, 日本の事情を説明する練習をします。

ドイツ語インテンシブ(上級)(春学期)(秋学期)  
教授 三瓶 慎一  
講師 シャールト, ミヒャエル  
講師 シュミット, ウーテ

シュミット, シャールト, 三瓶の三者が協同して進める授業である。総合的なドイツ語能力を伸ばし, 最終的には文法的により正確な表現, 文体的により適切な表現を使えるようになること, そして内容のある議論を交わせるようになることが目標である。ドイツ語により日本事情を紹介できる視座と能力を育てたい。

春学期は主として日本事情をドイツ語圏に紹介するという立場を扱い, 秋学期はドイツ語圏事情を理解するという立場をとる。

以下に挙げるのはいずれも春学期の授業内容である。秋学期については, 春学期中に受講者と協議して決める。

なお受講希望者は 4 月 3 日(月)に行われる採用テストに合格して許可を得る必要がある。

月 1 (Ute Schmidt)

Der Unterricht basiert inhaltlich auf dem „JAPAN-BUCH“, im Mittelpunkt steht der mündliche Ausdruck. Die Teilnehmer berichten im Unterricht über das Gelesene. Dazu müssen zunächst themenspezifisches Vokabular und neue Satzstrukturen analysiert werden, um sie dann aktiv in den eigenen Sprachgebrauch integrieren zu können. Darüber hinaus sollen sachbezogen eigens Wissen ergänzt werden. Die Studenten sollen durch die Schilderung von persönlichen Erlebnissen und Erfahrungen dazu angeregt werden, die Themen von anderen Standpunkten aus kennen zu lernen oder kritisch zu betrachten.

Ziel des Unterrichtes soll erstens die Erweiterung des aktiven Vokabelschatzes sein. Im Unterricht werden Vokabellisten zu den Themen angelegt werden, die den Teilnehmern helfen, an Gesprächen über gesellschaftspolitische Themen teilzunehmen. Zweitens soll die Fähigkeit weiterentwickelt werden, die eigene Meinung zu formulieren, zu vertreten, und zu Meinungen anderer Stellung zu nehmen.

月 2 (三瓶 慎一)

„Japan-Buch“ (講談社インターナショナル) を速読する。150 ページほどの本であるが, 春学期で読了する。シュミットの授業とタイ

アップし、議論のための材料提供をする。1回5ページ程度から始めてだんだん進度を上げ、最終的には1回に15ページ程度を読むようにする。段落構成を見抜くこと、読解に必要な文法的な知識を深めること、部分を取り上げて商品価値のある翻訳を作ること、日本事情紹介の語彙や表現をストックすることが目標である。

水1・水2 (Michael Schart)

Thema 1

„Sozialstaat vor dem Ende?“

Kein Thema beschäftigt die deutsche Öffentlichkeit derzeit so intensiv wie die Reformen der Sozialsysteme. Jahrzehntlang als Garant von Wachstum und Stabilität gepriesen, stehen plötzlich alle bewährten Instrumente der deutschen Sozialpolitik auf dem Prüfstand: die Sozialversicherung ebenso wie das Prinzip der Solidarität mit sozial Benachteiligten oder der Generationenvertrag. Wie kam es zu dieser Entwicklung, welche Reformen werden diskutiert und warum lassen sich diese nur schwer durchsetzen? Diesen Fragen wird sich die Veranstaltung anhand aktueller Texte widmen.

Thema 2

„Politische Kultur“

Die politische Landschaft der Bundesrepublik hat sich in den vergangenen Monaten stark verändert: Die Bundestagswahl vom Herbst 2005 führte zu einer Koalitionsregierung der beiden größten deutschen Parteien und zum ersten Mal in der Geschichte des Landes wurde mit Angela Merkel eine Frau zur Regierungschefin gewählt. Zugleich entsteht im linken politischen Spektrum eine neue Partei, deren Erfolge die Probleme und Zukunftsängste der Deutschen spiegeln. Vor diesem Hintergrund werden wir uns mit der Frage nachgehen, welche besonderen Merkmale die gegenwärtige politische Kultur in Deutschland aufweist. Wir werden uns mit den Traditionen und Strukturen, gesellschaftlichen Milieus und Prozessen beschäftigen, aus denen die politische Kultur entsteht.

なお、無断欠席、無断遅刻が多い場合は突然履修を取り消すこともあるので予め承知されたい。

成績評価は3名の合議によって決定する。

4月8日(土)～9日(日)に三浦海岸でオリエンテーションが行われる。必ず参加すること。教材はいずれもオリエンテーションで頒布する。

ドイツ語速習(初級)(春学期) 教授 岩下真好

授業科目の内容:

火4・5(春)

内容的にも、また時間割上も連続した週2回の授業によって、春学期だけで、いちおうドイツ語の基礎文法をすべて学びます(すなわち発音から接続法まで)。初めてドイツ語を学ぶ人でも、秋学期には「ドイツ語速習(中級)」に進んで簡単な文章の読解やドイツ語によるコミュニケーションの基礎固めができるようになることが目標です。

テキスト:

岩崎・平尾: 初歩ドイツ文法(同学社)

ドイツ語速習(中級)(秋学期)

初級から中級へステップアップをはかる

教授 坂口尚史

授業科目の内容:

火4・5(秋)

初級ドイツ語を終えた人が、中級に入っていくやすいように、基礎固めをしつつ楽しく学んでいける教材を選びました。日常会話を主体としたテキストで実用的な口語表現を学びつつ、文法の復習をします。

テキストは三田生協で購入のこと。

テキスト:

「体験するドイツ語」須澤通, E・シュミット, 浜泰子共著 郁文堂 2600円

ドイツ語速習(初級)(春学期)(秋学期)

講師 ニルヌス, トルステン

授業科目の内容:

水2(春)(秋)

ドイツ語を全くはじめて学ぶ受講者を対象とします。テキストには特定の本を使用せずコピーを配ります。会話体の文を中心にドイツ文法の理解と、Dialogが聴き取れるように訓練します。

テキスト:

コピーを使用

ドイツ語速習(中級)(春学期)(秋学期)

講師 ニルヌス, トルステン

授業科目の内容:

水1(春)(秋)

会話を中心とした文を聴いたり、読んだりしながら、Hörverständnis(聴解)とLeseverständnis(読解)の練習をしていきます。テキストは特定の本を使用せずコピーを配ります。

課題として、短い文を自分で綴る練習を何回か実施します。

テキスト:

コピーを使用

フランス語第(春学期)(秋学期)

講師 篠原洋治

授業科目の内容:

今年度は、現代の問題を扱った思想書を読む予定である。

テキスト:

コピーを配布する。

参考書:

授業中に指示する。

フランス語第(春学期)(秋学期)

講師 ヴァンシンテヤン・ディオ, カトリーヌ

授業科目の内容:

Nous travaillerons la compréhension de documents vidéo et écrits pour ensuite exercer puis développer l'expression orale de chacun.

DVDや新聞系の資料の理解をもとにして、一人一人のフランス語での口述表現を練習、そして発達させる授業です。

テキスト:

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

フランス語第(春学期)(秋学期)

講師 シュドル フローレンス 容子

授業科目の内容:

今までフランス語の基礎を学んだ人を対象に、フランス語基礎会話の能力をたかめることが本講義の目標です。教材として、新聞、雑誌記事、写真、映画等の抜粋を使用しながら解説をします。

テキスト:

特に使用いたしません。必要に応じてコピーを配布いたします。

参考書:

特になし

フランス語インテンシブ(春学期)(秋学期)

教授 井田 三夫  
 助教授 笠井 裕之  
 助教授 アンリ, ナタリー  
 専任講師 木俣 章  
 講師 ヴァンシンテヤン・ディオ, カトリーヌ  
 講師 シュドル フローレンス 容子  
 講師 日佐戸 ミッシェル

[個別の授業内容および教材]

(a) グループ

アンリ, ナタリー 担当

授業科目の内容:

この講座の主たる目的は、聴き・話すことの訓練です。学生自身が選んださまざまなテーマについて発表しあい、討論などができたらと考えています。必要に応じて単語学習や和文仏訳なども取り入れ、バランスのとれたコミュニケーション能力の養成をめざします。なお、テキストはとくに用いず、必要に応じてコピーを配布します。

シュドル フローレンス 容子 担当

授業科目の内容:

すでにフランス語の初級レベルを終了した学生を対象にして授業を進めたいと考えています。授業の中ではアップ・トゥ・デートな問題も取り入れながら、特にフランス語でのコミュニケーション能力を高めることを目標にしたいと考えています。

テキスト:

特に使用いたしません。必要に応じてコピーを配布いたします。

参考書:

特になし。

ヴァンシンテヤン・ディオ, カトリーヌ 担当

授業科目の内容:

実用フランス語の理解力と表現力を向上させることが目標です。F2のニュースや映画の抜粋、フランスやフランス語圏の新聞・雑誌の記事を理解した上で、ディスカッションをおこないます。

テキスト:

なし。プリントを配ります。

参考書:

Les Clés de l'actualité という若者向けの週刊誌が、ページ数も少なく、読みやすいと思います。

(b) グループ

井田 三夫 担当

授業科目の内容:

ヨーロッパ共通歴史教科書として各国語に訳されている原書の最終章「分断から開放へ? (1945 - 1990)」のフランス語版抜粋を購読します。中級フランス語学習を通じて、戦後の東西分断から、89年のベルリンの壁の崩壊、それに続くドイツ統一、あるいは91年のマーストリヒト EU 新統合条約に向かうまでのヨーロッパの政治・経済・歴史に触れます。このテキストの合間に(3回に1回ほどの割合)、各種のジャーナリズム文、たとえば『ル・モンド』、『ル・モンド・ディプロマティック』、『ル・フィガロ』、『レクスプレス』、『ル・ヌーヴェル・オブセルヴァートル』といった新聞・雑誌からフランスのアップトゥデートな経済・政治・社会・文化にかかわる記事も読み、読解力と表現力の基礎の習得をめざします。

テキスト:

- ・「12カ国の歴史家によるヨーロッパの歴史 1945 - 1990」(仏語版)(第三書房, 三浦信孝編註, 1700円)
- ・ジャーナリズム文のプリント教材は授業時、随時、配布します。

笠井 裕之 担当

授業科目の内容:

正確な読解能力を養うことを目的として、フランスの現代小説あるいはエッセイを中心に、ときに新聞雑誌の記事なども織りまぜながら、さまざまなスタイルで書かれた文章を講読します。はじめのうちにはゆっくり確実に、徐々に読む速度を上げていきます。かなら

ず予習した上で授業にのぞんでください。

テキスト:

プリントを配布します。

木俣 章 担当 Le Monde を読みながら

授業科目の内容:

フランス人とフランス社会の抱えるいくつかの病、問題点について、Le Monde, L'Express などの最新の記事をもとに読み解きます。フランス語を日本語にすることは勿論ですが、フランス語でキーワードを定義したりテキストを要約してコメントを加えるなどの練習も行います。

テキスト:

プリントで配布します。

参考書:

授業中に適宜紹介します。

(a)(b) グループ

日佐戸 ミッシェル 担当

授業科目の内容:

Travail et discussion sur des articles de presse. La 3ieme heure sera consacree a des textes faciles et la 4ieme heure a des textes relativement plus difficiles.

テキスト:

Photocopies d'articles de journaux et magazines.

中国語インテンシブ(春学期)(秋学期)

専任講師(有期) 馬 燕

講師 松下 淑子

講師 須山 哲治

馬 燕 担当 中国時事

授業科目の内容:

改革開放後、中国の経済、政治、社会および人々の日常生活が大きく変化したことは無視できません。その目覚ましい変化に即応すべく文化、生活、言葉などを知って理解する同時に、いかに自分の意見を効果的に主張し、理解してもらうかがとても重要になると考えられます。本授業は、改革開放後の中国の関する映像を素材に、現在の中国の社会現象や庶民の生活の変化などについて、討論する形で進めていく方針で、受講者が中国で「自己主張」する能力を鍛えたいと思います。

テキスト:

自編(プリント配布)、場合により内容が変わる可能性もあります。

松下 淑子 担当 中国語で日中文化を語る

授業科目の内容:

この授業は中国語の理解力、会話力を高めることを目的とする。授業方法は文字教材に触れる前にまずは文章を聞き、聞いた内容について会話を展開しつつ、文章の内容理解を深めていく。また、定期的にテーマを決めて、中国語でのディベートを練習する。

テキスト:

NHK 出版社『小点心』陳淑梅著

参考書:

随時に紹介

須山 哲治 担当 中国語ニュースのヒアリング&ディクテーション

授業科目の内容:

諸君は既に二年間、あるいはそれ以上にわたって、中国語を学習しています。「中級」の段階を脱し、そろそろ「上級」への道のりが見えている頃です。登山に喩えれば、五合目を通り過ぎた頃に相当するでしょう。

この段階にはいると、学習する内容が初級・中級に比べて遥かに専門的になるので、一コマの授業で言語学習の四大要素である「読む・書く・聴く・話す」を満遍なく鍛えることが難しくなります。むしろ要素を絞って学習した方が、効果的な場合が多いのです。

私の授業では、前述の四大要素の内、特に「ヒアリング力」に重点を置いて学習します。具体的には、ニュースなどの高度な内容の中国語を「正確に聴く」力を身につけることを目標にします。最終的に

は、テレビやラジオのニュース（内容的には中国語検定の1～2級程度のもの）を、聴いて内容を正確に理解できるレベルを目指します。

我々日本人は漢字を日常的に使っています。ですから、日本人は中国語学習に有利だとよく言われます。しかし、日本人はなまじ漢字を知っているがゆえに、中国語を勉強する際に漢字による理解に頼ってしまい、発音に対して注意が向かないのです。その結果、多くの人が「読めるけれども聞き取れない」という状態になってしまいます。

ヒアリング力が会話力の前提になっていることは、諸君も言うまでもなくおわかりだと思います。相手が何を言っているか分かるからこそ、こちらは言いたいことが言えるのです。特に、ディベートなどの内容的に高度な会話ほど、その傾向が強いです。ですから、会話力向上のためにも、ヒアリング力の養成は重要なのです。

テキスト：  
毎回の授業でプリントを配布する予定です。

参考書：

初回の授業で紹介する予定です。

スペイン語第 (春学期)(秋学期)

スペイン語で物語を読む

助教授 大久保 教 宏 (春学期)

専任講師(有期) 鈴 木 恵美子 (秋学期)

授業科目の内容：

レギュラーコース中級修了者を主に対象として、スペイン語で小説、童話、伝記、旅行記などを読んでいきます。春学期はラテンアメリカのものを、秋学期はスペインのものを主に取り上げる予定です。

テキスト：

コピーを配布します。

スペイン語インテンシブ(春学期)(秋学期)

講 師 アルバレス・クレスポ, ヘスス・カルロス

講 師 齋 藤 華 子

講 師 西 村 君 代

講 師 松 浦 芳 枝

講 師 丸 田 千 花 子

講 師 柳 沼 孝 一 郎

スペイン語インテンシブコースは、三田では週6コマ開講し、2年間なるべく多くのコマを履修してください。三田のインテンシブコースは日吉で学んだ語学の基礎をいよいよ生かす場であり、ここでスペイン語学習を放棄してしまうのでは、日吉での苦労が無駄になってしまいます。時間割の都合でインテンシブの授業が履修できない場合にも、レギュラーコース上級のスペイン語第 や政治学科の系列科目である文献講読に参加して、是非スペイン語学習を継続してください。同一年度で週3コマ以上(組み合わせは自由です)履修すると選択外国語の単位として認められますが、2コマ以下では自由科目の単位となり、卒業単位として認められませんので、3コマ以上の履修を心がけてください。また、「インテンシブコース修了証」や「外国語成績優秀者表彰」の認定を受けたい場合は、三田において相応のコマ数を履修する必要がありますので、注意してください。なお、日吉でインテンシブコースを履修していない学生や他学部生も、三田のインテンシブコースを履修することができますが、初回の授業までに各担当者に了解を得てください。

アルバレス・クレスポ, ヘスス・カルロス 担当

授業科目の内容：

El objetivo fundamental de este curso consiste en afianzar la capacidad oral y conseguir un cierto nivel de fluidez en la conversación mediante la práctica diaria, discutiendo los temas que vayan apareciendo en clase. Se repasarán conceptos, estructuras y vocabulario, y se pondrá énfasis en el conocimiento no sólo del idioma, sino también de la cultura española.

テキスト：

Fotocopias (プリント)

齋藤 華子 担当 スペイン語検定3級合格を目指す

授業科目の内容：

近年関心の高まりつつあるスペイン語検定試験受験のための準備クラスです。これまでに習得したスペイン語力を試す機会として、検定3級(または4級)取得を目指します。文法事項の総復習、短文や長文の和訳・西訳等を通し、読解力や表現力の向上、語彙の増加を目標とします。日常会話表現だけでなく、時事的な話題や文学作品も取り上げる予定です。

テキスト：

毎時間プリントを配布します。

西村 君代 担当 目指せ! DELE 中級

授業科目の内容：

DELEとは、Diplomas de Español como Lengua Extranjera(外国語としてのスペイン語検定試験)の略称で、スペインのセルバンテス協会がスペイン語を母語としない人を対象に、年に2回(5月と11月)、全世界で行っているスペイン語の総合的な能力判定試験である。この試験は、初・中・上級の3レベルあり、それぞれのレベルが、読解、文章表現(作文)、聞き取り、文法・語彙、口頭表現の5セクションから構成されている。合格するには、全てのセクションにおいて7割以上の正答が要求される。DELEは世界的に通用するスペイン語検定で、DELE中級または上級保持者は、スペインの公的機関が公募する職に応募した場合、スペイン語能力試験を免除されることもある。

この授業では、総合的なスペイン語力を伸ばし、DELE中級合格を目指す。文法の理解がすべての基本であるため、既習文法事項の定義を図る練習をしていく。それと並行し、読解練習、聴解練習、作文練習を行う。また、語彙力増強のために、毎回単語、熟語、表現などの小テストを行う。なお、口頭表現の練習は特に行わない予定なので、他の会話の授業などを履修し補完することが望ましい。

テキスト：

必要に応じてコピー配布。

参考書：

授業中に指示。

松浦 芳枝 担当

インターネット等を活用したスペイン語の表現力ステップアップ

授業科目の内容：

この授業ではスペイン語による表現力(口頭および書面)をつけることを目的とします。現実のコミュニケーションの場面には台本はなく、状況的な要素を瞬時に分析して即興に対応する能力が必要となります。そのためには、これまでに習得した知識を活性化するための練習(実習)が重要な役割を果たします。春学期では、スペイン語で表現することに慣れることを主眼とする。文法・語彙力を増強するために、会話を中心とするテキストを用いて、その内容の理解、徹底的な音読(部分的な暗唱も含める)、練習問題を行う。それと並行して特定のテーマについて発表・意見交換を行う。秋学期では、春学期の成果を踏まえて、総合的なスペイン語力をつけるために、授業時での発表・意見交換をより活発に行う。随時配布する、表現力増強に役立つ文章、興味深い文章の理解、音読によって自分の文章力を高める。仕上げに、スペインのニュース番組を教材として取り上げるのもいいだろう。

テキスト：

プリントの配布およびインターネットによる事前配信

丸田 千花子 担当 読んで書いて話そうスペイン語

授業科目の内容：

この授業は総合的に「読む・書く・話す」能力を高めること、スペイン語圏(スペイン、ラテンアメリカのヒスパニック)の文化についての記事、映画なども紹介しながら、学ぶことを目的にします。単独の受講でも結構ですが、DELE受験準備クラス、スペイン語検定準備コースを補完するものとしての利用がさらに良いと思います(特に5月まではスペイン語検定を受検する学生のために、授業で演習問題なども行っていききたいと思います)。

内容は実際にアメリカの大学のスペイン語中級レベルのカリキュラムとメソッドを模します。法学部、他学部の学生で、「書く・話



of the course, depending on the interests and level of the participants. Students will translate the Latin into Japanese, but must be prepared to have some explanations given in English (or at least, should not be afraid of the teacher's English or of his peculiar Japanese).

ポルトガル語第 (中級)(春学期)(秋学期)  
ブラジルのことば 講師 日向 敦子ノエミア

授業科目の内容:

[春学期]

初級より少し複雑な日常会話を劇化しながら、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(ジェスチャーやイントネーションなど)が同時に行われるシンクロナイズド方式を試みます。会話のポルトガル語をより覚えやすくするため、会話と同じ内容のテキストの聞き取りや書取も行います。

文法は、動詞の接続法と仮定文を主に学びます。

[秋学期]

春学期と同じテキストの他にブラジルの総合雑誌「Veja」の、ポルトガル語が比較的簡単な記事を読み、訳し、それについてディスカッションをします。ポルトガル語の読解力と会話力が同時に身につく授業を試みます。また、文法問題もその都度指摘し、説明します。

テキスト:

日向ノエミア『ポルトガル語でコミュニケーション』大学書林  
(の後半にします)

二期は、このテキストの他に雑誌のプリントも配布します。

参考書:

辞書は『現代ポルトガル語辞典』(白水社)がよいでしょう。あるいは、『ローマ字ポ和辞典』、『ローマ字和ポ辞典』(柏書房)も、例文が多いため、参考になると思います。

ポルトガル語第 (上級)(春学期)(秋学期)  
ブラジルのことば 講師 日向 敦子ノエミア

授業科目の内容:

[春学期]

ブラジル人と日本人の間に生じるコミュニケーション・ギャップを扱ったテキストを読み、訳し、それについてディスカッションをします。ポルトガル語の読解力と会話力が同時に身につく授業を試みます。このテキストは、ポルトガル語と日本語が見開きで対訳になっているので、入りやすいと思います。

辞書は『現代ポルトガル語辞典』(白水社)がよいでしょう。また、『ローマ字ポ和辞典』、『ローマ字和ポ辞典』(柏書房)も、例文が多いため、参考になります。

[秋学期]

ブラジルの総合雑誌「Veja」の時事文、法律、政治、経済欄の記事などを読み、訳し、それについてディスカッションをすることを予定に入れています。

ポルトガル語の読解力と会話力が同時に身につく授業を試みます。また、学期末に、ブラジル、あるいは、ブラジル人について考えたことを題材にした簡単な作文を提出してもらおう予定です。

辞書は『現代ポルトガル語辞典』(白水社)がよいでしょう。また、『ローマ字ポ和辞典』、『ローマ字和ポ辞典』(柏書房)も、例文が多いため、参考になります。

テキスト:

一学期のテキストは、『ことばを越えて』(世論時報社)にします。

二期はプリントし、最初の授業で配ります。

参考書:

辞書は『現代ポルトガル語辞典』(白水社)あるいは、『ローマ字ポ和辞典』(柏書房)、『ローマ字和ポ辞典』(柏書房)が、参考になると思います。

イタリア語第 (春学期)(秋学期)  
イタリア語講読 講師 町田 亘

授業科目の内容:

イタリア語文法の知識を深め、さらにイタリア社会の諸側面を知るために原書の講読を行う。

今日のイタリアを理解するために、外国人向けのテキスト、イタリアの新聞、雑誌等から記事・章節を抜粋し、講読する。

テキスト:

プリント

参考書:

長神 悟『イタリア語のABC』(白水社)

## 〔人文科学科目〕

人文科学研究会 ・ (春学期)  
人文科学研究会 ・ (秋学期)  
ことばの認知科学(言語・思考・行動の意味論)  
教授 辻 幸夫

授業科目の内容:

言語を中心としたヒトの認知活動を考察対象とする。問題を見だし、整理・分析し、その結果を発表する課程で、自らの認知活動も観察対象とする。ごく少数人数によるゼミ形式を採用し、年度の最後には受講者全員が簡単な論文提出ないしはプレゼンテーションができるよう目指す。

言語は人間だけが持つ高度な記号系である。しかし、たとえばヒトのコミュニケーションや思考は言語だけによって成り立つわけでもない。それにも関わらずヒトの重要な特徴は言語を使うことである。言語がなければ現在の人間はない。言語とは何か、どういう構造をもつのか、何が言語を可能にしているのか。

一方、天文学的な規模の記憶能力や情報処理能力を持ち、瞬時かつ正確に複雑な計算を行う点でヒトをはるかに凌駕するコンピュータであっても、日常生活を難なく送ることのできるヒトの認知能力には質的に遠く及ばない。それはなぜか。ヒトの認知能力とはいったいどのようなものなのか。

こうしたヒトの傑出した言語を含む認知能力が宿る心とは何か。その生物学的な基盤や心理学的・社会的な基盤は何か、あるいは記号的・言語学的な基盤はいかなるものなのだろうか。

本研究会では、認知科学的観点からヒトの思考、言語、行動について多角的に検討する。

テキスト:

授業時に学生と相談して決定します。

参考書:

- ・辻幸夫編、『ことばの認知科学事典』、大修館、2001年
- ・辻幸夫編、『認知言語学キーワード事典』、研究社、2002年
- ・辻幸夫編、『認知言語学への招待』、大修館書店、2003年
- ・山鳥重、辻幸夫著、『心とことばの脳科学』、大修館書店、2006年

人文科学研究会 ・ (春学期)  
人文科学研究会 ・ (秋学期)  
娯楽小説を通して見るイギリスの政治・社会とセクシュアリティ  
教授 武藤 浩史

授業科目の内容:

今年度は、Bram Stokerの長編小説Dracula、J.M.BarrieのPeter Panもの(小説と戯曲)などを読みながら、文学テキストのディープな読解を通して、イギリス文化・社会の諸問題を、政治、セクシュアリティ、ジェンダー、メディアなどの面から、見てゆきたいと思います。

前期、後期ともに、小説の他に関連研究書を読み進めた上で、学期終盤に各人が決めたテーマで研究発表をしてもらいます。扱う予定の研究書はE・ショウォールター『性のアナキー』(みすず書房)、S・フロイト『エロス論集』(ちくま学芸文庫)、イヴ・K・セジ

## 共通

ウィック『男同士の絆』(名古屋大学出版会), ジェディス・パトラー『ジェンダー・トラブル』(青土社)など。

なお, 本講座は副専攻認定科目ですが, 副専攻認定を目指さない学生の履修も OK です。副専攻認定の詳細については, 2006 年度開始時(4月の最初の授業)で担当者(武藤)に相談してください。メールでの質問は mutonn@tka.att.ne.jp まで, どうぞ。

テキスト:

Bram Stoker, Dracula (プリントで配布), 武藤浩史『「ドラキュラ」から文学入門』(慶應義塾大学出版会), E・ショウォルター『性のアナーキー』(みすず書房), S・フロイト『エロス論集』(ちくま学芸文庫), イヴ・K・セジウィック『男同士の絆』(名古屋大学出版会), ジェディス・パトラー『ジェンダー・トラブル』(青土社)。

---

人文科学研究会 (春学期)

人文科学研究会 (秋学期)

イギリス地域文化研究イギリスと「近代」 終わりの黄昏?  
教授 太田 昭子

---

授業科目の内容:

2006 年度はイギリス史(主として近代~20世紀半ば)を核に, 「近代世界とイギリス」の足跡を, 少人数のゼミ形式で多角的に検討したいと考えています。歴史認識を踏まえ, 他地域(ヨーロッパ, アメリカ, オセアニア, アジア, アフリカ)とイギリスとの関係性や社会構造, アイデンティティ, エスニシティの問題など, 幅広い切り口を開拓していくことを目指します。

テキスト:

春学期は, Paul Kennedy, The Rise and Fall of Great Powers; Eric Hobsbawm の四部作(The Age of Revolution; The Age of Capital; The Age of Empire; The Age of Extremes)などの中から適宜選ぶ予定。秋学期には特定の教科書は使用しない予定ですが, 履修者の希望によっては変更される可能性があります。全員が読むべき論文などは, 必要に応じ指定するかプリントにして配布します。

参考書:

参考文献表を随時配布・指示します。

---

人文科学研究会 (春学期)

人文科学研究会 (秋学期)

現代アメリカ研究: 現代アメリカの一国主義と宗教  
教授 鈴木 透

---

授業科目の内容:

この授業では, 現代アメリカ社会の主要な対立軸である, 「80年代のベクトル/保守派/一国行動主義」と「60年代のベクトル/リベラル派/国際協調主義」の両陣営について, 隔年で勉強します。今年度は, 前者の陣営の重要な接着剤である宗教勢力を取り上げ, それが一国主義の台頭にどう関与してきているのか, 政教分離, 性道徳, 反進化論教育などの争点も視野に入れつつ, 考えます。

テキスト:

取り上げる文献は多岐にわたるので, 開講時に文献リストを配布します。

参考書:

鈴木透『実験国家アメリカの履歴書: 社会・文化・歴史にみる統合と多元化の軌跡』(慶應義塾大学出版会, 2003)

---

人文科学研究会 (春学期)

人文科学研究会 (秋学期)

アメリカ文化研究: アメリカ帝国論の現在  
教授 鈴木 透

---

授業科目の内容:

この授業では, アメリカ文化研究の方法や研究史の勉強と, 特定のタイプのアメリカ論の分析とを隔年で行います。今年度は後者の番で, 冷戦終結以降に顕著に登場してきた, 知識人たちによるアメリカ帝国論を取り上げ, 保守派・リベラル派を問わずそこに共通して見られる, アメリカの将来に対する悲観的なヴィジョンの持つ文化的・社会的意味について検討します。

テキスト:

取り上げる文献については, 履修者の希望を聞いた上で最終決定しますが, 以下のものについては決定済みです。

- ・マイケル・マン『論理なき帝国』
- ・チャルマース・ジョンソン『アメリカ帝国の悲劇』
- ・クライド・プレストウィッツ『ならずもの国家アメリカ』
- ・ロバート・B・ライシュ『アメリカは正気を取り戻せるか』

参考書:

鈴木透『実験国家アメリカの履歴書: 社会・文化・歴史にみる統合と多元化の軌跡』(慶應義塾大学出版会, 2003)

---

人文科学研究会 (春学期)

人文科学研究会 (秋学期) 教授 井上 逸兵

---

授業科目の内容:

まず, 「言語」, 「コミュニケーション」, 「社会」, 「文化」などを扱う諸分野のいくつかの議論を通して, 主として社会言語学, 言語人類学, 語用論などの基本的知見を身につける。その上で, 受講者がそれぞれ一つ以上のトピックを担当し, 調査, 発表し, 全員で議論する。最終的にはこれらの内容を全員でなんらかの報告書の形にまとめたい。

テキスト:

なし

参考書:

授業中に指示する

---

人文科学研究会 (春学期)

人文科学研究会 (秋学期)

芸術と文学・思想から見た近代および現代のドイツ語圏とヨーロッパ  
教授 岩下 真好

---

授業科目の内容:

「ドイツ語圏およびヨーロッパの近・現代の芸術と文学・思想」というテーマをいちおう設定する。具体的な内容は受講者の個別の問題意識に応じて設定し, 講義, 検証(写真, CDその他), 研究報告, 討論などを折りまけて進める。文学, 音楽, 造形芸術, 建築, 思想など, 幅広い分野を適宜取り扱う。対象への受講者の積極的な関心を期待する。

参考書:

その都度指示する。

---

人文科学研究会 (春学期)

人文科学研究会 (秋学期)

現代ドイツ研究 教授 三瓶 慎一

---

授業科目の内容:

現代ドイツの政治・社会・言語・文化に関する種々の問題を扱う。参加者の関心に応じて, 自力で資料を集め, Referat にまとめて発表し, 全員で議論を重ねることによって, 最終的には1つの論文に仕上げるのが目標である。

これまで扱ってきたテーマには, 東西ドイツ分断の経緯, 東西ドイツ国境事情, ベルリンの壁の建設と崩壊, 各政党の成立と政策, 社会民主党の歴史, ヴィリー・ブランド, 兵役義務, ドイツ語の人名, ドイツと日本の言語政策などがあつた。この他のテーマももちろん歓迎である。参加者諸君と協議のうえ, 合宿形式で発表・討論を行うこともある。なおドイツ連邦共和国に関する問題を中心とするが, 参加者の希望によっては, ドイツ語圏の他の国々についてのテーマを扱うことも妨げない。

事前の準備:

副専攻の認定を希望する場合は, 要項の当該部分を熟読しておくこと。特に地域文化論(ドイツ)を履修してあることが前提ではあるが, 副専攻制度が導入されたばかりでもあるから, この点については個別に相談に応じたい。

なおドイツ研究には, 日本語の文献のみならず, ドイツ語の文献に当たることも必須である。そのため, ドイツ語での文献講読をこのゼミの活動の重要な一部と考えてほしい。また新聞, 雑誌, インターネット, ラジオニュースなどによって, 最新情報の収集をする

必要もある。従って、現代ドイツに関心があり、なおかつドイツ語学習経験があって、ドイツ語を学ぶことが好きであるという諸君に参加資格を限定する。しかし所属学部、学年等は問わない。

その他：

参加申し込み、問い合わせは、担当者に直接メールで。随時受け付けている。返答に数日かかる場合もあるが、必ず返信するので了解してほしい。アドレスは shinichi@sambe.jp。送信の際、件名は「人文研究会参加希望」「人文研究会問い合わせ」のように。参加申し込みをした諸君に、受講前の課題図書を数点挙げたりリストを送る。携帯電話ではなくコンピュータで送受信するメールアドレスを用意しておくことが重要。

当然のことながら、ドイツ語学習歴があることが履修の条件である。また無断欠席が3回を超える者にはやめてもらう。

---

人文科学研究会 ・ (春学期)  
 人文科学研究会 ・ (秋学期)  
 負け犬のための思想と芸術 教授 許 光 俊

---

授業科目の内容：

思想や芸術とは本質的に負け犬のためのものだ。

テキスト：

最初の時間に指示。

---

人文科学研究会 ・ (春学期)  
 人文科学研究会 ・ (秋学期)  
 西欧5ヶ国語の美を求めて 「星の王子さま」を中心として  
 助教授 斉 藤 文 雄

---

授業科目の内容：

フランスの作家サン・テグジュペリ Antoine de Saint-Exupéry の「星の王子さま」Le Petit Prince をフランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語の5ヶ国語で、特に発音に留意しつつ読み合わせるにより、各言語の美を味わうと同時に、他言語・文化への目を開き、さらに新たな言語へのチャレンジ意欲喚起のための一つの契機を与えることを目指す。なお随時各国の詩や歌を副教材として用いる予定である。

テキスト：

(仏) Le Petit Prince (Collection folio/Gallimard)  
 (独) Der kleine Prinz (Karl Rauch Verlag)  
 (伊) Il piccolo principe (TASCABILI BOMPIANI)  
 (西) El Principito (El libro de bolsillo 348)  
 (ポ) O Principezinho (Caravela)

参考書：

(英) The Little Prince (A Harvest Book/Harcourt Brace & Company)  
 (日) 星の王子さま (岩波書店他)

[注]自分の選択する言語のテキストは各自購入することが望ましいが、他言語については随時コピーを配布する。

---

人文科学研究会 ・ (春学期)  
 人文科学研究会 ・ (秋学期)  
 フランス地域文化(近・現代) 教授 鶴 崎 明 彦

---

授業科目の内容：

少人数のゼミ形式でフランス近現代の文化を考察します。

来年度は、現代社会の原型が形成され、今日に続く様々な現象や制度や問題が生まれた19世紀後半から20世紀初頭までのフランス文化を考察しながら、同時にわれわれの生きる現代を改めて見直すための問題意識の形成を研究会の主眼とします。取り上げるテーマとしては、例えばモードのパリの誕生(何故人は流行を追うのか)、デパートの誕生(消費社会の諸問題を考える)、美術館の誕生(芸術の鑑賞制度の是非について)、異文化との出会い(グローバリゼーションが固有の文化に与える影響、そもそも固有の文化とは何か)、メディアの発達(ものの見方や感性に与える影響)などを予定していますが、皆さんの関心や希望を取り入れながら、柔軟に対応していきたいと考えています。

春学期はこうしたテーマに関する参考文献を読んできて報告をしてもらい、討論や必要に応じて講義をおこなって、フランス文化に対する知識や理解を深めると同時に、それを通して現代社会の諸問題を考察するための視座を養います。秋学期は皆さんに研究発表をしてもらい、討論を経ながらさらに問題意識を深めます。

参考書：

必要に応じて適宜紹介します。

---

人文科学研究会 ・ (春学期)  
 人文科学研究会 ・ (秋学期)  
 Société française – Etudes comparatives  
 助教授 アンリ, ナタリー

---

授業科目の内容：

Le domaine de ce cours est, au sens large, la société française, en elle-même ou dans une perspective comparative, vue à travers l'étude d'un thème choisi en commun au début de chaque semestre. Ce choix est librement modulable selon les intérêts (exemples récents: l'Union Européenne, histoire comparée des femmes en France et au Japon, l'individu dans les sociétés françaises et japonaises...). L'état de la recherche de chacun est exposé régulièrement, et le travail doit mener à la rédaction en français d'un court rapport. Le cours se divise en exposés, orientation de la recherche, discussion. Le but de ce cours est non seulement l'acquisition de connaissances, l'approfondissement de la maîtrise de la langue française, mais encore l'entraînement à la pratique et à la présentation de la recherche.

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

---

人文科学研究会 ・ (春学期)  
 人文科学研究会 ・ (秋学期)  
 中国の軍事と安全保障 教授 安 田 淳

---

授業科目の内容：

少人数のゼミ形式で、主として中国の安全保障を勉強する。取り上げる題材として中国人民解放軍はもちろんのこと、中国の領土問題やエネルギー問題、人口問題、治安問題、交通問題、さらに周辺諸国との関係など、中国の安全保障に関わるならば履修者諸君の関心や希望を広く取り入れたい。

テキスト：

授業中に指示する。

参考書：

授業中に指示する。

---

人文科学研究会 ・ (春学期)  
 人文科学研究会 ・ (秋学期)  
 スペイン語圏の社会と文化 助教授 大久保 教 宏

---

授業科目の内容：

スペイン語圏の社会と文化に関してより深く理解し、研究したい人のためのゼミです。スペイン語圏を扱う人文科学研究会はもう一つ、本谷先生担当のものがありますが、そちらは現状分析を中心とし、こちらの研究会は歴史的にさかのぼった分析を主に行います。ナマの歴史資料(一次資料)や、研究書(二次資料)を精読し、討論しながら、履修者各自の問題関心を深めていきます。似たような問題関心の人でいくつかグループを作り、共同研究の形で進めたいと考えています。2年間履修し、修了論文を提出すれば、副専攻修了を認定します。なお、担当者の大久保の専門知識はメキシコ、中央アメリカで、分野は宗教や思想、時代的には19世紀末から20世紀初頭が得意ですが、スペインの闘牛の歴史について知りたいとか、ウルグアイがサッカーのワールドカップ第1回大会で優勝した秘密を探りたいとか、アフリカの赤道ギニアがなぜスペイン語圏なのかその理由が知りたい、といったような様々な問題関心にも付き合おうと思っています。

人文科学研究会 ・ (春学期)  
 人文科学研究会 ・ (秋学期)  
 スペイン語圏の社会と文化(現状分析を中心に)  
 専任講師 本谷 裕子

授業科目の内容:

この研究会では、スペイン・ラテンアメリカ諸国をはじめとするスペイン語圏の社会や文化について理解を深めていきます(ポルトガル語圏のブラジル・フランス語圏のカリブ海の国々も含む)。スペイン語圏について学ぶ研究会には大久保先生担当のものもありますが、こちらの研究会は歴史研究というよりは当該地域の現状分析に焦点を当てていきます。スペイン・ラテンアメリカと一口にいってもその地域は広範にわたりますし、異文化コミュニケーション、貧困問題、環境問題、人種問題、教育問題、移民問題、映画や美術などさまざまなアプローチからの研究が可能であるがゆえ、みなさんの関心や研究テーマも多岐にわたるはず。私はこれまで文化人類学・服飾学の視点からメソアメリカ地域の先住民社会を研究してきましたが、この研究会を通じて私自身、みなさんとともにこれまで知らなかったスペイン語圏の国々の社会や文化について学びたいと思っています。授業では日本語文献と外国語文献(英語、スペイン語)の精読と討論をおこなうとともに、みなさんには自分の関心に沿った研究テーマを設定してもらい、それについての研究発表も並行しておこないます。2年間履修し修了論文を提出した場合には副専攻修了を認定しますが、論文は書かないがこの研究会で勉強したいという人ももちろん歓迎します。

人文科学研究会 ・ (春学期)  
 人文科学研究会 ・ (秋学期)  
 ドストエフスキーからロシア、そして現代を観る  
 教授 山田 恒

授業科目の内容:

来年度の研究会では近代小説の最高峰であるドストエフスキーの『カラマゾフの兄弟』を精読し、ロシア文化の基本的な概念を追及する。たとえばドストエフスキーの作品でしばしば言及される「神」とは「愛」とは「友愛」とは何を意味するのかを、作品に則して研究する。春学期には神の存在を否定するイワンの「大審問官の伝説」を含む、上述の概念が集中している第二部までを読む予定である。それはまたイワンが論拠として挙げる幼児虐待というきわめて現代的な問題とも結びついており、今を生きる私たちの観点から作品を論考する可能性を与えているからでもある。

秋学期には末弟アリョーシャの苦悩と問題の解決へとつながる二巻以降を読む。修道僧として出発した彼が何故に「国事犯 = テロリスト」として終わる生涯をドストエフスキーは構想したのか、を中心に論考したい。研究会の参加者には、読み進める中でテーマを見出し、レポートとして提出することが義務付けられる。

テキスト:  
 『カラマゾフの兄弟』を用意しておくこと。新潮文庫版、原卓也訳が望ましい。  
 参考書:  
 研究を進める段階で、紹介する。

人文科学研究会 ・ (春学期)  
 人文科学研究会 ・ (秋学期)  
 近・現代ヨーロッパ舞台芸術史 教授 平林 正司

授業科目の内容:

ここで舞台芸術というのは、オペラ、バレエ、演奏会用音楽を指す。音楽中心であるが、文学、絵画などの芸術史、さらに政治史や社会史も視野に入れた、近・現代ヨーロッパ文明史として位置づけてゆきたい。諸作品を映像・音響によって体験し、その感覚的・知的萌芽を社会人になってから開花させて欲しいと願っている。  
 授業は、担当者の解説・分析・解釈を付しながら、個々の作品を体験する形で進行する。履修社の希望を取り入れて、作品を選択する。  
 春学期は十九世紀前半まで、秋学期は十九世紀後半からを対象とする。

テキスト:  
 未定  
 参考書:  
 未定

〔自然科学科目〕

自然科学研究会 (春学期)  
 人間行動の理対とその応用 教授 鈴木 恒男

授業科目の内容:

少人数ゼミ形式で、人間の行動に関する行動の考察から論理的な思考を向上させることを目的とする。  
 人間の行動として採り上げるのは、問題解決の場面に直面したらどのような思考方法で、解決に至るのかを、実際の問題を持ち寄り、それを合理的に解決する思考方法を検討する。

テキスト:  
 テキストは使用しない。  
 参考書:  
 参考書は、必要に応じて紹介する。

自然科学研究会 (秋学期)  
 人間行動の理対とその応用 教授 鈴木 恒男

授業科目の内容:

少人数ゼミ形式で、人間の行動に関する行動の考察から論理的な思考を向上させることを目的とする。  
 人間の行動として採り上げるのは、人を納得させる発表とはどのように行ったら良いのかという発表方法の検討と、議論の場面で如何に効率よく議論ができるのかを検討する。  
 発表と議論を繰り返し行い、技法の習得を行う。

テキスト:  
 テキストは使用しない。  
 参考書:  
 参考書は、必要に応じて紹介する。

自然科学研究会 (春学期)  
 物理学 教授 下村 裕

授業科目の内容:

少人数のゼミ形式で、興味ある不思議な現象を物理学的に解明することを通して、「問の発見」から「問への答え」に至る物理学的研究過程、数理的・論理的思考方法、そして科学論文の書き方やプレゼンテーションの技法を学ぶ。理論や実験からの学習ではなく、各自が興味をもつ現象をまず見つけることから授業が始まる。その現象はどんなものでも良いが、物理学的に研究するので、実験や観測等が可能な、身近な現象が望ましい。例えば、「公園等にある水飲み場の噴水にビー玉を乗せると、空中に浮き続ける現象」や「バイオリンの弓を一方向に引くだけで、その弦が振動する現象」等、さまざまなものが考えられる。研究はグループで行っても個人で行っても良いが、現象発生の物理的機構を継続して徹底的に調べる。

テキスト:  
 なし  
 参考書:  
 授業中に適宜紹介する。

自然科学研究会 (秋学期)  
 物理学 教授 下村 裕

授業科目の内容:

少人数のゼミ形式で、興味ある不思議な現象を物理学的に解明することを通して、「問の発見」から「問への答え」に至る物理学的研究過程、数理的・論理的思考方法、そして科学論文の書き方やプレゼンテーションの技法を学ぶ。理論や実験からの学習ではなく、各自が興味をもつ現象をまず見つけることから授業が始まる。その現

## 〔数学・統計・情報処理科目〕

象はどんなものでも良いが、物理学的に研究するので、実験や観測等が可能な、身近な現象が望ましい。例えば、「公園等にある水飲み場の噴水にビー玉を乗せると、空中に浮き続ける現象」や「バイオリンの弓を一方方向に引くだけで、その弦が振動する現象」等、さまざまなものが考えられる。研究はグループで行っても個人で行っても良いが、現象発生の物理的機構を継続して徹底的に調べる。

テキスト：

なし

参考書：

授業中に適宜紹介する。

自然科学特論（春学期）

多様な現象と力学法則の関連 講師 吉澤 徹

授業科目の内容：

台風のような流れに関連する自然現象を理解するために、現象に密接する物体の運動、圧力などに関する基本事項の解説から始めます。そのような知識を用いて流れの重要な性質の説明を行い、台風における風向を決めるコリオリ力などを理解します。説明に際しては、数式を極力減らし、直感的見方で補うことにします。

テキスト：

特にありません。

参考書：

適宜紹介します。

自然科学特論（秋学期）

磁力線にまつわる自然科学現象 講師 吉澤 徹

授業科目の内容：

自然科学現象では、磁場（磁力線）が重要な役割を演じている事例が多々あります。そのような現象を理解するために、磁石のN極とS極がなぜ引き合うかというような簡単な事項の解説からはじめます。そこで得られた磁力線に関する基本的な知識を用いて、地球や太陽などにおけるさまざまな現象の考察を行います。

テキスト：

特にありません。

参考書：

適宜紹介します。

自然科学特論（春学期）

技術・社会・自然へのアプローチ 講師 大西 仁

授業科目の内容：

科学技術を支える自然の原理と工夫、異常気象や生態系のメカニズム、さらには社会現象や経済現象への自然科学的アプローチについて解説します。

テキスト：

なし

参考書：

講義中に指示します。

自然科学特論（秋学期）

技術・社会・自然へのアプローチ 講師 大西 仁

授業科目の内容：

自然科学特論と同じ

テキスト：

なし

参考書：

講義中に指示します。

数学（春学期）

数学（秋学期）

行動科学における数学 講師 松岡 勝男

授業科目の内容：

数学は、自然科学、工学はもとより、社会科学、人文科学におけるいろいろな現象の解明のための基本的な道具としての役割を果たしている。そこで、テーマとしては、

- (1) 現代数学の最も重要な基礎をなし、哲学や論理学の現代化にも著しい影響を与えている「集合論」
- (2) 確率論をはじめとして、物理学、工学、統計学、制御理論、学習理論、ORなど、非常に広汎な分野に現れる「エントロピーとマルコフ連鎖」
- (3) 経済、社会、政治などで現れる競争状態の数学的モデルを扱う「ゲームの理論」

などについて、適宜選択の上、「行動科学における数学」という立場から講義する。

テキスト：

特に指定しません。

統計学（春学期）

推測統計学

講師 望月 要

授業科目の内容：

この授業では確率分布や統計的検定の基本的な概念の説明から始め、推測統計の基本的な考え方と技法を講義する。複雑な数式や数学的議論には立ち入らず、「文系の統計ユーザ」のための授業を行うが、特定のコンピュータ・ソフトウェアの使い方やハウツー的な知識ではなく、統計手法の基礎にある考え方や原理を理解することを目指す。受講者は、記述統計学の初歩的知識を有することが望ましいが、学期当初の授業で必要な部分については簡単な復習を行う。また参考書を利用して独学で補うことは十分に可能である。主なテーマは「授業計画」に挙げたものを予定しているが、受講者の希望により変更が可能である。要望があれば、初回授業の際に相談したい。

テキスト：

特に指定しない（配布資料に沿って授業を行う）

参考書：

鷲尾泰俊 1983 日常のなかの統計学 岩波書店（ISBN 4-00-007636-1）

他にも初回ガイダンス時に紹介する。

統計学（秋学期）

多変量解析入門

講師 望月 要

授業科目の内容：

この授業では多変量解析法と呼ばれる統計手法について初心者向けに講義する。授業では“データの解析”よりも“現象の解明”に重きを置く。多変量解析はコンピュータ処理が前提となるが、この授業は特定の解析ソフトウェアの実習ではなく、いろいろな解析手法の考え方を理解し、多変量解析を利用するに当たっての問題の立て方、解析結果の読み方、考察のしかたなどを習得して貰いたい。受講者は必ずしも『統計学』を履修している必要はないが、統計的概念について基礎知識を持っている必要がある。少なくとも以下の用語 分散、統計的有意性、有意水準、相関、相関係数 は理解していて欲しい。ただし、受講者から希望があれば、学期当初の授業で最低限の復習を行うことは可能だと思う。また参考書を利用して独学で補うこともできる。

テキスト：

特に指定しない（配布資料に沿って授業を行う）

参考書：

初回ガイダンスおよび授業中随時紹介する。

情報処理 (春学期)

データベース, オンライン・ジャーナルをつかって  
レポート作成をしよう 講師 河村 和 徳

授業科目の内容:

慶應義塾大学では, 学生に対し様々なデータベースやオンライン・ジャーナルが提供されており, その規模は日本の大学の中でも高い水準にある。これらはレポートや卒業論文の作成に有用であるにもかかわらず, 多くの学生はこれらのデータベースやオンライン・ジャーナルに気づくことはないのが現状ではないだろうか。この講義では, 法学部生に有用と思われるこれらのデータベース, オンライン・ジャーナルをとりあげ, 利用方法について解説する。そして実際に検索やデータのダウンロード等を行ってもらふ。履修者は, こうした経験を各自のレポート作成等に活かせるようにしてもらいたい。また, 折に触れて他大学や民間の法情報サービス等にも言及したいと思う。

テキスト:  
とくに指定はしない。  
参考書:  
とくに指定はしない。

情報処理 (秋学期)

行政における「情報化」 講師 河村 和 徳

授業科目の内容:

本講義では, 政府における「情報化」について考え, リサーチをしたと考えている。日本の政府における「情報化」は「電子化」「オンライン化」などと混在した形で用いられてきているが, これらの多くは省力化, 機械化を中心とするものである。しかしながら, 一般的に政府は政策形成のために, 個人々の情報の多くを集め利用し, 管理しており, 国民の情報や政策に関わる情報を収集・管理することが情報政策の根幹である。近年, こうした情報政策の根幹の部分にも住民基本台帳ネットワークにみられるオンライン化や, 個人情報保護法施行に伴う国勢調査実施の困難さといった新たな変化がみられている。

本講義では, 政府における近年の「情報政策」について, ネット等を駆使しながらリサーチをし, 議論を展開していくことにしたい。コンピュータ技術の習得よりも, 行政内におけるコンピュータ技術利用の現状とそれに伴う行政運営の変化, そして課題について検討することをメインにしていきたいと考えている。

テキスト:  
とくに使用しない  
参考書:  
とくに使用しない

統計情報処理 (春学期)

データ分析の基礎 講師 石上 泰 州

授業科目の内容:

この授業では, パソコンを利用してデータを分析するために必要な基礎的な知識と技法を学ぶ。授業で目標とするのは, SPSS (Statistical Package for the Social Sciences) という社会科学のための統計ソフトを利用して, 簡単なデータ分析を行えるようになることである。データを適切に使いこなすことができれば, それだけ説得力のある議論を展開することができるので, この授業を通じてデータの取り扱いの基礎を身につけてもらいたい。なお, 初歩的な内容から授業をはじめるので, 履修に際してパソコンや統計についての基礎知識はまったく不要である。履修には何も基礎知識がないということを前提に授業をはじめるので, 初心者の方も履修してもらいたい。

テキスト:  
適宜, 資料を配布する。  
参考書:  
適宜, 資料を配布する。

統計情報処理 (秋学期)

SPSSを利用したデータ分析 講師 石上 泰 州

授業科目の内容:

この授業では, 「統計情報処理」に引き続いてパソコンを利用してデータを分析するために必要な基礎的な知識と技法を学ぶとともに, SPSS という統計ソフトを利用して, 自らの問題関心にしたがいつつ実際に統計的な分析を行っていく。標準的には, 自らテーマを設定し, 自分の考えにもとづいて「仮説」をたて, その仮説の検証に必要なデータを収集, 整理し, 統計的な分析を通じて仮説の妥当性を検証する, という手順をふむ。そして最後には, これら一連の作業についてのプレゼンテーションを行ってもらふ。なお, ここでは春学期の「統計情報処理」で学んだ知識や技法を前提に授業を進めるので, その旨あらかじめご了承ください。

テキスト:  
適宜, 資料を配布する。  
参考書:  
適宜, 資料を配布する。

統計情報処理 (春学期)

回帰分析を習得する 講師 河村 和 徳

授業科目の内容:

近年, パーソナル・コンピュータの演算処理速度があがり, かつて大型計算機を使用していた時代と比べ, 計量分析を行うことは比較的容易になった。しかし, その一方で, 統計的意義を考えずに使用しているケースも散見されるようになった。

この講義では, 多変量解析を行う上で基本となる回帰分析に焦点をあて, その手法, 変数選択の留意点等を実習を通じて習得することを目的とする。講義は, 単純な回帰分析から重回帰分析, 共分散構造分析, 数量化理論と, 実際のデータを参考に積み上げ式で進めていく。

テキスト:  
とくに使用しない  
参考書:  
とくに使用しない

統計情報処理 (秋学期)

分析手法のバリエーションを増やす 講師 河村 和 徳

授業科目の内容:

この講義では, 統計情報処理 から までの間で講義されなかった分析手法をいくつか紹介し, より研究の幅を広げることを目的とする。統計情報処理 から で取り上げられなかった分析手法の全てを網羅することはできないが, 比較的, 学会論文でみかける分析手法をピックアップし講義をしたいと思う。具体的には, 質的変数を主成分分析のように扱える数量化理論 類や尺度の信頼性分析, 時系列的な変化を分析する上で有効な ARIMA モデル等である。

また, 講義の最後では実際にあるデータ(サーベイ, アグリゲート)を用い, 習得した手法を用いて課題報告をしてもらうことになる。

テキスト:  
とくに使用しない  
参考書:  
とくに使用しない

慶應義塾外国語学校  
教職課程センター  
言語文化研究所  
メディア・コミュニケーション研究所  
体育研究所  
福澤研究センター  
外国語教育研究センター  
国際センター  
情報処理教育室  
知的資産センター

## 慶應義塾外国語学校

外国語学校は、昭和17年10月語学研究所（現在の言語文化研究所）の設置と同時に、その実践部門として開講され、以来塾生はもとより、他校学生、一般社会人の外国語学習の場として、高い評価を得ています。現在、英語・英会話・ビジネスイングリッシュ・ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・ロシア語・イタリア語・インドネシア語・アラビア語・朝鮮語・ベトナム語・タイ語の14外国語科のコースを開講、約1,000名の生徒が在学しています。授業は、義塾内外の外国語担当教授をはじめ、外国語を使って実際の場で活躍している職業人、外国人講師など、優れた教員によって行われています。

法学部学生は、教授会によって設定された下記の科目を、自由科目として、履修申告の上履修することができます。

授業は、全科目三田6時限（英会話のみ5時限にも開設）で、春・秋学期（4月期・10月期）各2単位です。受講するには、外国語学校の定める入学手続が必要で、詳細は、「外国語学校入学案内」を参照のこと（請求先：港区三田2-15-45 慶應義塾外国語学校・電話03-5427-1592 ホームページ <http://www.fl.s.keio.ac.jp>）。入学手続期間は2月上旬～3月上旬と、8月上旬～9月上旬の年2回です。

4月期の場合は、履修申告手続前に外国語学校の入学手続をすることになるため、自由科目として履修申告をする時も学部の履修科目と時間が重なる場合は、直ちに外国語学校事務室窓口で相談してください。

また、日吉では日吉特別講座を6時限（18:30～20:00）に開講しています。開講する語学は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語の5カ国語です。詳しくは、外国語教育研究センター日吉事務室へお問い合わせください。

科 目	ク ラ ス	週間授業数
英 語	上 級	3 回
英 会 話	中 上 級 級	2 回
ビジネス・イングリッシュ		2 回
ド イ ツ 語 フ ラ ン ス 語 ス ペ イ ン 語 中 国 語 イ タ リ ア 語	基 礎 級 初 中 級 上 級	* 3 回
ロ シ ア 語 イ ン ド ネ シ ア 語 ア ラ ビ ア 語 朝 鮮 語 ベ ト ナ ム 語 タ イ 語	基 礎 級 初 中 級 上 級	2 回

\* スペイン語上級は週2回

2006年10月期より、中国語中級・上級は週2回

## 教 職 課 程

中学あるいは高校の教員免許状を取得しようとする場合、教職課程を履修することになりますが、学生諸君は教職課程センターにおいて、教職課程登録の手続きをしなければなりません。教員免許状取得を志す学生は、学事日程表「教職課程ガイダンス」に必ず出席してください。その際教職課程の履修案内等を配布します。

学事日程表の「教職課程ガイダンス」および「教育実習事前指導」以外に、教員免許状を取得するためには諸ガイダンスや説明があり本人が必ず出席しなければなりません。「教職課程履修案内」には、日程その他について詳しく記載されていますから必ず読んでください。

また、ガイダンス日程・場所・時間・教職諸行事等については、西校舎中央入口右側手前の「教職課程掲示板」の掲示にも常時注意してください。

## 言語文化研究所特殊講座

言語文化研究所特殊講座は三田に設置されています。

平成 18 年度言語文化研究所特殊講座

科目名	教員名	単位数
サンスクリット (初級)	土田龍太郎	通年 2 単位
サンスクリット (中級)	土田龍太郎	
アラビア語 (基礎)	榮谷温子	
アラビア語 (現代文講読)	榮谷温子	
アラビア語 (古典)	岩見 隆	
アラビア語文献講読	岩見 隆	
ヴェトナム語 (初級)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語 (中級)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読	嶋尾 稔	
ペルシア語 (初級)	関 喜房	
ペルシア語 (中級)	岩見 隆	
タイ語 (初級)	三上直光	
タイ語 (中級)	ポンシー, ライト	
トルコ語 (初級)	ヤマンラール, アイドウン	
トルコ語 (中級)	ヤマンラール, アイドウン	
朝鮮語文献講読	野村伸一	
カンボジア語 (初級)	三上直光	
ヘブライ語 (初級)	笈川博一	
ヘブライ語 (中級)	笈川博一	
古代エジプト語 (初級)	笈川博一	
古代エジプト語 (中級)	笈川博一	
アッカド語 (初級)	高井啓介	
アッカド語 (中級)	高井啓介	

サンスクリット (初級)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容:

サンスクリット語入門の講義である。ほぼ一年かけて、サンスクリット語文法体系のあらましを修得することを目的とする。

参加者は、練習問題の予習が必要となる。

テキスト:

- ・ヤン・ホンダ著 鎧淳 訳「サンスクリット語初等文法(春秋社)
- ・辻 直四郎著「サンスクリット文法」(岩波書店)

授業の計画:

- ・サンスクリット語とはなにか
- ・アオリスト活用
- ・子音と母音
- ・完了活用
- ・名詞変化の基礎
- ・その他の動詞形
- ・動詞変化の基礎
- ・複合語等
- ・母音曲用
- ・子音曲用
- ・動詞現在組織
- ・動詞未来及受動変化

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

サンスクリット (中級)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容:

サンスクリット語の初歩をすでに一通り取得したもののための授業である。

テキスト:

参加者の希望で決める。

授業の計画:

サンスクリット では、参加者と相談して決めたテキストを講読、文化史宗教史の事項と文法解説を行う。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語 (基礎)

言語文化研究所 講師 榮谷 温子

授業科目の内容:

正則アラビア語(フスハー)のアラビア文字の読み方、綴り方からはじめ、一年間で基礎文法を習得することを目的とします。また正則アラビア語による簡単な日常会話フレーズも練習します。

テキスト:

佐々木淑子著『アラビア語入門』(翔文社, 2004年, 1905円)  
必要に応じてプリントや練習問題を配布します。

参考書:

参考書 David Cowan, An Introduction to Modern Literary Arabic (Cambridge University Press)

授業の計画:

- 第1回 第6回 アラビア文字のつづり方, 名詞の性・格・複数, 人称代名詞と前置詞
- 第7回 第13回 指示代名詞・形容詞・疑問詞および名詞文の構造
- 第14回 第20回 動詞完了形・未完了形および受動態・分詞・動名詞・場所名詞
- 第21回 第26回 不規則動詞および派生形

履修者へのコメント:

毎回宿題を出します。アラビア語の文法はテキストでの独習のみでは理解がむずかしい部分が多々あります。一回でも授業を欠席すると継続が困難になります。毎回の出席を心がけてください。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語 (現代文講読)

言語文化研究所 講師 榮谷 温子

授業科目の内容:

基礎文法の習得を終えた人を対象として現代文の講読を行います。講読を通して、アラビア語の基本的な文章構造の理解、さらには母音記号などの補助記号がついていない文章にたいする読解力の養成を目的とします。

テキスト:

プリントを配布します。

辞書は、Hans Wehr, A Dictionary of Modern Written Arabic-Englishを使用します。

参考書:

- ・佐々木淑子著『アラビア語入門』(翔文社, 2004年, 1905円)
- ・David Cowan, An Introduction to Modern Literary Arabic (Cambridge University Press)

授業の計画:

初回には、辞書や文法書、授業の進め方を説明をします。最初は母音記号のついた平易な文章からはじめます。その過程で既習の基礎文法や辞書による単語の調べ方を再確認していきます。順次程度の高い文章の講読をしていき、最終的には母音記号のついていない文章を、自らの文法知識を用いて読解できるようにしたいと思います。

第1週 第6週 母音記号がついた平易な短い文章(名詩文・動詞文)の講読。

第7週 第13週 母音記号がついた長い文章を講読。

第14週 第26週 要所のみ母音記号がついた文章から、最終的には母音記号がつかない文章の講読。

履修者へのコメント:

文法の復習を繰り返しながら文章をよみます。辞書と文法書を必ずもってきてください。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語 (古典)

アラビア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容:

母音符号のついていない普通のアラビア語テキストを読めるようになるための演習です。文法の知識をテキスト読みにどう生かすかを課題としてやります。

テキスト:

Brünnow-Fischer: Arabische Chrestomathie  
プリントで配ります

参考書:

井筒俊彦: アラビア語入門, 慶應出版社 1950.

授業の計画:

最初の日には、参考書や辞書の紹介などガイダンスをやります。

春学期の間は母音符号が全部ついているテキストを読みます。秋学期から少しずつ白文に近いものを読み始め学年末には全くの白文を読むようにしようと思います。

なお、受講者は毎時必ず自分の勉強した文法書を持参して下さい。常に文法との対比でテキスト読みを進めてゆくつもりです。

履修者へのコメント:

少くとも規則動詞原型の完了, 未完了の変化は完全に頭へたたきこんでくること。文字も満足に読めないなどは論外です。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席者は毎回必ずあてます。テストがわりです。)

---

アラビア語文献講読

アラビア語演習 言語文化研究所 講師 岩見 隆

---

授業科目の内容：

アラビア語の定評ある古典の中、平易な散文（叙事の文）をあたりまえに読めるようになることを目指します。

テキスト：

受講者と相談して決めます。

参考書：

Wright: Arabic grammar. Cambridge Univ. Press, 1962

授業の計画：

第1回はガイダンスで、参考文献、辞書の使い分けのやり方などを話します。

2回目以降はもっぱらテキスト読みに専念します。

なお、対象が古典ですから、単に文法的に調べるだけでは問題が解決しない場合が多々あります。そういう時に何を調べるかというようなことも考えてゆきたいと思います。

履修者へのコメント：

初等文法の諸規則や用語に慣れておくことが必要です。動詞変化の基本をマスターしていること。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回必ずあてますから、そのつもりで来て下さい。）

---

ベトナム語（初級）

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

---

授業科目の内容：

ベトナム語を基礎から学ぶ。発音、綴り字、初級文法、簡単な会話力の習得を目指す。

テキスト：

『ベトナム語入門』（慶應外国語学校）

参考書：

富田健次『ベトナム語 はじめの一歩まえ』（DHC, 2001年）

授業の計画：

初回のガイダンスで知らせる。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（時々小テストを行う。）

---

ベトナム語（中級）

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

---

授業科目の内容：

変更なし

初級ベトナム語を学び終えた人を対象に文献講読を行う。最初は簡単なものから始めるが、受講者のレベル・要望に応じて、雑誌・新聞などの記事などを読んでいくことにしたい。

テキスト：

初回到受講者と相談して決める。

参考書：

小高泰・Nguyen Thi Mai Hoa『会話で覚えるベトナム語 666』（東洋書店, 2005年）

履修者へのコメント：

ベトナム関係のウェブサイト上の、ベトナム語の辞典、テキスト、新聞の中から便利で有益なものを随時紹介してゆきたい。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

---

---

ベトナム語文献講読

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

---

授業科目の内容：

ベトナム語で書かれたベトナムの歴史や文化に関する文章を広く読んでゆく。

テキスト：

初回到受講者と相談して決める。

参考書：

富田健次『ベトナム語の世界：ベトナム語基本文典』（大学書林, 2000年）

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

---

ペルシア語（初級）

ペルシア語文法 言語文化研究所 講師 関 喜房

---

授業科目の内容：

現代ペルシア語文法を全くの初歩から講義します。教科書の文法が終わり次第、易しい文章を読むつもりです。その際、文法書には記されていない文法上の例外事項などについて詳しく説明するつもりです。

テキスト：

岡崎正孝著『基礎ペルシア語』（大学書林）

参考書：

黒柳恒男著『ペルシア語の話』大学書林

授業の計画：

講義計画は以下の通りです。

- 1- ガイダンス
- 2- 文字の習得
- 3- 教科書を用いた文法の学習（計16回）
- 4- 易しい現代文を読む練習（計7回）
- 5- テスト

履修者へのコメント：

教科書の練習問題を必ず予習すること。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
  - ・平常点：出席状況および授業態度による評価
- 

ペルシア語（中級）

ペルシア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

---

授業科目の内容：

ペルシア語の文の流れをつかみとれるように、平易なペルシア語散文をできるだけたくさん読みます。

テキスト：

受講する人と相談して決めます。

参考書：

Lambton: Persian grammar. Cambridge Univ. Press, 1974

授業の計画：

最初の日にテキストを相談して決めるなどガイダンスをやります。

2回目以後はひたすらテキストを読みます。

履修者へのコメント：

文法は理解しているものと考えてやります。だから動詞の変化など慣れておいて下さい。発音にはとくに気をつけて下さい。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回あてますから、毎回テストを受けているようなものだと思って来て下さい。）

---

タイ語 (初級)

言語文化研究所 教授 三上直光

授業科目の内容:

タイ語入門講座。発音、文字の読み書き、初級文法、基本表現の修得を目標とします。

テキスト:

開講時に指示します。

授業の計画:

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え、後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント:

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

授業中・授業後に受け付けます。

タイ語 (中級)

言語文化研究所 講師 ポンシー・ライト

授業科目の内容:

タイの小学校2年生の教科書より短編ストーリーを用いて、タイ語の運用能力向上を目指します。

テキスト:

プリント使用。

授業の計画:

前期は文章表現と読解力、後期は会話表現と聞き取りに重点を置きます。

履修者へのコメント:

あらかじめ単語の意味を調べてきて下さい

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

トルコ語 (初級)

トルコ語初級

言語文化研究所 講師 ヤマンルール、アイドウン

授業科目の内容:

トルコ共和国の現代トルコ語初級文法を講義します。基礎的な文法事項を学習しますが、簡単な講読も行います。

テキスト:

プリント使用

授業の計画:

- 第1 - 2回 トルコ語の特色、母音・子音の調和。
- 第3 - 7回 “～は～です”の構文、助詞(格)、副詞、形容詞
- 第8 - 13回 動詞(現在・単純過去・超越などの時制)
- 第14 - 17回 動詞(伝聞過去・未来などの時制と複合時制)
- 第18 - 21回 分詞
- 第22 - 24回 動名詞
- 第25 - 26回 条件文、仮定法など

以上は初級文法の主要な学習事項と予定です。授業の進行に応じて順番などが変わるので、一応の目安と考えてください。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

トルコ語 (中級)

トルコ語中級

言語文化研究所 講師 ヤマンルール、アイドウン

授業科目の内容:

初級文法を学んだ人を対象に講読を行います。文法事項の復習にも重点を置くつもりです。

テキスト:

プリント使用

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

朝鮮語文献購読

文学部 教授 野村伸一

授業科目の内容:

大韓民国という国家、社会の歴史と現状を知るためのテキストを講読します。

今日「韓流」というマスコミにより流布された一種の流行現象に興味を抱く人は多く、皆さんのなかにもそうした人はいるでしょう。そのこと自体はきっかけとしてはいいことです。しかし、それにまつわる言説だけをみても、決して内面的な理解には到達し得ないでしょう。

すべて、ものごとには、来歴と「いうにいわれぬこと」があるものです。朝鮮民族にとって、それはどういうものであったのか。それを知らない限り、日本と朝鮮半島は時流の往来をくり返すばかりではないでしょう。

テキスト:

韓洪九『大韓民国史 03』、ハンギョレ新聞社、2005年。各自、韓国書籍を扱う書店(例、三中堂、高麗書林)もしくはソウルの大型書店に注文して入手してください。

参考書:

- ・韓洪九著、高崎宗司監訳『韓洪九の韓国現代史 韓国とはどういう国か』、平凡社、2003年
- ・同『韓洪九の韓国現代史 2 負の歴史から何を学ぶのか』、平凡社、2005年
- \* 上記の翻訳書は韓洪九『大韓民国史 01』、『大韓民国史 02』に相当します。

<http://web.hc.keio.ac.jp/~shnomura/shohvou1.html> に書評を掲載しました。

授業の計画:

毎回、原文で4、5頁の講読をします。受講者は翻訳してきてください。

履修者へのコメント:

受講者は朝鮮語を読む準備ができていないことが前提となります。口頭での会話能力は必要ありません。ひとまず日本語にした上で、なお、それをよく吟味してみてください。なかなか日本語にならないところ、明らかに違つともおえる表現に出会うことがたいせつです。

この授業に関連することがらは随時、<http://web.hc.keio.ac.jp/~shnomura/kougi.html> に掲載します。

またインターネットハンギョレ <http://h21.hani.co.kr/> には『ハンギョレ 21』があり、ここに韓洪九氏の連載コラムがあります。上記の著書はこれを編集したものです。そこでは、現実に生起する諸問題が歴史的な視点で興味深く論じられています。三八六世代を含めた韓国の中堅世代の視点、意見が適確に反映されているものとして、理解する必要があります。

成績評価方法:

出席すること、翻訳結果を学期末に提出することで評価します。

---

カンボジア語 (初級)

言語文化研究所 教授 三上直光

---

授業科目の内容:

カンボジア語入門講座。発音, 文字の読み書き, 初級文法, 基本表現の習得を目標とします。

テキスト:

開講時に指示します。

授業の計画:

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え, 後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント:

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

授業中・授業後に受け付けます。

---

ヘブライ語 (初級)

言語文化研究所 講師 笈川博一

---

授業科目の内容:

旧約聖書ヘブライ語の初歩。まったくの初心者想定している。

テキスト:

テキストは比較的繰り返しの多い創世記を用いるが, プリントを授業で配布する。

参考書:

英語ないしドイツ語による辞書(¥2500~¥10000)が必要となるが, それについては授業で案内する。

授業の計画:

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ, 出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには, 辞書の助けを借りて散文をある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問, 相談があれば, [hirokazu@oikawa42.com](mailto:hirokazu@oikawa42.com) に連絡すること。

---

ヘブライ語 (中級)

言語文化研究所 講師 笈川博一

---

授業科目の内容:

旧約聖書サムエル記の講読。

テキスト:

テキストはプリントを授業で配布する。

参考書:

英語ないしドイツ語による辞書(¥2500~¥10000)が必要となるが, それについては授業で案内する。

授業の計画:

初級でプラクティカルに習得した文法を体系的に復習する。さらにヘブライ語の理解を深め, 散文は自由に読めるようにする。後期には詩文にも挑戦したい。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問, 相談があれば, [hirokazu@oikawa42.com](mailto:hirokazu@oikawa42.com) に連絡すること。

---

---

古代エジプト語 (初級)

言語文化研究所 講師 笈川博一

---

授業科目の内容:

文法体系が比較的よく分かっている後期エジプト語の初歩。まったくの初心者想定している。

テキスト:

テキストは「ヴェナモン」を用いるが, プリントを授業で配布する。

参考書:

5月ごろから辞書(約¥9000)が必要となるが, それについては授業で案内する。

授業の計画:

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ, 出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには, 後期エジプト語を辞書の助けを借りてある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問, 相談があれば, [hirokazu@oikawa42.com](mailto:hirokazu@oikawa42.com) に連絡すること。

---

古代エジプト語 (中級)

言語文化研究所 講師 笈川博一

---

授業科目の内容:

中期エジプト語の初歩。

テキスト:

テキストは「難破した水夫」であるが, プリントを授業で配布する。

参考書:

辞書は Raymond O. Faulkner "A Concise Dictionary of Middle Egyptian" Oxford (Amazon JP で ¥3542), あるいはその日本語訳が必要となる。

授業の計画:

初級でやった後期エジプト語と対比しつつ, より困難な中期エジプト語を学ぶ。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問, 相談があれば, [hirokazu@oikawa42.com](mailto:hirokazu@oikawa42.com) に連絡すること。

---

アッカド語 (初級)

言語文化研究所 講師 高井啓介

---

授業科目の内容:

アッカド語を学ぶ際の基礎となる古バビロニア方言 (Old Babylonian) の初級文法及び文字表記システムの修得を目的とします。下記に指定した教科書を使いますが, 足りないところは適宜プリントによって補っていく予定です。文法事項を学び進めながら, アッカド語が記されるときに使われた楔形文字のうち主要なものを覚えていきます。秋学期以降には, ハムラビ法典など著名な作品の雰囲気にも触れていきたいと考えています。

テキスト:

Richard Caplice, *Introduction to Akkadian* (Biblical Institute Press)

参考書:

開講時に指示します。

授業の計画:

以下のようなスケジュールを予定していますが, 授業の進み具合に応じて変更することもあります

---

前後期を通じて

1. ガイダンス
2. アッカド語及びその文字表記システムの概観
3. 音韻論
4. 名詞（計三回）    コンストラクト形を中心に
5. 動詞 G 語幹（計五回，語根の判別，変化，叙法など）とその派生形
6. 動詞 D 語幹とその派生形（計三回）
7. 動詞 S 語幹とその派生形（計三回）
8. 動詞 N 語幹とその派生形（計三回）
9. アッカド文学の概観
10. ハンムラビ法典，イシュタルの冥界下りなど    テキストを読みつつ文法事項を確認します（計五回）

履修者へのコメント：

古代メソポタミアの文化，歴史，宗教についても適宜紹介していくつもりです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

必要があれば lampbreaking@ybb.ne.jp まで連絡してください。

---

アッカド語   （中級）

言語文化研究所 講師 高井 啓介

---

授業科目の内容：

アッカド語の初級文法を一通り学んだ人を対象に文献講読を行います。文法事項を再度確認しながら，簡単なものからはじめていろいろなジャンルのテキストを読んでいくことにします。具体的なテキストは受講者と相談して選びます。

テキスト：

テキストはプリントを準備します。

授業の計画：

講義計画

読むテキストについては，初回に受講者と相談の上決定するつもりですが，以下のような内容のテキストを取り上げることになるでしょう。

前期：王碑文，書簡，法律文書，契約文書など（計十三回）

後期：神話・叙事詩，祈り文学，占い文書など（計十三回）

履修者へのコメント：

楔形文字を読み解いて行く面白さを味わっていただきたいです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

必要があれば lampbreaking@ybb.ne.jp まで連絡してください。

## メディア・コミュニケーション研究所の研究生諸君に

メディアコム研究所所長（法学部教授） 関根政美

メディア・コミュニケーション研究所（Institute for Media and Communications Research）は、昭和21年（1946年）に産声を上げた新聞研究室を母体とする歴史の長い研究所です。新聞研究室は、後に新聞研究所と名称を改め、平成8年（1996年）に50回目の誕生日を迎えました。まさに、研究所は日本の戦後とともに歩んできたこととなります。新聞研究所は、第二次世界大戦前と戦争中、新聞報道を中心とする日本のマスメディアが軍国主義に迎合した報道姿勢をとったことを憂いた連合国占領軍が、戦後の民主化に新聞を中心とする言論報道機関の果たす役割の大きさを考慮して、その役割の遂行に貢献しうる人材の育成とともに、マス・メディア研究を行いうる研究機関の設置を幾つかの日本の大学に求めました。選ばれた大学の一つが慶應義塾であり、後に法学部の学部長になった米山桂三教授に研究所の運営が任されることになったというのがその発端であると、伝えられております。

既述の通り、当初、新聞研究所は新聞研究室として出発しましたが、後に研究機能の重視を目的に研究所に名称を改めました。かつては、新聞を実際に発行して実習授業を盛んに行っていました（当時発行された新聞はマイクロフィルム化されていますので読もうと思えば読めます）、今日では実習的な側面よりは研究生（新聞研究所に入所した学生はこう呼ばれます）にはマス・メディアおよびマス・コミュニケーション研究の基礎的教育を行い、専任教員を中心として基礎的な研究に力を入れてきました。メディア業界からは、すぐに陳腐になりやすいテクニカルな知識や技術のみを身に付けた人間よりは、基礎的な知識や思考能力そして人間関係能力に裏打ちされ、しっかりとした考えと独創的な発想力をもつ人材が求められており、そうした要求に沿った教育と、各種メディア・コミュニケーション産業にとり有益な研究成果を提供することに新聞研究所は力を入れてきました。

しかし、時代は急速に変わりつつあります。戦後50年の情報通信技術の革新の動きは目覚ましく、新聞研究所がスタートした頃の報道機関といえば活字メディアが中核で、ラジオがそれに多少付け加わっているだけでした。その後、テレビ放送が本格化しメディアの中核は電気通信・放送へと移行して行きました。近年では地上波だけではなく、衛星放送・衛星通信、ケーブルテレビなど多面的かつグローバルにコミュニケーションが展開する時代になってきました。また、インターネットを中核とし、マルチメディアの展開が叫ばれ、コンピュータ・メディアの時代へと大きく変化し、新聞、ラジオ・テレビの融合現象も注目されるようになりました。と同時に、かつては一方的な伝達が中心であったものが、コンピュータ・メディアの発達により双方向的なものとなると同時に、その情報通信範囲もパーソナルなレベルからグローバルなレベルへと拡大化し、コミュニケーション能力の著しい発展と質的な変化は驚くべきものとなりました。また、多チャンネル時代を迎え、放送内容も多様なものになり、アイデアや創造力がメディア業界に働く人々に要求される度合いも格段に高くなりました。

こうなってくると、新聞研究所という名称はさすがに古めかしさを感じさせるようになったため、平成8年（1996年）には、研究所50年の記念式典を行い翌平成9年度より名称を変更いたしました。それが、メディア・コミュニケーション研究所出発の経緯です。新しいメディアの発展による新しいコミュニケーションの時代に合致した名称に変更したというわけです。もっとも、メディア・コミュニケーションの形態・技術は変化しても、報道ジャーナリズムの健全な発達のため、つまり、民主主義的で自由で公正なる報道を行うための前途有為な人材育成の目的はそのままです。そして、そのための少人数精鋭教育のためのカリキュラム変更も行いました。研究生には、報道ジャーナリズムやマス・コミュニケーション研究の基本を学び、新しいメディア（とくにコンピュータ・メディア）をある程度理解した上に自由に使いこなせるだけの能力も身に付けて欲しいと思っています。そのために、平成11年10月より、この方面のメディア・リテラシー向上を求めて、「メディア・ワークショップルーム（MWR）」を開設しました（本格的稼働は平成12年4月より）。インターネット放送もはじめました。今では大学生になるまでに、インターネットに十分習熟した学生も増え、より高度なメディア・リテラシーが期待できるので、インターネット放送やオンライン・新聞を盛んにしたいと思っています。

1996年秋に新聞研究所は記念式典を実施し、その際に新しい名称を与え新たなスタートを切りました。基本的な研究所の研究生教育とメディア・コミュニケーション研究は変わりませんが、新たな名称のもとに生まれ変わった研究所の次の50年の発展が大変期待されます。なお、現在のスタッフは所長、専任および兼任所員、事務職員総勢でも10名に満たない小さな研究所ですが、非常勤講師の諸先生のご協力を得て研究生150名（2～4年生）の教育を行っております。本年入所される研究生を含め現在の研究生は、新たな歴史を刻む当事者となります。研究所が大きな成果を生むために大いに頑張ってもらいたいと思います。

最後に、メディア・コミュニケーション研究所は、平成18年、つまり、今年ですが、改称して10年目の記念の年を迎えることになりました。名称を変えてあっという間に10年が経ちました。その間のインターネットの普及と展開はめざましく、在来メディアをインターネット会社が買収しようという騒ぎが日本でも発生するようになりました。今後もそうした激動の10年がくり返されると思います。規模は小さいけれど、綱町三田会（修了生の同窓会）というOB・OG組織の皆さんの協力を得て、さらなる発展をめざしたいと思います。

## カリキュラム

### 1. 設置科目について

研究所には、基礎科目、研究会、特殊研究、基礎演習の4つの講義群がある。

このうち、基礎科目は研究生以外（2年生以上）でも履修可能なオープン科目となっている。但し、2年生以上で、三田設置科目を含めて履修可能であるが、学部によっては履修できない場合もあるので、学部履修要項等で確認すること。また、学部での単位の取扱いは、学部履修要項を熟読すること。

- ・基礎科目（オープン科目）

メディア・コミュニケーション研究に必要な基礎的知識を提供する講義群。

- ・研究会（研究生のみ対象）

研究所における学習の中心となる科目で、2年生より履修できる。

- ・特殊研究（研究生のみ対象）

少人数の講義で、実務家を中心とした特殊講義と大学教員による特殊研究がある。

- ・基礎演習（研究生のみ対象）

メディア・コミュニケーション関連分野の調査方法の学習を目的とした講義群。

### 2. 研究生制度

研究所には研究生制度がある。研究生制度は、メディア・コミュニケーションの研究、あるいは将来マス・メディアへの就職を希望するものに総合的な教育を行い、同時に研究の場を与えるために設けられている。

例年12月中旬に行われる入所選考に合格し、研究生となることを許可された者は、修了までに合計28単位以上取得しなければならない。所定の単位を取得した研究生には修了証書が与えられる。各学部の授業科目で研究所が認めたものは修了単位に含めることができるが、それでも一般の塾生より余分な科目を履修しなければならず、それだけ余力のあることが入所の条件といえる。

(1) 入所説明会（入所申込書配布）11月中旬三田、日吉、藤沢の各キャンパスで行う。これについては掲示する。

(2) 入所試験（選考）12月中旬三田で行う。

### 3. 修了単位について

研究生が研究所の課程を修了するためには、以下の各群から所定の単位を合計28単位以上取得しなければならない。

・基礎科目	10 単位以上
・研究会	8 単位以上
・特殊研究	4 単位以上
・基礎演習	2 単位以上
合計	28 単位以上

2～4年春学期までに研究会 ～ を順番に履修し6単位以上取得する。4年秋学期には必ず研究会（論文指導）を履修すること。すなわち、研究会 ～ と研究会 は全員が履修するが、研究会 と は必修ではない。

3～4年では原則として同一研究会を履修すること。

平成 18 年度慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所科目一覧

\* 基礎科目（オープン科目）研究生以外も履修可能

設置場所	科目名	単位数	講師
三田設置科目	マス・コミュニケーション論 ・（法学部併設）	春 2 / 秋 2	大石 裕
三田設置科目	マス・コミュニケーション発達史 ・（法学部併設）	春 2 / 秋 2	鈴木 雄雅
三田設置科目	国際コミュニケーション論 ・（法学部併設）	春 2 / 秋 2	伊藤 英一
三田設置科目	メディア社会論（法学部併設）	秋 2	藤田 真文
三田設置科目	メディア法制 ・	春 2 / 秋 2	佐々木秀智
三田設置科目	ジャーナリズム論 ・	春 2 / 秋 2	伊藤 高史
三田設置科目	世論 ・	春 2 / 秋 2	小川 恒夫
三田設置科目	情報行動論	春 2	川浦 康至
三田設置科目	異文化間コミュニケーション	秋 2	浅井亜紀子
三田設置科目	メディア文化論 ・	春 2 / 秋 2	岩渕 功一
三田設置科目	メディア産業と政策	春 2	菅谷 実
三田設置科目	メディア産業と政策	秋 2	宿南達志郎
三田設置科目	情報産業論 ・	春 2 / 秋 2	宿南達志郎
三田設置科目	ジャーナリズム総合講座 ・	春 2 / 秋 2	荒田・萩原・伊藤高
日吉設置科目	マス・コミュニケーション論（法学部併設）	春 2	川端 美樹
日吉設置科目	社会心理学 ・（法学部併設）	春 2 / 秋 2	萩原 滋

\* 研究会（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	萩原 滋
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	菅谷 実
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	宿南達志郎
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	金山 智子
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	小川 葉子
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	伊藤 陽一
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	大石 裕
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	金 正勲

\* 特殊研究（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	放送特殊講義 ・	春 2 / 秋 2	安倍 宏行
三田設置科目	新聞特殊講義 ・	春 2 / 秋 2	木村 良一
三田設置科目	広告特殊講義 ・	春 2 / 秋 2	吉田 望
三田設置科目	メディア特殊講義	秋 2	工藤 卓男
三田設置科目	メディア特殊講義	秋 2	鳶 信彦
三田設置科目	特殊研究 ・（日本の近代化とマス・メディア）	春 2 / 秋 2	小川 浩一
三田設置科目	特殊研究 ・（市民とメディア）	春 2 / 秋 2	金山 智子
三田設置科目	メディア産業実習 ・	春 2 / 秋 2	宿南・金山・菅谷・小川

\* 基礎演習（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	時事英語 ・	春 2 / 秋 2	高須賀茂文
三田設置科目	文章作法 ・	春 2 / 秋 2	升野 龍男
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習 ・	春 2 / 秋 2	金山 智子
三田設置科目	映像コンテンツ制作 ・	春 2 / 秋 2	金山 勉
三田設置科目	メディア・ネットワーク実習 ・	春 2 / 秋 2	田辺 浩介
日吉設置科目	電子ネットワーク調査法	秋 2	菅谷 実
日吉設置科目	時事英語 ・	春 2 / 秋 2	蓮実 潔
日吉設置科目	文章作法 ・	春 2 / 秋 2	浜村 寿紀

## 【基礎科目】

マス・コミュニケーション論 (春)

マス・コミュニケーションと政治 大石 裕

### 授業科目の内容:

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

### テキスト:

- ・大石裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会
- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

### 参考書:

- ・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
- ・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房

### 授業の計画:

- 1回 コミュニケーションの類型
- 2-3回 大衆社会モデル:弾丸効果モデル
- 4-5回 限定効果モデル
- 6-7回 強力効果モデル
- 8-9回 強力影響・機能モデル
- 10回 批判モデル
- 11-12回 ジャーナリズム論再考

### 履修者へのコメント:

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接していることが望ましい。

### 成績評価方法:

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
- ・レポートによる評価

マス・コミュニケーション論 (秋)

ジャーナリズムとメディア言説 大石 裕

### 授業科目の内容:

ジャーナリズムに関する理論的考察(ニュース論や客観報道論など)、言説分析によるニュース分析、メディア・イベントとメディア言説、に関して講義する。

### テキスト:

大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』(勁草書房)

### 参考書:

- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣
- ・鶴木真編『客観報道』成文堂
- ・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房

### 授業の計画:

- 1-2回 マス・コミュニケーション論の中のジャーナリズム論
- 3回 アジェンダ設定メディアとしての新聞
- 4回 日本のジャーナリズム論の理論的課題
- 5-6回 ニュース分析の視点
- 7-8回 客観報道論再考
- 9-10回 集合的記憶とマス・メディア
- 11-12回 メディア・イベントの政治学

### 履修者へのコメント:

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接することが望ましい。

### 成績評価方法:

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
- ・レポートによる評価

マス・コミュニケーション発達史 (春)

日本の近代化とジャーナリズム 鈴木 雄 雅

### 授業科目の内容:

ジャーナリズムの発展について概説する。文字の誕生から紙、印刷などの複製技術の出現、通信、交通手段の発展が、ジャーナリズムの形式を規定していく状況を眺める。さらに幕末日本に新聞、雑誌が出現してから近代新聞が成長し、その過程でジャーナリズムの機能がどのように近代日本の社会発展と関わりあってきたかを考察する。授業スケジュール・参考文献類については、最初の講義時に発表。

### 授業サイト URL

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/keio/guide06.html>

### テキスト:

春原昭彦『日本新聞通史[四訂]』(新泉社, 2003)

### 参考書:

宮地正人『国際政治下の近代日本』(山川出版社)ほか。講義時に紹介する

### 授業の計画:

1. 幕末期から明治初期:瓦版,新聞紙,近代化とメディア,開港場に新聞,英字紙の発達,幕末新聞の特色
2. 慶応4年(明治元年)の新聞紙,日刊紙の登場:明治のコミュニケーション革命
3. 明治初期の新聞界:奨励策と新聞弾圧,小新聞の登場,自由民権運動の勃興と言論機関
4. 明治14年の政変と新聞の政党化:民権派新聞と新聞の脱政党化
5. 明治の新聞人:日清戦争,日露戦争と新聞界
6. 資本主義の成立と商業新聞の成立(新聞の企業化)
7. 政治的キャンペーンとマス・メディアの成立:ラジオの出現と出版・雑誌界の動き
8. 戦時統制への過程,軍の干渉と新聞人の抵抗,製紙会社,通信社の統合
9. 情報局の成立,統制法規の制定,新聞社の統合,戦時下の新聞
10. 敗戦と占領下の新聞,独立回復と復興への歩み
11. 戦後の新聞界の新しい動き(言論性,販売,広告界の変化,技術革新とその対応)
12. テレビ,週刊誌の出現によるメディアの多様化
13. 現代の変化とジャーナリズムの役割

### 履修者へのコメント:

日本の近代史についてある程度の知識が必要(高校程度の日本史,世界史)

### 成績評価方法:

学期末試験・出席状況・授業態度などの総合質問・相談:

授業中ならびに授業後,Eメール

マス・コミュニケーション発達史 (秋)

イギリスのジャーナリズム 鈴木 雄 雅

### 授業科目の内容:

ジャーナリズム揺籃の地といわれるヨーロッパ地域のマス・メディアについて学ぶ。外国のマス・メディアを学ぶ基礎的知識・オリエンテーションののち、イギリス・ジャーナリズムの歴史、現状、問題点を探る。

適時、ヨーロッパのマス・メディア、ジャーナリズムの問題をとりあげるが、国際的なマス・メディア産業の動態分析やジャーナリズム研究にとどまらず、その形成過程に多大な影響を及ぼす政治体制や社会構造の変化にも注目する。さらに、常に日本の状況と比較しながら、現代ヨーロッパのマス・メディアの構造と機能を研究する。授業スケジュール・参考文献類については、最初の講義時に発表。

### 授業サイト URL

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/keio/guide06.html>

### テキスト:

とくに指定しない。適時指示する。

参考書：

Euromedia Research Group, The Media in Europe: The Euromedia Handbook London: Sage,2004.

授業の計画：

以下の項目について、2 回程度の講義を行う予定。

1. オリエンテーション ヨーロッパのマス・メディア
2. イギリスのジャーナリズム (1) ジャーナリズムの発生  
日刊紙出現までの英国新聞界の発達過程を概観し、「言論の自由」の概念を考える。
3. イギリスのジャーナリズム (2) ジャーナリズムの近代化  
大衆紙の登場とジャーナリズムの変容
4. イギリスのジャーナリズム (3) 20 世紀のメディア・パロンの登場
5. イギリスのジャーナリズム (4) 戦後のイギリス・ジャーナリズム界  
放送の出現とジャーナリズムの衰退
6. イギリスのジャーナリズム (5) 現代ジャーナリズムの抱える諸問題  
1980 年代以降のジャーナリズムの変化

履修者へのコメント：

英国通史ほか英国社会・文化史の基礎知識が必要です。

成績評価方法：

学期末試験・出席状況・授業態度などの総合評価

質問・相談：

授業中ならびに授業後、E メール

国際コミュニケーション論 (春)

グローバル化とコミュニケーション

伊藤英一

授業科目の内容：

自分自身との対話、友達や家族との会話、といったコミュニケーションでも、もどかしく感じることはありませんか？ コミュニケーションの重要性を切実に感じているにしても、円滑なコミュニケーションは至難の業です。ましてや、「文化や言語の異なる人々とのコミュニケーションなんて」と、一歩後退したくなるかも知れません。

しかし、山頂から見晴らす眺望が麓からの見た風景とは違うように、視点をかえてこそ理解できることもあるのではないのでしょうか。

この講義では、あたかも、『星』になった諸君が、丸い地球を見下ろしながら、その地球を巡るコミュニケーションを考察できるような場を提供します。

テキスト：

適宜、案内します。

参考書：

- ・福澤諭吉；『西洋事情』（慶應義塾大学出版会）
- ・伊藤英一；『マルチメディアの新世紀』（丸善）
- ・Daya Kishan Thussu; “International Communication” (Arinold)

授業の計画：

1. 地球と世界地図
2. 国際コミュニケーション論の理論的傾向
3. グローバル化とメディア/コミュニケーション
4. フランス革命と情報インフラ
5. カナダのバランス感覚と国際コミュニケーション
6. 映画が創造するコミュニケーション カンヌ映画祭
7. 海を越えるコミュニケーション
8. 国境を越える共通語・感覚の共振
9. ファッションの世界とコミュニケーション
10. 広告・広報活動と国際コミュニケーション
11. CNN と情報 TV の歴史
12. Al Jazeera アラブの声を聴く
13. 成功するプレゼンテーションとは？

履修者へのコメント：

コミュニケーションとは、“『共(友)』になる” ことです。年代を越えて、良きコミュニン(コミュニティ)の仲間になって下さい。

成績評価方法：

受講して下さる皆さんと、相談して決めたいと思います。

質問・相談：

講義中は、タイミングの如何にかかわらず、積極的な質問や意見を歓迎します。

また、講義時間外においては、メール等により、適宜、質問や相談を寄せて下さい。

国際コミュニケーション論 (秋)

異文化を繋ぐコミュニケーション

伊藤英一

授業科目の内容：

21 世紀はグローバル化、情報化の時代であるとも言われます。同時に、文化や社会の枠を越えた地球規模のコミュニケーションの重要性も指摘されています。

しかし、メディアの高度化・迅速化が、必ずしもコミュニケーションの精度や密度を高める方向に働いているとも言い切れません。

国際コミュニケーションの様々な問題をケース・スタディの題材として取り上げながら、枠に捉われないコミュニケーションの素晴らしさを、諸君と共に、探ってみます。

テキスト：

適宜、案内します。

参考書：

Fred E. Jandt; “An Introduction to Intercultural Communication” (Sage)

授業の計画：

1. コミュニケーションと国際的な価値
2. 異文化コミュニケーション論の潮流
3. 言語力とメディア・コミュニケーション
4. 劇場型のコミュニケーション効果と環境要件
5. 多様な文化とコミュニケーション
6. グローバル化の中のローカル・コミュニケーションと生命線
7. 文化と認識
8. 非言語的コミュニケーション
9. 言語の壁を克服する
10. 異文化の出会い
11. 姿、形のコミュニケーション 外見の重要性
12. 国際コミュニケーションを俯瞰する
13. 異文化コミュニケーションのプロになる

履修者へのコメント：

コミュニケーションとは、“『共(友)』になる” ことです。年代を越えて、良きコミュニン(コミュニティ)の仲間になって下さい。

成績評価方法：

受講して下さる皆さんと、相談して決めたいと思います。

質問・相談：

講義中は、タイミングの如何にかかわらず、積極的な質問や意見を歓迎します。

また、講義時間外においては、メール等により、適宜、質問を寄せて下さい。

メディア社会論 (秋)

メディア・コンテンツへの物語論的接近 藤田真文

授業科目の内容：

この授業では、物語論という方法を中心にメディア・コンテンツを分析していきます。授業の約 3 分の 2 は、『ギフト』(1997 年放送)というテレビドラマを分析対象にして、物語構造、映像表現、メディア特性、社会的コード、視聴者による読解など多様な観点からテレビ・テキストの分析を試みます。残りの約 3 分の 1 は、ニュースや CM など他のコンテンツに物語分析を応用していきます。

各回の前半に分析方法を解説し、後半にはドラマの映像を見ながら分析を実践していきます。

テキスト：

藤田真文『ギフト、再配達』せりか書房(近刊)

補助的に毎回授業中にプリントを配布します(原則として再配布はしません)

授業の計画：

1. テレビ・テキストの進行 統辞構造 [ 構造主義・物語論・記号論 ]
2. テレビ・テキストの時間 ストーリーとプロット [ 物語論・文学理論 ]
3. テレビ・テキストの人物関係 範疇構造 [ 構造主義・物語論・記号論 ]
4. テレビ・テキストの映像表現 [ 映像論・映像記号論 ]
5. テレビ・テキストにおける語りと視点 [ 映像論・文学理論 ]
6. テレビ・テキストのメディア特性と相互テキスト性 [ メディア論・構造主義 ]
7. テレビ・テキストと社会的コード ジェンダー/階級 フェミニズム論・社会学・記号論 ]
8. テレビ・テキストにおける登場人物と役者 [ 精神分析・身体論・映像論・演劇論 ]
9. テレビ・テキストと視聴者読解 意味をめぐる相互作用・闘争 [ 読者論・カルチュラル・スタディーズ ]
10. テキストの責任/視聴者の責任 『ギフト事件』をめぐる [ 作家論/読者論・メディア倫理 ]
11. 他のテキストへの応用 物語としてのニュース
12. 他のテキストへの応用 物語としての CM
13. まとめ

履修者へのコメント：

テレビドラマは比較的近いものがある分析対象ですが、この授業によって常識的なテレビドラマ観を超えてメディア・コンテンツについての新たな視点を提供できればと思っています。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価（定期試験期間中に実施。評価の50%）
- ・レポートによる評価（授業の中間で課題を与える。評価の50%）

メディア法制（春）

表現・メディアの自由と民主主義の法理論 佐々木 秀 智

授業科目の内容：

この講義は、メディア（マス・メディアとパーソナル・メディア双方を含む）に関する法の基本構造を概観し、その前提となる憲法上の原理、特に表現・メディアの自由、民主主義の観点からいかに位置づけられるかを考えていきたい。なお、法律学の履修を前提としない。

テキスト：

林紘一郎『情報メディア法』（東大出版会・2005年）

参考書：

松井茂記『マス・メディア法入門（第3版）』（日本評論社・2003年）

授業の計画：

- (1) イントロダクション（1回）
- (2) メディアに関する法の基本構造（3回）
- (3) 表現の自由の諸法理（3回）
- (4) 表現の自由の限界（名誉毀損、プライバシー侵害、著作権侵害など）（3回）
- (5) 民主主義とメディア（情報公開、アクセス権など）（計3回）

履修者へのコメント：

メディア・コミュニケーション研究所の研究生に限らず、テーマに関心のある学生の受講を歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

hsasaki@kisc.meiji.ac.jp まで、授業終了後も可

メディア法制（秋）

IT社会における表現・メディアの自由 佐々木 秀 智

授業科目の内容：

この講義は、ITの発達によって、これまでのメディアに関する法構造がいかなる影響をうけたのかを概観し、またIT社会への移行に伴

う法制度の変化における基本的視点をふまえたうえで、特に表現・メディアの自由がIT社会においていかに位置づけられるべきかを考えていきたい。なお、履修するためには、事前に履修することが望ましい。

テキスト：

林紘一郎『情報メディア法』（東大出版会・2005年）

参考書：

松井茂記『マス・メディア法入門（第3版）』（日本評論社・2003年）

授業の計画：

- (1) IT基本法及びその他の新規立法・法改正動向（2回）
- (2) コンテンツ規制のあり方（3回）
- (3) コンデュイト規制のあり方（3回）
- (4) パーソナルメディアに関する法的問題（1回）
- (5) ケーススタディ（プロバイダ責任法、個人情報保護法など）（3回）
- (6) 解釈論と立法論（1回）

履修者へのコメント：

メディア・コミュニケーション研究所の研究生に限らず、テーマに関心のある学生の受講を歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

hsasaki@kisc.meiji.ac.jp まで、授業終了後も可

ジャーナリズム論（春）

ジャーナリズムと「表現の自由」 伊藤 高 史

授業科目の内容：

ジャーナリズムが抱えている問題点や課題を、「表現の自由」との関連で解説する。ジャーナリズムについて、一般にどのような問題点が指摘されているのかを整理し、「表現の自由」は今日、どのような状況に置かれているのかを理解させることが目的である。

テキスト：

伊藤高史著『表現の自由の社会学』（八千代出版、近刊）

参考書：

授業中に指示する

授業の計画：

ガイダンス

- 「表現の自由」概論とジャーナリズムの定義、存在意義など（日本国憲法における「表現の自由」の位置づけなど）（3回）
- ジャーナリズムと人権を巡る問題（メディアによる人権侵害、差別表現など）（3回）
- ジャーナリズムの組織に関わる問題（記者クラブ、メディアの経営問題など）（3回）
- 「表現の自由」に関わる法律上の動き（司法判断の流れなど）（3回）

履修者へのコメント：

教科書はもちろんのこと、指定した参考書など、本をよく読んで授業にのぞむこと

成績評価方法：

試験の結果による評価（原則として、試験のみで成績をつける。教科書の持込は可の予定）

質問・相談：

随時受け付けます

ジャーナリズム論（秋）

ジャーナリズム研究と社会学理論 伊藤 高 史

授業科目の内容：

ジャーナリズム論の内容を踏まえて、ジャーナリズムを社会学理論との関連で考える。具体的にどのような報道活動が社会を動かし、そのような報道活動がいかにして生み出されたのかを、実証的かつ理論的に考える力を養成するのが目的。

テキスト：

伊藤高史著『表現の自由の社会学』（八千代出版、近刊）

参考書：

授業中に指示する

授業の計画：

ガイダンス

権力理論とジャーナリズム（2回）

情報操作とジャーナリズム（2回）

ブルデューの社会理論とジャーナリズム（2回）

アジェンダ構築モデルとジャーナリズム（3回）

「表現の自由」とジャーナリズム（3回）

履修者へのコメント：

教科書はもちろんのこと、指定した参考書など、本をよく読んで授業にのぞむこと。

成績評価方法：

試験の結果による評価（原則として、試験のみで成績をつける。教科書の持込は可の予定）

質問・相談：

随時受け付けます

---

世論（春）

世論の機能と形成メカニズム

小川恒夫

---

授業科目の内容：

現在民主主義社会において世論に期待される役割と阻害要因を考察しながら、マスコミ報道によって世論がどのように操作的に形成される可能性があるかをマスコミ効果論の立場から理論的に把握できるようにします。

テキスト：

小川浩一編著『マス・コミュニケーションへの接近』八千代出版/2005年/2,700円

参考書：

使用しません/随時授業内で資料を提示します。

授業の計画：

(1) ガイダンス

(2) 理想的世論と現実的世論

(3) 歴史的イベントにおいて世論の果たした役割を概観する

(4) 世論形成の垂直的影響（マスコミ）と水平的影響（口こみ）

(5) 受け手は主体的に世論を形成するという見方

(6) 受け手は常に操作的に世論を形成するという見方

(7) 受け手は主体的にも操作的にも世論を形成するという見方

(8) 受け手の置かれた社会状況と世論形成

(9) 広告論からみた世論形成

(10) 学習・教育論からみた世論形成

(11) 情報処理過程モデルからみた世論形成

(12) マスメディアの社会的責任と世論

(13) 全体のまとめと残された課題

履修者へのコメント：

特に、政治学の視点からマスメディアの機能について関心がある学生の履修を希望します。授業には「教科書」を持参してください。

成績評価方法：

学期末試験の結果による評価。

質問・相談：

授業終了後に受け付けます。

---

世論（秋）

世論形成の現状と対策を具体的事例から考える

小川恒夫

---

授業科目の内容：

20世紀後半から近年に至る具体的事例から、どのような性格の争点があるか、誰によって、どのような統制メカニズムが利用されてマスメディアが操作され、なぜ多くの有権者がそれを信じて世論を形成し、どのような社会的問題が発生し、それに対する対策の可能性を、順次一連の課題として見ていきます。この作業を通じて、理想的世論と現実的世論との間の距離を考えます。

テキスト：

使用しません。

参考書：

小川浩一編著『マス・コミュニケーションへの接近』八千代出版/2005年/2,700円

授業の計画：

(14) ガイダンス

(15) 戦争報道と世論

(16) 犯罪報道と世論

(17) 科学報道と世論

(18) 経済報道と世論

(19) 海外報道と世論

(20) 民族間報道と世論

(21) 政治報道と世論

(22) 法的規制の危険性と可能性

(23) ジャーナリスト教育とメディアリテラシー教育の可能性

(24) オンブズマン制度の可能性

(25) 残された課題

(26) 全体のまとめ（質問受付）

履修者へのコメント：

特に、政治学の視点からマスメディアの機能について関心がある学生の履修を希望します。

成績評価方法：

学期末試験の結果による評価

質問・相談：

授業終了後に受け付けます。

---

情報行動論（春）

ケータイの社会心理学

川浦康至

---

授業科目の内容：

携帯電話に限定して、パーソナルメディアと対人コミュニケーションのかかわりを考える。

テキスト：

特になし

参考書：

授業中、随時紹介する。

授業の計画：

1. ガイダンス：授業の進め方など

2. ケータイの歴史

3. メールと通話

4. メールアドレス

5. メール文体

6. 対人過程とケータイ

7. 対人関係とケータイ

8. モノとしてのケータイ

9. ケータイのある生活

10. ネットとケータイ

11. ケータイと社会摩擦

12. ケータイライフの今後

13. まとめ

履修者へのコメント：

授業は受講者自身の経験から体験談をまじえながら進めるので、積極的な参加を期待する。授業が自らのケータイライフを相対化する機会になればうれしい。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（毎回、課題を出すので、その提出状況による）

質問・相談：

講義前後、およびメールでも受け付けます。

異文化間コミュニケーション (秋)

異文化接触における心理メカニズム 浅井 亜紀子

授業科目の内容:

異文化との出会いにより、個人は異なる文化的様式(価値観や行動パターン)に接し、それを取り込んだり抵抗しながら自分を新しく作っていく。本授業では、異なる文化における様々なコミュニケーションスタイルの違いに目を向け、そのような異文化に接した時に、どのように心理や行動が変化していくか、異文化接触の具体事例を通して学ぶ。

テキスト:

プリント配布

参考書:

- ・宮原哲「コミュニケーション入門」松拍社
- ・箕浦康子「子どもの異文化体験」思索社

授業の計画:

- (1) 授業内容説明,異文化間コミュニケーションの背景,文化の定義
- (2) コミュニケーションの定義
- (3) 認知と文化
- (4) イメージとステレオタイプ
- (5) ステレオタイプの間人間関係への影響
- (6) 言語コミュニケーション:自己開示への文化的影響
- (7) 言語コミュニケーション:自己開示動機をめぐる要因
- (8) 非言語コミュニケーション(表情,空間利用,身体接触)
- (9) 異文化適応シミュレーション: Banga, 認知・行動・情動
- (10) 異文化ストラテジー: 映画を素材として
- (11) 子どもの異文化体験
- (12) 青年の異文化体験
- (13) 全体のまとめ

履修者へのコメント:

海外経験に関心のある学生,異文化における人間関係に関心のある学生を歓迎します。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点:出席状況および授業態度

質問・相談:

講義前後の教室・教員室で質問・相談を受け付けます。メールでも可。

メディア文化論 (春)

岩 淵 功 一

授業科目の内容:

多文化状況が深まる現代社会における,メディア文化の諸問題を検討して,より開かれた社会の構築に向けたメディア文化の役割と可能性を模索する。

テキスト:

詳細は授業時に指示する。

「沖縄に立ちすくむ」(岩淵・多田・田仲編著,せりか書房 2004年)

参考書:

授業時に指示する

授業の計画:

前期はメディア・文化研究の基本的概念・理論・方法論を学ぶ。「沖縄」に関するメディアテキストの具体的事例から文化と社会における不均衡な力関係について考察する。

- ・イントロダクション(1回)
- ・メディアの表象・生産・消費(6回)
- ・「沖縄」ケーススタディー(4回)
- ・グループプレゼンテーション(1回)
- ・まとめ(1回)

履修者へのコメント:

講義だけでなく,プレゼンテーションや討論を含めた双方向な授業を目指すので積極的な参加を期待する。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価

- ・平常点:出席状況および授業態度による評価
- ・プレゼンテーション・グループプロジェクト

メディア文化論 (秋)

岩 淵 功 一

授業科目の内容:

グローバル化が深まる現代社会における,メディアと文化の諸問題を検討して,より開かれた社会の構築に向けたメディア文化の役割と可能性を模索する。

テキスト:

詳細は授業時に指示する。

「トランスナショナル・ジャパン」(岩淵功一,岩波書店 2001年)

参考書:

授業時に指示する

授業の計画:

後期はグローバル化の中で促進されている資本・情報/イメージ,人間の国境を越えた流れと移動が,どのような新たなつながりと不均衡をもたらしているのかを考察する。

- ・イントロダクション(1回)
- ・文化のグローバル化とローカル化(3回)
- ・メディア・移民・トランス/ナショナルなつながり(3回)
- ・東アジアの越境メディア文化(4回)
- ・グループプレゼンテーション(1回)
- ・まとめ(1回)

履修者へのコメント:

講義だけでなく,プレゼンテーションや討論を含めた双方向な授業を目指すので積極的な参加を期待する。メディア文化論を履習していることが望ましい。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価
- ・プレゼンテーション・グループプロジェクト

メディア産業と政策 (春)

メディア政策基礎理論と映像産業政策 菅 谷 実

授業科目の内容:

前半はメディア産業の市場と組織および政策を理解するために必要な基礎理論,後半は映画を中心とした映像コンテンツ産業の構造と政策を取り上げます。

テキスト:

菅谷実・中村清編『映像コンテンツ産業論』(丸善,2002年)

授業の計画:

本年は以下の予定で講義を進めます。

オリエンテーション(1)

- 基礎理論(5)
  - 1 メディア政策
  - 2 政府規制
  - 3 メディア市場
- 映像コンテンツ産業(6)
  - 4 映像コンテンツと映画
  - 5 映画産業の発展
  - 6 映像振興政策(欧州,米国,日本)
- まとめ(1)
  - 7 メディア融合とコンテンツ

履修者へのコメント:

コンテンツ産業,映画産業に興味ある学生の履修を歓迎します

成績評価方法:

基礎理論部分の小テストと期末試験で評価する。

質問・相談:

毎回講義終了時に質問,相談を受け付けます

## 授業科目の内容:

メディア産業に関する政策の動向と今後の課題について日米の比較を行いながら学習していく。

## テキスト:

特に指定しない

## 参考書:

- ・宿南達志郎『情報メディア政策』NTT 出版, 2006 年
- ・鈴木健二『地方テレビ局は生き残れるか』日本評論社, 2004 年
- ・谷脇泰彦『融合するネットワーク』かんき出版, 2005 年

## 授業の計画:

- (1) オリエンテーション
- (2) 放送メディア政策 (4 回)
  - マスメディア集中排除原則
  - 番組の質と報道の信頼性
  - NHK のあり方
  - 放送のデジタル化
- (3) 通信メディア政策 (3 回)
  - ユニバーサルサービスと競争政策
  - 周波数政策
  - 放送と通信の融合
- (4) コンテンツ政策 (2 回)
  - 著作権保護政策
  - 作り手の育成と国際競争力強化
- (5) 情報メディア政策 (2 回)
  - デジタル・デバイドの解消
  - インターネット・ガバナンス
- (6) まとめ

## 履修者へのコメント:

情報メディア産業に関心のある学生の履修を歓迎します。

## 成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

## 授業科目の内容:

メディア産業について、産業構造、経営戦略、利便性などの観点から、歴史的経緯や今後の課題などについて概要を学びます。ビデオなどを活用して理解しやすく講義します。

## テキスト:

特に指定しない

## 参考書:

- ・宿南達志郎など著『メディア産業論』有斐閣, 2006 年
- ・電通総研編『情報メディア白書 2005』ダイヤモンド社, 2005 年
- ・総務省編『情報通信白書 平成 17 年版』ぎょうせい, 2005 年

## 授業の計画:

- (1) オリエンテーション
- (2) メディア産業の歴史 (2 回)
- (3) 各産業分野の現状と将来
  - コンピュータ業界 (2 回)
  - 通信業界 (2 回)
  - 放送業界 (2 回)
  - 新聞業界 (1 回)
  - 出版業界 (1 回)
  - 音楽業界 (1 回)
- (4) まとめ

## 履修者へのコメント:

情報メディア産業に関する関心がある学生の履修を歓迎します。

## 成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

## 授業科目の内容:

インターネット・ビジネスについて、その特徴や伝統的ビジネスへの影響などを学びます。また、携帯やデジタル放送などを活用した新しいビジネスモデルの可能性についても学びます。

## テキスト:

特に指定しない

## 参考書:

- ・(財)インターネット協会編著『インターネット白書 2005』インプレス社, 2005 年
- ・加藤秀雄『ネットワーク経営情報システム インターネット・ビジネスモデル』共立出版, 2004 年
- ・宿南達志郎『e エコノミー入門』PHP 研究所, 2000 年

## 授業の計画:

- (1) オリエンテーション
- (2) インターネット・ビジネスの理論的背景 (2 回)
- (3) インターネットによるビジネスモデルの革新 (5 回)
  - 金融業
  - 流通業
  - 製造業
  - 旅行業
  - エンターテインメント産業
- (4) インターネットビジネスの事例研究 (5 回)
  - 楽天
  - アスクル
  - インデックス
  - Amazon
  - Yahoo
- (5) まとめ

## 履修者へのコメント:

インターネット・ビジネスに関心がある学生の履修を歓迎します。

## 成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

## 授業科目の内容:

本講座は、朝日新聞社の記者やフリーのジャーナリストなど、ジャーナリズムの活動に日々携わっていらっしゃる方々をお招きし、ジャーナリズムと新聞産業に関わる諸問題、およびその時々政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

## テキスト:

なし

## 参考書:

授業中に指定する。

## 授業の計画:

朝日新聞の記者の方など、外部の方々をお招きし、約 1 時間程度講義していただき、その後質疑応答を行う。講師やテーマなど授業計画の詳細は、第 1 回目の授業の際に発表する。なお、平成 18 年度の授業日程は、メディア・コミュニケーション研究所のウェブサイトを参照されたい。

## 履修者へのコメント:

出席者は、よく新聞を読み、積極的に質問することのほか、頻繁にレポート等の課題が課されていることを覚悟すること。また当然であるが、外部から招いた講師に講義をしていただくため、私語や遅刻など、講師の方々に対して失礼な行為は一切認めない。ただ出席していれば単位が認められるということではない。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

ジャーナリズム総合講座（秋）	荒田茂夫
朝日新聞社寄附講座	萩原滋
	伊藤高史

授業科目の内容：

本講座は、朝日新聞社の記者やフリーのジャーナリストなど、ジャーナリズムの活動に日々携わっていらっしゃる方々をお招きし、ジャーナリズムと新聞産業に関わる諸問題、およびその時々の政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

テキスト：

なし

参考書：

授業中に指定する。

授業の計画：

朝日新聞の記者の方など、外部の方々をお招きし、約1時間程度講義していただき、その後質疑応答を行う。講師やテーマなど授業計画の詳細は、第1回目の授業の際に発表する。なお、平成18年度の授業日程は、メディア・コミュニケーション研究所のウェブサイトを参照されたい。

履修者へのコメント：

出席者は、よく新聞を読み、積極的に質問することのほか、頻繁にレポート等の課題が課されていることを覚悟すること。また当然であるが、外部から招いた講師に講義をしていただくため、私語や遅刻など、講師の方々に対して失礼な行為は一切認めない。ただ出席していれば単位が認められるということではない。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

マス・コミュニケーション論（日吉）	
マス・コミュニケーションと社会	川端美樹

授業科目の内容：

現在われわれの日常生活に深く関わっているマスメディアがどのようにして誕生し、発達してきたのか。また、社会にどのような影響を与え、その中でどのように機能してきたのか。さらに、マス・コミュニケーションは人間の社会的行動や心理にどのような影響を与えているのか。

本講義の目的は、以上のようなトピックについて学び、理解した上で現在の自分を取り巻く現状を見直し、マス・コミュニケーションをめぐる状況について客観的・批判的に考え、分析することである。

テキスト：

大石裕『コミュニケーション研究（第2版）』慶應義塾大学出版会、2006年

参考書：

授業時に必要に応じて指示する。

授業の計画：

以下のような内容で授業を進めていく予定である。

1. マス・コミュニケーションの基礎的諸概念
2. マス・コミュニケーションの発達と社会
3. マス・コミュニケーションとその影響

履修者へのコメント：

講義で取り上げる内容について興味を持ち、批判的に考える意欲のある学生の受講を期待する。

成績評価方法：

期末試験の結果を総合点の70%とし、授業中の提出物や参加度に対する評価を30%として、全体の成績評価とする。

社会心理学（日吉）	
社会的認知と対人行動	萩原滋

授業科目の内容：

春学期は、自分たちの社会的環境をいかにして把握するかという問題を取り上げる。すなわち「社会的認知」と呼ばれる研究領域を中心に、均衡理論、認知的不協和理論、帰属理論など社会心理学の代表的な理論枠組について概説し、それに依拠して行われた実験など具体的な研究事例を詳しく紹介する。また対人魅力など、対人行動の基礎となる問題も取り上げることとする。

テキスト：

使用しない

参考書：

- ・山本真理子他編（2001）「社会的認知ハンドブック」北大路書房
- ・唐沢稯・池上知子・唐沢かおり・大平英樹（2001）「社会的認知の心理学 社会を描く心のはたらき」ナカニシヤ出版

授業の計画：

ガイダンス（1回）

社会心理学の研究手法（1回）

社会的認知の研究領域概観（1回）

印象形成の古典的実験（1回）

帰属理論と実証的研究（3回）

認知的一貫性の諸理論（1回）

認知的不協和理論と実証的研究（3回）

対人行動の基礎（2回）

履修者へのコメント：

特になし。

成績評価方法：

学期末に筆記試験を行う。

質問・相談：

最初のガイダンスの時にお尋ねください。

社会心理学（日吉）	
メディアとコミュニケーション	萩原滋

授業科目の内容：

州学期は、対人コミュニケーションからマス・コミュニケーションまで幅広く「コミュニケーション」過程に関わる諸問題を取り上げる。対人コミュニケーションに関しては「説得効果」、マス・コミュニケーションに関しては「テレビの社会的機能、对人的影響」に焦点を当てて、新旧取り混ぜて社会心理学的研究成果を紹介する。

テキスト：

使用しない。

参考書：

- ・萩原滋・国広陽子編（2004）「テレビと外国イメージ メディア・ステレオタイプ研究」頸草書房
- ・萩原滋編著（2001）「変容するメディアとニュース報道 テレビニュースの社会心理学」丸善
- ・田中義久・小川文弥編（2005）「テレビと日本人 「テレビ50年」と生活・文化・意識」法政大学出版局

授業の計画：

対人コミュニケーションとマス・コミュニケーション（1回）

説得的コミュニケーションと態度変容（2回）

説得の技法（1回）

テレビのメディア特性（1回）

日本におけるテレビ放送小史（1回）

テレビの社会的影響概観（1回）

テレビの視聴効果（1）：暴力や反社会的行動への影響（3回）

テレビの視聴効果（2）：現実の社会認識への影響（3回）

履修者へのコメント：

特になし。

成績評価方法：

学期末に筆記試験を行う。

質問・相談：

授業時間中、あるいは授業後にお尋ねください。

## 【研究会】

研究会(～)(春)(秋)  
メディアと社会行動

萩原 滋

授業科目の内容：

本研究会は、2年ないし3年の在籍期間を通じて、各自の関心に基づいて研究活動を積極的に行い、その成果を研究会の場で逐次報告し、最終的には修了論文に結実させることを目的としている。研究テーマは、メディアやコミュニケーションに関連性のあるものであれば、ある程度各自の自由裁量に任されることになるが、単なる感想や思い付きではなく、それを何らかのデータによって裏づける努力をして欲しい。履修者数に応じて運営方法を多少とも調整する必要があるが、本年度も、基本的には従来の個人研究のスタイルを継続するつもりである。

テキスト：

田中義久・小川文弥編「テレビと日本人」(法政大学出版局、2005年、3800円)

授業の計画：

春学期

ガイダンス(1回)

テキスト講読(6回)

個人研究テーマの設定、発表(6回)

(夏合宿にて継続して各自の発表を行う)

秋学期

三田祭論文に向けて(2,3年生の個人研究発表,6回)

修了論文に向けて(4年生の中間報告,3回)

次年度に向けての研究計画発表(2,3年生,4回)

履修者へのコメント：

自分の発表だけでなく、他の人たちの発表にも興味をもって、質問やコメントをしてもらいたい。

成績評価方法：

・平常点：出席状況および授業態度による評価

・三田祭論文、修了論文

質問・相談：

適宜、研究室に来てくだされば、お答えするつもりです。

研究会(～)(春)(秋)  
メディア産業論を考える

菅谷 実

授業科目の内容：

放送、新聞に代表されるマスメディアからインターネット、映画などのコンテンツ産業を含むメディア産業全体を対象にその産業構造、ビジネス戦略、メディア規制をテーマとして研究をすすめます。

例年、春学期は、共同研究に関連するテーマに関わる文献レビューを中心とした個人発表、秋学期は、三田祭で発表する共同研究報告書に関わる調査と報告書作成、および4年生の修了論文発表を中心に進めます。(2005年度の共同研究テーマは、東アジアのメディア・コンテンツ流通)

また、夏合宿、OGOB会、異業種交流勉強会なども行っています。ゼミ活動の詳細は研究会ホームページ(<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/sugaya/toppage.htm>)を参照してください。

テキスト：

春学期のはじめに紹介します

参考書：

春学期のはじめに紹介します

授業の計画：

各学期のはじめに詳細なシラバスを配布するが、春学期は、授業でのレポートを中心とし、秋学期は、三田祭に向けた共同研究が中心となる。

履修者へのコメント：

履修者は、授業はもちろんのこと、合宿、論文報告会、その他のゼミイベントにはすべて出席すること

成績評価方法：

授業出席を含めた研究会活動全体に対する参加・貢献度による評価。なお研究会は修了論文の発表および論文による評価。

研究会(～)(春)(秋)

宿南 達志郎

授業科目の内容：

放送メディアのあり方について、マスメディア集中排除原則、民法とNHKの2元体制、NHKの受信料問題、地方局の存在意義などの政策的課題や経営課題を中心として研究を行う予定です。

テキスト：

松田浩『NHK 問われる公共放送』岩波新書、2005年

参考書：

・宿南達志郎『情報メディア政策』NTT出版、2006年

・田原茂行『視聴者が動いた 巨大NHKがなくなる』草思社、2005年

・舟田正之・長谷部恭男編『放送制度の現代的展開』有斐閣、2001年

授業の計画：

春学期は、教科書や参考書を中心として、放送メディアのあり方について議論を行っていきます。

主なテーマとしては、以下のようものを考えています。

放送法に規定されている番組調和原則やユニバーサルサービス義務などについて

NHKのあり方について(番組の質、適正な事業規模、受信料問題など)

民法のあり方について(キー局と地方局の関係、BSデジタル放送との関係、広告収入はこれからも確保できるのかなど)

秋学期は、各個人あるいはグループでテーマを設定して研究を行ってもらう予定です。

履修者へのコメント：

放送メディアについて関心のある学生の履修を歓迎する。

成績評価方法：

・レポートによる評価

・平常点：出席状況および授業態度による評価

研究会(～)(春)(秋)

身近なメディア・コミュニケーションの現象を研究する

金山 智子

授業科目の内容：

本研究会では、自分たちの興味や関心をもとにメディアに関するテーマを設定し、実際に調査研究することを目的としています。メディアに関しては特定せず、新聞、ラジオ、テレビ、雑誌、インターネットといった一般的な媒体から、ダンス、建物、空間といった媒介にいたるまで、広義の意味でのメディアを対象とします。研究は、文献だけでなく、アンケート、内容分析、インタビュー、そして参与観察といった方法を使って実際に調査を実施し、データを集め、分析を行なっていきます。

テキスト：

特に指定しません。

授業の計画：

個人またはグループでメディア・コミュニケーションに関連する研究を実施してもらいます。一連の研究プロセスは、担当教員との個別コンサルティングを交えながら、ステップ・バイ・ステップで身に付けられるよう指導します。4年生に関しては、修了論文を中心に個別で指導します。

春学期

テーマ設定、文献調査、仮説設定、調査法選定

秋学期

調査実施、データ分析、報告、発表(三田祭)

成績評価方法：

・レポートによる評価

・平常点：出席状況および授業態度による評価

研究会(～)(春)(秋)

グローバルイゼーションと持続可能なメディアのデザイン

小川 葉子

授業科目の内容:

環境と身体をとりまく科学的知識と文化の創発に関するコミュニケーションを考察する。本年度は、プロダクトおよびコンテンツのデザインとファッション・ジャーナリズムにおける知識生産の接点を比較したい。それによって、ウェアラブル・メディアやオンライン・ショッピング等の影響も考えつつ、健康とサステナビリティに基づいたライフスタイルにおける未来のメディア・コミュニケーションのありかたを模索したい。

テキスト:

M.リー著『ファッション中毒』(NHK出版,2004年)その他ハーバード・ビジネススクールにおけるマーケティングのテキスト等を使用予定。

参考書:

M.フェザーストン著,川崎賢一・小川葉子編著『消費文化とポストモダニズム』(上・下巻,恒星社厚生閣,2002年)

授業の計画:

春学期

- (1) ガイダンスおよび導入(2~3回)
- (2) ファッション・ジャーナリズムと科学ジャーナリズム(2~3回)
- (3) デザイン言語とマーケティング戦略(2~3回)
- (4) デザイン・コミュニケーションをめぐる産業と流通の構造プロセス(2~3回)
- (5) グローバルな市場と規制およびNPO等の役割(2~3回)
- (6) 個人(あるいは2~3名)のプロジェクトテーマ(記事タイトル)設定を発表,春学期のまとめ(1~2回)

秋学期

- (1) 秋学期全体のスケジュールと作業プランニング(1~2回)
- (2) 個人(あるいは2~3名)のプロジェクトテーマ(記事タイトル)設定と発表(2回)
- (3) フィールドワーク(2回)
- (4) 個人あるいはグループプロジェクトによる記事および作品の制作(2回)
- (5) (4)のプレゼンテーションおよび専門家によるコメントと相互批評(2回)
- (6) 三田祭発表とフィードバック
- (7) まとめ,未来のデザイン・コミュニケーションとは(1~2回)

履修者へのコメント:

フィールドワークは,経済産業省,環境省のファッションおよび新製品発表イベントへの参加を考えています。日頃から各国のジャーナリズムや映画批評に親しんでおいて下さい。

成績評価方法:

- ・平常点:出席状況および授業態度による評価
  - ・ファッション・ジャーナリズム記事かそれにかかわる作品による評価
- 質問・相談:

授業終了直後,あるいは履修者に指示するオフィス・アワーに受け付けます。

研究会(～)(春)(秋)

情報化と近代化

伊藤 陽一

授業科目の内容:

「情報化」(情報技術が発達し,マス・メディアと教育が一般庶民レベルにまで普及し,情報流通量が増大する現象として定義される)が「近代化」に及ぼした影響とそのメカニズムについて研究する。具体的には,「近代」の特質である民主主義,合理主義,個人主義,資本主義が,「情報化」を通じてどのようにしてもたらされたか,あるいはもたらされつつあるかについて考察・議論する。

テキスト:

・伊藤陽一「メディアの歴史と社会変動」関口一郎(編)『コミュニケーションのしくみと作用』大修館,1999年

・その他講読する論文を授業で配布する。

参考書:

- ・有吉広介(編)『コミュニケーションと社会』芦書房,1990年
- ・津田幸男・浜名恵美(共編)『アメリカナイズーション:静かに進行するアメリカの文化支配』研究社,2004年

授業の計画:

- 第1回 オリエンテーション:研究会の目的,求められる心構え,基礎理論に関する講義等
- 第2回 先学期の学生の期末レポート内容の報告
- 第3回 先学期の学生の期末レポート内容の報告
- 第4回 以降は,指定された論文講読を行う。講読する論文は履修者の関心,専門分野を知った上で決めたい。

履修者へのコメント:

研究会では積極的に発言することが大切です。普段からの勉強と準備が教室での適切な発言を可能にします。歴史や理論に強い人,関心を持っている人を歓迎します。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価(「三田祭参加論文」と期末レポート)
- ・授業における発言の頻度と質は重要です。

質問・相談:

随時受け付けます。

この研究会は2008年3月で終了となりますので2年生は注意して下さい。

研究会(～)(春)(秋)

ジャーナリズムを考える

大石 裕

授業科目の内容:

最初の数回は,ジャーナリズムやマス・コミュニケーションに関する基本的な文献を読み,それ以降は班分けし,新聞の分析などを行う。研究成果は三田祭などで発表する。

テキスト:

大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書:

田村紀雄ほか編『ジャーナリズムを学ぶ人のために』世界思想社

授業の計画:

[前期]

- 1~2回 基本的な文献の講読。
- 3~13回 2,3年生を中心とした研究発表と討議

[後期]

- 1~10回 2,3年生を中心とした研究発表と討議
- 11~13回 4年生の修了論文発表

履修者へのコメント:

新聞のみならず,ニュース全般に関して積極的に接するように心がけてください。この研究会から「優れた」ジャーナリストが数多く生まれることを目標にしています。

成績評価方法:

平常点による。

研究会(～)(春)(秋)

メディア融合時代のクリエイティブ産業に関する研究

金正勲

授業科目の内容:

クリエイティブ(creative industries)とは,映画,放送,音楽,広告,出版,ゲームなど人間の創造性に基盤をおく産業です。本研究会では,デジタル革命やメディア融合が既存のクリエイティブ産業にもたらす産業的・社会的・政策的インプリケーションについて研究します。

テキスト:

特に指定なし。講義資料プリントを配布する。

参考書:

授業中に適宜指示する。

授業の計画:

- (1) 春学期  
ガイダンス(計1回)

共通テーマと関連する文献の輪読(計12回)  
其々独自の研究テーマを設定の上、夏休み中の合宿での研究発表

(2) 秋学期

毎回数人ずつ研究発表と討論(計11回)  
企業訪問(計2回)

履修者へのコメント:

本研究会では、自ら発想し、積極的にディスカッションすることを大事にします。常に自分の視点(perspectives)を持ち、他者とコミュニケーションすることで相互に高め合う、創発的なコミュニティとしての研究会を目指します。社会のネクストステージを自らデザインすることに意欲のある学生を歓迎します。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価。
- ・平常点:出席点および授業態度による評価。

【特殊研究】

---

放送特殊講義 ・ (春)(秋)  
テレビニュースは何が出来るか? 安倍 宏 行

---

授業科目の内容:

テレビニュースの制作の実際。テレビ報道記者の取材活動とは。テレビニュースの問題点と今後の姿を探る。後期は、ドキュメンタリーや調査報道などニュース以外の制作にも触れます。

テキスト:

特に指定しない

参考書:

特に指定しない

授業の計画:

- 前期
- 1 ガイダンス
  - 2~5 ニュース制作の流れ + 原稿スキル
  - 6~10 記者レポート制作
  - 11~13 リポート発表
- 後期
- 1~6 ドキュメンタリー制作・調査報道・企画の作り方
  - 7~10 企画制作実践
  - 11~13 企画発表
- 変更の可能性あり

履修者へのコメント:

テレビ局の仕事に興味がある人、テレビジャーナリストになりたい人、ドキュメンタリーや企画を作りたい人を歓迎します。

成績評価方法:

平常点:出席状況および授業態度による評価(クラス参加,リポート,企画などの制作によります。)

質問・相談:

講義用ブログ上にて常時受け付けます。

---

新聞特殊講義 ・ (春)(秋)  
ジャーナリズムとは何か  
木村 良一(産経新聞社 編集委員・論説委員)

---

授業科目の内容:

新聞記者の仕事のおもしろさを私の体験をもとに話しながら、「ジャーナリズムとは何か」をいっしょに考えていきたいと思います。

テキスト:

特に指定しません。資料を配布することもあります。

参考書:

木村良一著「移植医療を築いた二人の男 その光と影」(扶桑社, 2002年, 1400円)

授業の計画:

たとえば、脳死移植の問題、新型インフルエンザ出現の危機、医療過誤といったニュース、それにリクルート事件、日航ジャンボ機

墜落事故など過去の事件・事故も取り上げ、新聞記者がどう取材し、どう書いているかを検証しながら次のテーマを考えます。

- ・ジャーナリズムと社会
- ・伝えることの意味
- ・特ダネとは何か

関係者をゲストに招いて話を聞くことも検討しています。

履修者へのコメント:

ジャーナリストを目指す学生だけでなく、「人間」や「社会」に強い関心のある学生ならどなたでも参加してください。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価

---

広告特殊講義 ・ (春)(秋)  
広告的な生き方とか 吉 田 望

---

授業科目の内容:

広告・ブランドに関する講義・外部講師の講演・広告実習・課題演習など

参考書:

- ・ブランド ・ブランド (宣伝会議)
- ・会社は誰のものか(新潮社)

授業の計画:

春学期

- 1) ブランドとは何か
- 2) ブランドの歴史
- 3) 広告を見る
- 4) 広告をつくってみる

秋学期

- 1) 広告の歴史
- 2) 広告産業
- 3) 外部講師講演
- 4) 広告をつくってみる

履修者へのコメント:

boldです。よろしくです。

成績評価方法:

- ・平常点:出席状況および授業態度による評価
- ・ブログへのコメント・実習など

---

メディア特殊講義 (秋)  
民放テレビの現状と課題 工 藤 卓 男

---

授業科目の内容:

テレビ東京の体験を通じて民放テレビの実態と展望を探る。

テキスト:

特に指定はありません。

参考書:

特に指定はありません。

授業の計画:

全13回を通して民法テレビ局の概略が把握出来るようにしたい。(但、各テーマ変更の場合もある。)

オリエンテーション(1)

総論(1)

各論(10)

- (1) 番組編成のしくみ
- (2) 視聴率
- (3) コンテンツ内容
- (4) 営業現場
- (5) 娯楽番組の制作
- (6) 報道の使命
- (7) スポーツ番組の企画
- (8) メディア開発
- (9) BS, CS, WOWOW
- (10) 著作権

まとめ(1)

履修者へのコメント：

テレビ局に関心のある学生を歓迎します。  
セミナー形式で積極的な意見の交換も行いたい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点

質問・相談：

授業終了後受けます。

メディア特殊講義 (秋)

映像・活字メディアの実践

高 信 彦

授業科目の内容：

毎週発生する事件についてブレーストーミング、討論を行うとともに、実際に映像、活字メディアに関しテーマを掲げて作成してもらう。

テキスト：

毎日の新聞各紙、雑誌、TV ニュース

参考書：

高信彦著「ニュースキャスターたちの24時間」(講談社 文庫)

授業の計画：

- ・2005年秋学期と同様に、活字、映像メディアの実習や現場の見学、現役記者・キャスターなどをゲストに呼んで討論などを行う。
- ・メディア・リテラシー、情報分析、収集の方法論、プレゼン、ブレーストーミング等々を実体験しながら社会教育も学んでもらう。
- ・4~5人のチームに分け、前半は新聞、雑誌の形態でテーマを決めて実際に制作し、その過程で取材、編集、討論を通じ学生同士で刺激になるような授業にしたい。
- ・後半は映像制作。これも各チームがテーマを決めるか、共通テーマで活字とは違った方法論を一緒に学びたい。
- ・詳しく知りたい人は2005年の履修者に聞くとよい。

履修者へのコメント：

- ・チームで動くから履修した以上は欠席しないこと。
- ・エキサイティングに物事を考える方法論を身につけ、人生を考えてほしい。
- ・情報の読み解き方と自己表現力を高める授業にしたい。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価
- ・毎週小感想文(葉書き2枚分)を出してもらう

質問・相談：

いつでも応ずる。

特殊研究 (春)(秋)

日本の近代化とマス・メディア

小 川 浩 一

授業科目の内容：

21世紀の日本社会の在り方を、「近代化」と「マス・メディア」をキーワードにして読みとく作業をする。ジャーナリズムが日本社会と如何にかかわったかを考える。

参考書：

- ・マス・コミュニケーションへの接近(八千代出版)
- ・ジャーナリズムの社会学(リベルタ出版)

授業の計画：

春学期

- |                         |    |
|-------------------------|----|
| 1. 日本社会の現状(階層固定化)       | 3回 |
| 2. 明治以後の近代化             | 2回 |
| 3. 戦後の近代化               | 2回 |
| 4. マス・コミュニケーションとジャーナリズム | 4回 |
| 5. 近代化とマス・メディア          | 2回 |

秋学期

- |                 |    |
|-----------------|----|
| 1. ポピュリズムと選挙    | 2回 |
| 2. 政治とマス・メディア   | 2回 |
| 3. 文化とマス・メディア   | 2回 |
| 4. 社会意識とマス・メディア | 3回 |
| 5. 教育とマス・メディア   | 3回 |

6. ジャーナリズムと市民

1回

履修者へのコメント：

現在の日本を考えることは現在、将来の自分を考えることです。過去の歴史の中でジャーナリズムが如何なる状態にあったのかという点も考えて下さい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点

特殊研究 (春)(秋)

市民とメディア

金 山 智 子

授業科目の内容：

この10年、市民が社会の様々な問題を解決するため、自ら参加し活動していけるようなボランティアな社会が築かれつつあります。その中で、市民グループ、NPO、NGOの活動は中心的な役割を担っています。また、一般企業においても、NPO・NGOとのパートナーシップを通じた社会貢献(CSR)活動が活発になっています。このような活動において、メディアの活用がますます重要になってきています。しかし、こういった活動は社会と深く関わるだけに、常にポジティブではなくネガティブな結果を生むこともあります。市民、NPO、NGOの活動におけるメディア活用について、『ほっとけない貧しさ』キャンペーンなどの最近の事例を交えながら、現状と問題点について考えます。

テキスト：

資料を配布。

参考書：

- ・『NPOのメディア戦略』(金山智子、学文社)
- ・『コミュニケーションするPR』(小倉重男、電通)
- ・『世界の公共広告』(金子秀之、研究社出版)

授業の計画：

春学期は、市民とメディアについての基本的な考え方について学びます。毎回事例を用いながら、ディスカッション形式で進めます。また、NPOやNGO関係者を招き、現場の声を聞きながら、受講生を交えて考える機会をもちます。

秋学期は、実際にメディアを活用している市民グループ、NPO、NGOについて研究し、発表してもらいます。

履修者へのコメント：

常に問題意識をもって、積極的にディスカッションに参加することを期待します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

メディア産業実習 (春)(秋)

インターンシップ

宿 南 達志郎

金 山 智 子

菅 谷 実

小 川 葉 子

授業科目の内容：

本講義は、研究所主催のインターンシップである。春学期は、講義と討論形式により各産業の歴史、構造、動向およびインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の2週間以上、各企業のインターンシップに参加する。

秋学期には、インターンシップ参加の口頭報告およびレポートを提出する。なお、秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度、インターンシップに参加できなかった学生は次年度にメディア産業実習を登録し、インターンシップに参加することができる。

授業の計画：

(1)春学期

オリエンテーション

産業別のレポートと討論(新聞、放送、通信、移動通信、出版、広告、インターネット、通信販売等)

まとめ

(なお、研修先は、7月上旬に決定されるが、研修受け入れ企業数は限られているため履修者全員が研修に参加できるわけではない)  
(2)秋学期

夏休み研修期間の実習を10回分の講義と認定し、残りの時間で研修成果の報告と討論を行い秋学期の平常点評価とする。

履修者へのコメント：

履修希望者(前年度にメディア産業実習を履修し本年度を履修する者を含む)は、4月上旬に実施されるオリエンテーションに必ず参加すること。

履修者は夏休み研修参加のための日程をあらかじめ確保しておくこと。

成績評価方法：

- ・春学期：クラスにおけるレポート発表および討論への参加度を含めた平常点による評価。
- ・秋学期：夏休み期間中の企業研修と研修成果の口頭発表およびレポートによる評価。

## 【基礎演習】

時事英語 ・ (春)(秋)  
英文ジャーナリズム入門

高須賀 茂 文

授業科目の内容：

英字新聞や英字週刊誌の記事などを教材に使い、時事英語の読解力を養成します。一年後には、辞書を使わずにTimeやEconomistの大意を理解できるようになるのが目標です。併せて英語でのinterviewや記事の書き方の基礎も学びます。

テキスト：

特に指定しません。講義資料を配布します。

参考書：

The Daily Yomiuri (読売新聞が発行する日刊英字紙)  
最新ニュース英語辞典(東京堂出版)

授業の計画：

まず、火事や交通事故など簡単な記事を通して英文ジャーナリズム独特の「決まり事」を勉強することから始めます。後半の授業では、評論や解説など高度な内容の英文記事に挑戦し、国際情勢への理解を深めます。また、座学だけでなく、The Daily Yomiuri編集部の見学や在日外国人特派員へのインタビューなども計画しています。

履修者へのコメント：

堅苦しい講義形式ではなく、できるだけ実践的な授業をやるつもりです。必然的に課題も多くなるので、積極的に学ぶ意欲のある塾生を歓迎します。また、英和、和英辞典はできるだけ本格的なものを用意し、授業には毎回持参して下さい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

文章作法 ・ (春)(秋)

目から鱗(ウロコ)が落ちる授業です 升 野 龍 男

授業科目の内容：

文章作りは、文章を書くことだけで身に付くものではありません。常日頃の目撃・観察によって情報をとらえる。そこから何故を發し、取材する。そして、何故に対する仮説(ひょっとしたら、こうではないかな?)を提示する。それを検証し、仮説を実証する。実証できねば新たな仮説を提示し、新発見に挑む。目撃・観察・洞察・発見による情報作りとプレゼンテーション。問うて、学ぶ。文字通り「学問」。これが、情報に関する升野流メソッド。この基本が身につけば、その情報を文章化、映像化、音楽化できるわけです。良いインプットがなければ、良いアウトプットもありません。

不器用な人でもこの動作を日常化すれば、文章のうまい器用な人をあつという間に凌駕できるようになります。「面白くなければ授業じゃない」。最高水準の授業を、面白く、分かりやすく展開します。

テキスト：

私の執筆文章を中心に、適切な文章や、文章作法本を適宜使用いたします。毎回、講義資料プリントを配布します。これらを束ねたものが、私のテキスト。時事問題など「旬の材料」も提供します。

参考書：

- ・野口悠紀雄著「超文章法(中公新書)」780円
  - ・鹿島茂著「勝つための論文の書き方(文春新書)」700円
- また授業中にも、講義内容をより深く理解できる参考文献を適宜紹介します。

授業の計画：

春学期

- (1)「ワクワク、どきどき授業」のガイダンス
- (2) 情報を採るために「飢えた情報ハンター化」する段階 = 目撃・観察法の体得。  
目撃・観察ノートの作成と記述の日常化。  
目撃・観察のための方法論 = オリジナル情報作りのため、目撃・観察対象に関する自分なりのベストポイントとベストタイムを持つ。
- (3) 情報組み立て、表現方法の体得  
情報処理は誰でも身に付けられる能力。情報化社会を生き抜くパスポートです。VTR、DVD、印刷物等、私秘蔵の優良コンテンツを駆使して、情報組み立て、表現方法を体得してもらいます。  
毎回課題を出しますが受講生の優秀作品はサンプルとして配布。技術の共有化を図ります。
- (4) 以上を通じて評論、エッセイ作法を体得。テストは60分で書く課題に取り組んでもらいます。

秋学期

- (1)「自己アピール、謎解き授業」のガイダンス
- (2) 最もタフで繊細な情報作りである広告情報の演習 = 利益社会へのデビューにこれは必要不可欠
- (3) 自己プロデュース方法 = 自分の目標宣言と、そのアピール方法の体得
- (4) 洞察力の保有  
目撃・観察から「何故」を發する行為の体得 = 取材、一歩踏みこむ  
「何故」を解く仮説設定方法の体得 = 「ひょっとすると、こうではないか」という洞察力保有
- (5) 論文の作り方 = 目撃・観察・洞察・発見の重要性と、「謎解き情報設計」の体得  
論文作りが難しくなく、この作法を身に付けることが如何に人生に役立つかを具体的に指導します。したがって最後は論文提出です。

履修者へのコメント：

何かを表現する場合、最後は文章力がモノを言います。文章を書くのが苦手な人、大歓迎。もちろん書くのが好きな人も歓迎。学期終了時に驚くほど情報作りが好きになり、上手くなった自分を發見できるでしょう。講義は一方通行ですが、毎回演習課題を出します。その指導は個別添削。メールでの質問・相談にも応じます。指導コンセプトは「発育」。ひとりひとりに潜んでいる可能性を發見し、その可能性を育む。教育指導は、その手段であると考えます。

成績評価方法：

- ・出席 40%
- ・演習課題 40%
- ・テスト 20%

課題提出が最大の評価ポイント。

質問・相談：

メールで受け付けますが、ウイルス感染防止のため必ず大学から送信してください。それ以外は開封いたしません。

e-mail:tatsuom@mbk.nifty.com

授業科目の内容:

コミュニケーション技術の発展により、誰でも気軽に映像を撮って表現したり、メッセージを発信したりできるようになってきました。また、メディア・メッセージを積極的に読み解くだけでなく、自らがメッセージや情報発信をする力としての「メディア・リテラシー」がますます重要と考えられるようになってきています。本講義では映像制作実践を通じて、よりよいメディア・シチズンとしての基礎的な発想、表現、そして実技能力を身に付けることを目標としています。また、映像制作過程において、いろいろな人たちとかわり、その中で社会や他者に対する理解を深めていくプロセスを大切にしながら、伝えたい人に伝えることの難しさや面白さを体験してほしいと思っています。

授業の計画:

春学期

- (1) 映像撮影や編集機材の使用方法を学ぶ  
基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックを学びます。
- (2) 映像作品を読みとく  
一般市民が制作した“良い作品”を見て、「誰に何をどのように伝えるか」という意味でのメッセージ伝達について考えます。
- (3) 映像コンテンツを制作する  
個人またはグループで企画・構成・取材・撮影・編集加工という映像制作過程を体験し、映像コミュニケーションを身に付けてもらいます。

秋学期

ドキュメンタリー作品を制作する。

また、昨年同様、市民メディアグループの放送イベント参加を通して、より規模の大きな映像制作も予定しています。

履修者へのコメント:

映像制作の技術習得ではなく、あくまでも映像を通してのコミュニケーションのあり方を体験的に学習することに主眼を置いています。また、クラス授業時間外での作業(撮影・編集)が必要になります。メディア・コミュニケーション実習はの事前履修が望ましいですが、だけの履修も可能です。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価
- ・映像作品

映像コンテンツ制作 (春)

映像コンテンツ制作実践に向けた基礎ステップ  
映像表現の文法・作法を習得する 金 山 勉

授業科目の内容:

映像コンテンツ流通の重要性が社会的にも大きくとりあげられるようになり、総務省や通産省でもアジア諸国をはじめ、世界に向けた映像コンテンツ流通発信のための対策を検討しています。大学では情報ネットワークの拡張とテクノロジーの統合、ユビキタス環境の導入に伴う映像コンテンツ流通体制充実の必要性も指摘しています。それと同時に望まれるのがこれらの技術や政策を学ぶ学生たちが映像表現方法の基礎的な力をしっかり身に付けることです。映像コンテンツ制作では、映像コンテンツ制作に関わる際の基本的な枠組み作り(プロダクション)の力を確実に身に付けてもらうことを目的としています。

テキスト:

金山勉・金山智子『やさしいマスコミ入門』勁草書房(2005年)  
参考書:

授業時に紹介する。

授業の計画:

映像コンテンツ制作では、映像コンテンツ制作のための基礎能力の獲得と初歩的な番組制作実践について学びます。映像表現をす

る際の事前準備の重要性について講義し、企画書、画コンテの作成、さらに屋外(フィールド)での撮影、編集までを個人レベルで取り組んでもらいます。全体の流れは以下の通りです。

映像コンテンツ制作 (春学期)

- ・映像メディア・コミュニケーションへの招待(2回)
- ・映像コンテンツ加工のための機材とその機能を知る(2回)
- ・映像コンテンツ制作のための基礎能力(2回) コンティニューティ、フレーミング
- ・番組企画とは(2回) ミニ企画プロジェクトの実践に向けて
- ・番組制作実践(5回) カメラ取材と編集

履修者へのコメント:

映像コンテンツ制作では受講生の自主性を最大限尊重し、自由な発想や可能性の追求を歓迎します。講義は春学期と秋学期でそれぞれ独立していますが映像コンテンツ制作とを連続して受講することにより、総合的な力を身につけることができるようにプランされていますので両方セットで受講することを希望します。

成績評価方法:

- ・映像コンテンツ制作のプロセスと番組完成度に対する評価 (60パーセント)
- ・出席と平常制作準備活動の評価 (40パーセント)

質問・相談:

授業終了時、および電子メールで受け付けます。

映像コンテンツ制作 (秋)

映像コンテンツ制作実践に向けた応用編  
スタジオプロダクションを実験する 金 山 勉

授業科目の内容:

本講座では映像コンテンツ制作への取り組みを通じて、映像コンテンツ中に含まれる独特の映像作法、メディア環境、さらに映像文化について考察すると共に、スタジオでの映像コンテンツ制作を通じて映像メディア・コミュニケーションの実践プロジェクトに携わることが制作者に感動と興奮を生むことを体験してもらいます。コンテンツ制作の感動を求めるがあまり、制作者が個人の主張や意図を一方的に発信したくなるなど、映像コンテンツ制作の中から生まれるメディアの課題もみずから体験することになると考えます。これらの経験が受講生のメディア・ジャーナリズムへの考察を深化させることにつながることを期待します。

テキスト:

金山勉・金山智子『やさしいマスコミ入門』勁草書房(2005年)  
参考書:

授業時に紹介する

授業の計画:

映像コンテンツ制作では編集加工された取材コンテンツ映像(編集VTR)を活用したスタジオの企画番組制作に取り組みます。全体の流れは以下の通りです。

映像コンテンツ制作 (秋学期)

- ・映像メディア・コミュニケーション力のアップに向けて(2回)
- ・フィールドカメラ素材を取り込んだ映像メディアコンテンツ制作(1回)
- ・スタジオカメラを利用した映像メディアコンテンツ制作(2回)
- ・番組企画プロジェクトチームの結成と番組企画の実践(2回)
- ・番組制作実践とプリプロダクション(4回)
- ・番組制作リハーサルと本番収録(2回)  
\*フィールドカメラによる自主素材を交えた番組制作

履修者へのコメント:

映像コンテンツ制作では、映像コンテンツ制作で蓄積した映像構成の基礎理解や番組企画のノウハウをさらに発展させることを狙っています。講義は春学期と秋学期でそれぞれ独立して完結しますが、映像コンテンツ制作とを連続して受講することを希望します。

成績評価方法:

- ・映像コンテンツ制作のプロセスと番組完成度に対する評価 (60パーセント)
- ・出席と平常制作準備活動の評価 (40パーセント)

質問・相談：

授業終了時、および電子メールで受け付けます。

メディア・ネットワーク実習 ・ (春)(秋)  
「放送と通信」融合のしくみ・導入編 田 辺 浩 介

授業科目の内容：

コンピュータ・ネットワーク技術について、解説と基礎的な実習を行います。「放送と通信の融合」に対する技術的な理解を高めることを目標とします。

テキスト：

特に指定しませんが、IT 関連のニュースサイトには目を通しておくようにして下さい。

参考書：

特に指定しませんが、IT 関連のニュースサイトには目を通しておくようにして下さい。

授業の計画：

1. コンピュータの基礎（ハードウェア、ソフトウェア）
2. ネットワークの基礎（IP、DNS、各種プロトコル）
3. Webの基礎（HTML、WEB上のファイル形成）
4. ネットワークの構築（配線、サーバー設定）
5. 音声・映像配信の実践（ライブストリーミング、Podcasting）
6. 動的 Web サイトの構築（CMS）

履修者へのコメント：

- ・実習の多くはMWRのアカウントを利用して行います。
- ・映像制作の講義と同時に受講することをおすすめします。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

随時電子メール、または講義用 Web ページで受け付けます。

電子ネットワーク調査法（秋）（日吉）  
ネットワーク上のメディア情報を探索する 菅 谷 実

授業科目の内容：

ネット上には全世界の多様な情報が膨大な数存在していますが、どこにどのような情報が存在しているかを熟知している人は多くありません。ここでは、はじめにメディア、ネットワーク産業、情報通信政策に関わる情報を収集するために必要な探索法とサイトの利用法を紹介します。さらに、受講者の興味に従い特定のテーマで情報を収集し、それをプレゼンする効果的方法を学びます。

テキスト：

特に使用しません

授業の計画：

本年は以下の予定で講義を進めます（カッコ内は授業回数）

オリエンテーション (1)

ネット情報探索法 (8)

インターネットとは

日本のメディア・ネットワーク産業

日本の情報通信政策

海外情報の探索

調査・研究サイト

情報収集実践とプレゼン (3)

受講者のプレゼン

まとめ (1)

履修者へのコメント：

ネットワークの情報検索に興味ある研究生の受講を歓迎します

成績評価方法：

平常点で評価する。

質問・相談：

毎回講義終了時に質問、相談を受け付けます。

時事英語 ・ (春)(秋)(日吉)  
英文記事から学ぶ世界情勢 運 実 潔

授業科目の内容：

速報を重視する外国通信社や米有力紙の記事を教材に使い時事英語の読解力を養うとともに、世界情勢の現況と背景を学ぶ。

テキスト：

特に指定しない。できるだけ直近の報道をテキストにする

参考書：

特に指定しない

授業の計画：

ガイダンス（1時限）

比較的読みやすい通信社（AP 通信など）の配信記事読解（1時限）

主に米紙の記事を教材とし、米国の政治、議会、司法制度、経済の動向などを学ぶ（5時限）

中国や欧州、中東情勢に関する外国メディアの報道をフォローし、日本メディアとの視点の相違などに注意を払う（4時限）

、 、 ではナマの出来事を追いながら国際情勢の理解に必要な基本認識を深める

主要米紙の論説 (editorial) を読み、「主張するメディア」の在り方を探る（2時限）

後期も ~ のプロセスをほぼ踏襲する

履修者へのコメント：

完全なバイリンガルは別として、いくら英文記事を読めても、それを他人にも分かる滑らかな日本語に「変換」できなければニュースへの理解は浅いものにとどまる。講義中、いくら辞書を引いても構わない。積極的質疑を期待する。

成績評価方法：

レポートによる評価

文章作法 ・ (春)(秋)(日吉) 浜 村 寿 紀

授業科目の内容：

文章作成技術の基本を固める。企業などの競争試験に備えるとともにジャーナリスティックな視点の涵養を図る。

参考書：

随時指定する。

授業の計画：

テーマを提示した作文演習が中心。文章作成の前提となる情報収集（取材）についても実習を含めた技術指導を行う。インターネットエイジのコミュニケーションに関するエクササイズも実施する。

履修者へのコメント：

メディア業界希望者はもちろん他の業種希望者にも役立つ講義にするつもりです。

成績評価方法：

随時提出の作文による評価

質問・相談：

講義時間、および E-mail。受講者の希望があればブログ等も活用する。

# 体 育 科 目 (三田設置) ( 体 育 研 究 所 )

実施場所・教室変更、休講、授業時間割変更等の連絡事項は、三田設置科目については共通掲示板(西校舎)に、日吉設置科目については、体育科目掲示板(日吉 J11 番教室前)にすべて掲示します。履修者は常に掲示に注意してください。

体育科目(日吉)の時間割、講義要綱・シラバス等は、学事センターで閲覧できます。

体育科目の履修に関して質問のある場合は、学事センターで相談してください。

三田地区の学生は、日吉設置の体育科目を履修することができますが、三田でも、体育実技 A(ウィークリー・スポーツ)が、8科目(テニス、バレーボール、フットサル、合気道、弓術、剣道、柔道、ダンス)開講されています。

履修の方法等については以下のとおりですが、学部により単位の取り扱いが異なります。各自、学部学則をよく読んで履修するようにしてください。

## 1 体育科目のねらい

体育科目は、「身体」に関わる様々な事象を体験・理解し、社会における自己の存在を見つめ、人間を理解していくことに大きなねらいがあります。特に、言語化された知識を越えて、自己の身体が体現する「身体知」を理解・獲得することで豊かな人間の形成をめざすものです。各開講科目には、このねらいに通ずる様々なアプローチがあり、それぞれに細分化された目標が立てられています。

## 2 体育科目の構成

体育科目には、「体育学講義」、「体育学演習」、「体育実技 A」、「体育実技 B」の4科目があります。学部、学科によって科目の取扱いや単位認定の上限が異なりますので、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。各科目の概略は以下のとおりですが、詳しくは、本書とともに日吉の講義要綱・シラバスを参照してください(学事センターで閲覧できます)。

(1) 体育学講義 (2単位).....「身体」「健康」「運動」等に関する講義。

(2) 体育学演習 (1単位)..... 講義+実習による演習形式の授業。

(3) 体育実技 A (1単位).....「身体活動」実技 A~Dの4段階評価。

ウィークリー・スポーツ

シーズン・スポーツ

(4) 体育実技 B (1単位).....「身体活動」実技 P(合)・F(否)(Pass/Fail)の2段階評価。

ウィークリー・スポーツ

シーズン・スポーツ

体育実技には「体育実技 A」と「体育実技 B」がありますが、特に成績評価の方法が異なることに注意してください。なお、「体育実技 A」と「体育実技 B」、ともにウィークリー・スポーツとシーズン・スポーツがあります。その概要は以下のとおりです。

ウィークリー・スポーツ.....週1回半年(春学期または秋学期)の授業。

シーズン・スポーツ.....夏季休業中(7月~9月)または春季休業中(2月)の7日間の授業。ただし、合宿科目は原則として3泊4日。

## 3 2003 年度以前に入学した諸君へ

2004 年度より、保健体育科目から体育科目へと名称変更になり、個々の科目名や内容も変更されています。すでに保健体育科目を履修していて、さらに体育科目を履修しようとする場合は、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。

## 4 三田設置科目履修申告までの流れ

4月7日(金)

### 体育科目ガイダンス(三田)

体育科目の履修を希望する場合は、履修案内と時間割を持参のうえ出席してください。  
1限および2限 522番教室(いずれの時限も同内容)

4月7日(金)  
~20日(木)

### 定期健康診断を受診(日吉)

実技科目(スポーツクラス)を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。(この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。)

実施場所: 日吉記念館

日吉の定期健康診断日程は以下のとおりです。

受付時間	9:00~12:30	14:00~15:30	受付時間	9:00~12:30	14:00~15:30
4月7日 金	女子(10時開始)	男子	4月14日 金	男子	男子
8日 土	男子	男子	15日 土	女子	女子
9日 日			16日 日		
10日 月	女子	男子	17日 月	男子	男子
11日 火	男子	男子	18日 火	男子	女子
12日 水	男子	女子	19日 水	女子	男子
13日 木	男子	女子	20日 木	男子	

現在、運動に制限がある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断受診の際に診断書(制限について記載のあるもの)を持参してください。診断書の持参がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますのでご注意ください。

健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目(スポーツクラス)の履修はできません。

健康診断の結果、「体育2」、「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター総合窓口申し出てください。

授業開始時まで健康診断を受診していない場合は、授業担当者に必ず申し出てください。

4月10日(月)  
~14日(金)

### 体育研究所許可証の取得

体育科目時間割に従い、第1週目の授業で体育研究所許可証を発行します。秋学期科目も同授業で発行します。発行数は定員分までです。

第1週目の授業に出席できない者のために、各日12時30分から14時まで、三田綱町グランド武道館玄関にて体育研究所許可証を発行する時間を設けていますが、発行するのはその時点で定員に達していない授業だけです。

第1週目の授業に定員以上の履修希望者が集まった場合は、その場で抽選を行い、定員分の体育研究所許可証取得者を決定します。

4月14日(金) 8:30  
~15日(土) 15:00  
4月17日(月)  
8:30~15:00

### Webによる履修申告期間

学事 Web システムによる履修申告が必要です。

履修申告用紙の場合は、必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。

各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。

秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

### 履修者数の調整について

体育研究所許可証を取得した学生は、履修申告すれば、必ずその科目を履修できます。体育研究所許可証を未取得であっても、履修申告はして構いません。ただし、許可証取得者が優先され、それでも定員に不足が生じた場合に限り、未取得者の中で抽選が行われます。

4月22日(土)

### 履修者数調整結果発表

9時 日吉 第4校舎B棟1階 J11番教室前掲示板

10時30分 三田 西校舎共通掲示板

追加履修を受け付ける、定員に余裕のある科目も同時に発表します。

追加履修は抽選で外れた場合のみ、外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。

追加履修のためには、体育研究所許可証の取得と修正申告の手続きが必要です。

三田設置科目の体育研究所許可証は各授業で発行します。各授業で許可証を取得し、定められた期間に学事センターで修正申告を行なってください。

## 5 日吉設置科目履修申告までの流れ

**4月5日(水)  
~7日(金)**

**体育科目ガイダンス(日吉)**  
体育科目の履修を希望する場合は、履修案内、講義要綱・シラバス、体育科目時間割を持参のうえ出席してください。

4月5日 10:45 541・613・623 番教室  
6日 10:45 J11・J21・39 番教室  
7日 10:45 613・614・623 番教室

**4月7日(金)  
~20日(木)**

**定期健康診断を受診(日吉)**  
実技科目(スポーツクラス)を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。(この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。)  
実施場所: 日吉記念館

現在、運動に制限がある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断受診の際に診断書(制限について記載のあるもの)を持参してください。診断書の持参がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますのでご注意ください。

健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目(スポーツクラス)の履修はできません。

健康診断の結果、「体育2」、「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター総合窓口に出してください。

授業開始時まで健康診断を受診していない場合は、授業担当者に必ず申し出てください。

**4月10日(月)  
~14日(金)**

**体育科目ガイダンス週間(日吉)**  
体育科目の時間割どおりに実施します。  
ただし、実技科目はこの期間のみ、すべて日吉記念館スタンドで行います(時間割の実施場所ではありません)。  
各時限とも同一内容のガイダンスを、前半・後半の2回行います。  
シーズン・スポーツの科目は個別のガイダンスはありません。日吉記念館(総合案内)で担当教員の説明を受けてください。

科目ガイダンス	場 所
体育学講義	時間割指定教室
体育学演習	時間割指定教室
ウィークリー・スポーツ(実技A・実技B)	日吉記念館スタンド
シーズン・スポーツ(実技A・実技B)	日吉記念館(総合案内)

レベルの高低や、自己の都合などによる履修の取消、変更はできません。

**4月14日(金) 8:30  
~15日(土) 15:00  
4月17日(月)  
8:30~15:00**

**Web による履修申告期間**  
学事 Web システムによる履修申告が必要です。  
履修申告用紙の場合は、必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。  
各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。  
秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

 <b>4月22日(土)</b> 	<p><b>履修者数調整結果発表</b></p> <p>9時 日吉 第4校舎B棟1階 J11番教室前掲示板</p> <p>10時30分 三田 西校舎共通掲示板</p>
--	---

体育実技 A, 体育実技 B, 体育学演習では, 履修希望者が定員を上回った場合, 抽選による履修者数の調整を行います。履修申告した者は, 履修の可否を必ず確認してください。ただし, 体育学講義は, 抽選による履修者数の調整は行いません。

シーズン・スポーツのアウトドアレクリエーション, 山岳, スキー, スケート, 馬術, ヨット, 水泳(オープンウォータースイミング)の履修者は後述の実技費用納入の手続きを行ってください。

<b>4月24日(月) ~5月10日(水)</b>	<p><b>追加履修について</b></p> <p>履修調整の結果, 定員に余裕のある実技科目・演習科目は追加履修することができます。</p> <p>追加履修は抽選で外れた場合のみ, 外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。</p>
<b>5月8日(月) ~10日(水)</b>	<p>追加履修するためには, 体育研究所許可証の取得と, 修正申告期間中の修正申告の2つの手続きが必要です。</p> <p>履修調整結果を再確認し, 誤りのないようにしてください。</p>

#### 体育研究所許可証の取得手続き

定員に余裕のある科目について, 以下のとおり申し込み順に受け付けます。定員に達した科目は締め切ります。

受付日時	申込場所
4月24日(月) 9:15~11:30, 12:30~16:00	体育研究所
4月25日(火) 9:15~11:30, 12:30~15:00	
4月26日(水)~5月10日(水)(平日のみ) 受付時間 8:45~17:00 (最終日 16:00終了)	日吉学事センター総合窓口

**春学期ウィークリースポーツの追加履修を希望する場合は, 必ず24・25両日中に体育研究所許可証を取得してください。26日以降は取得できません。**

#### 修正申告の手続き

で受け取った体育研究所許可証を持参し, 定められた期間に学事センターで履修申告を行ってください。

**いずれの手続が不足しても追加履修はできません。また, 所属する学部が追加履修を認めていない場合は, 行っても修正申告の手続はできません。**

## 6 シーズン・スポーツ(合宿科目)の実技費用納入について

(1) シーズン・スポーツのうち, 以下の合宿形式7科目については, 指定期間内に実技費用の納入が必要です。

**実技費用納入科目** アウトドアレクリエーション・山岳・スキー・スケート・  
馬術・ヨット・水泳(オープンウォータースイミング)

実技費用納入日時	受付時間	受付場所
4月24日(月)~4月27日(木)	8:45~17:00	日吉学事センター総合窓口(納入用紙交付)

上記科目は, 履修申告しても費用を納入しなければ参加できません。

費用が納入期間に間に合わない場合は, 総合窓口に申し出てください。申し出なく期間内に納入しなかった場合は, 履修放棄として取り扱います。(DまたはF評価)

(2) 実技費用納入締め切り後, なお人員に余裕がある科目については, 追加履修を受付けます。

# 体育実技実施要項〔三田設置科目〕

## 体育実技 A (ウィークリー・スポーツ)

### 球技

体育実技 A (テニス) 月曜 1 限  
(上級)

堀場 雅彦

〔授業の目的〕

テニスの技術習得と体力の向上。

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート (屋外)

〔服装・携行品・その他〕

硬式テニスラケット, シューズ (ハードまたはオールコート用)

〔授業の計画〕

1 限 (90 分) の計画

05 準備体操

10 球出しによるウォーミングアップ, フォア・バックハンド  
ストローク

30 サービス, シングルス・ダブルスポジションにて

40 ペアーボレーボレー

50 ダブルスゲーム, MIX・男子・女子

85 総括

半期 13 回の計画

毎週, 毎回上記 1 限計画の流れで基本的に授業を進めるが, 参加者数により, ラリー (クロス・ストレート), シングルスゲームをカリキュラムに採用する場合あり。

ストローク・サービス・ボレーの各ショット別練習中に, 以下ポイントに沿ったアドバイスを個別または全体に与える。

1 ~ 3 週: 腕の振り

4 ~ 6 週: 身体のバランス

7 ~ 10 週: 足捌き (フットワーク)

11 ~ 13 週: 総括および戦術

〔履修者へのコメント〕

テニスはサッカーについて, 全世界 120 か国以上に普及した国際的スポーツです。また, 国内でも全国市町村に必ずと言っていいほど公営コートが完備されています。全日本大会も, 5 歳刻みで 85 歳までのカテゴリーに分けられ, 腕を競い合っています。正にグローバル化に最も適したスポーツと言えましょう。社会に出る前に, 是非手習いをしておきたいスポーツです。

〔成績評価方法〕

平常点: 出席状況および授業態度による評価 (出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。)

体育実技 A (テニス) 水曜 2 限  
(初級)

村松 憲

〔実施場所〕

綱町グラウンド (屋外ハードコート) 三田キャンパス西門から徒歩 3 分程度

〔服装・携行品・その他〕

テニスシューズ, テニスラケット (シューズ, ラケットの貸し出しはありません), 運動に適した服装

〔雨天時の対応〕

室内でボレーの練習等の実技を行います

〔授業の計画〕

以下のような予定ですが, 履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

1~2 回目 ボールとラケットに親しむための基礎練習

3~6 回目 ボレー, サービス, グラウンドストローク, スマッシュの基礎練習

7 回目以降 クロスコートでのポイント形式練習, ダブルスの試合形式練習

〔履修者へのコメント〕

テニスが全く初めての方でも大丈夫です。また, 少し経験はあるけれども基礎を確認したい, という方も歓迎します。

かなり経験を積んだ方が参加しても構いませんが, あくまで, 初級者にレベルを合わせて授業をすすめますので, あらかじめご理解下さい。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。

〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい [mura@hc.cc.keio.ac.jp](mailto:mura@hc.cc.keio.ac.jp)

体育実技 A (テニス) 水曜 3 限  
(中級)

村松 憲

〔実施場所〕

綱町グラウンド (屋外ハードコート) 三田キャンパス西門から徒歩 3 分程度

〔服装・携行品・その他〕

テニスシューズ, テニスラケット (シューズ, ラケットの貸し出しはありません), 運動に適した服装

〔雨天時の対応〕

室内でボレーの練習等の実技を行います

〔授業の計画〕

以下のような予定ですが, 履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

1~3 回目 サービス, ボレー, グラウンドストローク, スマッシュ, リターン等, 基礎技術の確認と練習

4~6 回目 回転をかけるサービス, ジャンピングスマッシュなど, 試合を有利にすすめる上で役立つ応用技術の確認と練習

7 回目以降 クロスコートでのサービスからのポイント形式練習, ダブルスの試合形式練習

〔履修者へのコメント〕

このクラス (中級) では, 「技術レベルがどこまで到達したか」 (どの程度向上したか, だけでなく) という点も成績評価の対象とします。したがって, 「打ち合いで安定して 10 往復以上続けることができる (相手が打ちやすいボールを出してくれた場合) こと」が難しい方にはおすすりできません。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。

〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい [mura@hc.cc.keio.ac.jp](mailto:mura@hc.cc.keio.ac.jp)

体育実技 A (テニス) 火曜 1 限  
(初中級)

加藤 大雄

〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と, ルールの習得

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート

〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット, テニスシューズ, 運動ができるウェア

〔授業の計画〕

2回をセットとして、フォアハンドストローク、バックハンドストローク、サーブ、を技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由的な雰囲気です。3回の技術力テストを行う。雨天時は当日の朝、掲示する。

〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%）、技術（10%）、態度（20%）、理解（10%）の項目を点数化し、その合計点で評価する。）

体育実技A（テニス） 火曜2限  
（中上級）

加藤 大雄

〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と、ルールの習得ならびに、テニスにおける戦術の指導。

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート

〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット、テニスシューズ、運動ができるウェア

〔授業の計画〕

戦術的な説明をしつつ、フォアハンドストローク、バックハンドストローク、サーブ、ボレー、スマッシュを技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由的な雰囲気です。実践的な練習が多い予定です。雨天時は当日の朝、掲示する。

〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%）、技術（10%）、態度（20%）、理解（10%）の項目を点数化し、その合計点で評価する。）

体育実技A（バレーボール） 木曜1限・2限

野口 和行

〔授業の目的〕

チームスポーツであるバレーボールの実践を通して、個々の技術レベルに応じた役割分担をしながら、相互のコミュニケーションを促進する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド バレーボールコート

〔服装・携行品・その他〕

運動できる服装・屋外シューズ

〔授業の計画〕

1. 個人の技術レベルの向上（4回）  
パス、スパイク、ブロック、サーブ等の個人技能のレベル向上を図る。ラリーを楽しむことを主眼としたゲームの実施。
2. 集団技能の学習とフォーメーションの理解（4回）  
サーブレシーブフォーメーション等のフォーメーションの理解。フォーメーションを利用したゲームの実施。
3. リーグ戦形式のゲームの実践  
個々の技術レベルに応じてチーム内での役割分担を決め、ゲームを楽しむ。ゲームで利用できるような個人技能のレベルアップ。

〔履修者へのコメント〕

積極的にチームのメンバーとコミュニケーションをとり、技術レベルを問わずバレーボールのゲームを楽しめるような授業にしたいと思っています。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%）、技術（10%）、態度（20%）、理解（10%）の項目を点数化し、その合計点で評価する。）

体育実技A（フットサル） 水曜2限・3限

須田 芳正

〔授業の目的〕

フットサルの技術、戦術を習得し、ゲームの中でフットサルの魅力、楽しさを体験することを目的とする。

〔参考書〕

- フットサル教本（松崎康弘、須田芳正著、大修館書店）
- フットサル攻略マニュアル100（須田芳正著、NHK出版）

〔授業の計画〕

- 1回、ガイダンス（場所は銀座 de フットサル 田町スタジアム）
- 2~4回、技術練習とゲーム形式  
テーマ：ボールフィーリング、パス&コントロール、シュート
- 5~8回、戦術練習とゲーム形式  
テーマ：4対2、フォーメーショントレーニング
- 9回以降、ゲーム形式  
テーマ：チームを固定してのリーグ戦

〔履修者へのコメント〕

積極的に授業へ参加する学生を歓迎します。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等についてはガイダンス時に説明する。

〔質問・相談〕

実施場所は銀座 de フットサル 田町スタジアム  
所在地：港区芝5-36-7 札の辻パーキング2F  
JR 田町駅 三田口 西口、都営地下鉄三田駅より徒歩3分

## 武道

体育実技A（合気道） 木曜2限

藤平 信一

〔授業の目的〕

合気道の実技を通して、心と身体からだの正しい使い方しんしんとういつ（心身統一）を習得する。  
心身統一を日常生活で活用できるように習得する。  
大切な場面での心の落ち着きを習得する。危険に対する察知と対応を習得する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館

〔服装・携行品・その他〕

道着は貸与。Tシャツ（女子のみ）・タオル（汗をふくため）・道着を持ち運ぶバッグ等。

〔授業の計画〕

- 半期前半
  - ・合気道基本技
  - ・心が身体を動かす（心身統一）
  - ・正しい姿勢（自然に安定した姿勢）
  - ・安全な受身と間合い
- 半期後半
  - ・合気道応用技
  - ・正しいリラックス（虚脱状態との違い）
  - ・大切な場面での心の落ち着き
  - ・危険に対する察知と対応

春学期と秋学期ではテーマは同じですが、内容は異なります。半期が基本ですが、通年で履修をすると理解がさらに深まります。

〔履修者へのコメント〕

基礎から確実にお伝えしますので、合気道を初めて学ぶ方でも安心して学べます。

半期で一通りのことを学ぶことが出来ますが、しっかりとした習得には通年での履修をおすすめします。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。）

体育実技 A (弓術) 火曜 1 限・2 限 小笠原 清忠

〔授業の目的〕

和弓に親しみながら、的中に興味を持たせる。  
弓術を修練することにより礼節を身に付ける。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館 (正己弓道場)

〔服装・携行品・その他〕

服装は運動の出来る服装 (ボタンや胸ポケットのないもの)

〔授業の計画〕

- 1 道場内での礼儀作法。弓具の取り扱い。
- 2 素引き練習
- 3 習熟度合いにより距離を離して行射を行う。
- 4 正規の距離で行射を行う。

〔履修者へのコメント〕

雨天でも授業は行います。靴下又は足袋を必ず持参すること。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。）

体育実技 A (剣道) 水曜 2 限・3 限 吉田 泰将

〔授業の目的〕

剣道をはじめて行うものから、有段者まですべてのレベルを対象に、初心者は一級に、有段者はさらにひとつ上の段に挑戦するために、基本的な技術、知識、日本剣道形を学習します。それぞれのレベルの人が協力して、クラス全体の実力アップを図りましょう。そして、生涯を通じて実践できる剣道をしっかりと身につけましょう。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館 (剣道場)

〔服装・携行品・その他〕

剣道着・袴 (運動に相応しい服装も可)・手ぬぐい  
剣道具 (防具)・竹刀は準備しています。

〔授業の計画〕

- 1 ガイダンス剣道の歴史 礼儀作法 構え方 足さばき 素振りの基礎
- 2 素振りのバリエーション 五行の構え 対人的足さばき
- 3 基本の復習 日本剣道形の導入・1 本目
- 4 日本剣道形1~2 本目 有効打突の理解 打突部位 基本的な技の打ち方
- 5 日本剣道形1~3 本目 基本的な技の打ち方 防具の着け方
- 6 日本剣道形1~4 本目 手の内の刃えについて 正中線の意味 切り返し
- 7 日本剣道形1~5 本目 一本打ちの技
- 8 日本剣道形1~6 本目 連続技 (二・三段打ちの技) 払い技 捲き技
- 9 日本剣道形1~7 本目 応じ技 (すり上げ技・返し技)
- 10 日本剣道形1~7 本目 応じ技 (抜き技・打ち落とし技)
- 11 日本剣道形小太刀1~3 本目 出頭技
- 12 日本剣道形復習試合規則の確認 試合形式の実践
- 13 紅白試合まとめ

〔履修者へのコメント〕

剣道を通して、戦う技術はもちろん、対人的な行動のしかたや自分自身の心のコントロールなどを身につけてください。また、日本の伝統文化としての剣道を肌で感じ、国際感覚の向上や異文化コミュニケーションの題材としても活用してほしいものです。

〔成績評価方法〕

出席60%、技術10%、態度20%、理解10%の割合で点数化して評価する。

体育実技 A (柔道) 月曜 2 限・3 限 (初心者、経験者を問わない~男女共習) 安藤 勝英

〔授業の目的〕

柔道を通して技術、体力の向上を図り、これから生涯スポーツとして取り組むことの出来るよう行う。中でも礼法、受身、正しい技の掛け方等をより深く解説する。また、見る柔道の立場から、国際、国内ルールを説明する。更に、昇段希望者には、この授業の中で実地指導する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館 (柔道場)

〔服装・携行品・その他〕

柔道衣 (希望者には貸与する)、タオル、T シャツ (女子のみ)

〔授業の計画〕

- 1 講道館柔道の歴史とその内容。
- 2 柔道の基本的動作 (礼法、受身、体捌き)
- 3 投げ技と受身の反復練習 (大外刈、大内刈等)
- 4 投げ技と受身の反復練習 (大腰、背負投等)
- 5 投げ技と受身の反復練習 (送足払、払釣込足等)と約束稽古。
- 6 約束稽古から正しい乱取稽古への導入。
- 7 乱取稽古
- 8 乱取稽古
- 9 技の連絡変化。
- 10 固め技 (抑込技、絞技、関節技)の説明。
- 11 固め技の説明とその稽古方法。
- 12 乱取稽古 (立技、寝技)
- 13 試合方法、審判法 (国内、国際ルール)の説明。

〔履修者へのコメント〕

この授業を通し、現行の試合を中心にした柔道ではなく、本来の組み方、技の掛け方の中から正しい柔道のあり方を理解して欲しい。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価 (出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。)

## 個人種目

体育実技 A (ダンス) 金曜 2 限・3 限 ボールルームダンス 入門 初級 篠原 しげ子

〔授業の目的〕

種目ごとのリズムの特徴を理解し男女で組んで踊れるようになる。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館 (剣道場)

〔定員〕

男性 10 名 女性 10 名

〔服装・携行品・その他〕

動きやすい服装 綱町道場の剣道場で行うためシューズは着用せず、ソックスを持参

〔授業の計画〕

金曜 2 時限目

春学期 ラテン入門 (ジルバ ルンバ チャチャチャの基礎を 4~5 週間ずつ行う)

秋学期 スタンダード入門（ブルース タンゴ ワルツの基礎を  
4～5週間ずつ行う）

金曜3時限目

春学期 初級・タンゴ

秋学期 初級・ワルツ

それぞれの種目を半期間と押して行う

1～3週 種目の特徴（リズム，姿勢，ホールド）を理解する

4～8週 数種類のフィギュアをつなげて一曲踊りとおせるよう  
になる。

9～12週 さらにフィギュアの数を増やすとともに正確な踊りを  
目指す

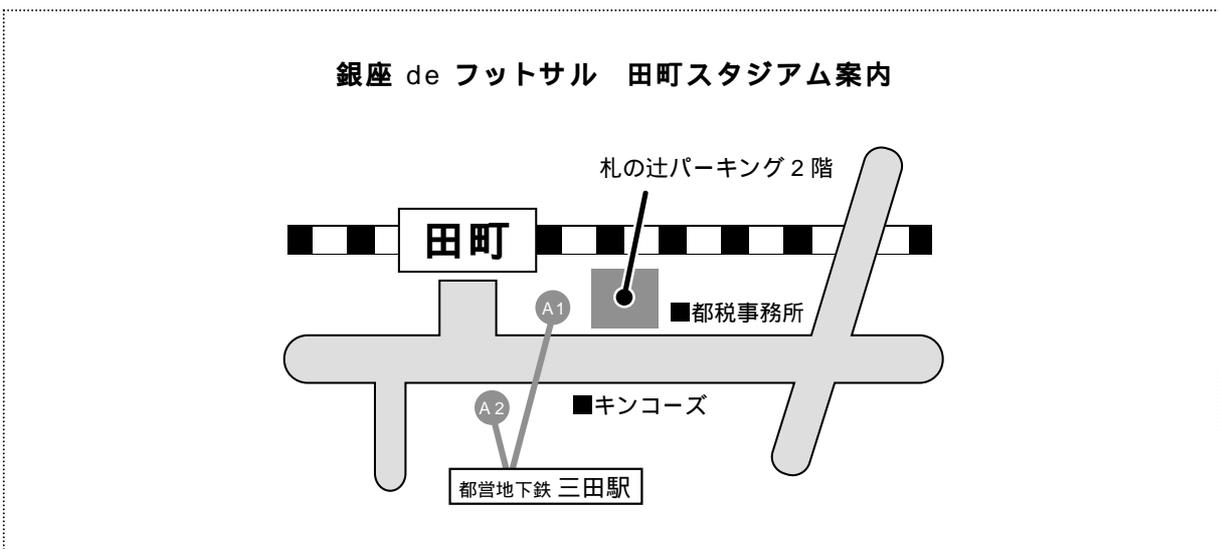
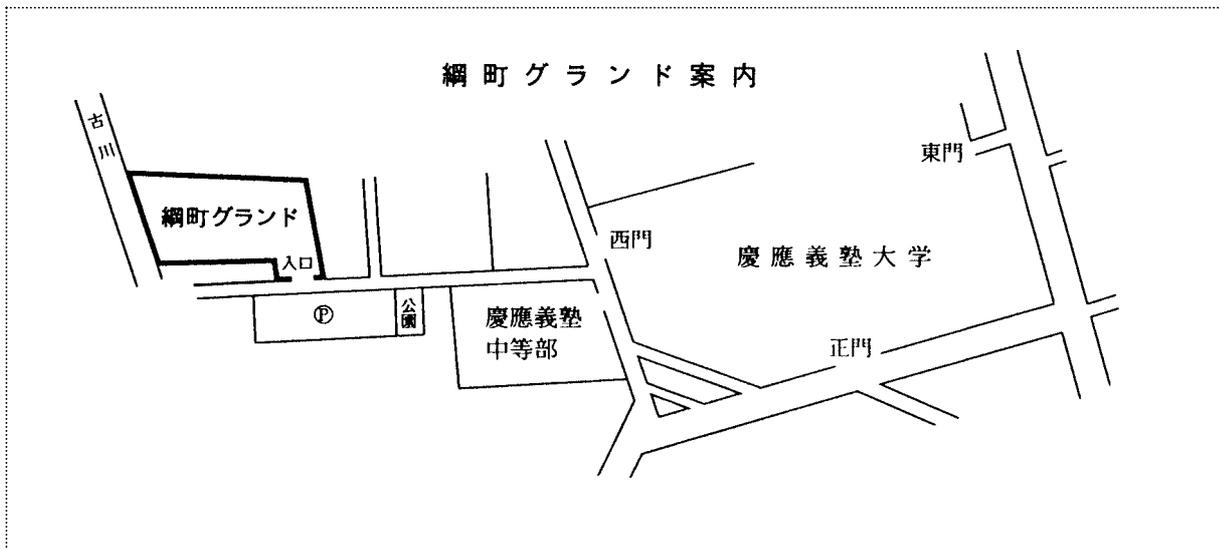
13～ 自分で好きな順番でつなげて踊れるように工夫する

〔履修者へのコメント〕

ガイダンス週間に種目のビデオを見ながら，それぞれの踊りの説  
明をします。必ず参加して内容を把握して選択してください。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（各時限に簡単なレ  
ポート提出により，理解度 20，授業態度 20，出席状況 60 で採点）



## 福澤研究センター設置講座

慶應義塾福澤研究センターは、1983年に義塾創立125年を記念して、旧図書館内に設立された研究所です。この研究所の目的は、一つは福澤諭吉および慶應義塾に関する資料の収集・整理・保管ですが、単にそこにとどまるものではありません。同時に、福澤諭吉と慶應義塾を視野においた近代日本の研究も本研究所の重要な役割です。このような研究を目的としているのは、一面では、福澤諭吉や各界で活躍した慶應義塾出身者について研究することが、そのまま日本の近代化について考える大きな鍵となるからです。また他面では近代日本に広く目を配ることなしには、福澤諭吉と慶應義塾の歴史的意義も本当には理解できないからでもあります。

しかも、福澤諭吉に関する研究は、狭く日本の内部にとどまるものではありません。福澤が投げかけた近代化の課題は、19世紀以降の日本を含む世界中の後発国が直面した問題でした。このため、福澤諭吉に取り組むことは、例えばアジアの近代化を考えることに直接的にも間接的にもつながってゆきます。このように、各国にまたがる広い関連性を持った研究に本センターは関わっており、文字通り世界における福澤研究の中心として機能しています。

このような目的をかかげて、これまで福澤研究センターは、学術誌『近代日本研究』・資料集・叢書の刊行や、講演会、セミナー、展覧会などを開催してきました。また、これらの資料整理・研究活動は、23名の所員、11名の顧問、26名の客員所員、7名の事務スタッフ等により支えられています。

本設置講座は、このような活動を続けている福澤研究センターが、提供する大学講座です。講座の目的は、第1には、福澤研究センターを中心として、塾内外の研究者により行われてきた研究の学術的な成果を、講義・演習を通して学生諸君に受け止めてもらうことです。また、第2には、福澤諭吉や慶應義塾を視野においた近代日本史への関心を喚起することです。さらに、第3には、将来福澤諭吉研究者や大学・学校史の研究者に育ちうる人材を教育することがあります。そして、第4には、この講座を通して、21世紀の世界にとって、福澤諭吉の思想と慶應義塾の歴史が、いかなる意味を持っているかを考える機会をつくることを目指しています。

近年、慶應義塾で学びながら、義塾がいかなる歴史を持っていたのかを知らず、また福澤諭吉の著作を読むこともなく卒業する塾生が増えています。多くの学ぶべきことが他にもある現在、それはそれで一つの学生時代の過ごし方であることは確かです。しかし、福澤の著作は、その主張に賛成するものにとっても反発するものにとっても、面白く刺激的です。そのような福澤の著作に触れる機会もなく卒業することは、我々福澤研究センターのスタッフは惜しいことだと考えています。しかも、本設置講座は、文系の多くの学部では卒業単位や進級単位として認められています。

本年度は以下の6講義・演習を開講しますので、諸君の活発な履修を期待しております。

(慶應義塾福澤研究センターのホームページ <http://www.fmc.keio.ac.jp/> )

近代日本研究 (春学期)(2)

『学問のすゝめ』とその時代

法学部教授 岩谷 十郎  
経済学部教授 小室 正紀  
名誉教授 坂井 達朗  
教職課程センター教授 米山 光儀

授業科目の内容:

福澤諭吉の初期の代表作『学問のすゝめ』は、明治5年2月から明治9年11月までの5年間にわたって、17編にわけて逐次刊行された。それは、福澤の生涯の中では、『文明論之概略』に結実する思想の形成期であった。また、この時期は、学制頒布、新橋・横濱間鉄道開通、徴兵令布告、征韓論、明六社結成、地租改正条例公布、民選議院設立の建白書、佐賀の乱、征台の役、立志社設立、江華島事件、萩の乱などの制度改革や事件が陸続する時であり、まさに揺籃期の明治社会にとっては、改革と模索の時期であった。

この講義では、『学問のすゝめ』各編を取り上げて、4人の担当者が分担して講義を行うが、単にその文面から福澤の思想を考えるだけではなく、同書の各編を、福澤の人生と初期明治社会の変動の中に位置付けることを目指したい。またその過程を通して、福澤の思想と近代日本社会形成の間にある緊張関係を考えてみたい。

テキスト:

福澤諭吉『学問のすゝめ』をテキストとするが、同書には様々な版がある。どの版でもかまわないが、受講者は必ず、同書を用意すること。

参考書:

- ・福澤諭吉『福翁自伝』(各種の版があります)
- ・慶應義塾編『福澤諭吉書簡集』第1巻、岩波書店、平成13年。
- ・石河幹明『福沢諭吉伝』岩波書店

授業の計画:

- 第1回 はじめに(小室正紀)
- 第2~4回 『学問のすゝめ』初編~4編
- 第5~7回 『学問のすゝめ』5編~8編
- 第8~10回 『学問のすゝめ』9編~13編
- 第11~13回 『学問のすゝめ』14編~17編

履修者へのコメント:

毎回、講義で取り上げる編をあらかじめ読んでおくこと。

成績評価方法:

レポートによる評価

質問・相談:

授業時間内に受け付けるとともに、コーディネーターの小室正紀のオフィス・アワーに質問を受け付ける。

近代日本研究 (秋学期)(2)

福澤研究センター助教授 西澤 直子

授業科目の内容:

福澤諭吉が近代社会に問いかけた「一身独立」そして「独立自尊」とは何であったのか。まずいくつかのトピックスを中心に生涯を通じて考察し、更に「土族社会」「家族論」をキーワードに再考を試みる。

テキスト:

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書:

- ・『福澤諭吉書簡集』(岩波書店、2001~2003年)
  - ・『福澤諭吉著作集』(慶應義塾大学出版会、2002~2003年)
- 他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画:

- 1 序論 授業テーマの説明および「一身独立」「独立自尊」に関する予備的考察
- 2 福澤諭吉の生涯と「一身独立」「独立自尊」  
中津の学問的伝統  
滞米滞欧体験  
著作権確立運動  
交詢社の設立  
時事新報の創刊

朝鮮留学生

3 福澤諭吉と中津土族社会

「中津留別之書」「旧藩情」「福翁自伝」  
中津市学校と土族授産

4 福澤諭吉の家族論

女性論  
男性論  
家族論

5 まとめ 授業を通して考察したことについての意見交換

履修者へのコメント:

知識を授受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価(論述形式)
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価(出欠は取りませんが、積極的な参加は評価に加えたいと思います。)

質問・相談:

授業後。あるいは文書でも受け付けます。

近代日本研究演習 (春学期)(2)

法学部教授 寺崎 修

授業科目の内容:

この演習では福澤諭吉の政治思想を学ぶため、「分権論」、「通俗民権論」、「通俗国権論」などを読む。

テキスト:

『福澤諭吉著作集』第7巻(慶應義塾大学出版会)

参考書:

授業中に適宜紹介する。

授業の計画:

1. 序
2. 「分権論」を読む
3. 「分権論」の意義
4. 「通俗民権論」を読む
5. 「通俗民権論」の意図
6. 「通俗国権論」の読み方
7. 「国会論」を読む

履修者へのコメント:

履修条件は毎時間出席できる者。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

随時。

近代日本研究演習 (秋学期)(2)

福澤書簡の研究

講師 松崎 欣一

授業科目の内容:

福澤および近代日本研究の基礎史料としての福澤書簡について「授業の計画」に示す視点からの検討を行う。あわせて、写真版等により原書簡の読解演習を実施したい。

テキスト:

『福澤諭吉の手紙』(岩波文庫)

参考書:

- ・『福澤諭吉書簡集』全9巻(岩波書店刊)
- ・『福澤諭吉著作集』全12巻(慶應義塾大学出版会刊)
- ・富田正文『考証福澤諭吉』上・下(岩波書店刊)

授業の計画:

- 1) 福澤書簡概観...『書簡集』編纂の経緯、名宛人、年次別発信数等について。
- 2) 古文書学的視点からの検討...福澤書簡の形状、文体、用字、用語、筆跡等。
- 3) 福澤の伝記史料としての検討...新たな「福澤年譜」編成のための基礎的作業として。

- 4) 近代日本の同時代史的史料としての検討...福澤書簡の名宛人は約 600 人に及ぶ。その多くは、福澤と名宛人相互の私的な通信にとどまらず、周辺の人事やその時々、社会的諸事象に話題が及んでいる。いくつかのテーマを設定して検討する。
- 5) 書簡の読解演習...『福沢諭吉の手紙』(岩波文庫)をテキストとし、また原書簡の写真版等により読解の実習を行う。福澤研究センター所蔵の原書簡に触れる機会も作りたい。

履修者へのコメント：

「授業の計画」の具体的な展開は、受講者の所属、専攻、研究課題等を確認してあらためて考慮したい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・出席状況による評価

質問・相談：

随時。

---

明治期日本女性論と福澤諭吉 (春学期)(2)

福澤研究センター助教授 西澤 直子

---

授業科目の内容：

福澤諭吉の女性論を中心に、明治期日本における女性論の展開を考える。

福澤の女性論・家族論は、同時代のみならず大正期・昭和期に入っても、たとえば与謝野晶子、本間久雄、山高しげりなど多くの人々に高い評価を得ながら、読み継がれてきた。それは福澤の指摘が今日的であり続けたからであり、つまりは近代化の過程において、福澤が提示した課題が克服され得なかったことを示している。近代日本において形成された女性像・家族像は、福澤の構想とは異なるものであった。

この授業では、福澤の著作を読むとともに、同時代の他者による女性論を比較講読しながら、福澤の意図はどこにあったのか、また最終的に社会的規範として受け入れられていった女性論がいかなるものであったのかを考察し、その視点から近代日本について考えたい。

授業は通常講義形式で行い、演習の時間は履修者による意見発表を行う。(履修者は最初の1時間の講義ののち、各自が参加する演習を決定する)では明六社、自由民権運動活動家、福澤諭吉の明治10年代までの女性論を扱う。

テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

『福澤諭吉著作集』第10巻(慶應義塾大学出版会、2003年)  
他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：

- 1 予備的講義
- 2 明六社の女性論
  - 1) 森有礼「妻妾論」・加藤弘之「夫婦同権ノ流弊論」・津田真道「夫婦同権弁」
  - 2) 福澤諭吉「男女同数論」
  - 3) 演習
- 3 自由民権運動の中の女性論
  - 1) 土居光華『文明論女大学』
  - 2) 岸田俊子「同胞姉妹に告ぐ」・福田英子『妾の半生涯』
  - 3) 植木枝盛『東洋の婦女』
  - 4) 演習
- 4 福澤諭吉の女性論・家族論
  - 1) 「中津留別の書」『学問のすゝめ』
  - 2) 「日本婦人論」『日本婦人論後編』
  - 3) 『男女交際論』『男女交際余論』
  - 4) 演習
- 5 まとめ

履修者へのコメント：

知識を授受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(授業中に意見発表の時間があります。)

質問・相談：

授業後。あるいは文書でも受け付けます。

---

明治期日本女性論と福澤諭吉 (秋学期)(2)

福澤研究センター助教授 西澤 直子

---

授業科目の内容：

福澤諭吉の女性論を中心に、明治期日本における女性論の展開を考える。明治期日本女性論と福澤諭吉を参照のこと。

授業は通常講義形式で行い、演習の時間は履修者による意見発表を行う。(履修者は最初の1時間の講義ののち、各自が参加する演習を決定する)では明治20年以降の福澤の論説およびキリスト教主義者、儒教主義者の女性論を扱い、また福澤女性論の系譜について考える。

テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

『福澤諭吉著作集』第10巻(慶應義塾大学出版会、2003年)  
他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：

- 1 予備的講義
- 2 福澤諭吉の女性論・家族論
  - 1) 『日本男子論』
  - 2) 『女大学評論・新女大学』
  - 3) 演習
- 3 キリスト教主義の女性論
  - 1) 矢島楯子『東京婦人矯風雑誌』『婦人矯風雑誌』より
  - 2) 潮田千勢子『婦人新報』より
  - 3) 演習
- 4 儒教主義の女性論
  - 1) 丹靈源『国母論』・大江スミ子『女房説法鉄砲三ぼう主義』
  - 2) 井上哲次郎ほか『女大学の研究』
  - 3) 演習
- 5 福澤女性論・家族論の系譜
  - 1) 深間内基『男女同権論』・鎌田栄吉『鎌田栄吉全集』より
  - 2) 日原昌造 福澤研究センター所蔵『時事新報』社説原稿より
- 6 まとめ

履修者へのコメント：

知識を授受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(授業中に意見発表の時間があります。)

質問・相談：

授業後。あるいは文書でも受け付けます。

外国語教育研究センターでは、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、インドネシア語、アラビア語、およびイタリア語の9外国語について、「表現技法」をキーワードとし、「聴く」「話す」ことから出発し、「読み」「書き」さらに「発想・思考」にいたる外国語学習本来のプロセスを尊重し、各要素のバランスのとれた外国語コミュニケーション能力が確実に身につくよう、少人数編成のクラスで授業を行います。また、超上級クラス、基礎固めのクラス、各種の検定試験に特化したクラスも用意されています。さらに、これらの設置科目のほかに、学部で開講されている外国語科目の一部が外国語教育研究センターに併設されています。

外国語教育研究センターでは、夏休みに慶應立科山荘で行う外国語集中セミナーや春休みに行う海外短期語学研修、および高校生から大学院生を対象としたアカデミック論文コンテストなどを

企画しています。詳細が決定し次第、外国語教育研究センターのホームページや掲示で広報し、参加者を募る予定です。

以下に本年度開講される外国語教育研究センター設置科目の一覧を掲載します。ガイダンス、履修の手続き、および各科目の詳細な講義内容ならびに併設科目については、別途配布の『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』を参照してください。

なお、『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』は4月6日(木)に行われるガイダンスおよび外国語教育研究センター事務室でも配布します。

#### ガイダンス日程：4月6日(木) 12:30 ~ 531 番教室

各科目の履修希望者が定員を超えた場合は抽選あるいは選考となります。なお、外国語教育研究センターが履修を許可した科目は、必ず履修申告しなければなりません。

### 外国語教育研究センター設置科目一覧(三田)

\*科目名に(a)(b)と表記されている科目は春(a)・秋(b)をセットで履修することが義務付けられている科目です。

\*科目名に( )と表記されている科目は春( )と秋( )どちらかひとつの履修あるいは両方の履修が可能です。

語 種	科 目 名	担当講師名	設置学期	曜日・時限	定員	形態	単位数
英 語	英語最上級 アドバンスト英語(a)	横川 真理子	春	水・3	25	半期	1
	英語最上級 アドバンスト英語(b)		秋			半期	1
	英語最上級 アドバンスト英語		春 秋			通年	2
	英語翻訳(a)	アーマー, アンドルー J.	春	火・2	15	半期	1
	英語翻訳(b)		秋			半期	1
	英語翻訳		春 秋			通年	2
	英語テスト対策 TOEFL( )	中村 優治	春	水・2	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEFL( )		秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC( )	バロウス, リチャード	春	火・5	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC( )		秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC( )	和田 朋子	春	火・2	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC( )		秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC( )	横川 真理子	春	水・4	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC( )		秋			半期	1
	英語テスト対策 TOEIC( )	狩野 みき	春	月・4	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC( )		秋			半期	1
	英語経済・金融( )	日向 清人	春	月・3	30	半期	1
	英語経済・金融( )		秋			半期	1
	英語法律・法務( )	日向 清人	春	月・4	30	半期	1
	英語法律・法務( )		秋			半期	1
	英語オーラル・プレゼンテーション( )(初級)	ファロン, ルース	春	月・3	20	半期	1
	英語オーラル・プレゼンテーション( )(初級)		秋			半期	1
	英語アカデミック・ライティング( )	和田 朋子	春	火・1	25	半期	1
	英語アカデミック・ライティング( )		秋			半期	1

語種	科目名	担当講師名	設置学期		曜日・時限	定員	形態	単位数
ドイツ語	ドイツ語表現技法 4(a) (中・上級聴解・口頭表現)	三瓶 慎一	春		月・3	25	半期	1
	ドイツ語表現技法 4(b) (中・上級聴解・口頭表現)			秋			半期	1
	ドイツ語表現技法 4 (中・上級聴解・口頭表現)		春	秋			通年	2
	ドイツ語表現技法 5(a) (中・上級文章表現法)	ドゥッペル=タカヤマ, メヒティルド	春		火・4	25	半期	1
	ドイツ語表現技法 5(b) (中・上級文章表現法)			秋			半期	1
	ドイツ語表現技法 5 (中・上級文章表現法)		春	秋			通年	2
フランス語	フランス語表現技法 ㄨ ( ) (DELF 第1段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春		月・3	20	半期	1
	フランス語表現技法 ㄨ ( ) (DELF 第1段階対応クラス)			秋			半期	1
	フランス語表現技法 ㄨ ( ) (DELF 第2段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春		月・4	20	半期	1
	フランス語表現技法 ㄨ ( ) (DELF 第2段階対応クラス)			秋			半期	1
	フランス語表現技法 ㄨ ( ) (DALF 対応クラス)	ペリセロ, クリスティアン・アンドレ	春		木・1	20	半期	1
	フランス語表現技法 ㄨ ( ) (DALF 対応クラス)			秋			半期	1
ロシア語	ロシア語表現技法 1( ) (映画とドラマでロシア語を学ぼう)	熊野谷 葉子	春		金・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法 1( ) (映画とドラマでロシア語を学ぼう)			秋			半期	1
	ロシア語表現技法 ㄨ ( ) (ロシア語で発信しよう)	宮澤 淳一	春		水・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法 ㄨ ( ) (ロシア語で発信しよう)			秋			半期	1
中国語	中国語聴解 ㄨ ( ㄨ最上級 ) (時事中国語)	山下 輝彦	春		水・2	25	半期	1
	中国語聴解 ㄨ ( ㄨ最上級 ) (時事中国語)			秋			半期	1
	中国語表現技法 ㄨ ( ㄨ最上級 ) (作文と翻訳)	蔣 文明	春		月・5	25	半期	1
	中国語表現技法 ㄨ ( ㄨ最上級 ) (作文と翻訳)			秋			半期	1
スペイン語	スペイン語表現技法 ㄨ ( ㄨ上級 )	安藤 万奈	春		金・4	25	半期	1
	スペイン語表現技法 ㄨ ( ㄨ上級 )			秋			半期	1
インドネシア語	インドネシア語ベーシック ㄨ(a)	野村 亨 トトク, スハルディアント	春		月・4 金・2	30	半期	2
	インドネシア語ベーシック ㄨ(b)			秋			半期	2
	インドネシア語ベーシック 2		春	秋			通年	4

2006 年度 外国語教育研究センター設置科目（三田）春学期時間割

時限 曜日	第 1 時限 9 : 00 ~ 10 : 30	第 2 時限 10 : 45 ~ 12 : 15	第 3 時限 13 : 00 ~ 14 : 30	第 4 時限 14 : 45 ~ 16 : 15	第 5 時限 16 : 30 ~ 18 : 00			
月			英語経済・金融 ( ) ドイツ語表現技法 4(a) ドイツ語表現技法 4 フランス語 表現技法 2( ) 英語オーラル プレゼンテーション( ) (初級)	日向 三瓶 ルカルヴェ ファロン	英語テスト対策 TOEIC( ) 英語法律・法務 ( ) フランス語 表現技法 3( ) インドネシア語 ベーシック 2(a) インドネシア語 ベーシック 2	狩野 日向 ルカルヴェ 野村	中国語表現技法 2( ) (最上級)	蔣
火	英語アカデミック・ ライティング( )	和田	英語翻訳(a) 英語翻訳 英語テスト対策 TOEIC( )	アーマー 和田	ドイツ語表現技法 5(a) ドイツ語表現技法 5	ドゥッベル =タカヤマ	英語テスト対策 TOEIC( )	ハロウス
水			英語テスト対策 TOEFL( ) 中国語聴解 2( ) (最上級)	中村 山下	英語最上級 アドバンスト英語(a) 英語最上級 アドバンスト英語 ロシア語 表現技法 2( )	横川 宮澤	英語テスト対策 TOEIC( )	横川
木	フランス語 表現技法 4( )	ベリセロ						
金			インドネシア語 ベーシック 2(a) インドネシア語 ベーシック 2	トトク	ロシア語 表現技法 1( )	熊野谷	スペイン語表現技法 3 ( Ⅸ 上級)	安藤
土								

2006 年度 外国語教育研究センター設置科目（三田）秋学期時間割

時限 曜日	第 1 時限 9 : 00 ~ 10 : 30	第 2 時限 10 : 45 ~ 12 : 15	第 3 時限 13 : 00 ~ 14 : 30	第 4 時限 14 : 45 ~ 16 : 15	第 5 時限 16 : 30 ~ 18 : 00			
月			英語経済・金融 ( ) ドイツ語表現技法 4(b) ドイツ語表現技法 4 フランス語 表現技法 2( ) 英語オーラル プレゼンテーション( ) (初級)	日向 三瓶 ルカルヴェ ファロン	英語テスト対策 TOEIC( ) 英語法律・法務 ( ) フランス語 表現技法 3( ) インドネシア語 ベーシック 2(b) インドネシア語 ベーシック 2	狩野 日向 ルカルヴェ 野村	中国語表現技法 2 ( Ⅸ 最上級)	蔣
火	英語アカデミック・ ライティング( )	和田	英語翻訳(b) 英語翻訳 英語テスト対策 TOEIC( )	アーマー 和田	ドイツ語 表現技法 5(b) 表現技法 5	ドゥッベル =タカヤマ	英語テスト対策 TOEIC( )	ハロウス
水			英語テスト対策 TOEFL( ) 中国語聴解 2( ) (最上級)	中村 山下	英語最上級 アドバンスト英語(b) 英語最上級 アドバンスト英語 ロシア語 表現技法 2( )	横川 宮澤	英語テスト対策 TOEIC( )	横川
木	フランス語 表現技法 4( )	ベリセロ						
金			インドネシア語 ベーシック 2(b) インドネシア語 ベーシック 2	トトク	ロシア語 表現技法 1( )	熊野谷	スペイン語表現技法 3 ( Ⅸ 上級)	安藤
土								

## 慶應義塾大学国際センター 在外研修プログラム

全学部および研究科に在籍している学生を対象に、夏季および春季休業中に海外で在外研修プログラムを開講しています。

これは、外国語による講義およびディスカッションのほか、大学内の寮生活などを初めとする多彩な諸活動を通して、さまざまな異文化交流を体験することで、国際性豊かな学生を育成することを目的としています。

短期間に質の高い充実した内容が盛り込まれていますので、海外生活体験をしたい方、外国語によるコミュニケーション能力向上を期待する方、将来長期の留学を考えている方などにとって、ふさわしい講座といえるでしょう。

形態は原則として、往復とも大学手配の航空便による団体旅行形式で、本学の教職員が同行する講座もあります。

また、現地への出発前には事前研修を実施します。(事後研修を実施する場合があります。)

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故並びに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。

問合せ先 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。

ガイダンス 4月4日(火) 藤沢 12教室 16:10~17:40 4月6日(木) 矢上 14-201教室 13:00~14:30  
4月5日(水) 三田 519教室 13:00~14:30 4月6日(木) 日吉 J11教室 17:00~18:30

夏季講座募集期間: 4月12日(水), 13日(木) 一次合格発表: 4月20日(木)

面接審査: 4月22日(土) 夏季講座選考結果発表: 4月28日(金)(予定)

### 慶應義塾大学 ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

ケンブリッジ大学は、オックスフォード大学と並ぶ英国の名門校で、美しいキャンパスは勉学に最適な環境にあります。

授業は英語による講義、ケンブリッジ大学在籍生を交えてのディスカッション、エッセイの作成・提出を中心としており、ケンブリッジ大学の教員が指導にあたります。

〔現地研修期間〕

2006年8月7日(月)~9月6日(水)(予定) 5月~7月に三田キャンパスにて事前研修を2回程度行います。

〔開講予定科目〕 6科目の中から3科目を選択して履修。

English Literature, History of Art, Ancient Greece and Western Civilization, Astronomy: Unveiling the Universe, The Science of Chaos, Evolution and Behavior (Zoology).

〔研修内容〕

講義(午前)、ケンブリッジ大生(TA: Teaching Assistant)を交えてのディスカッション(午後)、エッセイ作成・提出(週末)。

〔単位数〕

4単位 本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

〔募集人数〕60名

### 慶應義塾大学 ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

ウィリアム・アンド・メアリー大学は、米国東海岸ヴァージニア州ウィリアムズバーグにあり、教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。創立は1693年で、アメリカではハーバード大学について古い歴史を誇っています。

本講座は、毎年定められるテーマに沿った英語による講義、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション等で構成されています。また、大学内での寮生活や、講演会、ワシントンDC近郊の家庭でのホームステイ等を通じ、さまざまな異文化交流を体験することができます。

〔現地研修期間〕

2006年7月28日(金)~8月15日(火)(予定) 4月下旬より事前研修(6回程度)、帰国後には事後研修(2回程度)を行います。

〔研修内容〕

ウィリアム・アンド・メアリー大学の教員による講義および質疑応答、ダイアローグクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ワシントンDC近郊の家庭でのホームステイなど。

〔単位数〕

4単位 本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

〔募集人数〕40名

## 慶應義塾大学 ワシントン大学夏季講座

ワシントン大学はアメリカ北西部ワシントン州シアトルにある 1861 年に創立した歴史のある学校で、ワシントン州最大の大学です。豊かな自然に恵まれたキャンパスはとても広大で美しく、緑が多い環境の中で落ちついて学業に専念することができます。

「環境」を多面的な視点から学ぶ講義・ワークショップとディスカッションのほか、フィールドトリップ、ワシントン大学の学外施設を利用した実地自然体験宿泊旅行などをバランスよく配置しています。

なお、この講座には APRU (Association of Pacific Rim Universities, 環太平洋大学協会) 加盟大学から数名が参加する予定です。

### 〔現地研修期間〕

2006 年 8 月 19 日～9 月 9 日(予定) 5 月～7 月に事前研修を 2 回程度行います。

### 〔研修内容〕

講義/ワークショップ, ディスカッション, フィールドワーク, プレゼンテーション

体験宿泊旅行: レニア山, エコロジーウォーク(森林学), フライデー・ハーバー・ラボ(海洋学)

### 〔開講科目例(2005年度実績)〕

Urban issues and environmental concerns, Marine Conservation, fisheries, aquaculture, Biodiversity and the Urban Populace

### 〔単位数〕

4 単位 本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

### 〔募集人数〕30 名

## 慶應義塾大学 パリ政治学院春季講座

パリ政治学院は、フランスのエリート養成機関『グランゼコール』の 1 つで、フランス現大統領のシラク氏をはじめ、歴代の政界・財界の著名人の母校として大変有名です。

本講座は、加盟国の増大により拡大する EU の政治・社会・財政・文化の問題のみならず、EU 対アジアや EU 対米国の関係など、様々なテーマを取り扱う非常に中身の濃いプログラムになっています。

プログラム期間中に、各自が決めた研究テーマに沿ってエッセイを書き、プログラム修了時には、パリ政治学院からディプロマが授与されます。また、最終週にはベルギーの首都ブリュッセルにある EU の諸機関を実際に訪問し、EU の組織に対する理解を深める機会が設けられています。

講義はすべて英語で行われますが、午後にはフランス語の授業もありますので、2 カ国語を同時にマスターできるのもこの講座の魅力となっています。

プログラムの詳細は、11 月ごろ国際センターホームページで発表します。

### 〔現地研修 2005年度参考〕 2006 年 2 月 19 日(パリ)～2006 年 3 月 18 日

### 〔講義内容 2005年度参考〕

1. "The History of Europe: Once upon a time..."
2. "An introduction to European Institutions"\*
3. "European public Space and Democracy"\*
4. "National political parties and Europe: are they European?"
5. "The values of the European(s)"
6. "The latest EU enlargement: transition processes and successes of the integraion of formerly Socialist countries"
7. "The Challenges of a Common Immigration Policy"\*
8. "Joining the EU: is Turkey specific?"
9. "European welfare states"
10. "Is there a European capitalism?"
11. "The growth performances of European economies"
12. "Monetary governance in Europe"
13. "Fiscal governance in Europe"
14. "Public services in Europe"
15. "US/EU conflicts of values and/or conflicts of interest"\*
16. "The challenges of a European security policy"\*
17. "Europe and the Middle East Conflict"\*
18. "Ageing and generational equality in Europe"

単位取得: 4 単位(卒業に必要な単位として認められることがあります。ただし、次年度春学期設置科目として認定の為、参加時に最終学年の場合は対象外となります。)

定員: 30 名(うち 10 名は上智大学生)

## 国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国/地域は、米国、カナダ、オーストラリア、アジア、ラテンアメリカにおよび、EU 関係の講座も開講します。一方日本研究講座では、政治、経済、産業、文学、芸術、思想など幅広い側面から日本を探求します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生、大学院生、ならびに別科生（原則として新入生を除く）
2. 単位 各科目 2 単位  
（なお、医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません）
3. 手続方法  
履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。  
学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用してください。  
  
所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は、三田、日吉の国際センターで相談してください。
4. 受講料 無料
5. 掲示 休講などの連絡事項は、三田の国際センター掲示板に掲示されます。

平成 18 年度国際センター科目の履修取扱いについて

【国際研究講座】

学期	単位	科目名(Course Title)	担当者名(Lecturer)	法律学科	政治学科
春 Spring	2	東南アジア世界の諸相 WORLD OF SOUTHEAST ASIA	野村 亨 Nomura, Toru	自主選択科目	自主選択科目
春 Spring	2	異文化と自己理解 CULTURE AND THE UNCONSCIOUS	ショールズ, ジョセフ Shaules, Joseph	自由科目	自由科目
春 Spring	2	オーストラリア政治の今日的課題 CURRENT ISSUES IN AUSTRALIAN POLITICS	テリー, レス Terry, Leslie	自主選択科目	自主選択科目
春 Spring	2	世界政治におけるラテンアメリカ LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS	アントリネス, マリオ Antolinez, Mario	自主選択科目	自主選択科目
春 Spring	2	現代の国際問題と国連の役割 CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS	マリク, ラビンダー Malik, Rabinder	自主選択科目	自主選択科目
春 Spring	2	アフリカン イシューズ: アフリカにおける近代と危機の意味 AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA	近藤 英俊 Kondo, Hidetoshi	自由科目	自由科目
春 Spring	2	グローバルビジネスにおける革新と戦略 INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS	トビン, ロバート I. Tobin, Robert I.	自主選択科目	自主選択科目
春 Spring	2	現代ロシア研究 UNDERSTANDING RUSSIA	ナコルチェフスキー アンドリイ Nakortchevski, Andrei	自主選択科目	自主選択科目
春 Spring	2	アメリカ研究: アメリカの歴史・文化と外交政策 AMERICAN STUDIES: AMERICAN HISTORY, CULTURE AND FOREIGN POLICY	ウィリアムス ムケーシュ Williams, Mukesh	自由科目	自由科目
春 Spring	2	現代中国社会 CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY	ファーラー, グラシア Farrer, Gracia	自由科目	自由科目
秋 Fall	2	ドイツ文化と社会 GERMAN CULTURE AND SOCIETY	ワニェク, ヤクリーン Waniek, Jacqueline	自由科目	自由科目
秋 Fall	2	比較映画論: 映画における歴史の表象 VISIONS OF THE PAST: REPRESENTING HISTORY ON FILM	エインジ, マイケル Ainge, Michael W.	自主選択科目	自主選択科目
秋 Fall	2	グローバルヴィレッジ構築に向けて BUILDING THE GLOBAL VILLAGE	フリードマン デビッド Freedman, David	自主選択科目	自主選択科目
秋 Fall	2	カナダという国とカナダの国際的な役割 CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE	イエローリース ジェームズ Yellowlees, James	自主選択科目	自主選択科目
秋 Fall	2	文化・文化適応とアイデンティティ CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY	横川 真理子 Yokokawa, Mariko	自由科目	自由科目
秋 Fall	2	国際関係 INTERNATIONAL RELATIONS	セツ アフターブ Seth, Aftab	自主選択科目	自主選択科目
秋 Fall	2	開発と社会変容 DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE	倉沢愛子 Kurasawa, Aiko	自主選択科目	自主選択科目
秋 Fall	2	アジア諸国におけるビジネスマネジメント BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES	トビン ロバート I. Tobin, Robert I.	自主選択科目	自主選択科目
秋 Fall	2	国際開発協力論 INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION	後藤 一美 Goto, Kazumi	自主選択科目	自主選択科目
秋 Fall	2	現代インド事情 INDIA TODAY	セツ アフターブ Seth, Aftab 西村 祐子 Nishimura, Yuko	自主選択科目	自主選択科目
春 Spring	2	倫理学特殊講義演習 B SEMINAR: LECTURE OF ETHICS 1	樽井 正義 Tarui, Masayoshi エアトル, ヴォルフガング Ertl, Wolfgang	履修不可 (文学研究科設置科目のため)	
秋 Fall	2	プロジェクト科目・欧州統合 PROJECT: SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION	田中 俊郎 Tanaka, Toshiro 細谷 雄一 Hosoya, yuuichi	履修不可 (法学研究科設置科目のため)	
春 Spring	2	会計学 ACCOUNTING	伊藤 眞 Ito, Makoto	履修不可 (商学研究科設置科目のため)	
秋 Fall	2	金融特論 ADVANCED STUDY OF FINANCE	深尾 光洋 Fukao, Mitsuhiro	履修不可 (商学研究科設置科目のため)	
秋 Fall	2	国際経済 INTERNATIONAL ECONOMY	小島 明 Kojima, Akira	履修不可 (商学研究科設置科目のため)	
秋 Fall	2	E U・ジャパン・エコノミック・リレーションズ EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	嘉治 佐保子 Kaji, Sahoko 林 秀毅 Hayashi, Hideki	経済学部設置科目を履修	
春 Spring	2	産業史各論(科学技術政策史) HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY	ルイス, ジョナサン Lewis, Jonatha	商学部設置科目を履修	

\*国際人権法は、履修対象外

## 【日本研究講座】

学期	単位	科目名(Course Title)	担当者名(Lecturer)	法律学科	政治学科
春 Spring	2	異文化コミュニケーション1 INTERCULTURAL COMMUNICATION 1	手塚 千鶴子 Tezuka, Chizuko	自主選択科目	自主選択科目
春 Spring	2	英国と米国のマスコミに描かれた日本 JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION	キンモンズ, アール Kinmonth, Earl H.	自主選択科目	自主選択科目
春 Spring	2	源氏物語への道 THE TRAIL OF GENJI	アーマー, アンドルー Armour, Andrew	自主選択科目	自主選択科目
春 Spring	2	日本の経営 JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS	梅津 光弘 Umezu, Mitsuhiro	自主選択科目	自主選択科目
春 Spring	2	日本人の心理学(1): コンフリクト・マネイジメント JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (1): CONFLICT MANAGEMENT	手塚 千鶴子 Tezuka, Chizuko	自主選択科目	自主選択科目
秋 Fall	2	芸術と戦争 THE ART OF WAR	ドーシー, ジェームズ Dorsey, James	自主選択科目	自主選択科目
秋 Fall	2	近代日本の対外交流史 MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD	太田 昭子 Ohta, Akiko	自主選択科目	自主選択科目
秋 Fall	2	異文化コミュニケーション2 INTERCULTURAL COMMUNICATION 2	手塚 千鶴子 Tezuka, Chizuko	自主選択科目	自主選択科目
秋 Fall	2	日本キリスト教史 CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY	ボールハチェット, ヘレン Ballhatchet, Helen	自主選択科目	自主選択科目
秋 Fall	2	多民族社会としての日本 MULTIETHNIC JAPAN	柏崎 千佳子 Kashiwazaki, Chikako	自主選択科目	自主選択科目
秋 Fall	2	政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交 JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA: DECISION-MAKING, HISTORICAL MEMORY AND RACE	飯倉 章 Iikura, Akira	自主選択科目	自主選択科目
秋 Fall	2	日本の文学 JAPANESE LITERATURE	アーマー, アンドルー Armour, Andrew	自主選択科目	自主選択科目
秋 Fall	2	20世紀の日本と欧米の小説 TWENTY-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION	レイサイド, ジェイムズ Raeside, James M.	自主選択科目	自主選択科目
秋 Fall	2	家族の近代 THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE	ノッター, デビッド Notter, David	自主選択科目	自主選択科目
秋 Fall	2	国際経営比較: 日米企業を中心に INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS	吉田文一 Yoshida, Fumikazu	自由科目	自由科目
秋 Fall	2	日本の経済システムとその特殊性 STRUCTURE, POLICIES AND ETHOS OF THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM	伊藤 規子 Ito, Noriko	自主選択科目	自主選択科目
秋 Fall	2	日本人の心理学(2): 「甘え」再考 JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2): 'AMAE' RECONSIDERED	手塚 千鶴子 Tezuka, Chizuko	自主選択科目	自主選択科目
秋 Fall	2	美術を「よむ」- 日本美術史入門 INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN 村井 則子 Murai, Noriko	河合正朝 Kawai Masatomo	自主選択科目	自主選択科目
秋 Fall	2	日本の宗教: 救済の探求 RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION	ナコルチェフスキー, アンドレイ Nakortchevski, Andrei	自主選択科目	自主選択科目
秋 Fall	2	日本経済の展望 ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN	市川 博也 Ichikawa, Hiroya	自主選択科目	自主選択科目
秋 Fall	2	エコノミー・オブ・ジャパン ECONOMY OF JAPAN	吉野 直行 Yoshino, Naoyuki 嘉治 佐保子 Kazi, Sahoko	履修不可 (経済学研究科設置科目のため)	
春 Spring	2	ジャパニーズ・エコノミー JAPANESE ECONOMY	小島 明 Kojima, Akira	商学部設置科目を履修	
秋 Fall	2	科学技術文化特論 SCIENCE, TECHNOLOGY AND CULTURE	ドゥウルフ, チャールズ De Wolf, Charles	履修不可 (理工学研究科設置科目のため)	

## 【在外研修プログラム】

学期	単位	科目名	担当者名(Lecturer)	法律学科	政治学科
春	4	慶應義塾大学 - バリ政治学院 春季講座	岩谷 十郎・細谷 雄一	自主選択科目	自主選択科目
秋	4	慶應義塾大学 - ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ 夏季講座	R.B.ギブソン・伊藤 規子	自主選択科目	自主選択科目
秋	4	慶應義塾大学 - ウィリアム・アンド・メアリー大学 夏季講座	中野 誠・高橋 勇・原田 隆史	自主選択科目	自主選択科目
秋	4	慶應義塾大学 - ワシントン大学 夏季講座	河内 恵子	自由科目	自由科目

# 国際研究講座 ( INTERNATIONAL STUDIES )

東南アジア世界の諸相

( 春学期 ) ( Spring )

WORLD OF SOUTHEAST ASIA

野村 亨

総合政策学部教授

Toru Nomura

Professor, Faculty of Policy Management

---

**Sub Title:**

Understanding Contemporary & Historical Aspects

**Course Description:**

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

**Text Books:**

None. Handouts will be given from time to time.

**Reference Books:**

Several books will be suggested during the class.

**Class Schedule per week:**

1. Orientation
2. What is SEA ?
3. SEA & Japan
4. SEA & European Power
5. Nature and Climate of SEA
6. Languages of SEA
7. Music of SEA
8. Politics of SEA
9. Other aspects of SEA

Please note that above order may change with short notice. For further information, please ask the professor directly.

**Message to those taking this Course:**

Students are recommended to bring along a map of Asia and / or Southeast Asia in every session.

Classroom rules will be indicated at the first session.

**Grading Methods:**

In class Exams, Attendance, Participation

**Questions, Requests:**

Should be forwarded to : nomura@sfc.keio.ac.jp

No petition on scores will be acceptable.

---

異文化と自己理解

( 春学期 ) ( Spring )

CULTURE AND THE UNCONSCIOUS

シヨールズ, ジョセフ

国際センター講師 ( 立教大学助教授 )

Joseph Shaules

Lecturer, International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

---

**Sub Title:**

Looking for the hidden roots of cultural difference

**Course Description:**

Culture has two sides, a visible side — food, clothing, architecture — and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

**Text Books:**

Handouts to be supplied by the teacher.

**Reference Books:**

- 1) Different Realities — Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do.
- 2) Riding the Waves of Culture, by Trompenaars and Hampden-Turner, published by McGraw Hill

**Class Schedule per week:**

1. Class introduction
2. The discovery of hidden culture — Mead, Sapir & Whorf, Hall
3. A model of hidden culture — The onion model.

4. Student presentations
5. Cultural in human relations — independence and cooperation
6. Culture, emotion and self-expression — How we show feelings
7. Culture and status — Who is important and why ?
8. Student presentations
9. Culture and gender — Gender separate vs. gender similar
10. Different modes of time — polychronic and monochronic
11. Student presentations
12. Final class

**Message to those taking this Course:**

This course is designed for students who have an interest in understanding people. An important part of our identity and values comes from how we were raised — in particular, the hidden values and assumptions of our culture. To understand this hidden side of ourselves, we must examine not only cultural difference, but our own personality. There will be lectures, discussion, and students presentations.

**Grading:**

Grades will be based on attendance, in-class presentations and a short final exam.

オーストラリア政治の今日的課題

( 春学期 )( Spring )

CURRENT ISSUES IN AUSTRALIAN POLITICS

テリー , レス

Leslie Terry

国際センター講師 ( ビクトリア工科大学文学部助教授 )

Lecturer International Center (Senior Lecturer, Faculty of Arts, School of Social Sciences, Victoria University of Technology)

**Course Description:**

This offering will explore the changing face of government in contemporary Australia. Students will be introduced to the basic structures and workings of this country's political culture, the nature of its political parties and lobby groups, as well as the key debates in current government policy. A major focus of this unit will be to highlight the impact of the recent shift from post-1945 social-welfare policies to market-driven forms of governance in the 1990s. Central to the course will be a discussion of the 'public' versus the 'private' forms of citizenship in Australia. Students will be introduced to a range of current debates around multiculturalism, innovations in education and changing industrial relations. The course will use a variety of sources including current material from the media to provide students with the opportunity to compare issues of governance in Australia and Japan.

**Class Schedule per week:**

- Week 1 Lecture and discussion: Introduction <Articles>
- Week 2 Lecture and discussion: Key issues in Australian government <Articles, charts demographic material>
- Week 3 Video: *The Castles* or *The Bootman*: The Australian state in transition <Video>
- Week 4 Lecture/presentation: Governing the Australian citizen 1 (Social democracy) <Articles>
- Week 5 Lecture/presentation: Governing the Australian citizen 2 (Liberalism and Neo-Liberalism) <Readings, articles>
- Week 6 Lecture/presentation: Oppositional Social Movements and political parties <Readings, articles>
- Week 7 Film: *Looking for Alibrandi*: Governing Cultural identities and ethnic difference <Readings, articles>
- Week 8 Lecture/presentation: Multiculturalism and its future <Readings, articles>
- Week 9 Lecture/presentation: Managing the population: debates on the immigration (refugees, ageing population) <Articles, readings>
- Week 10 Lecture/presentation: Shaping the citizen: debates in education <Articles, readings>
- Week 11 Lecture/presentation: Changing working life in Australia <Readings, articles>
- Week 12 Lecture and discussion: Overview of the issues <Notes and readings>
- Week 13 Test and Evaluation

**Grading Methods:**

Exam, Report, Attendance, Participation, Other

世界政治におけるラテンアメリカ

( 春学期 )( Spring )

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

アントリネス , マリオ

Mario Antolinez

国際センター講師

Lecturer, International Center

**Course Description:**

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

**Text Books:**

Hillman Richard, "Understanding Contemporary Latin America". Lynne Rienner Publishers, 2001.

**Reference Books:**

- Atkins Pope, "Latin America in the International Political System". Westview Press, 1995.  
Black Knippers Jan, "Latin America: Its Problems and Its Promise". Westview Press, 1998.  
Calvert Peter, "The International Politics of Latin America". Manchester University Press, 1994.  
Cortes Roberto, "The Latin American Economies". Holmes & Meir, 1985.  
Child Jack, "Geopolitics and Conflict in South America". Praeger, 1985.  
Lael Richard, "Arrogant Diplomacy". Scholarly Resources, 1987.  
Levine Donrel, "Religion and Politics in Latin America". Princeton University Press, 1981.  
Lowenthal Abraham, "Partners in Conflict: The United States and Latin America". Johns Hopkins University Press, 1990.  
Molineu Harold, "U.S Policy toward Latin America: From Regionalism to Globalism", Westview Press, 1990.  
Peeler John, "Latin American Democracies". University of North Carolina Press, 1983.  
Rosenberg Mark, "Americas: An Anthology". Oxford University Press, 1992.  
Smith Peter, "Modern Latin America". Oxford University Press, 1997.  
Tokatlian Juan, "Teoria y Practica de la Politica Exterior Latinoamericana", 1983.  
Wesson Robert, "U.S. Influence in Latin American in the 1980's. Praeger.

**Class Schedule per week:**

PART I

- Session 1: Introduction  
Session 2: The Actors  
Session 3: The Inter-American System  
Session 4: Latin American Integration and Association  
Session 5: Economic Outlook  
Session 6: International Relations  
Session 7: Latin America and the United States

PART II

- Session 8: Mexico and Brazil: The Regional Giants  
Session 9: Cuba: The Socialist Way  
Session 10: The Andean Region: Breakdown and Recovery  
Session 11: The Southern Cone: Authoritarianism and Democracy  
Session 12: Central America: Dictatorship and Revolution  
The Caribbean: Colonies and Micro-states  
Session 13: Final Exam

**Grading:**

The course is organized as a combination of lecture and seminar, and will be conducted in English. Performance will be evaluated on the basis of attendance (30%), class participation (20%), oral presentation (20%) and a final exam (30%).

---

現代の国際問題と国連の役割

( 春学期 )( Spring )

CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS

マリク, ラビンダー 国際センター講師 ( 元国連大学学長室長 )

Rabinder N. Malik Lecturer, International Center (Former Executive Officer, Office of the Rector, United Nations University)

---

**Sub-title:**

Multi-disciplinary approach to the study of major global issues that confront the world community in the 21st century, and the role of the United Nations and International Organizations in addressing these issues.

**Course Description:**

A critical review and assessment will be undertaken of the origin and present condition of the major global issues and problems and how these are being addressed by the national governments and the international community. Special attention will be paid to the role of the United Nations and other International Organizations as a tool of global governance in addressing these issues. We shall also explore ideas and concepts of peace and security, human rights, coexistence among peoples of different cultures and other critical global issues such as poverty eradication, environmental degradation, aging society and gender issues.

The objective of the course, which is suitable for students from all faculties, is to enable the students to gain a better understanding of the world around them and about the role of the United Nations so that they are able to evaluate current and future international trends and to formulate their own well thought-out opinions based on facts. It should help enhance their trans-cultural literacy and competence and enable

them to interact with confidence with peoples of different cultural backgrounds and orientations in an interdependent and interlinked world. Group discussions will be an important part of the course, which will be conducted in English.

#### **Text Books:**

No specific text books. Photocopied handouts will be distributed as appropriate and relevant. Students will be encouraged to get into the habit of reading a daily newspaper or a weekly magazine and catch the news on radio and television so that they can participate actively and meaningfully in the discussion of contemporary issues. Group discussions and assignments will rely heavily on material obtained from such sources.

#### **Reference Books:**

- (1) Charter of the United Nations, UN, New York
  - (2) UN Millennium Declaration, Resolution 55/2, UN General Assembly, 55<sup>th</sup> Session, Sept. 2000
  - (3) A More Secure World: Our Shared Responsibility; Report of the High-Level Panel on Threats, Challenges and Change, UN, December 2004
  - (4) In Larger Freedom: Towards Development, Security and Human Rights for All, UN Secretary-General, April 2005
  - (5) Relevant publications, reports and documents issued by the United Nations and United Nations University
  - (6) Newspaper articles and journals related to the topics covered by the course
- (Some of the above documents can be accessed through the website <http://www.un.org>)

#### **Class Schedule per week:**

- Week 1:* INTRODUCTION TO THE COURSE AND OVERVIEW OF THE CURRENT GLOBAL SCENARIO  
*Week 2:* GLOBAL INTERCONNECTEDNESS AND NEED FOR INTERNATIONAL COOPERATION  
*Week 3:* THE UNITED NATIONS AND ITS ORGANS (UNITED NATIONS CHARTER)  
*Week 4:* THE UNITED NATIONS AND ITS ORGANS (Continued)  
*Week 5:* OTHER INTERNATIONAL AND REGIONAL ORGANIZATIONS  
*Week 6:* INTERNATIONAL PEACE AND SECURITY  
*Week 7:* SOCIAL AND ECONOMIC DEVELOPMENT (MILLENNIUM DEVELOPMENT GOALS)  
*Week 8:* GLOBAL ENVIRONMENTAL SUSTAINABILITY  
*Week 9:* HUMAN RIGHTS (UNIVERSAL DECLARATION OF HUMAN RIGHTS)  
*Week 10:* WOMEN AND DEVELOPMENT  
*Week 11:* AGING SOCIETY  
*Week 12:* REFUGEES AND MIGRATION  
*Week 13:* FINAL REPORTS AND EVALUATION

#### **Message to those taking this Course:**

This course is good for those who wish to improve their ability to communicate in English and be able to discuss about international issues with confidence. Regular attendance and active participation in the class discussions will be important. Students should do some prior reading or internet search on the topics under discussion as I would expect students to make comments, ask questions and speak freely in the class.

#### **Grading Method:**

- (1) There will be no examination but all students will be expected to write a final report based on readings, lectures and discussions covered during the period.
- (2) Participation in group discussions and individual assignments will also be considered in grading.
- (3) Attendance will be an important part of the consideration for grading.

#### **Requests, Questions:**

If students have any questions or problems in the course, they should feel free to talk to me before or after the class or send me an email at: [rabindermalik@hotmail.com](mailto:rabindermalik@hotmail.com)

I look forward to working with you this semester!

---

国際人権法

(春学期)(Spring)

INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW

細谷明子

国際センター講師

Akiko Hosotani

Lecturer, International Center

---

#### **Sub Title:**

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

#### **Subject of the class:**

Students will study five different aspects of international human rights including:

- (1) Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.
- (2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human

- Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization
- (3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India
  - (4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.
  - (5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

**The principal book:**

David Weissbrodt, Joan Fitzpatrick, and Frank Newman, International Human Rights: Law, Policy and Process (3<sup>rd</sup> ed. 2001) and supplement Selected International Human Rights Instruments and Bibliography for Research on International Human Rights Law

**Assignments:**

Assignments are listed below as to each class session:

- Apr. 12: Preface and Chapter 1: Introduction to International Human Rights Law and Drafting Human Rights Treaties
- Apr. 19: Chapter 4: Ratification and Implementation of Treaties; the Covenant on Economic, Social, and Cultural Rights
- Apr. 26: Chapter 5: State Reporting under International Human Rights Treaties; Cultural Relativism
- May 10: Chapter 6: What U.N. Charter-Based Procedures are Available for Violation of Human Rights ?
- May 17: Chapter 7: Humanitarian Intervention
- May 24: Chapter 8: Can Human Rights Violation Be Held Accountable ?; Guest speaker, or; Documentary, Long Night's Journey into Day (South African Truth Commission)
- May 31: Chapter 9: International Human Rights Fact-Finding  
Fact-Finding role play, or Guest Speaker to be announced
- Jun. 7: Chapter 10: How Can the Government Influence Respect for Human Rights in Other Countries ?
- Jun. 14: Chapter 11: Inter-American Human Rights System; the Organization of African Unity
- Jun. 21: Chapter 12: European Human Rights System
- Jun. 28: Chapter 13: Domestic Remedies for Human Rights Violations; Enforcing International Human Rights in Japan's Courts, Legislature and Administration
- Jul. 5: Chapter 15: Refugee and Asylum Law; Jurisprudence of Human Rights; Cultural Relativism
- Jul.12: Questions & Answers for reviewing the exam

**Comment on the Class:**

The class encourages students to analyze case situation and to evaluate the most effective methods to prevent human rights violations. Because of the evolving nature of the laws and issues in this field, students can participate as strategists and investigators.

**Grading Policy:**

Students will receive their grade for the course based on (1) class attendance (10%), (2) significant contribution to class discussion (10%), (3) an essay (30%), and (4) a final Exam (50%).

**Office Hours:**

Wednesday, 1-3 p.m. or by appointment

アフリカン イシューズ : アフリカにおける近代と危機の意味

( 春学期 )( Spring )

AFRICAN ISSUES

近藤英俊

国際センター講師 ( 関西外国語大学助教授 )

Hidetoshi Kondo

Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

**Sub Title:**

The Challenge of Communities — Beyond Postcolonial Situation

**Course Description:**

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on problems and possibilities associated with communities in contemporary Africa. From political conflicts to development projects, many of social issues seem to have increasingly been revolving around communities in Africa over the last few decades. The saliency of communities seems to have much to do with so called postcolonial situation in which the decline of state power has contributed to the activation of various communal ties and there exists complex flow of plural cultures and identities. But communities here does not necessarily subscribe to the conventional view of closed social groups. They harbour contradictory features: some are fluid, ephemeral and borderless while others are exclusive, sustainable and concerned with boundary.

Using wide range of academic disciplines, we will examine: (1) theoretical issues on communities, (2) the features of communities and their changes in the light of postcolonial situation in Africa, (3) relationships between conflicts and communities, and (4) relationships between development and communities. The course attempts to highlight not only despair but also hope that African communities promise.

**Text Books:**

Texts will be distributed in due course.

**Reference Books:**

References will be suggested in due course. However the following will be included:

1. Trager, L. 2001 *Yoruba Hometowns*. Linne Tienner
2. 野元美佐 2005 『アフリカ都市の民族誌』 明石書店
3. 松田素二 1996 『都市を飼い慣らす』 河出書房新社
4. Kondo, H. 2003. 'Illness in Between'. *Japanese Review of Cultural Anthropology* 4

**Class Schedule:**

I. Introduction: Communities in Postcolonial Africa (1 session)

II. The Making and Unmaking of Communities (4 sessions)

1. Communities without Boundary
2. Invention of Kingdom
3. Plural and Shifting Identities

III. Conflicts, Identity Politics and Communities (4 sessions)

1. Instrumental Ethnicity vs Cultural Tradition
2. Politics over Autochthony
3. Religious Fundamentalism and the Youth
4. Crises of Trust and Identities

IV. Development and Communities (4 sessions)

1. Voluntary and Saving Associations
2. Elite and Local Development
3. International Organizations, State and Communities in the arena of Development

**Message to those taking this Course:**

The course comprises lectures and class works. For class works, students are required to read and summarise a part of books or articles (minimum 30 pages per week) before attending the class. In the class, students will discuss their readings in a small group and then present it in front of all the rest. This is by no means an easy course!

**Grading Methods:**

Assessment is based on active participation in class works and an essay (3000 words) submitted at the end of the term.

---

グローバルビジネスにおける革新と戦略

( 春学期 )( Spring )

INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS

トビン , ロバート I.

商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

---

**Course Description:**

This course examines successful innovations in global organizations-including market-changing products, inventive approaches to leadership and work, synergy between technology and product development, and the crafting, implementing and executing of business strategy. Ideas, customers, leadership, technology, markets, and talent are all part of the mix when companies innovate and craft business strategy—and will be examined in this course.

Students will develop the skills and tools that are critical for inventing and utilizing new business concepts, re-inventing old ones, and making innovation part of their lives.

The course will be conducted seminar -style with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments.

**Text Books:**

- Leading the Revolution by Gary Hamel
- Supplementary Reading Materials and Case Studies
- Additional Book To Be Assigned

**Reference Books:**

Students are encouraged to read related materials in The Asian Wall Street Journal, Business Week, and Fast Company and to watch related business television broadcasts.

**Class Schedule per week:**

List of Topics:

- Introduction: Time of Change & Innovation
- Trends In International Business Leadership /and Strategy

- Encouraging Ideas / Innovation
- What to Do About Decaying Strategy
- How to Become A Global Innovator
- New Market Expansion and Entry
- U.S. ,China, Thailand, Japan
- Global Leaders/Global Partnerships
- A look at Global Leaders
- Global Companies/Working Overseas
- Impact and Meaning of Anti-Globalization Forces
- Creativity in Leadership
- Future of International Business

Additional information about this course available at [www.tobinkeio.com](http://www.tobinkeio.com)

#### **Message to those taking this Course:**

A challenging, innovative course designed to encourage you to think in new, innovative ways. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No business background is necessary. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

#### **Grading:**

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

#### **Questions, Requests:**

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

Open to enrolled undergraduate and graduate students only.

現代ロシア研究

( 春学期 )( Spring )

UNDERSTANDING RUSSIA

ナコルチェフスキー , アンドリイ

文学部助教授

Andrei Nakortchevski

Associate Professor, Faculty of Letters

#### **Course Description:**

The main purpose of this course is an attempt to understand contemporary Russia, to understand people who live in this still somewhat enigmatic land in the context of its own history of contacts with other nations. This course will not be a standard course in history and culture. We will talk more about things which usually remain unsaid in academic papers — about how average Russians live, what they like and dislike, what they value and what they hate. We will try to comprehend a legendary “enigmatic soul” of Russians, to enter their inner world and look at it from within. We will also discuss general features of unique Russian civilization developed geographically and culturally between East and West. We will try to understand Russia escaping any distortions as best we can, using a lot of video materials as illustrations and sometimes as a base for discussion.

What does it mean to be a Russian ? This will be the main question to which we will try to find an answer during these classes.

#### **Class Schedule:**

1. Introduction
2. The starting point of Russian history: the problem of Kievan Rus heritage
3. Orthodox Christianity: its origin and role in Russian history
4. Traditional Moscovia and imperial Russia: choices of Alexander Nevski and Peter The Great
5. Russia and Europe: Slaphophiles and Westernisers
6. Ukraine: the alternative model of development
7. Russian classical literature: main features and ideas
8. Russian Idea: utopia or self-indulgence
9. 19th century failed modernization and 1917 Revolution
10. New empire: the socialist experiment
11. Perestroika: new possibilities or disaster ?
12. Future of Russia in a geopolitical perspective

#### **Grading Methods:**

Presentation and participation

## AMERICAN STUDIES

ウィリアムス, ムケーシュ 国際センター講師  
Mukesh K. Williams Lecturer International Center

**Sub Title:**

American History, Culture and Foreign Policy

**Course Description:**

**Rationale:** After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand American history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies within their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil rights, sovereignty, representation, democracy and religion to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the inter-disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America.

**Course Outline:** The course will introduce 4 modules, each module containing a big idea namely:

1. Nation and Narration: constructs the Pocahontas story/myth; human arrival in North America; Native American life; the Americas, West Africa and Europe on the eve of contact; American industrial heritage; the work of Samuel Slater in the late eighteenth and early nineteenth centuries in Pawtucket in constructing industrial America.
2. Immigration and Cultural Change: 'Old' and 'New' immigration; the world of the immigrants; a new working class; the limits of mobility and ethnic diversity; the Chinese Exclusion Act; new forms of leisure and mass entertainment; the American Dream; 1965 Immigration Policy; multiculturalism and identity politics.
3. National and International Identities: Reconstructing World War II, American neutrality and the road to war; post-war economic boom, the rise of consumer society; the crabgrass frontier; the Baby Boom; the birth of television and the influence of advertising; roles of women and *The Feminine Mystique*; the Korean War; the arms race; the Red Scare and McCarthyism; the early civil rights movement; teen rebellion and rock'n roll; the media and Vietnam War; rise of CNN.
4. American Foreign Policy—Neutrality to Involvement (1865-1917); Early American isolationism, moral foreign policy; postwar naval/air supremacy (1920-2004), manifest destiny, American unilateralism, America as the policeman of the world, clash of civilization and war on terror.

The course will help students to confront the contradictions and inherent tensions in the American narrative without the false hope of an easy solution. We will not fail to discuss democratic aspirations, concepts of justice, American solidarity/Christian and Islamic divide and evolving nations of national identity. Along the way we would also question the methods and perspectives by which we study our subject by asking some of the following questions:

- a) How do Americans think of themselves as a nation and the rest of the world? And how do people from other nations think about America? (Samuel Huntington, *The Clash of Civilization*; radical evil/Christian good; liberal/democratic frameworks—Richard Bernstein, *Radical Evil*)
- b) How is space constructed in the lives of individuals in America? How changes brought in by pre-industrial, industrial and post-industrial societies reconstituted the lives of people in the U.S.? (Vertical/horizontal expansion; notions of bigness/assertion; David Reisman, *The Lonely Crowd*; national parks—European signatures/Native American erasures—Yosemite and Yellowstone National Park)
- c) What are the popular methods of understanding the culture and society of America? (Clifford Geertz and others)
- d) How do we imagine the past and its effects on social and cultural representation? (Hayden White, Stuart Hall and David Hollinger)
- e) How do the concepts of American unilateralism and manifest destiny define American foreign policy?
- f) Is the rise of the modern West a pure or impure concept? (Chris Bayly and Bernal)

**Aims:** The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
2. learn new concepts, methods and vocabulary
3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
5. develop skills to write/think purposefully and strategically
6. acquire the habit to pursue knowledge independently and scientifically

**Text Books:**

<TEXTBOOK> Howard Zinn, *A People's History of the United States 1492-Present (Perennial Classics)*, (New York: Harper Perennial, 2003); Price 12.89 USD.

<REFERENCE BOOK> David Colbert ed., *Eyewitness o America: 500 Years of American History in the Words of Those Who Saw it Happen*, (New York: Vintage, 1998); Price 12.21 USD.

## Reference Book:

Short selections from the following books and essays:

Richard J. Bernstein, *Radical Evil: A Philosophical Interrogation*, (Cambridge: Polity Press, 2002)

*The New Constellation: Ethical-Political Horizons of Modernity/Postmodernity*, rpt., 1998; (Cambridge, Massachusetts: The MIT Press, 1992).

Julia Kristeva, *Nations Without Nationalism*, (New York: Columbia University Press, 1993)

Samuel Huntington, *The Clash of Civilization and the Remaking of World Order*, (New York: Touchstone, 1997).

Clifford Geertz, *The Interpretation of Culture*, (New York: Basic Books: 1973).

*Available Light: Anthropological Reflections on Philosophical Topics*, (Princeton: Princeton University Press, 2000).

Todd Gitlin, *The Twilight of Common Dreams: Why America is Wracked By Culture Wars*, New York: Henry Holt & Company, 1995).

David A. Hollinger, *Postethnic America*, (New York: Basic Books, 1995).

Giles Gunn, "Introduction: Globalizing Literary Studies," *The Modern Language Association of America*, 2001, pp. 16-31.

Rober Young, *White Mythologies: Writing History and the West*, rpt 2003; (London: Routledge, 1990).

Tzvetan Todorov, *The Conquest of America: The Question of the Other*, (Norman: The University of Oklahoma Press, 1999).

Stuart Hall, *Representation: Cultural Representations and Signifying Practices*, (London: Sage, 1997).

David Reisman, *The Lonely Crowd*, (New Haven: Yale University Press, 2001).

Werner Sollors ed., *Theories of Ethnicity: A Classical Reader*, (London: Macmillan Press, Ltd., 1996).

Charles Taylor, *Multiculturalism: Examining the Politics of Recognition*, (Princeton: Princeton University Press, 1994).

## Class Schedule per week:

1<sup>st</sup> Week: Shopping

2<sup>nd</sup> Week: Introduction to the course, handouts, a short reading list; Imagining the nation—European and Native American ideas. Extract from Todorov's *The Conquest of America*; Sollors, *Theories of Ethnicity*; de Tocqueville, *Democracy in America*,

3<sup>rd</sup> Week: 3 Worlds Meet—Europe, West Africa and Native Indian—Video Script. Disney imagining Pocahontas—multicultural, racial (anti-British and anti-Indian) and feminist issues

4<sup>th</sup> Week: Immigration and Cultural Change, video; OMD Directive 15. Immigrant writers such as Saul Bellow/Malamud Isaac Singer/Anzia Yezeriska, Toshio Mori, Hisaye Yamamoto, John Okada, Jhumpa Lahiri, Amy Tan et. al. Handout: Giles Gunn, "Globalizing Literary Studies."

5<sup>th</sup> Week: A brief discussion of topics of presentation such as European pioneers, Native American concept of land/music/family life/politics, immigrants/ multiculturalism/working class life in big cities (Reisman, *The Lonely Crowd*); personal is political, civil rights movement—Malcolm X/Martin Luther King/FBI; Japanese Americans/Internment camps/loyalties etc. Choose topics for presentation.

6<sup>th</sup> Week: Make small groups (about 2/3 students) to discuss presentation topics followed by question-and-answer discussion session. Summing up—representation of social and political reality. Create a format for presentation/outline.

7<sup>th</sup> Week: World Wars I and II/Postwar America. Extracts from Gitlin and Hollinger; Show all three videos (if time permits).

8<sup>th</sup> Week: Readings from speeches of Malcolm X and Martin Luther King Jr.. A discussion of Harlem and the First Abyssinian Church, New York; Handout from Stuart Hall, *Representation*; Taylor and Appiah, *Multiculturalism*.

9<sup>th</sup> Week: American Foreign Policy: Show video US and the World (1865-1917); extract from Huntington's *The Clash of Civilization*.

10<sup>th</sup> Week: Henry Kissinger and others on American Foreign Policy

11<sup>th</sup> Week: End-Semester Presentation and 4-page final report

12<sup>th</sup> Week: End-Semester Presentation and 4-page final report

13<sup>th</sup> Week: End-Semester Presentation for latecomers/course evaluation

## Message to those taking this Course:

Please read the handouts and textual material at home so that you are better prepared to discuss topics in class more enthusiastically and creatively.

## Grading Methods:

1. End-Semester Class research-based presentation in class (60% credit)
2. End-semester 4-page report on the topic chosen for presentation (20 % credit), homework based on the text/supplementary material (10% credit)
3. Attendance, Participation 10 % credit

---

現代中国社会

( 春学期 ) ( Spring )

CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY

ファーラー , グラシア

国際センター講師

Gracia Liu Farrer

Lecturer, International Center

---

## Course Description:

This course surveys the post-1978 Chinese society, focusing on social issues under the market reform and conditions of increasingly globalized economy. China's transition to a market-oriented society has effected fundamental changes in the lives of its citizens. This class covers topics such as regional economic disparities, changing patterns of employment and unemployment, gender inequality, and both internal

and international migration. We will ask: How are women and men faring differently in China's new labor market and workplaces? Are rural peasants and the emerging underclass of urban laid-off workers being left behind by market transition? How are minorities faring in China's transition? How does the emerging digital divide play into the dichotomies of east-west and urban-rural in China? What is the plight of millions of "floaters" migrating into China's cities, with minimal legal rights and protections? How has the one-child policy affected women, children, and society in China? The objectives of the course are 1) to offer exposure to a broad overview of social issues in contemporary China, and 2) to familiarize students with available resources for learning about Chinese society. The class will combine lectures, academic readings, narrative accounts, films, and discussions.

**Text Books:**

Wenfang Tang and William L. Parish.2000. *Chinese Urban Life under Reform: The Changing Social Contract*. University of California Press.

Deborah Davis.2002. *The Consumer Revolution in Urban China*. University of California Press.

Electronic copies of *China Quarterly*, *Journal of Contemporary China*, and other social science journals that would be sent to student via email.

**Reference Books:**

Solinger, Dorothy J. 1999. *Contesting Citizenship in Urban China: Peasant Migrants, the State, and the Logic of the Market*. Berkeley: University of California Press.

**Class Schedule per week:**

**Week 1. Class Orientation**

1. Introduction of the course
2. Collect topics of interests
3. Brief introduction of pre-1949 Chinese history

**Week 2. Mao, social movements and the transformation of Chinese society- overview of China between 1949-1978**

1. Brief review of the political campaigns and social changes that transformed the Chinese society in the 1950s,1960s and 1970s
2. The rural and urban divide
3. Social mobility

**Week 3/4. The State and Society in Post-Reform China**

1. The changing social structure: 1978 to present
2. The work-unit system and the organized dependency
3. The rise of the individual and the decline of collectivism

**Week 5/6. Reforms and Urban Social Change**

1. The impacts of market economy on urban space
2. Growth and unemployment
3. Changing patterns of consumption

**Week 7. Mid-term**

**Week 8. The plight of Rural Population**

1. Economic restructuring and rural poverty
2. The development of rural economy
3. The problem of social welfare

**Week 9. The Internal Rural Urban Migration**

1. The floating population and the social problems

**Week 10. Women in Post-reform China**

1. Women and Urban Socio-Economic Change
2. Women in Rural Development

**Week 11. Family Planning and One Child Policy**

**Week 12. The Changing Popular Culture**

**Week 13. Out-migration and Transnationalism**

**Grading Methods:**

1. Exam: One mid-term exam 25% and one final exam 25%
2. Reports: One 10-page research paper on one specific issue area covered in the course. 25%
3. Class Participation : 25%

---

ドイツ文化と社会

GERMAN CULTURE AND SOCIETY

ワニェク, ヤクリーン

Jacqueline Waniek

国際センター講師

Lecturer International Center

---

( 秋学期 )( Fall )

**Sub Title:**

Introduction to German culture, educational and political system, and historical challenges

**Course Description:**

The objective of this course is an introduction to the history, social, political and educational systems of Germany. Emphasis will be placed on

contemporary public issues such as the German reunification, Germany's role in the international community and Germany's aging society. By means of discussions, lectures, reading, writing and class presentations, students will reflect the German national character with that of contemporary Japanese.

**Text Books:**

O'Dochartaigh, P. (2004). *Germany Since 1945 (Studies in Contemporary History)*. New York: Palgrave Macmillan.  
<http://www.deutschland.de/home.php>

**Reference Books:**

Flippo, H. (2002). *When in Germany, Do as the Germans Do*. McGraw-Hill

**Class Schedule per week:**

1. Introduction
  2. Demographic data, geography, climate
  3. History of Germany
  4. Challenges through German reunification
  5. Germany and Europe
  6. Social structure
  7. Demographic changes
  8. Political System
  9. Educational System
  10. Science and Technology
  11. Culture and Traditions 1
  12. Culture and Traditions 2
- Final class

**Message to those taking this Course:**

Students are strongly encouraged to contribute to the class by active participation in group work, and discussions.

**Grading Methods:**

1. Exam ( Final Exam 30% )
2. Reports ( none )
3. Attendance, Participation ( regular attendance 50% )
4. Other ( group project presentation 20% )

比較映画論:映画における歴史の表象

( 秋学期 )( Fall )

VISIONS OF THE PAST: REPRESENTING HISTORY ON FILM

エインジ, マイケル W.

経済学部助教授

Michael W. Ainge

Associate Professor, Faculty of Economics

**Course Description:**

Films about the past are often dismissed by historians as trifles. In this course, we will consider the conventions of various styles of representing history on film, including American forms such as Hollywood Historical Drama and Documentary, as well as other styles from other countries. Close readings of historical texts and of the filmed versions of those events will provide a window into the strengths and limitations of both media. We will consider whether representing the historical past on film necessitates simplification, distortion and/or falsification of the facts? How about the case of post-colonial societies struggling to retrieve lost or obscured histories? How does film effect memory, both collective and personal? These and other questions will constitute the core of our discussions.

**Text Books:**

Readings on the periods and/or episodes depicted in the films, as well as on the historical film. Copies will be distributed in class

**Class Schedule per week:**

Unit & Dates	Topic(s)Film Title	Readings
1. Sept.25	Introduction: Representing History in Text and on Film	
2. Oct.2-16	Hollywood Styles I: The Documentary	<i>Hearts &amp; Minds</i> (ハーツ・アンド・マインズ)(USA, 1975)
3. Oct.23-30	Hollywood Styles II: The Historical Drama	<i>The Last Samurai</i> (ラスト・サムライ)(USA, 2003)
4. Nov.6-13	Non-Hollywood Styles I: Tropicalism	<i>Quilombo</i> (キロンボ)(Brazil, 1984)
5. Nov.27-Dec.4	Non-Hollywood Styles II: Griot	<i>Ceddo</i> (チェド)(Senegal, 1978)
6. Dec.11-18	Anti-Hollywood Styles I: Post-modernism	<i>Walker</i> (ウォーカー)(UK, 1987)
7. Jan.8-15	Anti-Hollywood Styles II: Personal Essay	<i>Sans Soleil</i> (サン・ソレイユ)(France, 1982)

**Grading Methods:**

1. Reports ( **Short essays, 10%; Final Paper 50%** )
2. Attendance, Participation ( **40%** )

### Course Description:

[HTTP:// WWW.SFC.KEIO.AC.JP/SOUTHAFRICA/](http://www.sfc.keio.ac.jp/southafrica/)

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term “culturomics” was coined to define how various intellectual disciplines need to combine in order to offer a fuller world view. This is course will be an introduction for students interested in issues affecting global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the S.A.D.C. group, (<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa.

The course will focus the geo-political area of southern Africa, and the issues that such regions face as they plan seek to integrate their local economies and to connect to the “global village.” Speakers from the various embassies of the S.A.D.C. group will be invited to speak on the theme of global economy, culture and change and the impact of Japanese policies within the region.

As the countries of sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the New Partnership for Africa's Development a major part of its international policy. Two years ago at the third Tokyo International Conference on African Development Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged \$1 billion for education and health care in Africa making Japan one of the major aid donors for Africa. This government interest has led to a variety of efforts to make the connections between southern Africa and Japan more multi-dimensional, and include both large-scale and small scale investment, tourism and educational connections and N.G.O. endeavors. ( [http://www.ajf.gr.jp/old/english/ajf\\_update.htm](http://www.ajf.gr.jp/old/english/ajf_update.htm) )

Each student will be expected to join a study group that will focus one of the African countries represented by the speakers. The groups will research and present on the ties and programs between their focus country and Japan. As a final project, each group will present a tentative plan to further develop the connections between Japan and their research country.

### Class schedule per week:

- Class 1: Introduction and Organization (all students planning to register must choose a study group on this day.)
- Class 2: A Short History of Africa / form country research groups
- Class 3: The economic consequences of Colonialism in Africa
- Class 4: TICAD / Japanese aid and large-scale investment projects – their value and impact in S.A.D.C.
- Class 5: Japan/ Africa tourism eco and main-stream / cultural and economic impact
- Class 6: mid-term, project check
- Class 7: Alternative models of small-scale investment (crafts and culture as export items)
- Class 8: N.G.O.s / education and other “cultural” contacts as components of Japan / Africa economic ties
- Class 9: Symposium prep
- Class 10: Evaluation of the symposium and some thoughts for the future
- Class 11-13 student presentations and final paper

### Grading:

As this is a lecture class attendance will be an important part of the grade. If a student is absent for 3 classes without an official excuse his/her grade will be lowered one level. If more than 4 class are missed, the student cannot pass the class. Along with the group work and presentation, each student will be expected to hand in a 3-4 page paper (single space, 12pt font separate bibliography) on the last day of class. The paper will focus on one aspect of Japan/Africa relations covered in the course.

### Resources:

Although there is no text, the following sites are required “surfing” for all students

<http://www.gca-cma.org/>

<http://www.southafrica.info/>

<http://allafrica.com/>

<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm> \* this site is required viewing before the second meeting!

African Health Resources

<http://www.sul.stanford.edu/depts/ssrg/africa/health.html>

[HTTP://WWW.LOVELIFE.CH/STOPAIDS.PHP](http://WWW.LOVELIFE.CH/STOPAIDS.PHP)

[HTTP://WWW.MALIDOMA.COM/MALIDOMA/](http://WWW.MALIDOMA.COM/MALIDOMA/)

SADC Symposium 2005

<http://sadcsympo.sfc.keio.ac.jp/>

**Note:**

The exact schedule of speakers and participating embassies will be announced at the first class.

---

カナダという国とカナダの国際的な役割

( 秋学期 )( Fall )

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

イエローリーズ, ジェームズ

国際センター講師 ( カナダ日本連盟日本代表 )

James Yellowlees

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

---

**Sub Title:**

Canada's Vast Potential

**Course Description:**

We will learn about the various key aspects of Canada as a nation, including the history, economy, society and international role of Canada. It is an interactive class so participants will be expected to contribute each class.

**Text Books:**

None, will be using handouts

**Reference Books:**

None, will be using handouts

**Class Schedule per week:**

1. Introduction to Canada/What are Your Impressions of Canada ?
2. Canada's International Reputation and Role
3. Canadian Politics
4. Decentralized Canada
5. Canadian History
6. Contemporary Canada
7. The Canadian Economy
8. Canadian Business
9. Canadian Society
10. Comparisons Between Canada, Japan and America
11. About First Nations/Inuit People
12. About Canadian Culture- Multi-culturalism
13. Quebec
14. Prepare for Reports

**Message to those taking this Course:**

Canada is a very interesting nation that has a lot of potential. If you are interested in learning more about Canada, please consider taking this course.

**Grading Methods:**

1. Reports (A five page written Report on one aspect of Canadian Politics, Economy, Society or Cultures)
2. Attendance, Participation

---

文化・文化適応とアイデンティティ

( 秋学期 )( Fall )

CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY

横川真理子

国際センター講師

Mariko Muro Yokokawa

Lecturer, International Center

---

**Sub Title:**

文化がコミュニケーションと相互理解に与える影響

How communication and understanding are affected by culture

**Course Description:**

This course examines the impact of cultural values and beliefs, the process of cultural adjustment, the formation of cultural identity, and the relationship between language and culture. Third Culture Kids (Global Nomads) and returnees will be studied along with other topics related to culture, cultural adjustment, and communication across cultures.

In addition to the readings, students will be given opportunities to discuss critical incidents on instances of cultural misunderstanding, do role plays, as well as do presentations on ethnographic studies of their choice. The instructor will provide basic guidelines on how to conduct ethnographic (observational) research.

**Text Books:**

Text to be announced . Other materials to be handed out in class.

**Reference Books:**

- Faith Edise and Nina Sichel (Eds.). *Unrooted Childhoods: Memoirs of Growing up Global*. Intercultural Press, 2004.
- Richard Brislin and Tomoko Yoshida. *Intercultural Communication Training: An Introduction*. Sage Publications, Inc., 1994.
- Ruth Van Reken and David Pollock. *The Third Culture Kid Experience*. Intercultural Press, 2001.

**Class Schedule per week:**

1. Introduction: What is culture? Cultures, subcultures, values, and culture learning
2. Truth or belief? Beliefs, faiths, and differences in values
3. What's happening to me?—Models of cultural adjustment
4. How do I deal with this?—Culture shock and coping
5. Who am I? Where do I come from? Culture and Identity. TCK and Global Nomad Identity (2 sessions)
6. Is this really home? Re-entry, re-learning culture, and re-defining identity (Case of returnees)
7. Am I what I speak? Language, culture, and identity (Sapir/Whorf; BICS/CALP hypotheses)
8. Presentations on ethnographic studies (3-4 sessions depending on enrollment)
9. Analysis of critical incidents and role plays

**Message to those taking this Course:**

Japanese returnees and international students are both welcome. The instructor is herself a returnee and Global Nomad educated at international schools in Afghanistan and Egypt, and has done her doctoral research on Japanese children abroad. Active participation and contribution by the students is crucial.

**Grading Methods:**

1. Reports ( Ethnographic Study )
2. Attendance, Participation ( Prompt arrival, full attendance, and active participation obligatory )
3. Other ( Presentations and comments on presentations )

**Questions, Requests:**

Students are encouraged to ask questions during class, as this generates good discussions.

国際関係

( 秋学期 ) ( Fall )

INTERNATIONAL RELATIONS

セット, アフターブ

Aftab Seth

慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所教授

Professor, Keio University Global Security Research Center

**Sub Title:**

Public Speaking / Debate / Art of Conversation, etc.

**Course Description:**

The course will seek to expose students to the multidimensional nature of international interaction – including debate and literature

1. The course will focus on the importance of communication in the conduct of international relations at all levels; governments, NGOs, Multi-National Corporations, multilateral organizations and at the level of artists, journalists and academicians.
2. The course will include the art of public speaking, social intercourse, the technique of debate, the appreciation of poetry and literature and the importance of a multicultural approach to international affairs.
3. The course will be designed as an interactive one with students, encouraged to actively participating in all the activities described in the proceeding paragraph.

**Text Books:**

None

**Reference Books:**

None

**Class Schedule per week:**

1. Communication in its various aspects – an overview
2. The art of conversation
3. Negotiation – its techniques and strategies
4. Debate – its forms and techniques
5. Drama as a vehicle of views
6. Music as communication
7. Art as a universal communicator
8. Poetry – appreciation, recitation, as communication
9. Silence – its uses as communication
10. Inter-cultural communication – the pitfalls and rewards
11. A diplomat as a communicator
12. A politician as a communicator
13. Examination

**Message to those taking this Course:**

Those interested in learning about communication may attend.

**Grading Methods:**

1. Exam( in class exam )
2. Attendance, Participasion

開発と社会変容

( 秋学期 )( Fall )

DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE

倉沢 愛子

経済学部教授

Aiko Kurasawa

Professor, Faculty of Economics

**Sub Title:**

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

**Course Description:**

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively "unknown" world, and so doing, to reconsider such questions as what is "development" and what is "prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness ? Critical analysis and evaluation are most welcome.

**Text Books:**

give you hand-out

**Reference Books:**

倉沢愛子 『ジャカルタ路地裏フィールドノート』中央公論新社 2001年

**Class Schedule per week:**

- (1) Introduction on Indonesia
- (2) Suharto's development policy and foreign aid (national level analysis)
- (3) Development policy in economic sector
- (4) Development policy in health sector (2 times)
- (5) Development policy in education
- (6) Neighborhood Association and Control of people
- (7) Increased flow of Information
- (8) Strengthening of Muslim belief (2 times)
- (9) Emergence of new urban middle class
- (10) Globalization and flow of pop culture
- (11) Definition of "prosperity"

**Message to those taking this Course:**

Read several books on developing countries in Southeast Asia

**Grading Methods:**

Reports ( 4-5 pages (A4) of essay ), Attendance,Participasion ( requires 70% attendance )

アジア諸国におけるビジネスマネジメント

( 秋学期 )( Fall )

BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES

トビン , ロバート I.

商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

**Course Description:**

This course focuses on strengthening your understanding of the major issues and challenges involved in the leadership of businesses in Asia. There will be a special focus on business strategy and the styles of management of firms headquartered in Japan, North America and Europe.

Among the topics will be the unique political, economic, social and cultural influences on managing Asian operations, issues related to corporate governance and ownership, entrepreneurship and strategy.

The course will be conducted seminar-style with presentations and discussions based on assigned readings, case studies, video segments, projects, experiential class activities, case studies and research assignments.

**Text Books:**

Text TBA

Additional assigned articles, case studies and supplementary readings

**Reference Books:**

Students are encouraged to read related materials in The Wall Street Journal, Business Week, and The Economist and to watch related television broadcasts.

**Class Schedule per week:**

Introduction  
 How to Succeed in Asian Markets  
 Asian Market Leaders  
 Hybrid Management Styles  
 Leading Foreign Firms Successfully  
 Local Company and Country Trends  
 Country Information Presentations  
 Pan-Asia Strategy  
 Case Studies: Challenges of Joint Ventures and Blending Style  
 Political and Economic Risks in Asia  
 Executive Development and HR  
 Challenges in Asia  
 Competition with Family Businesses  
 Business in Frontier Markets  
 Company Presentations  
 Additional information about this course available at [www.tobinkeio.com](http://www.tobinkeio.com)

**Message to those taking this Course:**

A challenging, innovative course that examines the business approaches of countries in this region. Students call this an eye-opening course. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No background in business is required. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

**Evaluations:**

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

**Questions, Requests:**

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.  
 Open to enrolled undergraduate and graduate students only.

---

 国際開発協力論

( 秋学期 )( Fall )

INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION

後藤一美

国際センター講師 (法政大学教授)

Kazumi Goto

Lecturer, International Center, (Professor of International Cooperation, Faculty of Law, Hosei University)

**Course description:**

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

**Text Books:**

Textbook is not used in particular. Resume and list of reading materials will be available during the course and via e-mail.

**Reference Books:**

- David Arase, Japan's Development Aid: An International Comparison (Contemporary Japan), Routledge, 2005.
- David Arase (ed.), Japan's Foreign Aid: Old Continuities and New Directions, Routledge, 2005.
- Ramesh Thakur, Andrew F. Cooper, John English (eds.), International Commissions and the Power of Ideas, United Nations University Press, 2005.
- Anthony Payne, Global Politics Of Unequal Development, Palgrave Macmillan, 2005.
- Jeffrey D. Sachs, The End Of Poverty: Economic Possibilities for Our time, The Earth Institute: Columbia University, 2005.

- Report of the UN Secretary-General, In Larger Freedom: Towards Development, Security and Human Rights for All, United Nations, 2005. <<http://www.un.org/largerefreedom/>>
- Report of the UN Millennium Project (Jeffrey D. Sachs, Director), Investing in Development: A Practical Plan to Achieve the Millennium Development Goals, United Nations, 2005. <<http://www.unmillenniumproject.org/>>
- Report of the Secretary-General's High-level Panel, A More Secure World: Our Shared Responsibility, Department of Public Information, United Nations, 2004. <<http://www.un.org/secureworld/>>
- Margaret P. Karns, Karen A. Mingst, International Organizations: The Politics and Processes of Global Governance, Lynne Rienner Pub, 2004.
- Michael Edwards, Future Positive: International Cooperation in the 21st Century, Stylus Pub Llc, 2004.
- John Keane, Global Civil Society ?, Cambridge University Press, 2003.
- Akitoshi Miyashita, Limits to Power: Asymmetric Dependence and Japanese Foreign Aid Policy, Rowman & Littlefield Pub Inc, 2003.
- John Degenbol-Martinussen and Poul Engberg-Pedersen, Aid: Understanding International Development Cooperation, Palgrave-Macmillan, 2003.
- Finn Tarp, Foreign Aid and Development: Lessons Learned and Directions for the Future (Routledge Studies in Development Economics), Routledge, 2000.
- 後藤一美・大野泉・渡辺利夫 (編著) 『日本の国際開発協力』 <シリーズ国際開発：第4巻> 日本評論社, 2005年。
- 後藤一美 (監修) 『国際協力用語集』 <第3版>, 国際開発ジャーナル社, 2004年。

#### Class Schedule per week:

- 第1回： Orientation  
 第2回～第3回： Introduction to international development cooperation  
 第4回～第6回： Major issues (Part 1: Theory)  
 第7回～第9回： Major issues (Part 2: Practice)  
 第10回～第12回： Major issues (Part 3: Actor)  
 第13回： Prospects of international development cooperation

#### Message to those taking this Course:

Active participation in class discussions is required.

#### Grading Methods:

Some short essays are requested to be submitted during the course. Evaluation will be made, based on the final report (five pages of A4 size) submitted at the end of the course, with the following criteria: originality; logic; and persuasiveness.

#### Questions, Requests:

Should you have any inquiries, feel free to contact with the following address:<k-goto@i.hosei.ac.jp>

---

現代インド事情

( 秋学期 )( Fall )

INDIA TODAY

西村祐子

国際センター講師 (駒澤大学教授)

Yuko Nishimura

Lecturer, International Center (Professor, Komazawa University)

セツト, アフターブ

慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所教授

Aftab Seth

Professor, Keio University Global Security Research Center

---

#### Sub Title:

The Indian Middle Class : Where are they from and where are they going ?

#### Course Description:

This course is aimed at describing India through the eye of 'the middle class': In this course, participants will learn where India's new middle class come from, how they are different from the 'traditional middle class'. How globalization influences Indian new middle class, etc. We will study caste, class, kinship, and gender from the post-modern perspective. We will learn the cultural difference between the North and the South, similarities and differences between Indian middle class and other Asian counterparts. We will also cover issues surrounding 'dowry' problems in India. We will discuss these issues in the class and students are encouraged to study issues from cross-cultural perspective. Essay writing and discussion will also focus on understanding the modernity and Asia.

#### Textbooks:

Appadurai, A. 1996 Modernity at Large, Univ. of Minnesota Press.

Das, G. 2002 India Unbound, Oxford Univ. Press. (In the class, a few websites will be also suggested).

#### Reference Books:

J. Nehru 1946 The Discovery of India, Oxford Univ. Press.

Varma, P. 1996 The Great Indian Middle Class, Penguin Books.

Y. Nishimura 1998 Gender, Kinship, and Womanhood in South India, Oxford Univ. Press.

Breckenridge, C. 1995 Consuming Modernity, Univ. of Minnesota.

Robinson, R. & Goodman, D. 1996 The New Rich in Asia, Routledge.

#### Class Schedule per week (The order of topics may change):

Each class will have 60-minute-lecture and 30-minute-discussion.

1. Introduction to India Today: What is Modernity ?
2. British Raj and the appearance of India's middle class.
3. Brahmo Samaj and Arya Samaj: the West and the Other
4. Emergence of the Independence Movement and the Middle Class: What is the Congress ?
5. The Middle Class in Power: Industrialization and India
6. Kinship and Marriage: What is Kulinism ? Emergence of 'Dowry'
7. Family Law and Gender : Property Rights, Dowry, and Marriage in Post colonial India
8. Shar Bano and Nisha Sharma : Women, property rights, Marriage, and Divorce.
9. Migrating Indians: Case Study of Kerala.
10. Economic Liberation and the 'New Middle class' : who are they ?
11. The Middle Class women vs. Working Class Women: what is the difference ?
12. Modernity and the New Middle Class in Asia: People and Migration.
13. Epilogue: Globalization and the Indians : Can the New Middle Class save India ?

**Message to those taking this Course:**

You will be asked to do three short reports during the session (about 1000 words each), and a 3000 word final report at the end of the course. You may participate in a trip to South India in mid Feb. for 2 weeks (this is not part of the course work and is completely optional).

**Grading Methods:**

Reports (60%)

Attendance, Participasion (40%)

**Questions, Requests:**

Please ask questions during the discussion. Or if you have further questions, you may email: [yukon@b1b2.org](mailto:yukon@b1b2.org) (you must mention your name and student ID in the subject column. Otherwise, my 'spam' filter may delete your message before I see it).

EU - JAPAN ECONOMIC RELATIONS

( 秋学期 )( Fall )

嘉治 佐保子

経済学部教授

Kaji, Sahoko

Professor, Faculty of Economics

林 秀毅

経済学部非常勤講師

Hayashi, Hideki

Part-time Lecturer, Faculty of Economics

**Course Description:**

This course is offered in English. The goal is to broaden and deepen students' knowledge in EU-Japan relations, with emphasis on the economic aspects. Each lecture will be based on different chapters of Gilson (2000) and additional materials as necessary. Powerpoint will be used for exposition. Students are expected to participate actively with questions and comments.

At the end of each lecture, the topic to be discussed the following week will be announced. A set of questions related to that topic will also be given out. Students must write a report on one of the questions and submit it at the beginning of the next lecture. By writing this weekly report, students are to familiarise themselves with the next topic before coming to the lecture.

**Text Books:**

Julie Gilson, (2000) 'Japan and the European Union. A Partnership for the Twenty-First Century', Palgrave Macmillan, 2000. (Several Copies of the text are on reserve at the library.)

For lighter reading, students can turn to Kaji, Hama and Rice (1999) "The Xenophobe's Guide to the Japanese," Oval Books.

**References:**

Kaji, Hama and Rice, "The Xenophobe's Guide to the Japanese," Oval Books, 1999.

**Class Schedule (Subject to change):**

- Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations (1)
- Chapter 2 Developing Cooperation 1950s - 80s (2)
- Chapter 3 Japan and its Changing Views of Japan (3, 4)
- Chapter 4 European Integration and Changing Views of Japan (5, 6)
- Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations (7, 8)
- Chapter 6 Cooperation in Regional Forums (9, 10)
- Chapter 7 Addressing Global Agendas (11, 12)
- Chapter 8 Conclusions: A partnership for the Twenty-first Century (13)

**Message to Those Taking This Course:**

Knowledge of other European languages is welcome, but not essential.

**Evaluation:**

End-of-term essay (on any related topic), weekly reports, class participation.

**Questions and consultation:**

Anytime during the class, also by e-mail.

**Course Description:**

This course investigates the aims, effectiveness and unexpected consequences of science and technology policies around the world. It focuses the roles of the states, in promoting and regulating scientific research and technological development.

In previous years I have talked in Japanese for the first half of each class and English for the second half, but will adjust this to fit students preferences.

**Reference Books:**

- Mani, S. (2002). Government, innovation, and technology policy: an international comparative analysis. Cheltenham, UK; Northampton, MA, Edward Elger Pub.
- Rogers, E. M. (2003). Diffusion of innovations. New York, Free Press.
- Neufeld, M. J. (1995). The rocket and the reich; Peenemünde and the coming of the ballistic missile era. New York, Free Press.
- Dyson, G. (2001). Project Orion: the true story of the atomic spaceship. New York, Henry Holt and Co.
- McCurdy, H. E. (1990). The space station decision: incremental politics and technological choice. Baltimore, Johns Hopkins University Press.
- Broad, W. J. (1997). The universe below: discovering the secrets of the deep sea. New York, Simon & Schuster.
- 加藤弘一 著 『電腦社会の日本語』文春新書，2000
- Lessig, L. (2004). Free culture: how big media uses technology and the law to lock down culture and control creativity. New York, Penguin Press.
- Weber, S. (2004). The success of open source. Cambridge, MA, Harvard University Press.
- Thomas, D. (2002). Hacker culture. Minneapolis, University of Minnesota Press.
- Etzkowitz, H. (2002). MIT and the rise of entrepreneurial science. London; New York, Routledge.

**Class Schedule per week:**

1. オリエンテーション
2. 技術政策の概要
3. イノベーションと技術普及論
4. 宇宙ロケットの開発史
5. プロジェクト・オライオン（原子力ロケット）
6. 国際宇宙ステーション
7. 海洋研究
8. 規格の役割。文字コードを例に
9. 著作権制度
10. オープン・ソース・ソフトウェア
11. コンピュータセキュリティ
12. 科学技術政策と大学
13. まとめ

**Evaluation:**

授業内試験の結果による評価 (in-class examination)

**Inquiries:**

jonathan\_lewis@mac.com

**Sub title:**

Seen from Japanese communication patterns

**Course Description:**

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

**Text Books:**

No designated textbook and handouts will be distributed.

**Recommended Readings:**

*Japanese culture and behavior: selected readings* by Takie Lebra & William Lebra

*Japanese patterns of behavior* by Takie Sugiyama Leba

*An introduction to intercultural communication* by John C. Condon & Fathi Yousef

*Intercultural communication :a reader* (6<sup>th</sup> edition) by L.A.Samovar & R.E.Peter

**Class Schedule:**

1. Orientation and quiz on the impact of globalization on Japan
2. Conformity pressure vs. individualism in Japanese culture: a case study of Toko Shinoda, a female artist
3. What puzzles you about Japanese culture and society ? and Orientation to Group Projects
4. Understanding Japanese culture through examining mother-child relationship pictures and How to have good intercultural communication in class
5. Culture as mental software, functions of culture, and culture and communication
6. Amai psychology: prototype of Amai and definition of Amai
7. How Amai psychology and an emphasis on Wa gets translated into Japanese communication patterns: Sasshi, Enryo and Honne vs. Tatamae
8. How to overcome difficulties in intercultural communication: attribution, empathy and ethnocentrism
9. Preparation for Group Project
10. The Concept of Sunao and its implications for Japanese communication patterns: conflict avoidance, readiness to compliance ?, and open-mind
11. Comparing concepts of self between individualistic cultures and collectivistic cultures and its implications for intercultural communication between the two
12. Group project presentation 1
13. Group project presentation 2 and Wrap-up

**Message to Those Taking This Course:**

You are strongly encouraged to do risk-taking by sharing your opinions and feelings. Thus contributing to class by active participation in pair-work, group work and class discussion is a must, as the instructor believes that students learn a great deal from their classmates. As group projects, a major source for students' satisfaction, take so much time and energy in and outside of class, students' commitment is essential here. And your input to make this class better and interesting is always welcome by the instructor.

**Evaluation:**

To be based on the combination of Reports and Attendance and Class participation including oral presentation.

**Questions and Requests:**

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at [ctezuka@ic.keio.ac.jp](mailto:ctezuka@ic.keio.ac.jp).

**Description:**

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan, both contemporary and historical. Materials used and discussed range from Hollywood films to academic works by Ivy League professors. Knowing the common and often highly distorted images of Japan and

the Japanese, both positive and negative, presented in foreign mass media and popular culture is important to both Japanese and foreign students. These images have been and continue to be significant in Japan's diplomatic and economic relations with other countries. Moreover, the mechanisms that distort the foreign view of Japan also work to distort the Japanese view of foreign countries. Teaching students how to recognize distorted images of foreign countries and peoples is a major goal of this course.

**Format:**

Lectures supplemented by visual materials including extracts from Hollywood films and contemporary television news coverage. Students who are unsure of their English comprehension should feel free to record the lectures or ask questions in Japanese.

**Readings:**

No textbook is used. A general bibliography of influential foreign writing on Japan will be distributed. Significant writing pertaining to each topic will be introduced and discussed in the lectures.

**Lecture Topics:**

Because the instructor encourages student comment and discussion and because topics of special interest may appear in the foreign media during the term, the number of sessions and the specific topic for each session may vary somewhat from the list below.

- 1 Japan ? Who's Japan ? When ? Where ?
- 2 Cool Japan(1) - Japanese Pop Culture in Europe and America
- 3 Cool Japan(2) - Japanese Pop Culture in Europe and America
- 4 Cruel Japan(1) - The Legacy of War in America and Asia
- 5 Cruel Japan(2) -The Legacy of War in America and Asia
- 6 Sick Japan -Japanese Social Problems Seen from Afar
- 7 Concrete Japan - The Japanese Natural Environment
- 8 Gung Ho Japan - Japan as Number One
- 9 Frightening Japan -The Rising Sun Threatens America
- 10 Sexy Japan - Japanese Women and Sex in the Foreign Imagination
- 11 Sneaky Japan(1) - Pearl Harbor and Its Legacy
- 12 Sneaky Japan(2) -Pearl Harbor and Its Legacy
- 13 Japan ? - Where is the Real Japan ?

**Grading and Required Work:**

Students will be expected to write one short paper on some aspect the foreign image of Japan or the Japanese image of something foreign. There will be a final examination for the course based on the lectures. In principle the paper (report) and final examination are each weighted fifty percent but in the case of students who miss lectures because of job hunting or those with special language problems, a different weighting may be agreed upon in consultation with the instructor. The examination will be based on the lectures, video materials, and handouts. Students will be free to consult their notes or copies of the handouts during the examination. Electronic and paper dictionaries are also permitted.

**Course home page:**

<http://www2.gol.com/users/ehk/keio>

**Email for the instructor:**

ehk@gol.com or e\_kinmonth@mail.tais.ac.jp

---

源氏物語への道

( 春学期 )( Spring )

THE TRAIL OF GENJI

アーマー , アンドルー

文学部教授

Andrew Armour

Professor, Faculty of Letters

---

**Course Description:**

Written a thousand years ago, *The Tale of Genji* has won international fame as “the world’s first novel”. Partly because of this distinction, it is apt to be viewed as an isolated phenomenon, almost an aberration. In an attempt to correct such a perspective, this course will trace the roots of this Heian masterpiece, introducing the major extant works that preceded it. The focus is on literature, but political and cultural developments will also be covered in order to throw light on the historical background and mental atmosphere of the period.

**Text Books:**

Instructions and materials are provided on the class website ([www.armour.cc/genji.htm](http://www.armour.cc/genji.htm)).

**Recommended Readings:**

A list of reference works and useful links are available on-line.

**Class Schedule (Subject to change):**

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
2. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
3. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;

4. Appreciate the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
5. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

**Message to Those Taking This Course:**

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is an advantage.

**Evaluation:**

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

日本の経営

( 春学期 )( Spring )

JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS

梅津光弘

商学部助教授

Mitsuhiro Umezu

Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

**Course Description:**

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

**Texts:**

Reischauer, E.O. The Japanese Today: Change and Continuity. The Belknap Press of Harvard University Press, 1988.

Handouts

**Recommended Reading:**

TBA

**Class Schedule (Subject to change):**

1. Introduction: Geography, Climate and Demography of Japan
2. Historical Orientation of Japan.
3. Interpretation of Contemporary Japanese Society 1
4. Interpretations of Contemporary Japanese Society 2
5. Interpretations of Contemporary Japanese Society 3
6. Midterm Exam.
7. Government and Business Interface
8. Japanese Corporate Governance
9. Ethical Issues in Japanese Workplace 1
10. Ethical Issues in Japanese Workplace 2
11. Japanese Business in Transition 1: Community
12. Japanese Business in Transition 2: Environment
13. Final Exam.

**Message to Those Taking This Course:**

This is a course for international students who want to learn about the fundamentals of Japanese society and business. It is necessary for you to have advanced-level English discussion skills. Through this discussion, I hope you will deepen your understanding of Japanese society and business, and develop cultural insights that help in dealing with practical issues in an international setting.

**Evaluation:**

Mid-Term Examination (TBA) 30%, Final Exam/ Project (TBA) 40%, Class Participation 20%, Home work 10%

手塚千鶴子  
Chizuko Tezuka

国際センター教授  
Professor, International Center

---

**Sub title:**

Conflict Management

**Course Description:**

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners, and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict claims that conflict is inevitable yet not necessarily bad, the Japanese society has been described to believe in its self-image as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts as any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological background, and the challenges for both Japanese and foreigners in trying to creatively deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some psychological measures related to conflict for self-understanding.

**Text Book:**

No designated textbook and handouts will be distributed.

**References:**

*Conflict in Japan* edited by Ellis Krauss, Thomas Rohren, and Patricia G. Steinhoff, University of Hawaii Press, 1990.

*Japanese Culture and Society: model of interpretation* edited by Kreiner and Olscheleger, Monographien 12, Deutschen Institute fur Japanstudien der Philipp-Franz-von-Siebold-Stiftung, 1996.

*Das Wesen von Naikan: the essence of NAIKAN 内観の本質* edited by Prof. Akira Ishii/Shaku Yoko JOseh Hartl (Hrsg.), altes Wissen, neue Wege, 2000. (a book in German, English and Japanese)

**Class schedule:**

1. Orientation and test-taking on conflict management style
2. Harmony Model vs. Conflict Model of Japanese Society and orientation to writing conflict episode journal
3. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: Bullying in Japanese Schools 1
4. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: Bullying in Japanese Schools 2
5. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: *Karoushi* and *Gaman*
6. Japanese cultural values underlying non-confrontational strategies
7. How Japanese express anger
8. Cross cultural comparison of conflict management between U.S.A. and Japan
9. A case study of intercultural conflict around the *Ehimemaru* incident
10. Intercultural conflicts between Japanese teachers and int'l students
11. Japanese conflict management seen from a perspective of a bicultural writer, Kyouko Mori.
12. How to make use of anger creatively
13. Wrap-up session

**Messages to those students taking this course:**

Students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion. Students are expected to complete reading assignment before coming to class.

**Evaluation:**

To be based on the combination of reports, attendance, and participation.

**Questions and Requests:**

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp

---

ドーシー, ジェームス  
James Dorsey

国際センター講師(ダートマス大学助教授)  
Lecturer, International Center (Associate Professor, Dartmouth College)

---

**Sub Title:**

Japanese Writers, Poets, Artists, Filmmakers and Cartoonists Under the Wartime State

**Course Description:**

The course will examine a variety of cultural artefacts (essays, short stories, novels, films, comics, etc) produced in Japan during the 1930s and 1940s and related, either directly or indirectly to the wars first in China and later in the Pacific. The course will focus on discovering the workings of, and relationship between, propaganda, nationalism, imperialism, colonialism, censorship, interpretive strategies, and the creative imagination.

### Text Books:

- John W. Dower, *War Without Mercy: Race & Power in the Pacific War* (New York: Pantheon Books, 1986), 2000円.
- Samuel Hideo Yamashita, *Leaves from an Autumn of Emergencies: Selections from the Wartime Diaries of Ordinary Japanese* (Honolulu: University of Hawaii Press, 2005), 2500円.
- Ishikawa Tatsuz, *Soldiers Alive*, trans by Zeljko Cipris (Honolulu: University of Hawaii Press, 2003), 2500円.
- Handouts

### Class Schedule per week:

- 1 COURSE INTRODUCTION  
Instructor & student introductions, course expectations, grading policy, etc.  
FIRST IMPRESSIONS  
Students react to painting by Fujita Tsugeharu, poem by Takamura Kotaro, short story excerpt from Dazai Osamu
- 2 THE LIBERAL ROOTS OF THE RADICAL RIGHT (1920s)  
Students read Nakano Shigeharu, "The House in the Village"  
Lecture on Kobayashi Takiji, Hayashi Fusao, and the "tenko" (conversion) movement.
- 3 "HOME IS WHERE THE HEART IS" (1930s)  
Students read Kobayashi Hideo, "Literature of the Lost Home"  
Lecture on the "furusato" boom and reactions to modernity in the works of Kawabata Yasunari and Sakaguchi Ango
- 4 THE DELICATE DANCE OF WRITERS AND THE STATE (2 sessions)  
Students read Ishikawa Tatsuzo, *Soldiers Alive*  
Lecture on censorship and comparison with Hino Ashihei's "Soldier Trilogy"
- 5 "THE EMPIRE IS MUSIC TO MY EARS": A GRAMMAR OF *GUNKA*  
Students read Ishikawa Jun, "Mars' Song"  
In class we listen to various *gunka* (military songs); lecture on the role of music and composers in representing the state.
- 6 "PURE AND SIMPLE": PROPAGANDA THEMES AND VENUES (2 sessions)  
Students read John Dower, *War Without Mercy*  
Lecture on themes in, and function of propaganda; comparison with Barak Kushner, *The Thought War: Japanese Imperial Propaganda*.
- 7 "THIS IS NO LAUGHING MATTER--OR IS IT?": CARTOONISTS AND THE WAR  
Students read Sodei Rinjiro, "The Double Conversion of a Cartoonist: The Case of Kato Etsuro"  
Lecture on the evolution of Tagawa Suiho, *Stray Blackie* (田河水泡 / 「のらくろ」) and the role of manga in normalizing the war.
- 8 THE EVERYDAY AND THE EXTRAORDINARY: WARTIME DIARIES  
Students read Yamashita, *An Autumn of Emergencies*  
Lecture on everyday life in wartime Japan, comparison of writer and average citizen diaries
- 9 RECYCLED HEROES  
Students read excerpts from Yoshikawa Eiji, *Miyamoto Musashi*  
In class watch clips of wartime film version of Mizoguchi's *Genroku Chushingura*; lecture on the heroes appearing in wartime propaganda.
- 10 THE "NINE GODS OF WAR" IN FICTION, FILM, AND JOURNALISM  
Students read Sakaguchi Ango, "Pearls" and Dorsey, "Literary Tropes, Rhetorical Looping, and the Nine Gods of War: 'Fascist Proclivities' Made Real"  
In class watch clips from Tasaka Tomosaka, *The Navy*; lecture on the Nine Gods of War phenomenon.
- 11 SUMMARY: CREATIVITY IN A TIME OF WAR

### Message to those taking this Course:

War, suicide bombers, propaganda, surprise attacks, nationalism, the West vs. the non-West. These are all very much a part of our world today, and they were very much a part of it in the 1930s and 1940s. All students willing to explore and discuss these issues in the context of Japan's modern history are welcome. A field trip to the Yasukuni Shrine and museum will be part of the course.

### Grading Methods:

1. Reports ( 2 two-page responses for 25%; 1 eight-page essay for 40% )
2. Attendance, Participation 35%

---

近代日本の対外交流史

( 秋学期 ) ( Fall )

MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD

太田昭子

法学部教授

Akiko Ohta

Professor, Faculty of Law

---

### Course Description:

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and early twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

**Textbooks:**

No specific textbook will be used.

**Recommended Readings:**

The reading list will be given at the beginning of the term.

**Class Schedule (Subject to change):**

1. Japan and the World before the Opening of Japan (2 lectures): General introduction and the reappraisal of the Seclusion Policy
2. The Opening of Japan and international society in the 1850s and 1860s
3. The First Treaty with the West and the subsequent treaties (2 lectures): the analysis of the U.S.-Japanese Treaty of Peace and Amity will be included
4. Japanese Visits Abroad (2 lectures): the evaluation of the cultural and diplomatic significance of the Japanese visits abroad (official missions / official students / stowaways and castaways)
5. Japanese perception of the West, changing attitudes and feelings in the 1860s (1 lecture)
6. Western perception of Japan in the 1850s and 1860s (1 lecture)
7. The significance of the Iwakura Mission (1 ~ 2 lectures)
8. Development of Japanese Nationalism in the Meiji Era (2 lectures): comparative analysis of several primary sources  
Optional excursion to the Yokohama Archives of History may be included in the programme.

**Evaluation:**

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 3,000 words (about five pages, A4, double space) by the end of the term, and take the final examination.

Volunteers for a mini-presentation (about 10-15 minutes) on the topics related to the lecture are most welcome. (Details will be explained in class.)

---

異文化コミュニケーション2 異文化接触における日本人のアイデンティティ

( 秋学期 ) ( Fall )

INTERCULTURAL COMMUNICATION 2

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

---

**Sub title:**

Identity of Japanese Sojourners

**Course Description:**

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

**Text Books:**

No designated textbook and handouts will be distributed.

**References:**

*Tsuda Umeko and Women's Education in Japan* by Barbara Ross, Yale Univ Press, 1992.

*The White Plum: a biography of Ume Tsuda* by Yoshiko Furuki, Weatherhiesel, 1991.

*Intercultural Communication: reader 5<sup>th</sup> ed.*, Larry Samovar and Richard E Porter, Wadsworth Publishing Company, 1989.

*Japanese Culture and Behavior (revised edition)* ed. by Takie Sugiyama Lebra and William Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1986.

*Japanese Patterns of behavior* ed by Takie Sugiyama Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1976.

*Exploring Japaneseness: on Japanese Enactments of Culture and Consciousness* ed by Ray

**Course schedule:**

1. Orientation to the course
2. A brief historical review of Japan's encounter with the outside world as an island nation up to the late Edo Period
3. Japan's attitude towards the West after the First Opening of Japan with an emphasis on absorbing the Western civilization
4. Japan's endeavor to modernize herself in comparison with Korea and China
5. A case study of Umeko Tsuda 1: a successful sojourn in America
6. A case study of Umeko Tsuda 2: many years of struggle adjusting back to Japan
7. Cross cultural adjustment 1: culture as mental softwear, stages of cross cultural adjustment, and facilitating factors of cross cultural adjustment
8. A case study of Paris Syndrome or Double Suicide in Los Angeles: overadjustment and challenges for Japanese sojourners
9. A case study of a Malaysian woman married to a Japanese: cultural identity
10. Identity: ego identity, personal identity, and social identity, process of identity formation, and issues of identity fluctuation in cross cultural adjustment
11. A case of Jiro, a Japanese returnee who spent 6 years in U.S.A.: formulation and transformation of cultural identity and adjustment issue

back in Japan

12. A case study of Masao Miyamoto adjusting back to Japan in the Showa Period in comparison with Umeko Tsuda in the Meiji Period:
13. Wrap-up: Challenge for both Japanese and non-Japanese in the globalizing world

**Messages to students:**

Those students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion.

**Evaluation:**

To be based on combination of Reports and Attendance and Class Participation.

**Questions and Requests:**

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp

---

日本キリスト教史

( 秋学期 )( Fall )

CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY

ポールハチエット, ヘレン 経済学部教授

Helen Ballhatchet Professor, Faculty of Economics

---

**Sub Title:**

A case study of cross-cultural contact

**Course Description:**

Christianity in Japan presents us with a number of paradoxes. For example, although the majority of Japanese today choose Christian-style weddings, the actual number of Christians amounts to less than one per cent of the total population (as opposed to 25 per cent in its close cultural neighbour, South Korea). This 'failure' contrasts with the relatively greater growth of Christianity in the late sixteenth and early seventeenth centuries, even though the total number of missionaries was much smaller and the linguistic and logistical barriers greater. Perhaps the greatest paradox occurred after Christianity was virtually eliminated through an increasingly severe campaign of persecution from 1614 onwards. Small groups in isolated communities succeeded in preserving recognisably Christian beliefs and practices. However, many of these groups refused to accept the authority of Roman Catholic missionaries when they returned to Japan in the second half of the nineteenth century.

In the course we will consider these and other issues, using a combination of primary and secondary materials. By studying the activities and ideas of missionaries, Japanese Christians, and Japanese who did not become Christian, student will gain general understanding of the dynamics of cross-cultural contact. They will also learn about the nature of history through interpreting primary materials and studying different approaches to the history of Christianity in Japan.

**Recommended Reading:**

There will be a selection of assigned readings for each class. Students will find it useful to start the course with a basic knowledge of Japanese history, Japanese religion, and Christianity. All suggestions for reading will be displayed on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>).

**Class Schedule (Subject to change) :**

1. Orientation and overview: Religion and history
2. The view from the present: Religion in Japan and images of Christianity
3. From Xavier to Hideyoshi (1549-1598): (1) The background and the initial encounter
4. From Xavier to Hideyoshi (1549-1598): (2) Missionary approaches to the Japanese
5. From Xavier to Hideyoshi (1549-1598): (3) Japanese approaches to Christianity
6. Tokugawa Japan (1600-1868): (1) Government policies towards Christianity
7. Tokugawa Japan (1600-1868): (2) Christianity underground
8. Early Meiji Japan (1868-1888): Christianity and Western civilization
9. From mid-Meiji to the end of World War II (1889-1945): (1) Christianity and the dilemma of patriotism
10. From mid-Meiji to the end of World War II (1889-1945): (2) Christianity in a Japanese context
11. The second half of the twentieth century: (1) Christianity and Japanese democracy
12. The second half of the twentieth century: (2) Christianity in a Japanese context
13. Concluding remarks: Religion and history revisited

**Message to those taking this Course:**

I hope to attract students from a variety of backgrounds. This is because the course will gain from the combined viewpoints of people from areas which have sent Christianity missionaries to Japan, such as Portugal and the United States, and of people from areas which have played host to Christian missionaries, both in Asia (including Japan itself) and elsewhere.

I will expect students to attend all classes, on time, to do the assigned readings, and to participate in class presentations and discussions. Sessions will be organised into a combination of formal lectures and interactive seminars.

**Grading Methods:**

1. Oral presentations (30%)
2. Reports (At least one short and one long) (50%)
3. Attendance and Participation (20%)

**Questions, Requests:**

Students wishing to ask a question or arrange an appointment should talk to me before or after classes, or send an e-mail. My e-mail address is given on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>).

---

多民族社会としての日本

( 秋学期 )( Fall )

MULTIETHNIC JAPAN

柏崎千佳子

経済学部助教授

Chikako Kashiwazaki

Associate Professor, Faculty of Economics

---

**Course Description:**

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, *zainichi* Koreans, and various 'newcomer' foreign residents. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

**Texts:**

Reading materials consist of excerpts from a variety of sources and will be provided by the instructor.

**Class Schedule (Subject to change):**

1. Introduction
2. Is Japan ethnically/culturally homogeneous ?
3. Theories of ethnic relations
4. Zainichi Koreans: past and present
5. Zainichi Koreans: identity formation
6. Nikkei-Brazilians
7. Visa overstayers
8. "Foreign brides"
9. People from buraku
10. The Ainu
11. Okinawans
12. Presentations on the final project
13. Summary — Rethinking Japanese society

**Message to Those Taking This Course:**

The class is conducted entirely in English. Much of class activity is devoted to oral presentations and discussion. Students are expected to read the assigned materials beforehand and to participate actively in the class.

**Evaluation:**

Evaluation will be based on participation in classroom discussion (20%), presentations (20%), and reading/writing assignments including a short essay and a term paper of 1,800+words (60%).

---

政策決定，歴史的記憶，人種から見る明治期日本外交

( 秋学期 )( Fall )

JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA:DECISION-MAKING, HISTORICAL MEMORY AND RACE

飯倉 章

国際センター講師（城西国際大学教授）

Akira Iikura

Lecturer, International Center(Professor, Josai International University)

---

**Sub Title:**

Decision-making, historical memory and race

**Course Description:**

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making theories, historical memory, and the concept of race.

**Text Books:**

No textbook will be used. Handouts will be given as reading assignments.

**Reference Books:**

Recommended readings will be suggested in the course of the lecture.

**Class Schedule per week:**

1. Introduction to the course and decision-makers in the Meiji era
2. The trauma of Japanese diplomacy: unequal treaties, the triple intervention and the Portsmouth treaty
3. The Yellow Peril and its influence on Japanese foreign relations

4. The Anglo-Japanese alliance and the question of race
5. The lessons of the Anglo-Japanese alliance: Is an alliance with an “Anglo-Saxon” state reliable ?
6. Was the war evadable or inevitable?: perception and misperception of Japanese decision-makers before the Russo-Japanese war
7. The Russo-Japanese war as an icon in historical memory
8. Wrong lessons from the “success” of the war and the “defeat” in diplomacy
9. Explaining the Russo-Japanese war through the application of Graham Allison’s decision-making theories
10. The changing views of Japan during the Russo-Japanese war: Japan from protégé to world power
11. The wars and leaders in the Meiji era that live in Japanese culture

**Message to those taking this Course:**

The lecturer will put special emphasis on the Russo-Japanese war of 1904–05 by showing some new scholarly works, popular history and commemorative articles on the war that appear mainly during the years 2004 and 2005, the hundredth anniversary of the war. The lecturer will illustrate the lecture by using slides and videotapes.

**Grading Methods:**

A short term paper on one of designated questions and a final essay will be assigned. Attendance and class participation will be particularly important.

日本の文学

( 秋学期 )( Fall )

JAPANESE LITERATURE

アーマー , アンドルー

文学部教授

Andrew Armour

Professor, Faculty of Letters

**Course Description:**

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods. Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

**Texts:**

Instructions and materials are provided on the class website ([www.armour.cc/jlit.htm](http://www.armour.cc/jlit.htm)).

**References:**

A list of reference works and useful links are available on-line.

**Class Schedule (Subject to change):**

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Understand how the Japanese writing system developed, how it came to be used to compose works of literature, the problems it poses, and how the modern reader can decipher a manuscript such as that of *Genji monogatari*;
2. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
3. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
4. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
5. Appreciate the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
6. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

**Messages to Those Taking This Course:**

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is an advantage.

**Evaluation:**

Grading is primarily based on the student’s research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student’s responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

## TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION: COMPARATIVE READINGS

レイサイド , ジェイムス 法学部教授  
James Raeside Professor, Faculty of Law

**Course Description:**

In these classes we will attempt to elucidate something of the distinctive nature of Japanese fiction writing by comparative close reading of Japanese texts with those by Western (European and American) writers. Evidence of influence and assimilation may be observable from West to East, particularly in the early years of the 20<sup>th</sup> century, but in all cases we will attempt to identify both what is distinctive, and what the different literary traditions have in common. By close reading and comparative analysis we should be afforded some useful insights into Japanese prose fiction writing—particularly that of the short story—and perhaps into literature as a whole.

Each class will focus on a pair of texts: one by a Japanese and one by a Western writer. The texts chosen will be relatively short, wherever possible complete short stories. All texts will be discussed on the basis of their English language translation, although students who are able to read the originals are welcome to add this knowledge to the discussion. In any case, it is imperative to the functioning of the class that all participants make time to read the set texts beforehand. Only those who have made this effort will be able to participate usefully in the discussion. Those who do not feel their English ability is adequate to reading several pages of English each week should not take this class.

The texts will be read in roughly chronological order, starting the first decade of the 20<sup>th</sup> century and ending with the last.

**Text Books:**

Since the texts will be taken from various sources **photocopies** will be used. However, given the likely volume of paper, students may be charged at 10 yen per page.

**Reference Books:**

*The Oxford Book of Japanese Short Stories*. Ed. Theodore Goossen.

*The Showa Anthology: Modern Japanese Short Stories, 1961-1984*. Ed Van C Gessel & Tomone Matsumoto.

**Weekly Class Schedule:**

The following list should be considered provisional, and students are welcome to request inclusion of other authors in whom they are particularly interested. Japanese names are given without macrons.

Week One: Orientation  
Week Two: Mori Ogai  
Week Three: Nagai Kafu  
Week Four: Muro Saisei  
Week Five: Hayashi Fumiko  
Week Six: Noma Hiroshi  
Week Seven: Ibuse Masuji  
Week Eight: Kawabata Yasunari  
Week Nine: Mishima Yuko  
Week Ten: Tanizaki Junichiro  
Week Eleven: Tsushima Yuko  
Week Twelve: Oe Kenzaburo  
Week Thirteen: Murakami Haruki

**Instructors Comments for Prospective Students:**

Please take to heart the final comments in the course description regarding the need to read texts in advance.

**Grading Method:**

Class Participation (Including Attendance) 50%

Final Report (3,000—3,500 words) 50%

## THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE

ノッター , デビッド 経済学部助教授  
David Notter Associate Professor, Faculty of Economics

**Course Description:**

In this course we will examine the family in historical and sociological perspective. The emphasis will be on “modern” family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America, but some consideration will also be given to the family in Japan and Europe, and modern family arrangements will also be compared and contrasted with traditional family arrangements. The course will be organized thematically in accordance with the stages of the life course: childhood; adolescence; marriage; and old age.

**Text Books:**

*Family: The Making of an Idea, an Institution, and a Controversy in American Culture* by Betty G. Farrell

**Class Schedule per week:**

- Class 1: The Emergence of the Modern Family, Part
- Class 2: The Emergence of the Modern Family, Part
- Class 3: Class Discussion: Childhood
- Class 4: The "Invention" of Childhood
- Class 5: Childhood and Parenthood in American History
- Class 6: Class Discussion: Adolescence and Sexuality
- Class 7: Adolescence in Historical Perspective
- Class 8: Sexuality and the Family: 1600-1900
- Class 9: Class Discussion: Marriage
- Class 10: Modern Courtship and the Ideology of Romantic Love
- Class 11: Marriage and Divorce
- Class 12: Class Discussion: Old Age and Generational Relations
- Class 13: The Collapse of the Modern Family

**Grading Method:**

Evaluation will be based on attendance, participation in formal class discussions, and essays.

国際経営比較：日米企業を中心に

( 秋学期 )( Fall )

INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS

吉田文一

国際センター講師 ( 産能大学教授 )

Fumikazu Yoshida

Lecturer, International Center (Professor, Sanno University)

**Sub Title:**

Pros and Cons of Japanese and American Management Systems

**Course Description:**

This course aims to clarify the differences between the Japanese management system and the American system. Over the last two decades, the appraisal of Japanese management has fallen sharply from a high level during the 1980s, while the evaluation of American management has risen equally sharply. In particular, in the "post-bubble" period in Japan, there is a strong tendency to criticise the domestic management system, and praise American-style management nationwide. This raises a major question: how can the appraisal of a well-established management system change so uncritically in a stable and peaceful society? We will discuss this issue in order to understand the significance of management systems. Based on this understanding, we examine the current issues that both systems face today.

**Text Books:**

No particular textbook will be used.

**Reference Books:**

Appropriate readings will be suggested in conjunction with the lectures.

**Class Schedule per week (Subject to change):**

1. Introduction to the course
2. Multinational Corporations, the main subject of the course
3. Preconditions for Japanese management system
4. Lifetime employment system (1) advantages and disadvantages
5. Lifetime employment system (2) subsystems and international comparison
6. Seniority system
7. Top management and Decision making process
8. Case study of a Japanese company in the USA (video)
9. Discussion based on the above video
10. Corporate philosophy and underlying strategy
11. Current issues of Japanese and American systems (1) employment system
12. Current issues of Japanese and American systems (2) organisation
13. Concluding remarks

**Message to those taking this Course:**

Students are strongly encouraged to contribute to the class by actively participating in class discussions.

Based upon the lecturer's international management experience, including 12 years of overseas assignments, many cases of international transactions and negotiations will be provided to make this course more realistic, and to broaden students' understanding of global business.

**Grading Methods:**

Grading will be based on attendance, class participation, and a short term paper.

## STRUCTURE, POLICIES AND ETHOS OF THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM

伊藤 規子

商学部助教授

Noriko Ito

Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

**Course Description :**

This course aims to help participants to understand the Japanese economic system with its heavy Government involvement, specific company customs (which seemed to have worked fine during the high growth era), vested interests and social norms/behaviours. The sessions will (A) cover parts of the text book, '*Arthritic Japan*' which is useful in explaining the postwar Japanese economic system and the problems and some changes the Japanese have been facing recently, (B) involve students with some group discussions/presentations on some themes with additional journal articles, (C) show several illustrative videos and (D) have at least two special one-off guest speakers who will talk about their experiences in dealing with the Japanese bureaucratic approach/regulations/other barriers in the Japanese trade environment (all speeches will be given in English). The lecturer may sometimes explain several concepts/theories from the microeconomics' point of view whenever necessary to make it easy for the non-economics based student to understand the textbook and articles. The articles used in the sessions are most likely to be from *The Economist*, *The Japan Times* and *Japan Spotlight*.

**Text Books :**

- \* some chapters from Edward, J. Lincoln, *Arthritic Japan: the slow pace of economic reform*, Brookings, 2001. (distributed by the lecturer)  
(Now available in Japanese translation (translated by the lecturer herself) (Nippon-hyoron-sha, 2004) with the title "*Soredemo-Nippon-wa-Kawarenai*")
- \* some parts from David Flath, *The Japanese Economy*, Oxford University Press, 2000.

**Reference material :**

Additional materials (journal articles) will be provided and documentary videos will be shown and discussed.

**Class Schedule per week :**

These are indicative, and may be changed dependent on (A) the availability of guest-speakers and their proposed subject matter and (B) matters of current Japanese and international interest:

1. overview and announcements (video session included)
2. introduction to the postwar system (video session and summary of chapter 2 of *Arthritic Japan*)
3. horizontal Keiretsu and corporate governance issues (presentation/discussion or a guest speaker)
4. vertical Keiretsu and other forms of vertical controls (presentation/discussion included)
5. labour markets (presentation/discussion included)
6. video session on a typical "Japanese corporate culture"
7. education issues (video and/or discussion)
8. 'industrial policy' and protectionism (discussion included)
9. a guest speaker on Japanese regulations/government interventions
10. Japanese government (both central and local and the relationship between them)
11. rent-seeking mechanisms and political overview (video included)
12. a guest speaker on the subject of entering the Japanese market
13. pressure for changes and current structural reform topics

**Message to those taking this Course :**

The students who will attend this course do not need to have more than a basic knowledge of economics, but they are expected to have a general interest in the Japanese economy in all its aspects. Quite often the lecturer will give the students copies of journal articles as supplementary materials. The students will discuss these during the sessions. Sometimes the lecturer will ask the students to submit specific essays based on some of these articles or the videos shown in the lectures. There will be an end-of-term essay to submit.

**Grading Methods :**

1. Reports ( essays )
2. student presentations
3. attendance (minimum requirement for attending at least 8 sessions)

**Questions, Requests :**

Lecturer's email : noriko @fbc.keio.ac.jp

## Japanese Psychology in Contemporary Japan (2)

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

**Sub title:**

'Amae' Reconsidered

**Course description:**

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of 'Amae' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology ?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae needs* is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

**Text Books:**

No designated textbook and handouts will be distributed.

**References:**

*The Anatomy of Dependence* by Takeo Doi, Kodansha International, .1973.

*The Anatomy of Self* by Takeo Doi, Kodansha International, 1986.

*Dependency and Japanese Socialization* by Frank A. Johnson, New York University Press, 1993.

**Course schedule:**

1. Orientation to the course and the drawing task of "my relationship with my mother in my childhood"
2. Multiple definitions of *Amae*
3. Understanding *Amae* through visual images: comparison of 'Peanuts' and 'Doraemon'
4. Healthy *Amae* Interaction: mutuality and reciprocity in Japanese social relationships
5. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese companies
6. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through empirical research
7. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through children's drawings of meals and HTP test
8. Cross cultural empirical research on *Amae*
9. An American expatriate's response to *Amae* interaction in Japan
10. *Amae* in cross cultural counseling cases in Japan ..
11. Functions of healthy *Amae*: social support ?
12. *Amae* and Aggression from cross cultural perspectives
13. What do foreigners gain by learning about the concept of *Amae* contribute to peoples and wrap-up session.

**Messages to those students taking this course:**

Students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion. Students are expected to complete reading assignment before coming to class.

**Grading methods:**

To be based on the combination of reports, attendance, and participation

**Questions and Requests:**

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

美術を「よむ」 日本美術史入門

( 秋学期 )( Fall )

INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN

河合正朝

文学部教授

Masatomo Kawai

Professor, Faculty of Letters

村井則子

国際センター講師

Noriko Murai

Lecturer, International Center

**Sub Title:**

Introduction to Modern Japanese Art and Visual Culture

**Course Description:**

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Visual culture has played a central role in providing the modern Japan with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in different media including painting, sculpture, photography, and architecture. We will also consider issues related to gender, imperialism, and commodity consumption in the context of visual representation.

**Readings:**

There are no textbooks for the course. A *Source Book* containing all required readings for the course will be available for purchase.

**Course Schedule:**

1. Introduction: Overview of the Course
2. Constructing "Japanese Art"  
READING: Christine Guth, "From Temple to Tearoom," in Art, Tea, and Industry (1993).
3. From Edo to Meiji

- READING: Ellen Conant, "Tradition in Transition, 1868-1890," in *Nihonga* (1995).
4. Okakura Kakuzō and the Aesthetic Ideology of Asia  
READING: Excerpts from Okakura Kakuzō, *The Ideals of the East* (1903)
  5. Body and the Nude  
READING: Norman Bryson, "Westernizing Bodies: Women, Art, and Power in Meiji *Yōga*," in *Gender and Power* (2003).
  6. Urban Spectacle and the Modernist Vision  
READING: Miriam Silverberg, "The Modern Girls as Militant," in *Recreating Japanese Women* (1991).
  7. The Colonial Gaze: Representing Otherness in Imperial Japan  
READING: Kim Hyeshin, "Images of Women in National Art Exhibitions during the Korean Colonial Period," in *Gender and Power* (2003)
  8. Visual Culture of Wartime and Occupied Japan
  9. Action and Expression: the Gutai Association  
READING: Sinichiro Osaki, "Body and Place: Action in Postwar Art in Japan," in *Out of Actions* (1998).
  10. "Anti-Art" in the 60s  
READING: Alexandra Munroe, "Morphology of Revenge: The Yomiuri Independent Artists and Social Protest Tendencies in the 1960s," in *Japanese Art After 1945* (1994).
  11. The Postwar Unconscious: Performance and Photography  
READING: Susan Klein, "The Butō Aesthetic and a Selection of Techniques," in *Ankoku Butō* (1988).
  12. Architecture and the Public Space  
READING: Kenneth Frampton, "Twilight Gloom to Self-Enclosed Modernity: Five Japanese Architects," in *Tokyo: Form and Spirit* (1986).
  13. Image in the Age of Digital Manipulation: the 90s and beyond  
READING: Norman Bryson, "Morimura: 3 READINGS," in *Morimura Yasumasa* (1996)

### **Bibliography:**

Bibliography will be distributed on the first day of instruction.

### **Requirements:**

1. Two short papers (4-5 double-spaced pages) based on museum visits
2. One group field trip to a museum in the area to take place on the weekend
3. Regular attendance and active participation in class discussion

### **Grading Methods:**

The student's performance in the course will be evaluated primarily based on the two short paper assignments. Regular attendance is also mandatory, and active participation in class discussion will also be reflected in the final grade.

---

日本の宗教：救済の探求

( 秋学期 )( Fall )

RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION

ナコルチェフスキー , アンドリイ 文学部助教授

Andrei Nakortchevski Associate Professor, Faculty of Letters

---

### **Course Description:**

In this course I would like to introduce main religious teachings existed in Japan from old times and up to our days. For the reason the name of the course is specified purposely as "Religions in Japan" and not as "Japanese Religions." Otherwise we have to limit our discourse to the only genuine Japanese religion — Shinto and maybe some eclectic so called "new religions", and forget about Buddhism or Christianity.

Each of these religions will be presented in three aspects: dogmatic (the only exception will be done for Christianity and I will accent the peculiarity of a perception of this religion in Japan), historical and cultural. Dogmatic aspect means an introduction to the core postulates and their transformation over time. Historical aspect allows us to trace a destiny of a religious teaching in Japanese history, and cultural aspect implies a study of influences to and interactions with other spheres of cultural activities — art, literature, science, etc.

Besides the above mentioned aspects, the fourth theme, namely religion's promise to solve the individual's existential and social problems, will be constantly touched on in this course. From these theme derives the subtitle — "In Search of Salvation." Especially this aspect becomes important when we deliberate "new religions", including the notorious Aum Shinrikyo in particular.

About half of the lectures will be devoted to Buddhism as the most philosophically profound and variable teaching, but I would like to introduce not only institutionalized religion as Buddhism, Shinto, Christianity, as well as Taoism and Confucianism to some extension, but also the most interesting so called folk religions, for example, tradition of shugendou (mountain asceticism), different variants of shamanic practices, etc.

### **Class Schedule:**

1. Introduction
2. Shinto
3. Visiting a Shinto shrine
4. Buddhism in general
5. Heian Buddhism: Tendai and Shingon Schools
6. Visiting a Shinto school temple
7. Kamakura Buddhism: Zen and Pure Land Schools

8. Visiting a Pure Land school temple
9. Tokugawa period: Confucianism and formation of the national religion
10. Visiting a Confucian shrine
11. New Religions
12. Visiting a shrine

**Grading methods:**

Report and participation

日本経済の展望

( 秋学期 )( Fall )

ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN

市川博也

国際センター講師 ( 上智大学教授 )

Hiroya Ichikawa

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

**Course Description:**

An advanced applied course of economics concerning the contemporary Japanese economy. The course will examine the roots of the instability of the present financial system and critically examine the Japan Model, which once was used to explain the success of the Japanese economy in the postwar period. This examination includes discussion of the legacy of wartime control and debates over the East Asia Miracle. Problems related to the aging population, social security, the burden of government debt, competition policy, deregulation (including the financial big bang), corporate governance, government-business relations, trade disputes, foreign direct investment, ODA policy, environmental issues, and the role of Japan in the world will be discussed. Students are required to read economic and financial news every day for class discussion.

**Text Books:**

Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy" University of Tokyo Press, 1995

**Class Schedule per week:**

1. Introduction  
Identify major economic problems facing Japanese economy.
2. Discuss Paul Krugman "The Myth of Asia's Miracle" *Foreign Affairs*, November/December 1994.
3. Discuss Takahusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy," chapter 2. "Reform and Reconstruction" University of Tokyo Press. 1995.
4. Discuss chapter 3 "Rapid Growth" in Takahusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy"
5. Discuss "The Mechanism and Policies of Growth"  
See Nakamura chapter 4.
6. Discuss the dual structure: Labor, Small Business, and Agriculture" Richard Katz, "Japanese Phoenix-the long road to economic Revival", M.E. Sharp. 2003.  
chapter 3 "Overcoming the dual economy — backward sectors are the key to Japan's revival".  
chapter 4 "Overcoming Anorexia — the labours Sisyphus —"  
See Nakamura chapter 5.
7. Discuss "The End of Rapid Growth" See Nakamura Chapter 6.
8. Discuss Japanese Economy and International Environment  
Richard Katz, chapter 9 "Globalization — the Linchpin of Reform-"  
chapter 11 "Foreign Direct Investment — A Sea Change —".  
See Nakamura chapter 7.
9. Discuss "The Collapse of the Bubble Economy" Thomas F. Cargill, Michael M. Hutchinson, Takatoshi Ito, "The political Economy of Japanese monetary Policy,"  
chapter 5 "The Bubble Economy and its Collapse"  
chapter 6 "Asset-Price Deflation: Nonperforming Loans, Jusen Companies, and Regulatory Inertia." The MIT Press. 1997  
Richard Katz, chapter 12. "Financial integration — The Iceberg Cracks —".  
See also Nakamura chapter 8.
10. Restoring Japan's Economic Growth  
chapter 1 "Diagnosis: Macroeconomic Mistakes, Not Structural Stagnation"  
chapter 2 "Fiscal Policy Works When it is tried".  
chapter 3 "The Short and Long of Fiscal Policy" in Adam S. Posen, Restoring Japan's Economic Growth, Institute for International Economics, 1998.  
Richard Katz, chapter 6 "Fiscal dilemmas," chapter 7 "Monetary magic bullets are blanks", chapter 8 "Japan cannot export its way out".  
Richard Katz, chapter 13 "What is structural reform?" chapter 14 "Financial reform" chapter 15 "Corporate Reform-No competitiveness without more competition".
11. Discuss Financial and International Risks and Inflation Target.  
Chapter 4. "Mounting Downside Risks: Financial and International"  
Chapter 6. Recognizing a mistake, not blaming a model" in Adam S Posen.

12. Can Japan Compete ?  
 Chapter 2. "Challenging the Japanese Government Model"  
 Chapter 3. " Rethinking Japanese Management",  
 Chapter 5. " How Japan can Move Forward: The Agenda for Government"  
 Chapter 6. "Transforming the Japanese Company" Michael E. Porter, Hirotaka Takeuchi & Mariko Sakakibara, "Can Japan Compete ?"  
 Macmillan Press Ltd. 2000  
 Richard Katz, chapter 16 "Competition policy — Not enough competition, even less policy".
13. Deregulation and state enterprises, Tax reform Richard Katz, chapter 18 "deregulation and state enterprises — The Moment is Clear, the destination is not."  
 Chapter 19. "Tax Reform — Don't Exacerbate Anorexia".

**Message to Those Taking This Course:**

Basic knowledge of Microeconomics & Macroeconomics prerequisite.  
 High proficiency in English required: TOEFL (PB) 550+ (CB) 213+

**Evaluation:**

Class Participation (Active Discussion) + Essay + Term Examination

ジャパニーズ・エコノミー

( 春学期 ) ( Spring )

JAPANESE ECONOMY

小島 明

商学研究科教授

Akira Kojima

Professor, Graduate School of Business and Commerce

**Course Description:**

Japan's Economic Performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective. Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, demographic change, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst specialist through Video and Tapes etc.

**Text Books:**

METI "White Paper on International Trade," 2004, 2005

**Recommended Readings:**

"Japan's Policy Trap Dollars, Deflation and the Crisis of Japanese Finance", by Akio Mikuni and R. Taggart Murphy. (Brookings Institution Press, 2002)

"Balance Sheet Recession Japan's Struggle with Uncharted Economics and its global implications", by Richard C, Koo, 2003 John Wiley & Sons Pte Ltd.

Various reports, working papers by Government, International organizations (IMF, OECD etc.) and by scholars are recommended as needed.

**Message to Those Taking This Course:**

Active participation by students strongly desired.

**Evaluation:**

Report and in-class exam

Term report and occasional reports

Active participation to discussion

# 情報処理教育室

情報処理教育室では、情報処理に関する講座を開講しています。

情報処理に関する知識・技術を持つことは、学生諸君にとって今や必須のこととなっています。各学部専門課程での学習・研究活動に役立つだけでなく、日常の学習・学内の諸活動に大変有効です。なるべく多くの皆さんが履修しておくことを勧めます。

## 1 ガイダンス

4月3日(月) 2時限目(10:45~12:15) 516番教室

## 2 受講申込み手続き

受講する科目が決まったら、証紙券売機で受講料分の証紙を購入し、申込み用紙に貼付して窓口へ提出してください。その際、学生証を提示してください。各講座とも定員になり次第締め切ります。

日 時：4月10日(月) 9:00~16:00

4月11日(火) 9:00~16:00

4月12日(水) 9:00~16:00

場 所：三田学事センター

## 3 履修上の注意

情報処理教育室に申込みを行った科目については、必ず各学部の履修案内にしたがって各自で履修申告をしてください。履修申告を行わないと単位は与えられませんので特に注意してください。また、受講申込みをしないで履修申告をしても単位は認められません。

履修申告により単位がどのように与えられるかは学部によって異なります。学部の履修案内を熟読して間違いのないようにしてください。

## 4 問合せ先

情報処理教育室(日吉学事センター内) 045-566-1015

## 5 平成18年度開講科目及び受講料

設置講座は受講料が必要です。

### 平成18年度 情報処理教育室設置講座(三田)

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位	
情報処理概論	JAVA	12 A	藤村 光	通 年	50	12,000 円	4
情報処理応用	統計解析	32 A	鴻巣 努	春学期	30	5,000 円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は学部授業と同様4月8日(土)から開始されます。

### 参考：平成18年度 情報処理教育室設置講座(日吉)

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位	
情報処理概論	C言語によるプログラミング入門	11 A	通 年	100	12,000 円	4	
	11 B	恩田 憲一 斎藤 博昭					
情報処理概論	パソコンによる情報整理学	13 A	河内谷幸子	46			
情報処理概論	JAVA	12 D	藤村 光	春学期	50	6,000 円	2
情報処理応用	JAVA	12 E	藤村 光	秋学期	50	6,000 円	2
情報処理応用	コンピュータグラフィックス	31 A	大野 義夫	春学期	50	5,000 円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は学部授業と同様4月8日(土)から開始されます。

## 授業科目の内容:

Java 言語を用いてコンピュータを動かす方法、および基本的な考え方を紹介します。

問題をコンピュータで処理できるように分析し、処理を組み立て、プログラムを作成し、結果を検証するという手順で、プログラムを作成する際に必要となる一般的な知識を習得するのが目的です。

Java 言語の中核とツールキットの一部を用いて、例題の提示、演習を行います。

## テキスト:

Webサイト <http://web.hc.keio.ac.jp/~fujimura/> で公開。適宜更新します。

## 参考書:

講義の展開と個人の進捗にあわせて適宜紹介します。

## 授業の計画:

1. ガイダンス
2. ウィンドウの表示
3. コンパイルと実行
4. ボタン, レイアウト, イベントの処理 (計3回)
5. クラス変数
6. 四則演算 (計2回)
7. 式, 演算子, カウンタ, 合計計算, 最大値・最小値 (計2回)
8. 配列
9. 春学期演習
10. 秋学期のウォーミングアップ
11. 整列, 検索
12. テキスト・ファイルの読み込みと例外処理 (計3回)
13. マルチスレッドと描画 (計4回)
14. 再帰構造と再帰プログラミング (計2回)
15. 最終演習 (計2回)

## 履修者へのコメント:

自分なりに「こんなことができるようになりたい」という目標を持って参加して下さい。

ワープロや表計算はできるがコンピュータ言語は初めてという人と、他のコンピュータ言語を習得済みの人では、到達目標が異なるのが普通です。春学期の前半に各人の目標を設定しましょう。

## 成績評価方法:

レポートによる評価

平常点: 出席状況および授業態度による評価

## 質問・相談:

[fujimura-report@hc.cc.keio.ac.jp](mailto:fujimura-report@hc.cc.keio.ac.jp) までどうぞ。48時間以内に返事がない場合は、同一メールを再送してください。

## 授業科目の内容:

データサイエンスの知識は、外国語や情報処理能力と並び、研究やビジネスに不可欠なツールである。本講義では、調査や実験により得られたデータを統計的に分析し、その持つ意味をいかに引き出すかを学習する。統計解析に関する基礎的内容から出発し、多変量解析の基礎に至るまでを講義内容とする。数学的背景よりも、こうした手法を研究やビジネスのための「ツール」として、利用できるようになることを重視する。統計およびコンピュータに関する予備知識は特に求めない。

## 参考書:

- ・東京大学教養学部統計学教室編「統計学入門」東京大学出版会
- ・田中豊・脇本和昌「多変量統計解析法」現代数学社
- ・室淳子, 石村貞夫「SPSS でやさしく学ぶ多変量解析」東京図書

## 授業の計画:

- 第1回 統計的手法とは
- 第2回 統計パッケージ (SPSS, SAS, JUSE, EXCEL, S)
- 第3回 SPSS によるデータ処理
- 第4回 SPSS によるデータの視覚化
- 第5回 代表値と確率分布
- 第6回 散布図と相関係数
- 第7回 区間推定
- 第8回 平均値の差の検定, ノンパラメトリック検定
- 第9回 多変量解析の基礎
- 第10回 回帰分析, 重回帰分析
- 第11回 主成分分析
- 第12回 因子分析
- 第13回 判別分析

## 履修者へのコメント:

数学やコンピュータに関する予備知識は特に求めないが、次のような学生の参加を期待する。

- ・卒業論文を書くにあたり、科学的手法を探している。
- ・統計学の基礎は学んだが、それを運用できるまでに至っていない。
- ・多変量解析に興味があるが、どのようなデータにどの手法を使えばよいか分からない。
- ・数学には自信がないが、データを分析することは嫌いではない。

## 成績評価方法:

平常点および期末レポートによって評価する。

## 知的資産センター設置講座（平成18年度開講）

### 1．知的資産センター設置講座にあたり

慶應義塾大学では、研究成果の社会への還元を、教育・研究と並ぶ大学の使命と考えています。そして、「慶應義塾で生れた研究成果は義塾にとって貴重な知的資産であり、大学はこれら知的資産の保護と活用を積極的に促進・支援する」という理念を公表しています。

こうした方針に基づき、知的資産センターは慶應義塾で生れた研究成果を社会へ還元するために、慶應義塾大学の技術移転機関として1998年11月に設立されました。技術に関するものだけでなく、電子メディアを始めとし広汎な研究成果を対象とするとともに、新しい事業の創出に資するという意味をこめて「知的資産センター」と名付けられました。

知的資産センターの事業は、研究成果に対する特許保護から始め、技術の移転、起業の支援と段階的に拡充していく計画です。そして、教職員の熱意と高いポテンシャルをもった研究成果に支えられ、既に数多くの慶應義塾の特許出願が生まれ、技術移転も活発化してきました。

また、知的資産センターは技術移転に密接に関係する知的財産に関する教育・研究も任務としています。

情報技術の劇的な革新に伴い電子メディア、ビジネスモデル特許に代表されるように、知的財産は社会のあらゆる分野に密接に関係してきました。こうした時代の変化に対応していくためには、専攻分野に係わらず知的財産に関する幅広い知識と理解が求められています。

そこで、知的財産に関する教育の一環として、全学部の学生を対象として知的財産全般について基本的な事項の理解を図るため、設置講座を開設しました。

### 2．設置科目、履修上の取扱いについて

今年度は「知的資産概論」の1科目を、春学期 三田キャンパスで開講します。

授業時間は水曜日 18:10～19:40、単位は2単位です。その他授業に関する情報は、三田掲示板、<http://www.ipc.keio.ac.jp> でお知らせします。

受講を希望する場合は、履修の取扱いについて各学部、研究科の履修案内で確認の上、履修申告をしてください。

### 3．講義要綱

#### 知的資産概論 知的財産の保護と活用をめぐる課題（ナテグリニド特別講座）（春学期）

コーディネーター 知的資産センター所長（商学部教授） 清水 啓 助

#### 授業科目の内容：

研究活動や創造活動の成果を知的財産として、戦略的に保護・活用し、我が国産業の国際競争力を強化するという国家戦略が策定され、知的財産に対する関心は高まっています。知的財産には、技術（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）、音楽・映画のコンテンツ（著作権）といったものがあり、権利の内容や活用法はそれぞれ固有な特色があります。

本講義では、代表的な知的財産の権利保護・活用における現状と課題についての理解を深め、知的財産に関する幅広い知識を得ることを目標とします。

#### 教科書：

講義資料を配布します。

#### 参考書：

「知的創造時代の知的財産」清水啓助他著，慶應義塾大学出版会

「特許がわかる12章」竹田著，ダイヤモンド社

「著作権の考え方」岡本著，岩波新書

**授業計画の内容：**

1. 知的財産の新たな時代
2. 特許の仕組み
3. 著作権の仕組み
4. 商標ブランドの価値
5. マルチメディアに関する知的財産
6. キャラクタービジネス
7. 音楽に関する著作権問題
8. 企業における知的財産戦略
9. 知的財産に関する世界の動向
10. 知的財産の紛争処理
11. ベンチャー・起業の仕組み
12. 知的財産ビジネス
13. 技術の移転

なお、講義は外部講師を含め、オムニバス形式で行います。

**担当教員から履修者へのコメント：**

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

単位の取扱については、学部により異なりますので注意してください。

**成績評価方法：**

平常点およびレポートによる評価

**質問・相談：**

授業の最後に質問の時間を設けます。